

2017年度後学期
静岡大学市民開放授業

授業内容（シラバス）

授業内容の見方

1 頁～1 0 頁 市民開放授業科目一覧を掲載してあります。
 1 1 頁～ 授業内容（シラバス）を掲載してあります。

例

※授業内容は学生向けに作られています。対象学年・必修選択・単位数 等は学生向けの情報です。
 平成 29 年 7 月末時点の情報を掲載していますので、内容に変更がある可能性があります。最新情報は、静岡大学
 ウェブサイトにてご覧いただけます。(http://www.lc.shizuoka.ac.jp/class_list.html 市民開放授業)

授業の目標
学習内容
授業計画
 これらを参考に受講したい科目を探してください。

受講要件
 こちらの要件を満たしているかご確認ください。

オフィスアワー
 意味：教員が学生の質問や相談を受けるために、特定の
 場所で待機する時間のこと。
 会議等、特別な用事がないかぎり、ここに記された場所・
 時間に教員と直接会うことができます。

科目番号
 市民開放授業で開放されている科目に割り振られた番
 号。
受講申込書や払込取扱書に記入する番号です。

| | | | | | |
|------------------|---|-----|-----|--------------|-------|
| 授業科目名 | ドイツ語 A-2 | | | | |
| 担当教員名 | 静岡 太郎 | | 所属等 | 人文社会科学部 | |
| | | | 研究室 | 人文 A 棟 4 2 2 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 学部共通 2 | 学期 | 前学期 | 必修選択区分 | 選択 |
| 対象学年 | 3 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月 3・4 |
| キーワード | 文法の基礎 | | | | |
| ● 授業の目標 | ドイツ文法の基礎をしっかりと学習する。テープは使用しない。 | | | | |
| ● 学習内容 | 教科書に沿って行う。 | | | | |
| ● 授業計画 | 1 回 話法の助動詞 2 回 話法の助動詞 3 回 動詞の 3 基本形 4 回 動詞の 3 基本形 5 回 動詞の 3 基本形 6 回 時制 7 回 時制 8 回 形容詞 9 回 形容詞 1 0 回 形容詞 1 1 回 関係代名詞 1 2 回 受動 1 3 回 受動 1 4 回 接続法 1 5 回 接続法 | | | | |
| ● 受講要件 | 問わない。 | | | | |
| テキスト | ドイツ文法 1 8 歩 | | | | |
| 参考書 | 無し | | | | |
| 予習・復習に ついて | 辞書を丹念に引いて、予習復習を行うこと。 | | | | |
| 成績評価の 方法・基準 | 試験の成績のみで評価を行う。 | | | | |
| ● オフィス アワー | 火曜日 7・8 時限 研究室にて。 事前にメール連絡を。 | | | | |
| 担当教員から のメッセージ | 自分の勉強不足を教員になすりつけないこと。 | | | | |

※シラバスは各学部で作成されていますので、多少並びが異なる場合があります。

表の見方

■No.

◇科目番号です。市民開放授業で開放されている科目に割り振られた番号で、授業内容（シラバス）の下端にある番号や、市民開放授業時間割の表の番号と一致しています。受講申込書や払込取扱票にはこの番号を記入します。

■学部等

◇授業を実施している学部等を指します。

■学期

◇この欄に「後学期（前半）」「後学期（後半）」と記載された授業については、後学期をさらに半分に分けて開講されます。「後学期（後半）」の開始時期は後学期スケジュール（P2）でご確認ください。

■時間割

◇授業時間は、次のとおりです。

| 時限 | 1・2 | 3・4 | 5・6 | 7・8 | 9・10 |
|----|--------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 時間 | 8:40 } 10:10 | 10:20 } 11:50 | 12:45 } 14:15 | 14:25 } 15:55 | 16:05 } 17:35 |

■教室名

◇静岡キャンパス

- ・共＝共通教育棟、人＝人文社会科学部棟、教＝教育学部棟、理＝理学部棟、農＝農学部棟の略です。
- ・アルファベットは、それぞれの棟を表します。たとえば、「共A201」は、共通教育A棟201教室のことを指します。

◇浜松キャンパス

- ・情＝情報学部棟、総＝総合研究棟、共＝共通講義棟、1～8＝工学部1～8号館の略です。

※授業開始当初は、受講学生数等により教室を変更する場合がありますので、掲示に注意してください。

■受入可能人数

◇1科目につき若干名とします。

◇受講の可否については、教員の判断に委ねられますので、担当教員に確認してください。

◇正規の授業の一部を開放し、本学の学生と一緒に受講していただくため、本学の学生だけで講義室の収容人員を超える場合や、同じ科目に多数の応募があった場合には、受講できないことがあります。

■難易度

◇市民開放授業科目の難易度は、授業の内容に応じて、次の4段階に区分しています。ご自分の実力に適した授業をお選びください。

- (A) 入門的な内容で、高校卒業程度の学力を必要とします。〈大学1年次対象の授業に相当〉
- (B) より進んだ内容であり、当該専門分野についての一定の基礎知識が必要となります。〈大学2～3年次対象の授業に相当〉
- (C) 高度な内容であり、当該専門分野について系統立った学習がなされていることを前提とするものです。〈大学3～4年次対象の授業に相当〉
- (D) 専門的な知識が必要なため、受講登録にあたり担当教員と面談を行います。〈大学3～4年次対象の授業に相当〉

■受講料

◇半期全14回で9,500円が基本となっていますが、週2回開講の場合は14,700円、「後学期（前半）」「後学期（後半）」の場合は6,800円です。

科目一覧には2017年7月末時点の情報を掲載していますので、内容に変更がある可能性があります。最新情報は、静岡大学ウェブサイトにてご覧いただけます。(http://www.LC.shizuoka.ac.jp/class_list.html 市民開放授業)

平成29年度 静岡大学市民開放授業科目一覧

〔静岡キャンパス〕

〈後学期〉

| No. | 学部等 | 授業科目名 | (代表)担当教員名 | 学期 | 曜日・ 時限 | 教室名 | 受入可 能人数 | 難易度 | 講習料 |
|-----|---------|-------------------|-----------|-----|-----------|-------|------------|-----|--------|
| 1 | 全学 | 初修外国語(フランス語)入門Ⅱ | 浅野 幸生 | 後学期 | 月3・4 | 共P101 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 2 | 全学 | 初修外国語(現代韓国語)入門Ⅱ | 南 富鎮 | 後学期 | 月3・4 | 共A305 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 3 | 全学 | 初修外国語(フランス語)Ⅰ | 安永 愛 | 後学期 | 月5・6 | 共L201 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 4 | 全学 | 富士山学 | 徳岡 徹 | 後学期 | 月5・6 | 未定 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 5 | 全学 | 地域社会と災害 | 牛山 素行 | 後学期 | 月5・6 | 未定 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 6 | 全学 | ヒューマン・エコロジー | 野上 啓一郎 | 後学期 | 月5・6 | 未定 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 7 | 全学 | NPO・ボランティア論 | 日詰 一幸 | 後学期 | 月5・6 | 未定 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 8 | 全学 | 社会資本マネジメント論 | 岩田 孝仁 | 後学期 | 月5・6 | 未定 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 9 | 全学 | 対話する死生学～喪失とともに生きる | 竹之内 裕文 | 後学期 | 月5・6 | 農講義室1 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 10 | 全学 | エネルギーと環境 | 大矢 恭久 | 後学期 | 月5・6 | 未定 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 11 | 全学 | 数学Ⅳ(線形代数B) | 木村 杏子 | 後学期 | 月7・8 | 共B401 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 12 | 全学 | 化学Ⅱ(物理化学B) | 松本 剛昭 | 後学期 | 火1・2 | 共A201 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 13 | 全学 | 日本国憲法 | 板倉 美奈子 | 後学期 | 火3・4 | 共A201 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 14 | 全学 | 法と社会 | 橋本 誠一 | 後学期 | 火3・4 | 未定 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 15 | 全学 | 現代の社会 | 鈴木 宏尚 | 後学期 | 火3・4 | 未定 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 16 | 全学 | 化学の世界 | 小林 健二 | 後学期 | 火3・4 | 未定 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 17 | 全学 | 歴史と文化 | 藤井 真生 | 後学期 | 水1・2 | 未定 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 18 | 全学 | 日本国憲法 | 小谷 順子 | 後学期 | 水1・2 | 未定 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 19 | 全学 | 生物と環境 | 徳岡 徹 | 後学期 | 水1・2 | 未定 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 20 | 全学 | 自然と物理 | 佐藤 信一 | 後学期 | 水1・2 | 未定 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 21 | 全学 | 生物と環境 | 天野 豊己 | 後学期 | 水1・2 | 未定 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 22 | 全学 | 地球科学Ⅱ(基礎B) | 森下 祐一 | 後学期 | 木1・2 | 共B401 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 23 | 全学 | 物理化学1B | 河岸 洋和 | 後学期 | 木1・2 | 共C406 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 24 | 全学 | 数学Ⅲ(微分積分B) | 久村 裕憲 | 後学期 | 木3・4 | 共A202 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 25 | 全学 | 生物学Ⅱ(基礎B) | 丑丸 敬史 | 後学期 | 金1・2 | 共A301 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 26 | 全学 | 生物学概論B | 鳥山 優 | 後学期 | 金1・2 | 共D1 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 27 | 人文社会科学部 | 金融論Ⅱ | 鳥畑 與一 | 後学期 | 月1・2 | 人大講 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 28 | 人文社会科学部 | ヨーロッパ文明史Ⅱ | 藤井 真生 | 後学期 | 月3・4 | 人B402 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 29 | 人文社会科学部 | 中国言語文化各論Ⅴ | 埋田 重夫 | 後学期 | 月3・4 | 人B205 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 30 | 人文社会科学部 | フランス文学概論Ⅱ | 安永 愛 | 後学期 | 月3・4 | 人B209 | 若干名 | B | 9,500円 |

| No. | 学部等 | 授業科目名 | (代表)担当教員名 | 学期 | 曜日・ 時限 | 教室名 | 受入可 能人数 | 難易度 | 講習料 |
|-----|---------|-------------|-----------|-----|--------------|-------|------------|-----|---------|
| 31 | 人文社会科学部 | 刑法総論Ⅱ | 津田 雅也 | 後学期 | 月3・4 | 共L306 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 32 | 人文社会科学部 | 社会経済論Ⅱ | 遠山 弘徳 | 後学期 | 月3・4 | 共L204 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 33 | 人文社会科学部 | フランス言語文化演習Ⅳ | 浅野 幸生 | 後学期 | 月5・6 | 人B208 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 34 | 人文社会科学部 | グローバル化の社会学 | 白井 千晶 | 後学期 | 月7・8 | 人B401 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 35 | 人文社会科学部 | エリア・マネジメント論 | 太田 隆之 | 後学期 | 月7・8 | 共L306 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 36 | 人文社会科学部 | 文化人類学入門 | 大野 旭 | 後学期 | 月9・10 | 人大講 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 37 | 人文社会科学部 | 日本語文化基礎講読Ⅵ | 袴田 光康 | 後学期 | 月9・10 | 人B403 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 38 | 人文社会科学部 | 比較言語文化基礎論Ⅱ | 城岡 啓二 | 後学期 | 月9・10 | 人B301 | 5 | A | 9,500円 |
| 39 | 人文社会科学部 | 比較文化各論Ⅲ | 大原 志麻 | 後学期 | 月9・10 | 人B302 | 3 | B | 9,500円 |
| 40 | 人文社会科学部 | ミクロ経済学Ⅲ | 山下 隆之 | 後学期 | 月9・10 | 共L306 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 41 | 人文社会科学部 | 社会調査入門 | 平岡 義和 | 後学期 | 火3・4 | 共A301 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 42 | 人文社会科学部 | 自己と関係の社会学 | 荻野 達史 | 後学期 | 火3・4 | 人B401 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 43 | 人文社会科学部 | フランス言語文化特論Ⅳ | 安永 愛 | 後学期 | 火3・4 | 人B209 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 44 | 人文社会科学部 | 地方財政論Ⅱ | 川瀬 憲子 | 後学期 | 火3・4 | 人E201 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 45 | 人文社会科学部 | 民事訴訟法 | 坂本 真樹 | 後学期 | 火3・4 火5・6 | 人B301 | 若干名 | B | 14,700円 |
| 46 | 人文社会科学部 | 哲学の歴史Ⅱ | 上利 博規 | 後学期 | 火5・6 | 人B302 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 47 | 人文社会科学部 | フランス語学概論Ⅱ | 浅野 幸生 | 後学期 | 火9・10 | 人B208 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 48 | 人文社会科学部 | 世界経済論Ⅲ | 安藤 研一 | 後学期 | 水1・2 | 人E101 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 49 | 人文社会科学部 | アジア史概説 | 戸部 健 | 後学期 | 水3・4 | 人B401 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 50 | 人文社会科学部 | 先史文化論 | 山岡 拓也 | 後学期 | 水3・4 | 人B303 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 51 | 人文社会科学部 | 日本語学概論Ⅱ | 勝山 幸人 | 後学期 | 水3・4 | 人B403 | 5 | C | 9,500円 |
| 52 | 人文社会科学部 | アメリカ文学文化各論Ⅰ | レッドフォード | 後学期 | 水3・4 | 人B205 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 53 | 人文社会科学部 | ミクロ経済学Ⅱ | 山下 隆之 | 後学期 | 水3・4 | 人大講 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 54 | 人文社会科学部 | 財政学Ⅱ | 高松 慶裕 | 後学期 | 水3・4 | 人E201 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 55 | 人文社会科学部 | 日本文学概論Ⅱ | 渡邊 英理 | 後学期 | 水5・6 | 人B403 | 5 | C | 9,500円 |
| 56 | 人文社会科学部 | 翻訳論Ⅱ | 花方 寿行 | 後学期 | 水5・6 | 人B304 | 1 | C | 9,500円 |
| 57 | 人文社会科学部 | ギリシア語Ⅱ | 田中 伸司 | 後学期 | 水7・8 | 人C104 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 58 | 人文社会科学部 | 臨床心理学Ⅰ | 江口 昌克 | 後学期 | 水7・8 | 人B402 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 59 | 人文社会科学部 | 西洋社会史Ⅰ | 岩井 淳 | 後学期 | 水7・8 | 人B302 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 60 | 人文社会科学部 | 劇場・音楽堂各論 | 井原 麗奈 | 後学期 | 水7・8 | 人B201 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 61 | 人文社会科学部 | 比較文学演習Ⅳ | 田村 充正 | 後学期 | 水7・8 | 人B209 | 1 | D | 9,500円 |
| 62 | 人文社会科学部 | 人権総論 | 小谷 順子 | 後学期 | 木1・2 | 人E201 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 63 | 人文社会科学部 | 刑事政策 | 津田 雅也 | 後学期 | 木1・2 | 人B401 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 64 | 人文社会科学部 | 考古学概論 | 篠原 和大 | 後学期 | 木3・4 | 共B301 | 若干名 | A | 9,500円 |

| No. | 学部等 | 授業科目名 | (代表)担当教員名 | 学期 | 曜日・ 時限 | 教室名 | 受入可 能人数 | 難易度 | 講習料 |
|-----|---------|----------------|-----------|-----|-----------|--------------------|------------|-----|--------|
| 65 | 人文社会科学部 | 日本宗教思想 | 斎藤 真希 | 後学期 | 木3・4 | 人B401 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 66 | 人文社会科学部 | 臨床社会心理学 I | 橋本 剛 | 後学期 | 木3・4 | 人B402 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 67 | 人文社会科学部 | 英語学各論 I | 大村 光弘 | 後学期 | 木3・4 | 人B403 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 68 | 人文社会科学部 | 法哲学 | 横濱 竜也 | 後学期 | 木3・4 | 人E101 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 69 | 人文社会科学部 | 日本語文化基礎講読IV | 小二田 誠二 | 後学期 | 金1・2 | 人B301 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 70 | 人文社会科学部 | 英語学各論 II | 小町 将之 | 後学期 | 金1・2 | 人B205 | 若干名 | D | 9,500円 |
| 71 | 人文社会科学部 | 法制史 II | 橋本 誠一 | 後学期 | 金1・2 | 人B402 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 72 | 人文社会科学部 | ドイツ言語文化基礎演習 II | 大藺 正彦 | 後学期 | 金3・4 | 人B204 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 73 | 人文社会科学部 | 統計学 II | 上藤 一郎 | 後学期 | 金3・4 | 共A103 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 74 | 人文社会科学部 | 地域金融論 | 鳥畑 與一 | 後学期 | 金3・4 | 共L306 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 75 | 人文社会科学部 | 神経心理学 | 幸田 るみ子 | 後学期 | 金5・6 | 人B402 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 76 | 人文社会科学部 | アートマネジメント概論 | 井原 麗奈 | 後学期 | 金5・6 | 人B205 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 77 | 人文社会科学部 | 英語学概論 I | 大村 光弘 | 後学期 | 金5・6 | 人B301 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 78 | 人文社会科学部 | アジア経済論 II | 朴 根好 | 後学期 | 火5・6 | 共L306 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 79 | 人文社会科学部 | 地域社会と福祉 | 山本 崇記 | 後学期 | 金7・8 | 人B301 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 80 | 人文社会科学部 | 会計学 II | 永田 守男 | 後学期 | 金9・10 | 共B301 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 81 | 教育学部 | 応用数学基礎 | 畑 宏明 | 後学期 | 月9・10 | 教育B218 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 82 | 教育学部 | 生涯スポーツ指導演習 | 横山 義昭 | 後学期 | 月9・10 | 共通教育D3 体育館1, 2階 | 若干名 | D | 9,500円 |
| 83 | 教育学部 | 書道研究 | 杉崎 哲子 | 後学期 | 火1・2 | 教育A601 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 84 | 教育学部 | 集合と論理 | 山田 耕三 | 後学期 | 火3・4 | 教育G202 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 85 | 教育学部 | 書写基礎 | 杉崎 哲子 | 後学期 | 火5・6 | 教育A601 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 86 | 教育学部 | 代数学 II | 谷本 龍二 | 後学期 | 火7・8 | 教育B216 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 87 | 教育学部 | 微分積分学 | 大和田 智義 | 後学期 | 火9・10 | 教育G201 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 88 | 教育学部 | 解析学 II | 大和田 智義 | 後学期 | 水5・6 | 教育G201 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 89 | 教育学部 | 児童家庭福祉 | 石原 剛志 | 後学期 | 水5・6 | 教育B217 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 90 | 理学部 | 実解析学入門 | 松本 敏隆 | 後学期 | 月3・4 | 理B213 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 91 | 理学部 | 幾何学 I | 久村 裕憲 | 後学期 | 月3・4 | 理B204 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 92 | 理学部 | 有機化学IV | 塚田 直史 | 後学期 | 月3・4 | 共D1 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 93 | 理学部 | 植物生化学 | 天野 豊己 | 後学期 | 月3・4 | 理B212 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 94 | 理学部 | 生物環境科学概論 II | 宗林 留美 | 後学期 | 月3・4 | 理B201 | 若干名 | B | 9,500円 |

| No. | 学部等 | 授業科目名 | (代表)担当教員名 | 学期 | 曜日・ 時限 | 教室名 | 受入可 能人数 | 難易度 | 講習料 |
|-----|-----|-------------|-----------|---------|--------------|-------|------------|-----|--------|
| 95 | 理学部 | 力学Ⅰ | 嘉規 香織 | 後学期(前半) | 月5・6 金3・4 | 理B203 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 96 | 理学部 | 力学Ⅱ | 嘉規 香織 | 後学期(後半) | 月5・6 金3・4 | 理B203 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 97 | 理学部 | 生物物理学 | 山崎 昌一 | 後学期(後半) | 月5・6 | 理B211 | 若干名 | C | 6,800円 |
| 98 | 理学部 | 分子生物学 | 山内 清志 | 後学期 | 月5・6 | 理B212 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 99 | 理学部 | 線型代数学Ⅱ | 鈴木 信行 | 後学期 | 月7・8 | 理B204 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 100 | 理学部 | 放射化学Ⅰ | 大矢 恭久 | 後学期 | 月7・8 | 理B213 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 101 | 理学部 | ベクトル解析Ⅱ | 松本 敏隆 | 後学期 | 火1・2 | 理B204 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 102 | 理学部 | 解析力学 | 土屋 麻人 | 後学期 | 火1・2 | 理B203 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 103 | 理学部 | 基礎化学熱力学 | 河合 信之輔 | 後学期 | 火1・2 | 理B202 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 104 | 理学部 | 無機機器分析 | 加藤 知香 | 後学期 | 火1・2 | 理B213 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 105 | 理学部 | 海洋学 | 宗林 留美 | 後学期(前半) | 火1・2 | 理B201 | 若干名 | C | 6,800円 |
| 106 | 理学部 | 確率論 | 板津 誠一 | 後学期 | 火3・4 | 理B204 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 107 | 理学部 | 固体物理学 | 海老原 孝雄 | 後学期 | 火3・4 | 理B203 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 108 | 理学部 | 応用生化学 | 瓜谷 眞裕 | 後学期 | 火3・4 | 理B212 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 109 | 理学部 | 古動物学 | 鈴木 雄太郎 | 後学期(前半) | 火3・4 | 理B202 | 若干名 | C | 6,800円 |
| 110 | 理学部 | 微分積分学Ⅰ | 板津 誠一 | 後学期 | 火5・6 | 理B204 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 111 | 理学部 | 代数学Ⅰ | 毛利 出 | 後学期 | 火5・6 | 理B213 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 112 | 理学部 | 有機化学Ⅱ | 坂本 健吉 | 後学期 | 火5・6 | 理B202 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 113 | 理学部 | 植物発生学 | 木寄 暁子 | 後学期 | 火5・6 | 理B203 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 114 | 理学部 | 位相数学Ⅰ | 保坂 哲也 | 後学期 | 火7・8 | 理B213 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 115 | 理学部 | 放射線生物学概論 | 山内 清志 | 後学期 | 火9・10 | 理B202 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 116 | 理学部 | 位相数学入門 | 依岡 輝幸 | 後学期 | 水1・2 | 共A106 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 117 | 理学部 | 電磁気学Ⅱ | 鈴木 淳史 | 後学期 | 水1・2 | 理B203 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 118 | 理学部 | 代謝生化学 | 山本 歩 | 後学期 | 水1・2 | 理B201 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 119 | 理学部 | 有機化学Ⅵ | 小林 健二 | 後学期 | 水1・2 | 理B213 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 120 | 理学部 | 応用数学 | 松本 敏隆 | 後学期 | 水1・2 | 理B204 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 121 | 理学部 | 数学基礎論 | 鈴木 信行 | 後学期 | 水3・4 | 共A103 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 122 | 理学部 | 熱力学 | 土屋 麻人 | 後学期 | 水3・4 | 理B203 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 123 | 理学部 | 量子化学Ⅰ | 松本 剛昭 | 後学期 | 水3・4 | 理B213 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 124 | 理学部 | 構造化学 | 岡林 利明 | 後学期 | 水3・4 | 理B211 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 125 | 理学部 | 地球ダイナミクス概論Ⅱ | 道林 克禎 | 後学期 | 水3・4 | 理B201 | 若干名 | B | 9,500円 |

| No. | 学部等 | 授業科目名 | (代表)担当教員名 | 学期 | 曜日・ 時限 | 教室名 | 受入可 能人数 | 難易度 | 講習料 |
|-----|-----|-----------|-----------|---------|-----------|-------|------------|-----|--------|
| 126 | 理学部 | 進化古生物学 | 佐藤 慎一 | 後学期(前半) | 水3・4 | 共C611 | 若干名 | C | 6,800円 |
| 127 | 理学部 | 代数学入門 | 浅芝 秀人 | 後学期 | 水5・6 | 理B204 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 128 | 理学部 | 放射化学概論 | 矢永 誠人 | 後学期 | 水5・6 | 理B202 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 129 | 理学部 | 無機化学 I | 近藤 満 | 後学期 | 木1・2 | 理B213 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 130 | 理学部 | 地球科学入門Ⅲ | 生田 領野 | 後学期 | 木1・2 | 理B202 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 131 | 理学部 | ベクトル解析入門 | 田中 直樹 | 後学期 | 木3・4 | 理B204 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 132 | 理学部 | 解析学 I | 板津 誠一 | 後学期 | 木3・4 | 理B201 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 133 | 理学部 | 統計力学Ⅱ | 松山 晶彦 | 後学期 | 木3・4 | 理B203 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 134 | 理学部 | 反応錯体化学 | 仁科 直子 | 後学期 | 木3・4 | 理B213 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 135 | 理学部 | 神経科学 | 竹内 浩昭 | 後学期 | 木3・4 | 理B212 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 136 | 理学部 | 量子力学Ⅱ | 松本 正茂 | 後学期 | 金1・2 | 理B203 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 137 | 理学部 | 化学反応論 | 関根 理香 | 後学期 | 金1・2 | 理B213 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 138 | 理学部 | 生物学Ⅱ | 徳元 俊伸 | 後学期 | 金1・2 | 理B202 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 139 | 理学部 | 微生物学 | 藤原 健智 | 後学期 | 金1・2 | 理B212 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 140 | 理学部 | ベクトル解析 I | 田中 直樹 | 後学期 | 金5・6 | 理B204 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 141 | 理学部 | 素粒子宇宙物理学 | 土屋 麻人 | 後学期(前半) | 金5・6 | 理B203 | 若干名 | C | 6,800円 |
| 142 | 理学部 | 有機機器分析 | 山中 正道 | 後学期 | 金5・6 | 理B202 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 143 | 理学部 | 離散数学Ⅱ | 保坂 哲也 | 後学期 | 金7・8 | 理B204 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 144 | 理学部 | 地球科学入門Ⅳ | 木村 浩之 | 後学期 | 金7・8 | 理B202 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 145 | 農学部 | 果樹園芸学 | 向井 啓雄 | 後学期 | 月1・2 | 農講義室1 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 146 | 農学部 | 基礎木質材料学 | 小島 陽一 | 後学期 | 月1・2 | 農講義室3 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 147 | 農学部 | 植物生理学 | 原 正和 | 後学期 | 月1・2 | 農大講義室 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 148 | 農学部 | 食品機能化学 | 森田 達也 | 後学期 | 月3・4 | 農講義室7 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 149 | 農学部 | 生化学概論 | 鳥山 優 | 後学期 | 月3・4 | 農大講義室 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 150 | 農学部 | 動物機能学 | 茶山 和敏 | 後学期 | 月3・4 | 農講義室1 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 151 | 農学部 | 農業簿記入門 | 柴垣 裕司 | 後学期 | 月5・6 | 農講義室3 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 152 | 農学部 | ゲノム科学 | 堀池 徳祐 | 後学期 | 月7・8 | 農講義室1 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 153 | 農学部 | 昆虫学 | 笠井 敦 | 後学期 | 火1・2 | 農講義室7 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 154 | 農学部 | 遺伝子工学 | 平井 浩文 | 後学期 | 火1・2 | 農講義室2 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 155 | 農学部 | 森林環境水文学 | 土屋 智 | 後学期 | 火1・2 | 農講義室3 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 156 | 農学部 | 微生物代謝工学 | 小谷 真也 | 後学期 | 火1・2 | 農講義室1 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 157 | 農学部 | 食品製造化学 | 日野 真吾 | 後学期 | 火3・4 | 農講義室3 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 158 | 農学部 | コミュニティ基礎論 | 藤本 穂彦 | 後学期 | 火3・4 | 農大講義室 | 若干名 | A | 6,800円 |
| 159 | 農学部 | 森林生態管理学 | 今泉 文寿 | 後学期 | 火7・8 | 農講義室1 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 160 | 農学部 | 園芸食品利用学 | 山脇 和樹 | 後学期 | 水1・2 | 農講義室2 | 若干名 | A-B | 9,500円 |

| No. | 学部等 | 授業科目名 | (代表)担当教員名 | 学期 | 曜日・時限 | 教室名 | 受入可能人数 | 難易度 | 講習料 |
|-----|-----|---------------|-----------|---------|-------|-------|--------|-----|--------|
| 161 | 農学部 | 植物バイオサイエンス基礎論 | 加藤 雅也 | 後学期(前半) | 水1・2 | 農大講義室 | 若干名 | B | 6,800円 |
| 162 | 農学部 | 分析化学2 | 河岸 洋和 | 後学期 | 水1・2 | 農講義室3 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 163 | 農学部 | 雑草学 | 稲垣 栄洋 | 後学期 | 水3・4 | 農講義室6 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 164 | 農学部 | 住環境構造学 | 安村 基 | 後学期 | 水3・4 | 農講義室7 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 165 | 農学部 | 植物機能科学 | 原 正和 | 後学期 | 水3・4 | 農講義室3 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 166 | 農学部 | 生化学B | 西村 直道 | 後学期 | 水3・4 | 農講義室2 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 167 | 農学部 | 森林生態学 | 檜本 正明 | 後学期 | 水5・6 | 農講義室2 | 若干名 | B-C | 9,500円 |
| 168 | 農学部 | 動物生理学 | 与語 圭一郎 | 後学期 | 水5・6 | 農講義室1 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 169 | 農学部 | 木質科学基礎論 | 河合 真吾 | 後学期(前半) | 水7・8 | 農大講義室 | 若干名 | B | 6,800円 |
| 170 | 農学部 | 環境社会学 | 富田 涼都 | 後学期 | 水7・8 | 農講義室1 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 171 | 農学部 | 野菜園芸学 | 鈴木 克己 | 後学期 | 木1・2 | 農講義室3 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 172 | 農学部 | 分子機能化学 | 平井 浩文 | 後学期 | 木1・2 | 農講義室7 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 173 | 農学部 | 分子細胞生物学 | 与語 圭一郎 | 後学期 | 木3・4 | 農講義室1 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 174 | 農学部 | ゲノムサイエンス | 堀池 徳祐 | 後学期 | 金1・2 | 農講義室3 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 175 | 農学部 | 高分子科学 | 山田 雅章 | 後学期 | 金1・2 | 農講義室7 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 176 | 農学部 | 酵素科学 | 村田 健臣 | 後学期 | 金1・2 | 農大講義室 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 177 | 農学部 | 環境毒性学 | 釜谷 保志 | 後学期 | 金1・2 | 農講義室1 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 178 | 農学部 | 溪流環境学 | 土屋 智 | 後学期 | 金1・2 | 農講義室4 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 179 | 農学部 | 木材化学 | 河合 真吾 | 後学期 | 金3・4 | 農講義室3 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 180 | 農学部 | 生物有機化学 | 轟 泰司 | 後学期 | 金3・4 | 農講義室2 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 181 | 農学部 | 地域生態環境科学基礎論 | 山下 雅幸 | 後学期(前半) | 金5・6 | 農大講義室 | 若干名 | A | 6,800円 |
| 182 | 農学部 | 応用生命科学基礎論 | 轟 泰司 | 後学期(後半) | 金5・6 | 農大講義室 | 若干名 | A | 6,800円 |
| 183 | 農学部 | 基礎微生物学 | 徳山 真治 | 後学期 | 金7・8 | 農大講義室 | 若干名 | A | 9,500円 |

A 入門的な内容であり、高校卒業程度の学力を必要とするもの(大学1年次対象の授業)

B より進んだ内容であり、当該専門分野についての一定の基礎知識が必要となるもの(大学2～3年次対象の授業)

C 高度な内容であり、当該専門分野について系統立てた学習がなされていることを前提とするもの(大学3～4年次対象の授業)

※演習の難易度は「D」になります。

D 専門的な知識が必要なため、履修登録にあたり担当教員と面談を行う。(大学3～4年次対象の授業)

平成29年度 静岡大学市民開放授業科目一覧

〔浜松キャンパス〕

〈後学期〉

| No. | 学部等 | 授業科目名 | (代表)担当教員名 | 学期 | 曜日・ 時限 | 教室名 | 受入可 能人数 | 難易度 | 講習料 |
|-----|------|--------------------|-----------|-----|-----------|-------|------------|-----|--------|
| 184 | 全学 | 電磁気学 | 岡部 拓也 | 後学期 | 月3・4 | 工6-22 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 185 | 全学 | 基礎無機化学 | 平川 和貴 | 後学期 | 月3・4 | 工5-11 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 186 | 全学 | 生物学Ⅱ | 吉田 信行 | 後学期 | 月3・4 | 工5-24 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 187 | 全学 | 日本国憲法 | 原田 伸一郎 | 後学期 | 火3・4 | 総24 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 188 | 全学 | 心理学 | 須藤 智 | 後学期 | 火3・4 | 総32 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 189 | 全学 | 心理学 | 宮崎 真 | 後学期 | 火3・4 | 工8-11 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 190 | 全学 | 初修外国語(フランス語)Ⅱ | 田中 柊子 | 後学期 | 火5・6 | 情23 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 191 | 全学 | 線形代数学Ⅱ | 中島 徹 | 後学期 | 火5・6 | 工5-11 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 192 | 全学 | 力学・波動Ⅱ | 岡部 拓也 | 後学期 | 火5・6 | 工8-11 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 193 | 全学 | 心理学 | 高橋 晃 | 後学期 | 水3・4 | 工8-21 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 194 | 全学 | 力学・波動Ⅱ | 岡部 拓也 | 後学期 | 水5・6 | 総24 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 195 | 全学 | 線形代数学Ⅱ | 中島 徹 | 後学期 | 水7・8 | 工1-31 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 196 | 全学 | 工学基礎化学Ⅱ | 梅本 宏信 | 後学期 | 木1・2 | 工8-11 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 197 | 全学 | 工学基礎化学Ⅱ | 梅本 宏信 | 後学期 | 木3・4 | 工8-11 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 198 | 全学 | ロックとアートからみるメンタルヘルス | 太田 裕一 | 後学期 | 金3・4 | 工5-11 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 199 | 全学 | 化学物質と人間 | 田中 康隆 | 後学期 | 金3・4 | 総33 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 200 | 全学 | ロボットと人間 | 末長 修 | 後学期 | 金3・4 | 総31 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 201 | 全学 | 初修外国語(フランス語)Ⅰ | 田中 柊子 | 後学期 | 金5・6 | 情23 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 202 | 全学 | 地域社会連携を考える | 清水 一男 | 後学期 | 金5・6 | 総31 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 203 | 全学 | 静岡県の防災・減災と原子力 | 大矢 恭久 | 後学期 | 金5・6 | 総22 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 204 | 全学 | ジェンダーからみる現代社会 | 跡部 千慧 | 後学期 | 金5・6 | 工6-11 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 205 | 全学 | 医学と人間 | 山本 裕之 | 後学期 | 金5・6 | 工5-24 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 206 | 全学 | メディアとコンテンツ | 赤尾 晃一 | 後学期 | 金5・6 | 共41 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 207 | 工学部 | 環境化学工学 | 松田 智 | 後学期 | 月1・2 | 総21 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 208 | 工学部 | 食品工学 | 金原和秀 | 後学期 | 月3・4 | 工1-32 | 若干名 | C | 9,500円 |
| 209 | 工学部 | 基礎有機高分子材料 | 久保野敦史 | 後学期 | 水5・6 | 工3-31 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 210 | 工学部 | オペレーションズ・リサーチ | 守田 智 | 後学期 | 水5・6 | 工5-21 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 211 | 情報学部 | 博物館情報・メディア論 | 高松 良幸 | 後学期 | 月1・2 | 情25 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 212 | 情報学部 | ユーザビリティ設計・評価論 | 高橋 晃 | 後学期 | 月7・8 | 情24 | 若干名 | B | 9,500円 |
| 213 | 情報学部 | 美術とメディア | 高松 良幸 | 後学期 | 火5・6 | 情24 | 若干名 | B | 9,500円 |

| No. | 学部等 | 授業科目名 | (代表)担当教員名 | 学期 | 曜日・ 時限 | 教室名 | 受入可 能人数 | 難易度 | 講習料 |
|-----|------|---------|-----------|-----|-----------|-----|------------|-----|--------|
| 214 | 情報学部 | 社会調査論 | 中 正樹 | 後学期 | 水1・2 | 共41 | 若干名 | A | 9,500円 |
| 215 | 情報学部 | ビジネス計画論 | 遊橋 裕泰 | 後学期 | 水5・6 | 情13 | 若干名 | B | 9,500円 |

A 入門的な内容であり、高校卒業程度の学力を必要とするもの(大学1年次対象の授業)

B より進んだ内容であり、当該専門分野についての一定の基礎知識が必要となるもの(大学2～3年次対象の授業)

C 高度な内容であり、当該専門分野について系統立てた学習がなされていることを前提とするもの(大学3～4年次対象の授業)

※演習の難易度は「D」になります。

D 専門的な知識が必要なため、履修登録にあたり担当教員と面談を行う。(大学3～4年次対象の授業)

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | 初修外国語（フランス語）入門Ⅱ (Basic French Ⅱ) | | | | |
| 担当教員名 | 浅野 幸生 (ASANO Yukio) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文 A 棟 408 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 学部共通 1 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 1 年 | 単位数 | 1 | 曜日・時限 | 月 3・4 |
| キーワード | 着実・積極性の重視・繰り返し | | | | |
| 授業の目標 | 文法・音声の基本を固めると同時に、フランス文化についても理解を深めるようにする。 | | | | |
| 学習内容 | 前期の学習を受け、より発展的な学習に進む。 | | | | |
| 授業計画 | <p>前期に基本をある程度学んだことを前提として、より発展的な学習に入る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 比較・疑問代名詞 2) 所有形容詞・目的語代名詞・強勢形 3) 半過去と複合過去の用法・単純未来 4) 関係代名詞・強調構文 5) 受動態・非人称構文・on の用法 6) 中性代名詞 7) 接続法・条件法 | | | | |
| 受講要件 | フランス語を最低半期学習していること | | | | |
| テキスト | 前期のテキストを引き続き使用する | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 予習・復習について | 予習が大切 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | やる気と学習に対する誠実さを高く評価する | | | | |
| オフィスアワー | 月 14 : 20 ~ 15 : 30 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|--------------|-----------|
| 授業科目名 | 初修外国語（現代韓国語）入門Ⅱ (Basic Modern Korean Ⅱ) | | | | |
| 担当教員名 | 南 富鎮 (NAM bujin) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文 A 棟 5 2 7 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 学部共通 1 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 1 年 | 単位数 | 1 | 曜日・時限 | 月 3・4 |
| キーワード | 韓国語、韓国文化、日韓比較、異文化理解、相互理解、国際化 | | | | |
| 授業の目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・韓国語の基礎を勉強して韓国文化への理解を目指します。 ・韓国語は日本語に類似しているので日本語・日本文化への理解も深めます。 ・国際化の大きな時代潮流のなか、相互理解の精神を学びます。 | | | | |
| 学習内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・韓国語に関する基礎知識を勉強します。 ・言語を通して韓国文化への理解を高めていきます。 ・日本語との比較を通して日本語・日本文化への理解も深めていきます。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 復習 2 発音規則 3 指示代名詞 4 形式名詞 5 目的助詞 6 叙述表現 7 場所の助詞 8 否定文 9 曜日を覚える 10 敬語表現 11 過去表現 12 過去の敬語表現 13 未来表現 14 数詞 15 総復習 | | | | |
| 受講要件 | 教育学部 1 年・理学 1 年、農学部 1 年（選択） | | | | |
| テキスト | 生越直樹・曹喜澈『ことばの架け橋』改訂版、白帝社、2017 年。 | | | | |
| 参考書 | とくにありません。 | | | | |
| 予習・復習について | 教員がその都度指示しますが、基本的にはご自分で決めてください。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 出席 40%、試験 60%。最初の授業時にもう一度お知らせします。 | | | | |
| オフィスアワー | 最初の授業時にお知らせします。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 難易度 B。 韓国語は日本語にもっとも近い外国語の一つです。その類似性には皆様も驚くでしょう。そのため、日本人学習者にはわりと親しみやすく、簡単に習得できる言語です。ぜひ気楽に挑戦してみてください。難易度は非常に低いです。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|--------------|-----------|
| 授業科目名 | 初修外国語（フランス語）Ⅰ （French Ⅰ） | | | | |
| 担当教員名 | 安永 愛 （YASUNAGA Ai） | | 所属等 | 学院院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文 A 棟 5 2 5 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人 2 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 1 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月 5・6 |
| キーワード | フランス語の初歩、フランス語の音とリズム、フランス語圏の文化 | | | | |
| 授業の目標 | 前期の「初修外国語（フランス語）入門Ⅰ」の授業に引き続き、フランス語の基礎力を身につけるとともに、フランス語圏の文化に触れていきます。 | | | | |
| 学習内容 | 教科書「Paris-Bordeaux フランスの世界遺産と食文化を巡る旅」に沿い、「読む」「聴く」「書く」「話す」を繰り返しながら、フランス語の基礎を習得します。折々、フランス語圏の話題に触れます。 | | | | |
| 授業計画 | 第 1 講 教科書第 8 課 前半 第 2 講 教科書第 8 課 後半 第 3 講 教科書第 9 課 前半 第 4 講 教科書第 9 課 後半 第 5 講 教科書第 10 課 前半 第 6 講 教科書第 10 課 後半 第 7 講 教科書第 11 課 前半 第 8 講 教科書第 11 課 後半 第 9 講 教科書第 12 課 前半 第 10 講 教科書第 12 課 後半 第 11 講 教科書第 13 課 前半 第 12 講 教科書第 13 課 後半 第 13 講 教科書第 14 課 前半 第 14 講 教科書第 14 課 後半 第 15 講 総復習 | | | | |
| 受講要件 | | | | | |
| テキスト | 「Paris-Bordeaux フランスの世界遺産と食文化を巡る旅」（朝日出版社） | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 予習・復習について | 毎回宿題を課します。語学は反復練習が重要です。発音や聞き取りの能力を高めるため、教科書付属の CD を活用しましょう。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 期末の筆記試験（聞き取り含む）の素点を基準とします。単位認定基準の 60 点に達しない場合のみ、出席点（1 回 1 点）を加点します。 | | | | |
| オフィスアワー | 月曜 7・8 限。事前の appointments により、他の時間も対応します。（アドレス yasunaga.ai@shizuoka.ac.jp） | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 教科書の文章を暗誦するくらいの気持ちで取り組んで下さい。フランス語の音とリズムを楽しめれば、決して苦しい作業ではないでしょう。また、綴りも覚えられるよう、実際に書いてみることも忘れずに。せっかくフランス語を勉強するので、フランス語圏に目を向けてみましょう。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-----------|----------|
| 授業科目名 | 富士山学 (Fujisan Sciences) | | | | |
| 担当教員名 | 徳岡 徹 (TOKUOKA Toru) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部A棟 517 | |
| 分担教員名 | 和田 秀樹、増澤 武弘、小二田 誠二、山岡 拓也 | | | | |
| クラス | 学部共通 1 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 ー |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月 5・6 |
| キーワード | 富士山、活火山、高山植物、ユネスコ世界文化遺産 | | | | |
| 授業の目標 | 富士山は静岡と山梨両県をまたぎ、火山国日本の象徴的活火山であり、日本一の高さと容積を持つ。日本人が石器時代から、また縄文の時代から仰ぎ見る富士山の姿はどのようにしてでき変化してきたか？、自然史の中の富士山を人々がどのようにみてきたか？身近な自然現象の科学と自分とのつながりを考えてみよう。 | | | | |
| 学習内容 | 地質学的側面、生物学的側面、人文科学的側面と多様な見方で富士山を考える。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 総論：富士山に生きる生物ー活火山と共にー 増沢武弘 2 富士山の永久凍土とコケ植物 3 富士山植物の垂直分布 亜高山帯 4 富士山植物の垂直分布 高山帯 5 富士山植物の垂直分布 上部高山帯と山頂 6 富士山と世界遺産 7 眺める富士山：景観と表現 小二田誠二（人文社会科学部） 8 植物の分類・系統と植物地理学 徳岡徹（理学部） 9 富士山の植物相 10 富士山の周辺地域の植物相 11 富士山の火山としての誕生ー富士山がそこにあるわけー和田秀樹 12 富士山の地下には何がある？ 日本列島の生い立ちと富士山 13 富士山の噴火口、寄生火山 富士山の最近の活動、宝永の噴火まで 14 富士山活動の歴史を調べる方法のあれこれ 年代と赤色立体地図 15 富士山と旧石器時代研究との関わりー愛鷹山麓における旧石器時代研究ー山岡拓也（人文社会科学部） | | | | |
| 受講要件 | 特になし | | | | |
| テキスト | | | | | |
| 参考書 | 富士山噴火 鎌田浩毅著 講談社ブルーバックス、 静岡自然史 池谷仙之監修 静岡新聞社、 富士山の謎をさぐる-富士山の地球科学と防災学 日大地球システム科学教室編 築地書館 | | | | |
| 予習・復習について | 富士山に関する書籍を読み、予習復習して下さい。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 試験とレポート | | | | |
| オフィスアワー | 訪問前にメール（徳岡宛：tokuoka.toru@shizuoka.ac.jp）で問い合わせてください。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 誰もが知る富士山。世界を見渡しても山容の見事さは群を抜き、その自然の恵は計り知れない。富士山麓にすむ人を含めた生物はその恵を知らずともうけている。そして、火山にも寿命がある。地球が生きているという確かな息吹を静岡の地で感じていただきたい。教官の都合により授業内容が前後する場合があります。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|----------|-------------|
| 授業科目名 | 地域社会と災害 (Regional Society and Natural Disaster) | | | | |
| 担当教員名 | 牛山 素行 (USHIYAMA Motoyuki) | | 所属等 | 防災総合センター | |
| | | | 研究室 | 防災総合センター | |
| 分担教員名 | 原田 賢治、石橋 秀巳、山岡 泰治、矢守 克也、横幕 早季 | | | | |
| クラス | 学部共通 1 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 — |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月 5・6 |
| キーワード | 豪雨災害、地震災害、火山災害、津波災害、防災対策、防災行政 | | | | |
| 授業の目標 | 静岡県では災害というと地震災害に目が向きがちかもしれないが、豪雨災害をはじめとして、災害には様々な姿がある。本講義では、災害を考えるための基礎的な考え方や、災害をもたらす現象のメカニズム、災害による被害を軽減するための技術や制度について理解し、社会の一員として、当事者意識を持って災害に備える事ができる人材の育成を目指す。 | | | | |
| 学習内容 | (1)自然災害の基本的な性質を理解し、長期的かつ広い視野から災害を見ることができるようになる。(2)自然災害をもたらす様々な自然現象(ハザード)の基本的なメカニズムと、災害との関係について理解することができる。(3)地域における自然災害による被害を軽減するための技術、社会的な制度の現状と課題について理解することができる。 | | | | |
| 授業計画 | 自然災害科学概論1 牛山素行 静大 自然災害科学概論2 牛山素行 静大 地震災害 原田賢治 静大 津波・高潮災害 原田賢治 静大 火山災害 石橋秀巳 静大 豪雨災害 牛山素行 静大 洪水・土砂災害 牛山素行 静大 原子力災害医療 山岡泰治 浜松医大 地域社会と災害 矢守克也 京都大 災害情報 牛山素行 静大 警報と避難 牛山素行 静大 行政と災害対応 牛山素行 静大 防災行政実務 杉村晃一 静岡市 ハザードマップ 牛山素行 静大 災害と身近な暮らし 横幕早季 静大 ※都合により、講義順序が入れ替えとなる場合がある。 | | | | |
| 受講要件 | 特になし | | | | |
| テキスト | 特に指定しない。講義中に適宜資料を配付する。 | | | | |
| 参考書 | 特に指定しない。講義中に文献を紹介する場合がある。 | | | | |
| 予習・復習について | | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | <ul style="list-style-type: none"> ・講義時間中に小課題を出題し、その内容を採点する。最後に、出題したすべての小課題の採点結果を集計し、成績を評価する。小課題の出題回数は未定だが少なくとも8回以上は出題する。出題日は予告しない。 ・小課題の提出回数が、出題回数の2/3以上の者を成績評価の対象とする。成績評価対象者が自動的に「可」以上の成績となる訳ではない。成績評価対象者の小課題提出回数の多少は、成績評価に影響しない。 ・欠席、遅刻などによる小課題の事後提出は認めない。 ・欠席時の講義内容については、欠席者自身で情報収集すること。 ・欠席届の提出を希望する場合は、各回の担当教員または、主担当教員(防災総合センター・牛山教授)まで提出すること。 ・講義期間終了後に、レポート出題などによって不合格者に対するいわゆる「救済措置」をとることはない。 | | | | |
| オフィスアワー | | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | <ul style="list-style-type: none"> ・学際科目「地震防災」の内容を拡大させた講義です。「地震防災」と本講義は、両方、あるいはどちらか一方のみを受講しても構いません。 ・成績評価方法にも書いてあるように、本講義では小課題の提出回数不足の場合、講義期間終了後にレポート出題などによって救済をすることはありません。単位を絶対に落とすと困るが、欠席回数が増えるかもしれないと思う人は受講しないことを勧めます。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-----------|-------------|
| 授業科目名 | ヒューマン・エコロジー (Human Ecology) | | | | |
| 担当教員名 | 野上 啓一郎 (NOGAMI Keiichiro) | | 所属等 | 大学院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 農学総合棟 523 | |
| 分担教員名 | 戸田 三津夫、安村 基、山脇 和樹、榎本 正明、恒川 隆生、雨谷 敬史、藤本 征司 | | | | |
| クラス | 学部共通 1 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 — |
| 対象学年 | 2 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月 5・6 |
| キーワード | 安全・快適・便利、水環境、食料と生活、生態学、風景、環境リスク、行政法と環境、住宅と快適性、社会問題、問題解決 | | | | |
| 授業の目標 | 人間と環境の関係・構造を俯瞰的に見ることができる。自分の意見を明確に発表し、論理的に書くことができる。 | | | | |
| 学習内容 | リスクで見る原則、人間社会を理解する原則、生態学的に見る原則、哲学的に見る原則、倫理的に見る原則、文章を読み解く原則、文章を書く原則を体得する。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 野上啓一郎 (静岡大学農学部) : 導入 2 雨谷敬司 (静岡県立大学) : 室内環境に快適さや安全性を求めて 3 雨谷敬司 (静岡県立大学) : 環境リスク評価と管理 4 安村 基 (静岡大学農学部) : 安全・快適そして人と環境にやさしい住宅の供給 5 山脇和樹 (静岡大学農学部) : 食料と生活エネルギーの循環 6 藤本征司 (元静岡大学農学部) : 生態学から見た人間環境の構造と風景造り 7 藤本征司 (元静岡大学農学部) : 生態学から見た風景モザイクの動態と造景 8 榎本正明 (静岡大学農学部) : 乾燥地生態系概論 9 恒川隆生 (静岡大学法務大学院) : 環境保全---ヒューマンエコロジーと行政法--- 10 戸田三津夫 (静岡大学工学部) : 都市と田舎---安全・快適・便利を求めて--- 11 戸田三津夫 (静岡大学工学部) : 水環境の保全と修復 12 野上啓一郎 (静岡大学農学部) : 日本の社会問題---教育・文化--- 13 野上啓一郎 (静岡大学農学部) : 日本の社会問題---経済--- 14 野上啓一郎 (静岡大学農学部) : 日本の社会問題---労働と人口--- 15 野上啓一郎 (静岡大学農学部) : 日本の社会問題---倫理と人権--- | | | | |
| 受講要件 | なし | | | | |
| テキスト | ヒューマン・エコロジーをつくる---人と環境の未来を考える---共立出版 野上啓一郎編 | | | | |
| 参考書 | 各担当教員が適宜紹介する | | | | |
| 予習・復習について | 導入部分で述べる | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 複数の小テスト (40%)、最終レポート (60%) により評価する | | | | |
| オフィスアワー | afknoga@gmail.com に事前に相談すること | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 授業計画の順番や内容は変更することがある | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------|----------|
| 授業科目名 | NPO・ボランティア論 (Introduction to Nonprofit Organizations and Voluntary Groups) | | | | |
| 担当教員名 | 日誌 一幸 (HIZUME Kazuyuki) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文A棟621 | |
| 分担教員名 | 今井 奈保子、久保田 翠 | | | | |
| クラス | 学部共通1 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 ー |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月5・6 |
| キーワード | ボランティア、ボランティア団体、市民活動、非営利組織、社会的企業、協働、市民社会 | | | | |
| 授業の目標 | ボランティア活動、ボランティア団体、NPO活動、NPO法人に関する理解を深める。 | | | | |
| 学習内容 | ボランティア活動やNPO法人に関する理論を学ぶとともに、実際に静岡県内で活動しているNPO法人の関係者から活動の実態を学ぶ。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 ガイダンス 2 ボランティア活動の世界 (1) 3 " (2) 4 " (3) 5 福祉とアートの融合によるNPO (1) 6 " (2) 7 " (3) 8 NPOの基礎知識 (1) 9 " (2) 10 " (3) 11 " (4) 12 男女共同参画で活動するNPO 13 社会的企業 (1) 14 " (2) 15 生活困窮者支援とNPO | | | | |
| 受講要件 | 特にない。 | | | | |
| テキスト | 社会福祉法人大阪ボランティア協会編『テキスト 市民活動論』 | | | | |
| 参考書 | 講義の中でその都度紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | 新聞等から、ボランティア活動や市民活動、NPO法人の記事を読んでおく。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | レポート2回(40%)、期末試験(60%)で評価を行う。 | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日13:00~14:00 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 講義中の私語(毎年繰り返して注意を喚起しているがなかなか止まない)、その点自覚をして履修すること)、スマートフォン等の使用(必要な場合を除く)、他の授業の準備等を厳しく禁じます。これに違反する行為があった場合には退出を求めます。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|----------|----------|
| 授業科目名 | 社会資本マネジメント論 (Management theory of the social infrastructure development) | | | | |
| 担当教員名 | 岩田 孝仁 (IWATA Takayoshi) | | 所属等 | 防災総合センター | |
| | | | 研究室 | 防災総合センター | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 学部共通 1 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 ー |
| 対象学年 | 2 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月 5・6 |
| キーワード | 社会資本、防災対策、事前復興、都市計画、交通ネットワーク、景観形成 | | | | |
| 授業の目標 | 私たちの生活を支える道路や公園など社会資本の意義、それに関わる行政や関連産業の仕組みと役割及び事業の企画から完成後の維持管理に至る一連の流れを理解し、どのようなマネジメントが必要か、また、社会資本を利用する住民などとの合意形成に何が必要か、さらに防災対策としての事前復興の考えなどを学び、社会資本整備に関わるマネジメントやまちづくりを実践していく上での考え方や基礎的知識を習得する。 | | | | |
| 学習内容 | 交通ネットワークとしての道路や港湾、空港と公園、都市施設など公共的社会資本の計画から整備、維持に関する様々なマネジメント手法と抱える課題や問題解決手法などについて、静岡県内で行われている具体的事例をもとに近年の社会資本マネジメントの実践を系統的に学習する。 | | | | |
| 授業計画 | <p>下記の内容について資料などに基づき、それぞれの分野の専門家により講義を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会資本の概要 ・社会資本の計画と維持管理（アセットマネジメント） ・住民参加と合意形成 ・社会資本の景観形成 ・社会資本の防災機能（事前復興機能、緊急輸送機能、静岡方式） ・都市計画マスタープラン（コンパクト+ネットワークシティ） ・交通ネットワークとまちづくり <p>なお、都合により講義の順番は前後することがある。</p> | | | | |
| 受講要件 | 特になし | | | | |
| テキスト | 特に指定せず、適時資料を配布する。 | | | | |
| 参考書 | 指定しないが、必要に応じ授業でその都度示す。 | | | | |
| 予習・復習について | 講義ノートや関連資料・図書による復習を必ず行うこと。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 毎回の講義の最後に課す小レポートの採点結果を集計し評価する。 なお、全講義回数の 2/3 以上を出席した者を成績評価の対象とする。 | | | | |
| オフィスアワー | 講義終了後に申し出るか、事前に防災総合センターに問い合わせること。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 道路や港、公園など様々な社会資本が私たちの生活を支えている中、これらの社会資本整備や維持に関して具体的に自治体などでどのようなマネジメントを実施しているのかについて、静岡県内で実施する具体事例をもとに系統的に学習することができ、将来、公務員や地域づくりなどの仕事をを目指す学生には有意義な講義である。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|------------|----------|
| 授業科目名 | 対話する死生学～喪失とともに生きる (Thanatology in a dialogue) | | | | |
| 担当教員名 | 竹之内 裕文 (TAKENOUCHI Hirobumi) | | 所属等 | 大学院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 農学部総合棟 520 | |
| 分担教員名 | 浅原 聡子 | | | | |
| クラス | 学部共通 1 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 ー |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月 5・6 |
| キーワード | 喪失、グリーフ、ワーク・ケア・サポート、生きる、老病死、看取る、子ども、ホーム、がん、希望 | | | | |
| 授業の目標 | 人生は悲哀と喪失に満ちており、私たちは「どのように生きるか」という問いを投げかけられています。それゆえ「喪失」の意味について探求するためには、これを狭い専門領域に閉じ込めることなく、広く「生きる」という営みのなかで捉える必要があります。こうした視角から本講義は「喪失」をめぐる諸課題を広くとり挙げ、死生学を初めとする諸分野からの応答を試みます。 | | | | |
| 学習内容 | 「喪失とともに生きる」多様な人々を支援する現場のケア専門職と死生学研究者で共に創り上げたテキストを使用して、執筆者の一部を講義に招きながら、受講者間の対話・討論を中心に講義を進めていく予定です。各回の報告者を予め決めておき、報告者からの内容要約、疑問・異論の提起、討議テーマの発題を受けて、参加者全員で探究していきます。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 インTRODダクション (竹之内裕文) 2 序「対話する死生学 喪失とともに生きるために」(執筆者登壇) & 目次 3 第7章「自他の喪失を支えるつながり グリーフから希望を」 4 コラム「喪失から紡がれゆくいのちのサポート」「いのちの支え合いの場に立つ」 5 第5章「ホームを失って生きる——路上生活者の語りから」(執筆者登壇) 6 第6章「がんが教えてくれたこと——患者としての体験から学んだこと」(執筆者登壇) 7 コラム「がん闘病者・サバイバーの喪失体験と生」「病とともに生きるということ」 8 第4章「老病死に向きあう人から学ぶ——終末期ケアの現場から」 9 コラム「「自分を失うこと」とどう向き合うか」& コラム「「ホーム」の意味について考える」 10 第2章「こどもの命を看取ること 小児救急の現場から」(執筆者登壇) 11 第3章「生を享けること、失うこと 新生児医療の現場から」 12 第1章「喪失とともに生きる人たちとの出会い グリーフカウンセリングの現場から」(執筆者登壇) 13 コラム「寄り添いの変容」& コラム「グリーフサポートと民俗」 14 終章「死とともに生きることを学ぶ 対話する死生学のために」(執筆者登壇) 15 講義に対する私の応答 (4人×15分) & 受講者の得点確認 | | | | |
| 受講要件 | 人生における悲哀と喪失の問題に真摯に向かい合う構えのあること。これは厳密な意味での受講要件です。 | | | | |
| テキスト | 『喪失とともに生きる 対話する死生学』(竹之内裕文・浅原聡子編、ポラーノ出版、2016年) | | | | |
| 参考書 | 『どう生き、どう死ぬか 現場から考える死生学』(岡部健・竹之内裕文編、弓箭書院、2009年)、『〈大切なもの〉を失ったあなたに 喪失をのりこえるガイド』(ロバート・A・ニーメヤー、春秋社、2006年)、『哀しみに寄り添う 死別と悲哀の心理学』(ケルスティン・ラマー、新教出版社、2013年)。 | | | | |
| 予習・復習について | 各回の報告担当者には、パワーポイントを使ってプレゼンテーションをしてもらいます。その他の参加者は所定のテキスト(各回の章ないしコラム)を事前に読み、所定のフィードバックシート(WORD形式)にコメントを印字してきてもらい、それを携えてグループ対話に臨んでもらいます。担当者の報告を聴き、自分の読みと照らし合わせ、積極的に対話・討論に参加してください。講義での対話・討論の後も、ご自身の探究を継続してください。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | ポイント制とします。 ①フィードバックシート 65点満点 5点満点×13回(印字されたフィードバックシートを提出すれば5点獲得) ②各章・コラムの報告者 各章担当 40点満点 各コラム 20点満点 ③全体対話での発言 1回5点を加点 ④各回のグループ発表における最優秀グループ グループメンバー全員に5点を加点 ⑤最終回の講義で各グループ毎に相互評価(peer review) グループ対話への貢献度に応じて0~20点まで。 | | | | |
| オフィスアワー | 講義終了後がベスト。他の曜日の場合、午後が望ましい。事前に連絡いただいた方がベターです。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 私たち一人ひとは、生老病死や悲哀・喪失をどう引き受け、どのように生きていったらよいのか。講義ではこの問いを共に問います。この問いを共有できる方のみ受講してください。共に悩み、共に考え、共に希望を見つけましょう。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|----------|-------------|
| 授業科目名 | エネルギーと環境 (Energy and Environments) | | | | |
| 担当教員名 | 大矢 恭久 (OYA Yasuhisa) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部 A202 | |
| 分担教員名 | 近田 拓未、矢永 誠人 | | | | |
| クラス | 学部共通 1 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 — |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月 5・6 |
| キーワード | エネルギー、環境、放射線、原子力、放射線影響、地球温暖化 | | | | |
| 授業の目標 | エネルギー問題および環境問題の現状について理解すると共に、放射線や核エネルギーと人間との関わりについて科学的な教養を深める。 | | | | |
| 学習内容 | エネルギーと環境問題についてサイエンスの観点から理解するとともに、その解決法の一つである核エネルギー発電の原理および仕組み、核エネルギー発電の問題点を学ぶ。また、放射線の応用的利用についても言及する。 | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (大矢) 2. エネルギー・環境問題(1) (近田) 3. エネルギー・環境問題(2) (近田) 4. 化石燃料とエネルギーセキュリティ (近田) 5. 原子力発電の仕組みと課題(1) ・原子炉 (中部電力：岡田) 6. 原子力発電の仕組みと課題(2) ・原子炉 (中部電力：岡田) 7. 放射性廃棄物の処理と処分 (原燃：坂本) 8. 原子力発電の仕組みと課題(3) ・まとめ (中部電力：岡田) 9. 核エネルギーの歴史 (大矢) 10. 核融合炉発電の仕組みと開発の現状 (大矢) 11. 原子力エネルギー行政 (静岡県：神村) 12. 温室効果ガス削減の取り組み (大矢) 13. 地球温暖化の科学・省エネルギー (大矢) 14. 放射線の測定と生物影響 (矢永) 15. エネルギーと環境および社会との関わり (矢永) <p>講義の順番は前後することがある。</p> | | | | |
| 受講要件 | 特になし | | | | |
| テキスト | 講義中に資料を配付する。 | | | | |
| 参考書 | エネルギーと地球環境 (エネルギーフォーラム)、原子力がひらく世紀 (日本原子力学会編) | | | | |
| 予習・復習について | テキスト、講義資料や関連図書による予習および復習を必ず行うこと。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 講義中の小レポートおよび各教員が課すレポートにより評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 8:00-20:00 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 文理学生合同での講義のため、極力数式を用いない講義とする。エネルギー・環境問題に関する教養を深めることを主たる目標とする。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|---------|-----------|
| 授業科目名 | 数学Ⅳ（線形代数Ⅱ） (Mathematics IV(Linear algebraⅡ)) | | | | |
| 担当教員名 | 木村 杏子 (KIMURA Kyouko) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理C604室 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理B G | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月7・8 |
| キーワード | ベクトル空間、基底と次元、固有値、対角化、内積空間 | | | | |
| 授業の目標 | ベクトル空間、基底と次元、固有値と対角化、内積空間について学ぶことを目標とする。 | | | | |
| 学習内容 | 本講義では、数学Ⅱ（線形代数Ⅰ）に続く内容として線形代数を学ぶ。ベクトル空間を無駄なく生成する基底・基底の個数である次元、固有値を用いて行列を対角化すること、ベクトル空間に内積を導入してベクトルの大きさや直交性を計算することを学ぶ。 | | | | |
| 授業計画 | 1. 数ベクトル空間 <ol style="list-style-type: none"> 1. 部分空間 2. 1次独立と1次従属 3. 基底 4. 次元 5. 階数 6. 線形写像の次元定理 2. 対角化と固有値 <ol style="list-style-type: none"> 7. 線形変換と基底 8. 固有値・固有ベクトル 9. 固有空間の次元 10. 対角化 3. 内積空間 <ol style="list-style-type: none"> 11. 内積 12. 正規直交基底と直交行列 13. 対称行列の対角化 14. 2次形式 | | | | |
| 受講要件 | 数学Ⅱ（線形代数Ⅰ） | | | | |
| テキスト | 浅芝秀人 著「基礎課程線形代数」（培風館）ISBN 978-4-563-00473-6 | | | | |
| 参考書 | 三宅敏恒 著「入門線形代数」（培風館）ISBN 978-4-563-00216-9 | | | | |
| 予習・復習について | テキストと授業ノートで予習・復習をすること。自主的に問題を解くことは理解を深める上で大変重要である。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 成績評価は試験を主とし、課題やレポートなどを加算して判断する。 | | | | |
| オフィスアワー | 授業中に指示する。 また、授業の質問については附属図書館「チューターズフロント」も積極的にご利用ください。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 予習、復習は必須。演習問題を解き理解を深めること。できるだけ早く質問に来ることを勧める。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|---------|-----------|
| 授業科目名 | 化学Ⅱ（物理化学B） (Chemistry II(Physical Chemistry B)) | | | | |
| 担当教員名 | 松本 剛昭 (MATSUMOTO Yoshiteru) | | 所属等 | 学術院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 総 512 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理BG | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火 1・2 |
| キーワード | 熱化学、化学平衡、酸と塩基、電気化学、化学反応速度 | | | | |
| 授業の目標 | 化学変化を理解するための基本的な知識とそれらの応用について学ぶ。 | | | | |
| 学習内容 | 物質の状態変化や化学変化に伴う熱エネルギーの役割と、化学反応の平衡や方向を理解するための熱化学の基本法則を学ぶ。また、酸と塩基、電気化学、化学変化の速度と反応機構についても学習する。なお、この講義で使用するテキストの1章から8章については、前期に開講される化学Ⅰ（物理化学A）で学習する。 | | | | |
| 授業計画 | <p>テキストの章に従い、次の項目を講義する。</p> <p>回 内容</p> <p>1 化学Ⅱを開講するにあたって：熱化学・化学平衡・電気化学・反応速度を学ぶ必要性について</p> <p>2 9章 状態変化に伴うエネルギー—熱化学：熱力学の第一法則</p> <p>3 9章 状態変化に伴うエネルギー—熱化学：転移のエンタルピー、エンタルピーのはたらき</p> <p>4 10章 化学反応の平衡：平衡の記述</p> <p>5 10章 化学反応の平衡：諸条件の影響、相の間の平衡</p> <p>6 11章 自然に起こる変化の方向：変化はなぜ起こるのか</p> <p>7 11章 自然に起こる変化の方向—熱力学の第二法則：エントロピーと熱力学の第二法則</p> <p>8 11章 自然に起こる変化の方向—熱力学の第二法則：ギブズ関数</p> <p>9 12章 イオンを含む平衡：酸と塩基</p> <p>10 12章 イオンを含む平衡：pHの応用</p> <p>11 13章 化学エネルギーと電気エネルギー—電気化学：化学電池</p> <p>12 13章 化学エネルギーと電気エネルギー—電気化学：起電力と平衡、電極電位の使い方、起電力の熱力学</p> <p>13 14章 化学変化の速さ：反応の速度、速度式</p> <p>14 14章 化学変化の速さ：速度と諸条件</p> <p>15 14章 化学変化の速さ：触媒作用</p> | | | | |
| 受講要件 | 前期に開講される化学Ⅰ（物理化学A）を履修していること。 | | | | |
| テキスト | 物理化学の基礎、Atkins・Clugstone 著／千原・稲葉訳、東京化学同人、1984年、4-8079-0226-1 | | | | |
| 参考書 | アトキンス物理化学要論 Atkins・de Paula 著／千原・稲葉訳 東京化学同人 | | | | |
| 予習・復習について | 授業毎に予習・復習をすること。また、各章毎に与える練習問題を各自で取り組むこと。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 期末試験の得点のみで評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 特に指定しない。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 質問は随時受け付けます。授業中でも授業時間外でも、いつでも気軽に訪ねてください。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|---------------|--------|
| 授業科目名 | 日本国憲法 (The Japanese Constitution) | | | | |
| 担当教員名 | 板倉 美奈子 (ITAKURA Minako) | | 所属等 | 学術院融合・グローバル領域 | |
| | | | 研究室 | 人文社会科学部A棟533 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 学部共通3 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火3・4 |
| キーワード | 立憲主義、国民主権、平和主義、基本的人権、国家 | | | | |
| 授業の目標 | 多くの人にとっては日頃あまり身近に感じることがない日本国憲法について、その全体像を概観し、憲法の基本事項を修得することを目標とする。ただ憲法の条文を暗記するのではなく、その歴史や背景、憲法のさまざまな規定が自分たちの日々の生活や人生にどのようにかわるのか、自分たちが国家にどのように向き合い、憲法をどのように活かしていくのかを考えられるようになることをめざす。 | | | | |
| 学習内容 | (1) 日本国憲法の基本原理、人権、統治機構について概観し、基本事項について概説する。 (2) 私たちの日々の生活の中にあるさまざまな問題に憲法がどのように関わっているのかを、時事問題など具体的な事例を通して解説する。 (3) 主権者として、国家にどのように向き合い、憲法をどのように活かしていくべきかについて考える。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 ガイダンスー憲法とは何か 2 憲法の基礎ー立憲主義、法の支配、権力分立、日本国憲法の誕生、日本国憲法の基本原理 3 国会ー国会の役割、選挙 4 内閣ー行政権、議院内閣制 5 裁判所ー日本の裁判制度、司法の独立、違憲審査制 6 国民主権と天皇制 7 平和主義(1)ー戦争の違法化の歴史、日本国憲法9条 8 平和主義(2)ー9条解釈の過去・現在・未来 9 基本的人権(1)ー総論 10 基本的人権(2)ー表現の自由 11 基本的人権(3)ー人身の自由 12 基本的人権(4)ー生存権、教育を受ける権利、労働基本権 13 基本的人権(5)ー幸福追求権、平等権 14 憲法改正をめぐる問題 15 まとめ | | | | |
| 受講要件 | 社会で起きているさまざまな問題に関心があり、知ってみたいと思っていること。 | | | | |
| テキスト | 駒村圭吾編『プレステップ憲法』(弘文堂、2014年) | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて授業で適宜紹介します。 | | | | |
| 予習・復習について | ざっとでもいいので、教科書の該当箇所に通しておくこと、授業が理解しやすくなります。毎回出席をとるようなことはありませんが、授業に出ていなければ単位修得は難しいと思います。毎回レジュメを配布します。ただし、レジュメに頼り切るのではなく、自分で授業を聴き取り、要点をノートに書き留めることが大切です。自分なりのノートの作り方を工夫しましょう。授業を聴いて、記憶が新鮮なうちに、レジュメ・ノートを見直して、わからない部分をクリアにしておくなど、こまめに復習をしておくのが効果的です。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 期末試験によります。その他、授業中に提出してもらう小レポート、コメントペーパー等も評価の対象とすることがあります。なお、不可をもらっても、再試験などはありません。 | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後。その他、電子メールであれば、いつでも対応します。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 高校の「現代社会」または「政治経済」の教科書の関連部分を読み直して理解したうえで履修することを薦めます。また、憲法など法律学を学ぶにあたっては、社会に目を向け、興味を持つことが、大前提です。1日1回は新聞・ネットのニュースを見る習慣をつけましょう。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-------------|----------|
| 授業科目名 | 法と社会 (Law and Society) | | | | |
| 担当教員名 | 橋本 誠一 (HASHIMOTO Seiichi) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文 A 棟 609 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 学部共通 2 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 ー |
| 対象学年 | 2 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火 3・4 |
| キーワード | 法、権利、法的思考 | | | | |
| 授業の目標 | ①【知識】法に関する基本的な概念、原則の意味を理解しています。 ②【思考力】法的概念等を用いて論理的に思考することができます。 ③【文章力】思考した内容を論理的に文章で表現することができます。 | | | | |
| 学習内容 | ①【予習】当該週のテーマに関するテキスト（毎週 A4 版で 4 頁程度）を読んでおいて下さい。 ②【講義】（①を前提に）テキストの内容をより深く講義します。 ③【復習】毎週、授業時に提示された課題について、自分の所見をまとめ、学務情報システムに提出します。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 はじめにー判決文を書いてみよう 2 法とは何か 3 法源ー法の存在形式 4 法・道徳・正義 5 法の解釈 6 法の歴史ーローマ法を中心に 7 法システム(1) 8 法システム(2) 9 裁判制度 10 立憲主義 11 人権 12 民法ー財産法を中心に 13 刑法ー犯罪と刑罰 14 訴訟法 15 労働法ー学生アルバイトのための法知識 | | | | |
| 受講要件 | とくになし | | | | |
| テキスト | 学務情報システムからダウンロードして下さい。 | | | | |
| 参考書 | 毎週、講義の際に紹介します。 | | | | |
| 予習・復習について | 「学習内容」欄に記載した通りです。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 以下の成績をもって評価します。 ①課題の提出（50%）、②マーク・シート式テストの成績（50%） | | | | |
| オフィスアワー | 月曜日 8:40～10:10 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 現代の社会生活を送るうえでもっとも必要な、かつ、もっとも基本的な法的思考を身に付けることを目標に半年間勉強していきましょう。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------|--------|
| 授業科目名 | 現代の社会 (Contemporary Japanese Society) | | | | |
| 担当教員名 | 鈴木 宏尚 (SUZUKI Hironao) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文 A 棟 611 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 学部共通 3 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 |
| 対象学年 | 2 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火 3・4 |
| キーワード | 現代政治、民主主義、政治の仕組み、政治と経済、日本と国際社会 | | | | |
| 授業の目標 | 現代日本の政治、経済、外交の課題を歴史と理論の面から理解し、政治や外交に対する自分なりの見方を身につけることを目標とする。 | | | | |
| 学習内容 | ①民主主義と政治、②政治と経済、③日本の安全保障、④戦後日本とアジア諸国の関係の四つを柱としつつ、現代の日本が抱える政治・外交的課題を歴史的・理論的な視点を踏まえて検討する。 | | | | |
| 授業計画 | <p>1 ガイダンス ＜民主主義と政治＞</p> <p>2 執政制度：議院内閣制と大統領制 議院内閣制と大統領制を比較しつつそれぞれの特色を理解する。</p> <p>3 政党と政党政治 政党とは何か。政党は政治においてどのような機能を持つのか。</p> <p>4 選挙制度 選挙制度の分類。選挙制度と政党政治との関連。</p> <p>5 官僚 官僚とは何か。官僚主導政治とその弊害。</p> <p>6 利益集団とマスメディア 利益集団とは何か。利益集団やマスメディアは政治においてどのような機能を持つのか。</p> <p>＜政治と経済＞</p> <p>7 「大きな政府」と「小さな政府」</p> <p>8 戦後日本における「大きな政府」の成立</p> <p>9 新自由主義的改革 政府は経済にどの程度介入すべきか。「大きな政府」と「小さな政府」という視角から日本政治を見る。</p> <p>＜日本の安全保障＞</p> <p>10 安保と 9 条（1）何が、なぜ問題なのか</p> <p>11 安保と 9 条（2）その起源</p> <p>12 安保と 9 条（3）国内政治との関連・持続と変化 日米安保と憲法 9 条の矛盾をはらみつつも相互補完的な関係の歴史的展開と現在の課題を検討する。憲法改正や集団的自衛権の問題にも触れる。</p> <p>＜戦後日本とアジア＞</p> <p>13 日中関係の展開</p> <p>14 日韓関係の展開 歴史的展開をたどりつつ現在の日中関係、日韓関係を考える。</p> <p>15 総括</p> <p>(以上は予定。変更もあり得る。)</p> | | | | |
| 受講要件 | 特になし。 | | | | |
| テキスト | 特に指定せず、毎回プリントを配布する。 | | | | |
| 参考書 | 講義の中で紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | 高校の政治経済や日本史の教科書の該当部分に目を通しておくと理解がしやすいと思われる。また、日々のニュースにも目を配ること。講義での疑問点は積極的に質問してほしい。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 平常点（毎回提出してもらうコメントペーパー）20%、小テスト（学務情報システム利用）20%、期末試験（60%）で評価する。期末試験は論述形式の予定。 | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日 13:00-14:00 人文 A 棟 611 研究室 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 私語は厳禁。意欲的な受講を期待する。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------------|--------|
| 授業科目名 | 化学の世界 (Introduction to Chemistry) | | | | |
| 担当教員名 | 小林 健二 (KOBAYASHI Kenji) | | 所属等 | 学術院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 小林研究室 (総合研究棟 514) | |
| 分担教員名 | 守谷 誠 | | | | |
| クラス | 学部共通 3 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 |
| 対象学年 | 2 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火 3・4 |
| キーワード | 元素、金属とその利用、周期表、電子配置、無機化学、電気化学、環境化学、有機化学、高分子化学 | | | | |
| 授業の目標 | 日常の身近な事象を題材として、それを切り口とした化学の話題を提供する。無機化学、電気化学、環境化学、有機化学、高分子化学に関する化学の基本コンセプトを学ぶ。 | | | | |
| 学習内容 | 無機化学、電気化学、環境化学、有機化学、高分子化学に関する化学の基本コンセプトと関連する化学の最新情報 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 ガイダンス 2 触媒と反応 3 エネルギーと化学 4 セッケンと洗剤 5 香りの分子 6 味と自然界の右左 7 ゴムとナイロン 8 プラスチックと生活 9 銅と文明 10 鉄と生活 11 貴金属の利用 12 ケイ素とアルミニウム 13 アルカリ土類金属と人間 14 アルカリ金属と化学工業 15 電気と化学 | | | | |
| 受講要件 | 高校で化学基礎を履修していることを前提に授業を行う。 | | | | |
| テキスト | 芝 哲夫 著 「化学物語 25 講 生きるために大切な化学の知識」 化学同人 本体 1800 円 ISBN 9784759807769 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 予習・復習について | 講義の前にテキストを読んできて欲しい | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 出席・受講態度とレポートにより評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 担当教員に個別に確認してください | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 私たちの身の回りの世界を化学の目で考えてみよう | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-------------|-------------|
| 授業科目名 | 歴史と文化 (History and Culture) | | | | |
| 担当教員名 | 藤井 真生 (FUJII Masao) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 学部共通 2 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 — |
| 対象学年 | 1 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 1・2 |
| キーワード | 中世ヨーロッパ、信仰、支配、労働、学問 | | | | |
| 授業の目標 | 異なる地域、異なる時代の歴史について学ぶことにより、現在の日本や日本の歴史について比較・考察するための知識や理解力を養うことを目的とする。 | | | | |
| 学習内容 | 中世ヨーロッパの歴史について、政治史・事件史的にはなく、当時の人々の暮らしぶりに着目して学ぶ。視覚的な資料を用いて想像力を豊かにし、現在の日本との生活との違いを考える。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 イン트로ダクション——中世ヨーロッパ—— 2 中世ヨーロッパの国家と民族 3 中世の信仰①キリスト教信仰と聖人 4 中世の信仰②修道士の暮らし 5 中世の信仰③中世の教会美術 6 中世の支配①中世の国家と身分 7 中世の支配②騎士の暮らし 8 中世の支配③紛争と裁判 9 中世の労働①農民の暮らし 10 中世の労働②職人の暮らし 11 中世の労働③商人の暮らし 12 中世の学問①文字の伝承 13 中世の学問②大学の成立 14 中世の学問③学生の暮らし 15 まとめ——中世ヨーロッパの特徴とは？—— | | | | |
| 受講要件 | とくになし。 | | | | |
| テキスト | 講義前後にスライド資料を学務情報システムで配信します。 | | | | |
| 参考書 | 各回のテーマごとに、講義内で紹介します。 | | | | |
| 予習・復習について | とくに予習は求めませんが、紹介した参考文献に1冊でも目を通してくれることが望ましいです。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 期末レポートに授業貢献度を加味して評価します。 | | | | |
| オフィスアワー | 月曜午前（事前にメールで連絡をください）。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 1. 県立大学単位互換（認めない） 2. 科目等履修生（認める） 難易度 B 日ごろから「ヨーロッパ」や「中世」などの言葉に敏感に反応し、自らヨーロッパ中世についての関心を高めていくように心がけてください。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|--------------|-----------|
| 授業科目名 | 日本国憲法 (The Japanese Constitution) | | | | |
| 担当教員名 | 小谷 順子 (KOTANI Junko) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文 A 棟 6 1 2 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 教 2 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 1 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 1・2 |
| キーワード | 日本国憲法、憲法、国家、立憲主義、基本的人権、権利、自由 | | | | |
| 授業の目標 | 受講生が、日本国憲法に関する基礎知識を習得したうえで、日本国憲法に関する重要論点及び時事問題に関する憲法学上の問題点を理解することを目標とする。 | | | | |
| 学習内容 | 日本国憲法の基本原理について概説した上で、日本国憲法の基本的人権の総論（人権の主体、幸福追求権、平等原則）、基本的人権の各論（精神的自由、社会権）などをめぐる各種論点を解説する。 | | | | |
| 授業計画 | <p>以下の項目（教科書目次に対応）を扱う予定である。なお、随時、時事問題等に対応するため、以下の順番及び項目を変更する可能性がある。授業は講義形式で行なう。</p> <p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 法とはなにか 2 日本国憲法の誕生とその基本原理（誕生、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義） 3 人としての基本的権利（権利の主体） 4 人としての基本的権利（生命・自由・幸福追求権） 5 人としての基本的権利（法の下での平等） 6 人としての基本的権利（法の下での平等） 7 人としての基本的権利（精神的自由（思想・良心の自由）） 8 人としての基本的権利（精神的自由（信教の自由）） 9 人としての基本的権利（精神的自由（集会・結社・表現の自由）） 10 人としての基本的権利（法定手続の保障・人身の自由） 11 人としての基本的権利（社会権（生存権、労働基本権）） 12 人としての基本的権利（社会権（教育を受ける権利）、学問の自由） 13 日本国憲法の誕生とその基本原理（平和主義） 14 民主政治のしくみ（天皇） 15 民主政治のしくみ（立法、行政、司法） | | | | |
| 受講要件 | とくになし | | | | |
| テキスト | 初宿正典・大沢秀介・高橋正俊・常本照樹・高井裕之編著『目で見る憲法（第4版）』（有斐閣、2011年） （注：この授業の初回の授業日までに第5版が刊行される場合は第5版を使用予定です。） | | | | |
| 参考書 | 必要があれば授業中に指示する。 | | | | |
| 予習・復習について | 予習： 予め教科書の該当箇所を読む。 復習： 毎回の講義終了後、各自で授業支援システム（学務情報システム内）上で授業内容を再確認するための小テストを受験する。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 最終成績は、期末試験と平常点（授業支援システムの小テストなど）に基づいて算出する。なお、最終成績に占める期末試験の重みは60-80%、平常点は20-40%程度の予定である。 | | | | |
| オフィスアワー | 毎週の授業終了後。その他、電子メールにて、いつでも質問可。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 高校の「現代社会」又は「政治経済」の教科書の日本国憲法や民主主義に関する説明部分を熟読して理解したうえで履修することが望ましい。また、日常的に新聞やニュースに目を通して、社会・政治の動きを把握しておくこと。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-----------|----------|
| 授業科目名 | 生物と環境 (Life and the Environment) | | | | |
| 担当教員名 | 徳岡 徹 (TOKUOKA Toru) | | 所属等 | 学術院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部A棟 517 | |
| 分担教員名 | 藤原 健智 | | | | |
| クラス | 学部共通 2 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 ー |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 1・2 |
| キーワード | 微生物、環境、多様性、植物、分類、形態 | | | | |
| 授業の目標 | 生物は多様な環境の中で生育し、様々な形態をもって適応している。植物と微生物を題材として、生物の環境適応の仕組みについて概説する。生物の環境への適応戦略の仕組みを知り、人文、社会、教育学への応用につなげる。 | | | | |
| 学習内容 | この講義では、前半部で微生物の環境中における振る舞いを学ぶ。後半部では主として植物の分類や生態について学ぶ。高校で生物 II を選択しなかった学生を基準に授業を進める。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 ガイダンス 2 微生物とは何か？ 3 微生物の多様性 4 微生物の進化 5 微生物と環境 1 6 微生物と環境 2 7 微生物の利用 8 微生物と病気 9 大学構内の植物 10 陸上植物の分類 1 ーシダ植物ー 11 陸上植物の分類 2 ー裸子植物ー 12 陸上植物の分類 3 ー被子植物ー 13 身近な植物群落 1 ー照葉樹林ー 14 身近な植物群落 ー夏緑樹林ー 15 身近な植物群落 ー針葉樹林ー | | | | |
| 受講要件 | 特に無し | | | | |
| テキスト | テキストは特に指定しない 必要な資料は随時配布します | | | | |
| 参考書 | 維管束植物の形態と進化、アーネスト・ギフォード、エイドリアン・フォスター（著）、長谷部 光泰ほか（訳）、1989、文一総合出版、4829921609 植物自然史、戸部 博、1994、朝倉書店、4254170874 | | | | |
| 予習・復習について | 必ず予習・復習をしてください（特に復習を中心として）。疑問点などは遠慮なく質問してください。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 授業中の小レポートと期末試験（記述式）により評価します。 | | | | |
| オフィスアワー | 訪問前にメールで問い合わせてください。 徳岡宛：tokuoka.toru@shizuoka.ac.jp | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|------------|-------------|
| 授業科目名 | 自然と物理 (Nature and Physics) | | | | |
| 担当教員名 | 佐藤 信一 (SATO Shinichi) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 共通教育D棟 203 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 学部共通 1 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 — |
| 対象学年 | 1 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 1・2 |
| キーワード | 運動の法則、熱力学、統計力学、量子力学、相対性理論 | | | | |
| 授業の目標 | 物理学の基礎知識を学ぶことによって、自然の成り立ちと法則を知り、多様な現象に対して物理学的視点から考えて理解を深め、視野を広げる。 | | | | |
| 学習内容 | はじめに、自然現象を理解するための基礎として力学を学び、熱力学と統計力学、電磁気学、量子力学の初歩、相対論入門を解説する。それらの内容を通して、物理学的な思考方法に親しみ、様々な現象、技術の理解に役立つかを知る。 | | | | |
| 授業計画 | <p>講義内容は全 15 回で以下の内容を予定している。 講義内容、講義回数の配分と順序は講義の進行状況を見ながら適宜調整する。</p> <p>1～3 力学： 速度と力、運動の法則、運動量と運動エネルギー</p> <p>4～7 熱力学と統計力学： 等重確率の原理、熱とエントロピー、相転移</p> <p>8～10 電磁気学： 電位と電場、電流、磁場、電場と磁場の相互作用、電磁波</p> <p>11～13 量子力学： 原子の構造、粒子性と波動性、不確定性原理</p> <p>14～15 相対論： 特殊相対論、重力と宇宙、一般相対論</p> | | | | |
| 受講要件 | 特になし。ただし、講義では加減乗除の四則演算、指数関数、対数関数などの初等関数を用いる。 | | | | |
| テキスト | 指定しない。 | | | | |
| 参考書 | 講義中に適宜紹介。 | | | | |
| 予習・復習について | 講義内容を復習し、興味をもったこと、疑問に感じたことを各自で調べてみる。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | レポートによる講義内容の理解度を判定して評価 | | | | |
| オフィスアワー | 随時。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 現象の本質をどのように単純化してモデル化するかを学ぶことによって、物理学の面白さを感じてもらえればと思います。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|---------|----------|
| 授業科目名 | 生物と環境 (Life and the Environment) | | | | |
| 担当教員名 | 天野 豊己 (AMANO Toyoki) | | 所属等 | 学術院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 総 721 | |
| 分担教員名 | 栗井 光一郎 | | | | |
| クラス | 学部共通 3 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 ー |
| 対象学年 | 1 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 1・2 |
| キーワード | 植物、環境応答、形態、細胞、タンパク質、光合成 | | | | |
| 授業の目標 | 生物は多様な環境の中で生育し、様々な生理機能をもって適応している。本講義では特に植物の環境応答の仕組みを中心に概説する。生物の環境への適応戦略の仕組みを知り、問題に対処するための考え方を学ぶ。 | | | | |
| 学習内容 | この講義では、前半部で植物の環境応答とその仕組みを学び、後半部では細胞および分子レベルでの生物学を学ぶ。高校で生物 II を選択しなかった学生を基準に授業を進める。 | | | | |
| 授業計画 | 1. ガイダンス：植物の光応答戦略① 2. 植物の光応答戦略② 3. 植物の光応答戦略③ 4. 栄養の取り込み：共生システムの利用 5. 寒さに耐える仕組み 6. 乾燥に耐える仕組み 7. 植物を使った環境浄化 8. 中間試験 9. 細胞内のタンパク質の動き 10. 紅葉の生理的意味 11. 細胞が死ぬということ 12. 光合成の仕組み 13. 光合成装置の分解 14. 細胞のエネルギー生産 15. 植物と動物の相違点と共通性 16. 試験 担当：栗井（1回～8回）、天野（9回～16回） | | | | |
| 受講要件 | 特になし | | | | |
| テキスト | テキストは特に指定しない 必要な資料は随時配布します | | | | |
| 参考書 | 細胞の分子生物学第5版、ニュートンプレス 植物の生化学・分子生物学、学会出版センター 生化学の夜明け－発酵の謎を追って、丸山工作著、中公新書 UP バイオロジー－光合成－明反応研究の流れ、藤茂宏著、東京大学出版 キャンベル生物学－原書9版一、丸善 | | | | |
| 予習・復習について | 必ず予習・復習をしてください。特に復習を中心として、疑問点などは遠慮なく質問してください。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 中間試験、授業中の小レポートと期末試験により評価します。 | | | | |
| オフィスアワー | 訪問前にメールで問い合わせてください。 栗井宛：dkawai@ipc.shizuoka.ac.jp 天野宛：sbtaman@ipc.shizuoka.ac.jp | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 植物は一度生えるとその場を動けません。植物が根を張った場所で生き残るための生存戦略が、実社会での適応手段の参考になればと思います。(栗井) 研究内容だけでなく歴史と一緒に理解すると面白いと思います。(天野) | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|---------|-----------|
| 授業科目名 | 地球科学Ⅱ（基礎B） (Geosciences II(Fundamentals B)) | | | | |
| 担当教員名 | 森下 祐一 (MORISHITA Yuichi) | | 所属等 | 学術院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理 C401 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理C B | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 木 1・2 |
| キーワード | 地球科学、プレートテクトニクス、同位体、鉱物資源、マグマ熱水系、地球ダイナミクス | | | | |
| 授業の目標 | 様々なトピックスを通じて地球に関心を持ち、地球を理解するよう努める。 | | | | |
| 学習内容 | 社会との接点を持つ課題などの理解し易い例を挙げ、研究手法や最新の研究成果について解説する。この知見を基盤として地球ダイナミクスについて学ぶ。また、地球科学分野における機器分析法にも触れる。 | | | | |
| 授業計画 | 1 授業のねらい：地球科学の見かた 2 プレートテクトニクスに基づく地球内部物質科学（地球ダイナミクス） 3 岩石と鉱物の性質 4 同位体の性質と分析法 5 地球科学と化学の接点での学際的研究 6 地球科学と生物科学の接点での学際的研究 7 地球科学における機器分析法（気体質量分析法、二次イオン質量分析法など） 8 マグマ熱水系とメタルフロー（社会における金属の役割） 9 鉱物資源の形成：様々な熱水性鉱床の成因と鉱石の特徴 10 日本の鉱床、特に浅熱水性鉱床と深熱水性鉱床 11 外国の鉱床、特に白金族鉱床と金鉱床 12 海底鉱物資源概論 13 鉱床成因解明研究と鉱床探査法 14 地熱発電と温泉、地中熱の利用 15 地球表層変動に関するトピックス 16 期末試験 | | | | |
| 受講要件 | 要件ではないが、少しでも地球科学に関心をもつ人を歓迎する。 | | | | |
| テキスト | ニューステージ「新地学図表」、浜島書店（生協で販売） | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて、授業の中で地球科学分野の書籍等を紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | 予習は必須ではないが、復習を行って欲しい。プロジェクターを用いて授業で紹介する内容の要点をノートに書留めて、テキストや随時配布するプリントと合わせて授業でのストーリーを追う復習をして欲しい。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 原則として、2/3以上の出席を前提として、期末の試験等に基づき評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 授業の最後に質問時間を設ける。個別の質問はメールで時間を予約してから研究室に来て欲しい。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 地球科学は太陽系の一員としての地球を対象としており、諸事象が複雑に関連している。知識を蓄積するより、地球科学の見方を身につける視点を持って欲しい。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------|----------|
| 授業科目名 | 物理化学 1 B (Physical Chemistry 1B) | | | | |
| 担当教員名 | 河岸 洋和 (KAWAGISHI Hirokazu) | | 所属等 | グリーン科学技術研究所 | |
| | | | 研究室 | 農学総合棟 672 | |
| 分担教員名 | 大西 利幸 | | | | |
| クラス | 農 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 必 |
| 対象学年 | 1 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 木 1・2 |
| キーワード | 構造、命名法、立体化学、糖、アミノ酸、タンパク質、脂質、核酸 | | | | |
| 授業の目標 | 生命活動に寄与する生体分子（糖、アミノ酸、タンパク質、脂質、核酸）の構造、性質および機能を理解して、生命活動における生体分子の役割を化学的に理解する。 | | | | |
| 学習内容 | 有機化合物の構造、命名法、立体化学、性質、反応性の基礎を理解して、生体分子である糖、アミノ酸、タンパク質、脂質、核酸の構造・化学的・物理的性質および化学反応の基礎を学ぶ。 | | | | |
| 授業計画 | <p>1) 有機化学の必要性について例を挙げながら解説する。 2) 構造式の表し方、有機化合物の命名法について解説する。 3) 有機化合物の立体化学について解説する。 4) 糖、アミノ酸、タンパク質、脂質、核酸の構造・化学的・物理的性質について解説する。</p> <p>回 内容</p> <p>1 有機化合物の構造式、分類、命名 1 (担当 河岸 洋和) 2 有機化合物の構造式、分類、命名 2 (担当 河岸 洋和) 3 シス-トランス異性体と立体配座 (担当 河岸 洋和) 4 キラル炭素と光学異性 (担当 河岸 洋和) 5 糖の構造と性質 1 (担当 河岸 洋和) 6 糖の構造と性質 2 (担当 河岸 洋和) 7 糖の機能と代謝 (担当 河岸 洋和) 8 アミノ酸の構造と性質 (担当 大西 利幸) 9 アミノ酸の機能と代謝 (担当 大西 利幸) 10 タンパク質の構造と性質 (担当 大西 利幸) 11 タンパク質の機能と代謝 (担当 大西 利幸) 12 脂質の構造と性質 (担当 大西 利幸) 13 脂質の機能と代謝 (担当 大西 利幸) 14 核酸の構造と性質 (担当 大西 利幸) 15 核酸の機能と代謝 (担当 大西 利幸)</p> | | | | |
| 受講要件 | 高等学校で「化学」を未履修の者は、高等学校の「化学」の教科書を読んで学び、教科書の内容を理解しておくこと。 | | | | |
| テキスト | 「ビギナーズ有機化学 (第 2 版)」 川端 潤著, 化学同人, 2013, ISBN 9784759815399 「ホートン生化学 (第 5 版)」 鈴木紘一 監訳, 東京化学同人, 2013, ISBN 9784807908349 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 予習・復習について | 授業後と授業前に教科書とノートを読み、理解を深めること。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | レポート、小テスト、試験及び授業へ参加度を総合し、秀 (90 点以上)、優 (80 点以上 90 点未満)、良 (70 点以上 80 点未満)、可 (60 点以上 70 点未満)、不可 (59 点未満) により評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | オフィスアワー：随時 (事前に電話や電子メール等で問い合わせること) | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 生命活動を司る生体分子の化学的・物理的性質を理解することは、生命活動を理解することの第一歩です。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------|--------|
| 授業科目名 | 数学Ⅲ（微分積分B） (Mathematics III(Infinitesimal Calculus B)) | | | | |
| 担当教員名 | 久村 裕憲 (KUMURA Hironori) | | 所属等 | 学術院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部 C 棟 603 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理PCBG2 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 木3・4 |
| キーワード | 偏微分、重積分、極値、陰関数 | | | | |
| 授業の目標 | 高等学校の数学Ⅰ,ⅡBまで習得している学生(クラス3)と、高等学校の数学Ⅲ,Cまで習得している学生(クラス1、2)に分けて、3クラスで講義を行います。 「数学Ⅰ(微分積分A)」に引き続き、応用面で重要な多変数の関数の微分および積分を学び、計算とその応用について身につけることを目標とします。 | | | | |
| 学習内容 | 多変数の関数の偏微分、重積分を学びますが、より応用の面を考えた数学を学びます。応用として多変数関数の極値問題と平面、空間図形の面積と体積を求めます。ノートと筆記用具を用意しておいて進めることが数学を学ぶための手段です。またレポートや演習で講義の内容を確かめます。 | | | | |
| 授業計画 | <p>数学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは、各々3クラスに分けて講義をします。前期の数学Ⅱの第一回講義に試験を行い、クラスを決定します。試験を必ず受けて下さい。再履修の受講生は前年度までのクラス分けに従って受講してください。3クラスの担当教員は、</p> <p>クラス1： 数学Ⅰ 待田教員 -数学Ⅱ 待田教員 -数学Ⅲ 若井教員 クラス2： 数学Ⅰ 保坂教員 -数学Ⅱ 木村教員 -数学Ⅲ 久村教員 クラス3： 数学Ⅰ 板津教員 -数学Ⅱ 保坂教員 -数学Ⅲ 松本敏教員</p> <ol style="list-style-type: none"> 2変数の関数の微分 2変数関数の極限と連続、偏導関数、合成関数の偏微分、高階偏導関数 2変数の関数の微分の応用 極値、陰関数、条件付極値 2変数の関数の積分 重積分、累次積分法、ヤコビ行列式、重積分の変数変換、広義の重積分 2変数の関数の積分の応用 体積、曲面積 | | | | |
| 受講要件 | | | | | |
| テキスト | 水田義弘 著「入門微分積分」(サイエンス社), ISBN 4-7819-0822-5, ISBN 978-4-7819-0822-9 | | | | |
| 参考書 | 越 昭三 監修,高橋泰嗣,加藤幹雄 著「微分積分概論」サイエンス社, ISBN-10: 478190873X, ISBN-13: 978-4781908731 | | | | |
| 予習・復習について | 授業のノートおよびテキストで予習および復習をしてください。数学の問題に取り組むことが重要です。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 定期試験を主に、受講態度・レポートを加えて評価します。 評価は試験では論述的な解答が求められます。 | | | | |
| オフィスアワー | 講義の際に、各教員より提示されます。 また、授業の質問については附属図書館「チューターズフロント」も積極的にご活用ください。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 復習は必要です。テキストや参考書の演習問題を解くことで理解が身に付きます。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-----------|-----------|
| 授業科目名 | 生物学Ⅱ（基礎B） （Biology II） | | | | |
| 担当教員名 | 丑丸 敬史 （USHIMARU Takashi） | | 所属等 | 学術院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 総合研究棟 702 | |
| 分担教員名 | 栗井 光一郎 | | | | |
| クラス | 理MP | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金 1・2 |
| キーワード | ヒトゲノム、遺伝子治療、性淘汰、癌とタバコ、iPS細胞とクローン、遺伝子と寿命、脂質、機能性食品 | | | | |
| 授業の目標 | ニュースでとりあげられる生命科学の進展に関して十分な理解が得られるようにする。 | | | | |
| 学習内容 | 基本的な生物のしくみを理解した上で、生物学の進展とそれにより影響を受ける社会の問題を理解する。 | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに（生命科学は面白い） 2. 遺伝子、染色体、ゲノムとは 3. ヒトのこんな行動まで遺伝子で決定されている 4. 男と女（遺伝子が違えば行動も違う） 5. ヒトゲノムが決定されると社会は、個人はどう影響を受けるか 6. クローンと臓器移植 7. 癌とタバコ 8. ヒトはなぜ老化して死ぬのか？現代科学で寿命をのばせるか 9. コエンザイム Q10：呼吸の仕組み 10. セラミド：保湿剤？細胞死誘導？ 11. DHA, EPA：頭がよくなる脂肪酸 12. コンドロイチン：軟骨に多い多糖類 13. こんにやくゼリー：本当にカロリーゼロ？ 14. バイオ燃料：エネルギー問題の切り札となるか 15. 遺伝子導入作物：目的と方法、その実際 | | | | |
| 受講要件 | 生物学Ⅰを受講していることが望ましい。 | | | | |
| テキスト | 丑丸：『科学でわかる 男と女の心と脳』麻生一枝著、SoftBank Creative 栗井：特に定めない。 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 予習・復習について | 予習・復習としてテキストおよびプリントをよく読んでおく。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 毎回行う小テスト、中間テストおよび期末テスト。 | | | | |
| オフィスアワー | 丑丸：特に定めないが、午後が比較的時間がとりやすいと思います。来る前に連絡をいただければ助かります。 栗井：月曜日 7・8時限を予定。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 質問を活発にして欲しい。 | | | | |

| | | | | | |
|------------|--|-----|-----|-----------------|----------|
| 授業科目名 | 生物学概論B (Biology B) | | | | |
| 担当教員名 | 鳥山 優 (TORIYAMA Masaru) | | 所属等 | 大学院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 共通教育 C 棟 509 号室 | |
| 分担教員名 | 鈴木 克己 | | | | |
| クラス | 農 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 必 |
| 対象学年 | 1 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金 1・2 |
| キーワード | 組織、器官、ホルモン、生殖、受精、発生、神経、環境、進化、生物多様性 | | | | |
| 授業の目標 | 多細胞生物である植物および動物について、個体のなりたちと生命維持のしくみを、細胞間の相互作用の観点から理解するとともに、種を維持する目的で行われる生殖について、その基本的なしくみを理解する。さらに、個体間の相互作用によって維持される生態系について理解し、生物多様性が発達するメカニズムとしての進化について理解する。 | | | | |
| 学習内容 | 6 回の講義で植物の構造と機能に関連して、体の成り立ち、刺激に対する応答について、植物ホルモンの働きの理解を中心に学習する。続く 6 回で動物の構造と機能に関連して、体の成り立ち、恒常性の維持や刺激に対する応答についてと、動物の生殖について学習する。最後の 3 回で生態系と生物多様性・進化について学習する。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 植物の構造と機能 植物の体のつくり、表皮系、維管束系、基本組織系 2 光合成 葉緑体と光合成、光化学反応、炭酸固定、光呼吸、二酸化炭素濃縮機構 3 植物体内の水の移動 根から葉までの水の移動のしくみ、根の構造と水の吸収、根圧の発生と葉からの蒸散 4 植物の配偶子形成と受精 重複受精、不和合性、単為結果、単為生殖 5 植物の成長と植物ホルモン 休眠、発芽、成長、老化、オーキシン、ジベレリン、エチレン、サイトカイニン、アブシシン酸、フロリゲン 6 植物の環境応答 環境要因と花芽分化、幼若性と花芽形成機構、花芽形成に及ぼす光の波長 7 動物の組織と器官 上皮組織、結合組織、筋組織、神経組織の形態とはたらき 8 神経による刺激の伝達 静止電位と活動電位の発生、伝導と伝達のしくみ 9 受容器と効果器の働き 目、耳の構造と働き、骨格筋の構造と収縮のしくみ 10 内分泌系と自律神経系 種々のホルモンの名称と働き、フィードバック作用、自律神経系とホルモンによる血糖値の維持 11 無性生殖・有性生殖と減数分裂 有性生殖の意義、減数分裂のしくみ、配偶子形成 12 動物の受精と初期発生 ウニ、カエル、ヒトの発生 13 生物の環境と生態系 植物群落の遷移と極相、水平分布と垂直分布 14 生態系の構成 物質循環、エネルギーの流れ、生物種間の相互作用 15 生命のなりたちと多様性 生物界の変遷、生物進化のメカニズム | | | | |
| 受講要件 | なし | | | | |
| テキスト | ①ライフサイエンスのための生物学 (培風館) ②ダイナミックワイド図説生物・総合版 石川統・辻英夫・水野丈夫監修 東京書籍 | | | | |
| 参考書 | 必要な場合は授業中に適宜紹介する | | | | |
| 予習・復習について | 予習：授業は①のテキストにしたがって進むので、次回の授業で取り上げる部分をあらかじめ読んでおくこと 復習：教科書の章末にある問題を指定するので、それに各自取り組むこと。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 期末試験のみで評価する。成績評価については、「秀」「優」「良」「可」「不可」の 5 段階とし、それぞれの評価の点数範囲は静岡大学単位認定等に関する規程に基づく。 | | | | |

| | |
|--------------|---|
| オフィスアワー | 個別の教員のオフィスアワーに関しては授業の際に紹介する。鳥山は月曜日授業のある日の午後。 |
| 担当教員からのメッセージ | <p>農学部で学習するさまざまな専門科目の基礎となる基幹科目であることを念頭において学習してほしい。</p> <p>予習にしっかり取り組むこと。</p> <p>高校において生物未履修者は高校の教科書や参考書等を使って事前の理解を得ておくこと。</p> <p>大学受験のための問題集を活用するとよい。</p> |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|--------------|-----------|
| 授業科目名 | 金融論Ⅱ (Theory of Money and BankingⅡ) | | | | |
| 担当教員名 | 鳥畑 與一 (TORIHATA Yoichi) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 共通 L 棟 4 1 2 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 2 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月 1・2 |
| キーワード | 貨幣 (通貨)、金融制度、金融業務、金融理論、金融政策 | | | | |
| 授業の目標 | 金融論の取り扱う諸テーマに関わる総合的理解 | | | | |
| 学習内容 | 金融論は資金の融通にまつわる諸事象を分析する学問分野ですが、一般的にいくつかのテーマによって構成されています。たとえば、「金融理論」、「金融制度 (システム) 論」、「金融業務論」、「金融政策論」、「金融史」などです。本講義では、主に「金融制度」と「金融業務」に重点を置いて学習します。なお、「金融論Ⅰ」は銀行に関することを主に取り扱い、「金融論Ⅱ」は証券市場に関することを主に扱います。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 ガイダンス 2 直接金融と間接金融 3 証券市場と証券の発行 4 証券流通市場と証券取引所 5 証券会社と証券業務 6 証券市場に関する諸規制 7 機関投資家と企業への関わり 8 投資信託とその仕組み 9 保険会社と保険業務 10 代替投資とは何かーヘッジファンドと PE ファンドー 11 デリバティブの基礎 12 証券化とは何か 13 影の銀行システム 14 経済の金融化 15 講義内容の総復習 (予備) | | | | |
| 受講要件 | | | | | |
| テキスト | 原則として毎回レジュメを配布します。テキストを使用する場合は初回ガイダンス時に指定します。 | | | | |
| 参考書 | 随時指定していきます。さしあたり担当教員の記した以下の文献をあげます。 『ファイナンシャルイノベーション』(桜井書店、2016 年) 『図説 経済の論点』(旬報社、2014 年) | | | | |
| 予習・復習について | 特に復習を十分に行ってください。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 期末試験に基づきます。中間課題 (小レポートまたは小テスト) を課した場合は加点対象とします。 | | | | |
| オフィスアワー | 未定 (初回授業時にお知らせします) | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 質問には講義終了後にまとめてお答えするので、講義中の質問はご遠慮ください。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | ヨーロッパ文明史Ⅱ | | | | |
| 担当教員名 | 藤井 真生 (FUJII Masao) | | 所属等 | 大学院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月3・4 |
| キーワード | ヨーロッパ中世、植民運動、民族意識、歴史認識 | | | | |
| 授業の目標 | 多様な人間・社会について、歴史・民族・文化・制度といったさまざまな条件を考慮し、深く理解することができ、同時に共生への志向を尊重する態度を身につける。 | | | | |
| 学習内容 | 中世の東中欧社会に大きな変化をもたらしたドイツ人植民運動の原因・展開・影響を知る。また、この歴史的現象が後世にどのように解釈されたのかを学び、過去を学ぶことが時代によってどのような意味を持つのかを考察する。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 イン트로ダクション：東中欧世界とは 2 『ハーメルンの笛吹き男』 3 中世ヨーロッパの農業と農民 4 ドイツ人植民運動の波 5 東中央における都市の成立 6 中世都市の生活 7 植民運動における景観の変化 8 中世ナショナリズムの研究 9 中世チェコのドイツ人観 10 フス派運動の展開 11 ハプスブルク家とチェコ 12 フス派運動の歴史的意義 13 人文主義時代の歴史研究 14 ナショナリズムの時代 15 戦後から現在へ | | | | |
| 受講要件 | とくになし。 | | | | |
| テキスト | 授業前後に、スライド資料を学務情報システムで配信する。 | | | | |
| 参考書 | 適宜紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | できれば講義と並行して参考書に目を通しておいてください。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 期末レポートおよび授業への貢献度（発言回数など）により評価します。 | | | | |
| オフィスアワー | 月曜日午前 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 難易度C この講義をきっかけにして歴史を学ぶ意義、歴史研究のもつ影響力について思いをめぐらせてみてください。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|--------------|-----------|
| 授業科目名 | 中国言語文化各論 V | | | | |
| 担当教員名 | 埋田 重夫 (UMEDA Shigeo) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文 A 棟 5 1 8 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 2 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月 3・4 |
| キーワード | 抒情、韻律、詩人、詩材、詩型、詩語、詩想、詩境 | | | | |
| 授業の目標 | 1. 唐詩の世界に親しむ。 2. 中国語の読解力を養成する。 3. 中国の古典文化に対する基礎知識を獲得する。 | | | | |
| 学習内容 | 唐詩は中国文学の珠玉・精華であると言われる。そこで詠われる世界は豊穡であり美麗である。詩経に始まる二千数百年の中国文学史の流れのなかで、七世紀の初頭から十世紀の初頭まで、およそ三百年のこの時間が、唐詩と唐代詩人の世界である。中国文学の中心が韻文にあること、そして韻文の中心が唐代にあることは、今日の学会における定説になっている。この授業では『唐詩一百首』（中華書店）に拠りながら、豊かな唐詩の世界を丁寧に読み解いていきたい。 | | | | |
| 授業計画 | 中国語で学ぶ唐詩（継続科目） 漢代から六朝末期までに徐々に蓄積されてきた中国韻文史上の様々な可能性は、唐代に到って急速に開発されたと言える。現在までの唐詩研究の成果に拠れば、現存する作品は 49469 首、作者は 2955 人に及んでいる。既に失われて今日に伝わらないものを想定すれば、おそらくこの十倍以上の作品と詩人とが、唐代には存在したと考えられる。今年度の授業では、先ず 41 人の詩人と 100 首の作品に絞り込んで、それらを集中的に読み込んでいきたいと思う。授業形式は基本的に演習であるが、教員による講義説明も随時入れていく予定である。 | | | | |
| 受講要件 | 漢語文献を扱うので、中国語履修者が前提となる。 | | | | |
| テキスト | 松原朗『漢詩の流儀 その真髄を味わう』（大修館書店）＊大学生協書籍部で必ず購入 中国語プリント教材（配布する資料は多数に及ぶので各自が整理して保存することが必要） | | | | |
| 参考書 | 小川環樹『新字源（改訂版）』（角川書店） ＊古典中国語の辞書として推薦する。 | | | | |
| 予習・復習について | 輪読形式の演習科目のため、毎回の授業にあたっては、受講者全員の予習が必須不可欠となる。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 1. 出席状況（重要・担当率） 2. 試験（重要・授業最終時に実施予定） | | | | |
| オフィスアワー | 月曜日の昼休み（12時から12時45分） ＊事前に連絡が必要 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 県立大学との単位互換（認める） 科目等履修生の受講（認める） 難易度（B） | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|--------------|--------|
| 授業科目名 | フランス文学概論Ⅱ (Introduction to French Literature II) | | | | |
| 担当教員名 | 安永 愛 (YASUNAGA Ai) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文 A 棟 5 2 5 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 |
| 対象学年 | 2 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月 3・4 |
| キーワード | フランス文学の特質、フランス文学の歴史、フランスの文化 | | | | |
| 授業の目標 | 19 世紀から現代にいたるフランス文学の歴史を振り返りつつ、フランス文学の持つ魅力に触れる。 | | | | |
| 学習内容 | 19 世紀から現代にいたるフランス文学の流れを辿る。基本的に講義形式であるが、フランス語作品の講読や、関連の映像鑑賞も取り入れる。本講義は「フランス文学概論Ⅰ」の続きである。 | | | | |
| 授業計画 | <ul style="list-style-type: none"> ・近代小説の誕生—スタンダール、バルザック、フローベール ・近代詩の潮流—ボードレール、ヴェルレーヌ、ランボー、マラルメ ・二十世紀前半の新たな潮流—プルースト、ヴァレリー ・実存主義の文学—カミュ、サルトル、ボーヴォワール ・新たなフランス文学の流れ—デュラス、ビュトール、ル・クレジオ、モディアノ ・亡命作家、クレオール作家たち—クンデラ、シャモワゾーなど | | | | |
| 受講要件 | フランス語の基礎を習得していること。 | | | | |
| テキスト | プリントを配布する。 | | | | |
| 参考書 | 適宜紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | 特に課さないが、講義を聴いて興味を持った書物を読んでみて欲しい。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 出席状況 20%、期末レポート 80%。ただし、欠席回数が理由なく 3 回を超える場合は、不可とします。 | | | | |
| オフィスアワー | 月曜 7・8 限。事前の appointments により、他の時間も対応します。(アドレス yasunaga.ai@shizuoka.ac.jp) | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | この講義が、作家や作品に出会う機縁となることを願っています。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------|----------|
| 授業科目名 | 刑法総論Ⅱ | | | | |
| 担当教員名 | 津田 雅也 (TSUDA Masaya) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 必 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月3・4 |
| キーワード | 刑法、刑法総論、犯罪、刑罰 | | | | |
| 授業の目標 | 刑法総論の初学者である受講生が、①「刑法総論Ⅰ」で学んだ知識を用いて、刑法総論の重要論点に関する具体的な事例に対して法的な分析を加える能力を修得すること、および、②刑法総論のより発展的な論点についての知識を修得すること。 | | | | |
| 学習内容 | 刑法総論Ⅱにおいては、刑法総論Ⅰで学んだ基礎知識が、具体的な事案（とりわけ、裁判例）においてどのように適用されているかを解説します。また、刑法総論Ⅰでは扱えなかった発展的な論点についても、解説します。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 ガイダンス（シラバス記載事項の説明、刑法総論Ⅰの復習） 2 構成要件該当性－実行の着手と既遂時期 3 構成要件該当性－因果関係 4 構成要件該当性－不作為犯 5 構成要件該当性－過失犯 6 違法性－正当防衛と第三者の法益侵害 7 違法性－過剰防衛 8 責任－責任能力、違法性の意識の可能性 9 未遂犯－早すぎた結果の発生 10 正犯と共犯－被害者の行為を利用した法益侵害 11 正犯と共犯－共同正犯 12 正犯と共犯－共犯の因果性と共犯関係の解消 13 正犯と共犯－承継的共犯 14 正犯と共犯－共犯の諸問題 15 罪数論 | | | | |
| 受講要件 | 「刑法総論Ⅰ」を受講済みであることが望ましい。 | | | | |
| テキスト | 特に指定しませんが、判例集が手元にあると便利です。講義は、配布するレジュメに即して行います。 | | | | |
| 参考書 | 成瀬幸典＝安田拓人,判例プラクティス刑法Ⅰ・総論,信山社,2010年,ISBN9784797226317 十河太郎ほか,刑法判例50!,有斐閣,2016年,ISBN9784641139213 山口厚,新判例から見た刑法(第3版),有斐閣,2015年,ISBN9784641439114 山口厚,刑法(第3版),有斐閣,2015年,ISBN9784641139084 裁判所職員総合研修所(監修),刑法総論講義案(四訂版),司法協会,2016年,9784906929511 | | | | |
| 予習・復習について | 復習に重点を置くことを勧めます。復習を通じて生じた疑問点は、担当教員に質問をして、なるべく早めに解消するようにしてください。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 成績評価の方法は、筆記試験(60%)、レポート(20%)、小テスト(20%)とします(それぞれの実施方法や内容は、基本的に「刑法総論Ⅰ」と同様ですが、詳細は授業で説明します)。成績評価の基準は、上記「授業の目標」で掲げた2点(事例に対する分析能力・発展的論点についての修得状況)の到達度とします。 | | | | |
| オフィスアワー | 人文社会学部法学科のウェブサイト(教員紹介)を参照。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 刑法総論Ⅰと同様に、受講生の皆さんに積極的な学習への取り組みを期待します。特に、上記「予習・復習について」で記したように、復習に重点を置き、疑問点を積極的に解消してください。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | 社会経済論Ⅱ | | | | |
| 担当教員名 | 遠山 弘徳 (TOHYAMA Hironori) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 共通L棟325 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月3・4 |
| キーワード | レギュラシオン、ケインズ、カレツキ、資本主義の多様性 | | | | |
| 授業の目標 | ケインズ型需要モデル、労働組合と企業交渉にもとづくサプライモデルおよび金融ルールにもとづく金融政策モデル理解することを目的とします。 | | | | |
| 学習内容 | ケインズ型需要モデル、労働組合と企業交渉にもとづくサプライモデルおよび金融ルールにもとづく金融政策モデルを解説する。また、3つのモデルにおける制度的枠組みとの関連もあわせて解説する。 | | | | |
| 授業計画 | <p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業ガイダンス：テキスト、授業方法、授業形式および評価方法等について説明 2 所得と雇用の決定(1)：テキスト第9章 3 所得と雇用の決定(2)：テキスト第9章 4 賃金主導型成長と利潤主導型成長：テキスト第9章 5 インフレーションとデフレーション：テキスト第10章 6 貨幣・金融制度(1)：テキスト第5章 7 貨幣・金融制度(2)：テキスト第5章 8 貨幣・金融制度(3)：テキスト第5章 9 中央銀行の独立性：テキスト第5章 10 需要サイド、サプライサイドおよび金融政策の統一(1) 11 需要サイド、サプライサイドおよび金融政策の統一(2) 12 需要サイド、サプライサイドおよび金融政策の統一(3) 13 資本主義の構造変化(1)：テキスト第13章 14 資本主義の構造変化(2)：テキスト第13章 15 資本主義の多様性 | | | | |
| 受講要件 | マクロ経済学の基礎知識を有していることが望ましい。 | | | | |
| テキスト | 宇仁宏幸他『(第二版) 入門社会経済学：資本主義を理解する』ナカニシヤ出版、3000円＋税 | | | | |
| 参考書 | ホール・ソスキス『資本主義の多様性』ナカニシヤ出版 | | | | |
| 予習・復習について | 教科書の該当箇所にもとづいて予習、とくに復習することが望まれます。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 年度末のペーパーテスト(100%)により、評価します。なお、答案は返却します。 | | | | |
| オフィスアワー | 第1回目の授業のさいにお知らせします。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 授業内容・順序は変更される場合もあります。その場合は、第1回の授業のさいにお知らせします。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | フランス言語文化演習Ⅳ (Seminar in French Language and LiteratureⅣ) | | | | |
| 担当教員名 | 浅野 幸生 (ASANO Yukio) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文 A 棟 408 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月 5・6 |
| キーワード | フランス語、歴史、変化、ラテン語 | | | | |
| 授業の目標 | フランス語のテキストを訳読しながらフランス語の変化について考える | | | | |
| 学習内容 | フランス語の歴史に関するフランス語で書かれたテキストを訳読する | | | | |
| 授業計画 | <ul style="list-style-type: none"> - L'eau - Jardins et parcs - Fruits de mer - La colère | | | | |
| 受講要件 | フランス語を2年以上学んでいること | | | | |
| テキスト | プリントを配布する | | | | |
| 参考書 | 適宜指示 | | | | |
| 予習・復習について | 予習が必要 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 平常点と試験の成績による | | | | |
| オフィスアワー | 月 14 : 20 ~ 15 : 30 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | グローバル化の社会学 | | | | |
| 担当教員名 | 白井 千晶 (SHIRAI Chiaki) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文C401 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月7・8 |
| キーワード | グローバル化、ミクロ-マクロ、日常生活、ライフコース | | | | |
| 授業の目標 | この授業では、グローバル化と私たちの生活や人生がどのように関わっているか、社会学の観点から学びます。 | | | | |
| 学習内容 | (1) 働く、住む、結婚するといった私たちの日常生活や人生、(2) 産む、育てる、看護する、介護する、癒す、家事をするといった身近なケアやリプロダクションが、マクロ社会、特にグローバル化とどのように関連し、変容しているのか、社会学の観点から学習します。トピックスは、家事・育児・介護、福祉、ケア労働、グローバル化、専業主婦、生殖技術、医療、福祉など。これらが、社会、家族、グローバル化とどのように関わっているか学んでいきます。 | | | | |
| 授業計画 | 第1回 オリエンテーション：グローバル化とは何か 第2回 国民国家：エスニシティと伝統の創造 第3回 人と文化の出会いと法制度：国際結婚と国際離婚 第4回 均質化と差異化 第5回 世界システムとジェンダー：専業主婦化と再生産領域の市場化 第6回 マクドナルド化する社会 第7回 近代国家と国籍、在留資格、社会的権利：移民、外国人労働者 第8回 外国にルーツをもつ住民と子ども：ダイバーシティと社会的包摂 第9回 ケア労働のグローバル化とジェンダー 第10回 ヒューマン・トラフィッキング（人身取引） 第11回 外国人のDV被害 第12回 事例検討 第13回 医療ツーリズム：経済戦略と臓器移植 第14回 生殖ツーリズム 第15回 まとめ | | | | |
| 受講要件 | 「社会学概論」または「現代の社会」「社会学の世界」を受講済みであることが望ましい。 | | | | |
| テキスト | なし | | | | |
| 参考書 | 宮島喬ほか 『国際社会学：現代社会へのトランスナショナルな接近』（有斐閣、2015年） | | | | |
| 予習・復習について | 授業後の復習は必ずノートのとまとめをおこなうこと。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 授業への参加状況、レポート、期末試験から評価する。レポートはフィールドワークを予定している（授業中にアナウンスする）。 | | | | |
| オフィスアワー | 月曜日または火曜日の昼休みの予定。メールでアポイントをとること。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 授業マナーを守り、積極的に授業・学習に参加できる学生の履修を求めます。県立大学単位互換(認める)市民開放授業（若干名） 2.科目等履修生(認める) 3.難易度(B) | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|--------------|--------|
| 授業科目名 | エリア・マネジメント論 | | | | |
| 担当教員名 | 太田 隆之 (OTA Takayuki) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 共通教育L棟 328号室 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月7・8 |
| キーワード | 持続可能な発展、持続可能な移行、参加、ガバナンス、学習 | | | | |
| 授業の目標 | 本講義は「持続可能な発展」論や地域政策論、ガバナンス論、経営学の視点から「エリア・マネジメント」の概要を把握するとともに、事例検証を通じて、「持続可能な地域」の実現する「エリア・マネジメント」を検討することを主な内容としている。このことを通じて、「エリア・マネジメント」に関する基礎的知識や視点を獲得し、「持続可能な地域」を実現すると「エリア・マネジメント」のあり方を自身で検討することができるようになることを目的とする。 | | | | |
| 学習内容 | 「持続可能な地域」の実現するための「エリア・マネジメント」を検討するというテーマに基づき、これをめぐる定義の議論と日本における「エリア・マネジメント」事例として全国総合開発計画を中心とする地域開発事例を検討し、「持続可能な発展」と「持続可能な移行」を基礎的理念に据えるEUの取り組みを概観するとともに新しい国内の「エリア・マネジメント」事例を踏まえて、今後の日本の地域における「エリア・マネジメント」のあり方を検討する。 | | | | |
| 授業計画 | 概ね以下の内容で講義を進めていく予定である。詳細は初回講義で説明する。 回 内容 1 ガイダンス 2 「エリア・マネジメント」とは何か①—「エリア」をめぐる議論— 3 「エリア・マネジメント」とは何か②—「マネジメント」をめぐる議論— 4 これまでの「エリア・マネジメント」①—日本における地域開発から— 5 これまでの「エリア・マネジメント」②—三全総の「田園都市国家構想」とその実態— 6 これまでの「エリア・マネジメント」③—「国土形成計画」と「地域の自立的発展」— 7 「エリア・マネジメント」における原理原則①—これまでの地域開発の経験から— 8 「エリア・マネジメント」における原理原則②—「持続可能な発展」と「持続可能な移行」— 9 オルタナティブとしての「エリア・マネジメント」①—「持続可能な発展」EUの地域政策— 10 オルタナティブとしての「エリア・マネジメント」②—EUが直面する課題と今後の地域政策— 11 新しい「エリア・マネジメント」の動き①—「学習地域」と産業集積— 12 新しい「エリア・マネジメント」の動き②—「森は海の恋人」流域管理の取り組み—森林/水源環境税に基づいた広域的な水資源管理— 13 新しい「エリア・マネジメント」の動き③—「森林/水源環境税」に基づいた広域的な水資源管理— 14 今後の「エリア・マネジメント」に向けて①—「広域連携」の可能性と限界— 15 今後の「エリア・マネジメント」に向けて②—「草の根」自治と地域連携— | | | | |
| 受講要件 | 幅広く科目を履修し、また地域をめぐる日々の動向や報道に関心をもってほしい。 | | | | |
| テキスト | レジュメと配布資料を用いて進めていく予定である。詳しくは開講時に説明する。 | | | | |
| 参考書 | 考書・参考資料等 諸富徹(2003),『環境』,岩波書店 淡路剛久他編(2006),『持続可能な発展』,有斐閣 畠山重篤(2006),『森は海の恋人』,文芸春秋 宮本憲一(2007),『環境経済学 新版』,岩波書店 諸富徹(2010),『地域再生の新戦略』,中央公論新社 | | | | |
| 予習・復習について | 可能な限り参考書等を利用し、予習・復習を行うことを望む。講義で紹介する文献や資料で関心を持ったものは実際に手に取って読んでみることを。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 中間レポートと最終試験により行う予定である。詳しくは開講時に説明する。 | | | | |
| オフィスアワー | 開講時に説明する。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 県立大学単位互換(認める) 科目等履修生(認める) 難易度(B) 「エリア・マネジメント」と聞くと新しい言葉のようにも思えるが、これまでも取り組まれてきたことであり、今まさに地域で取り組まれていることでもある。地域で起きていることには常に注目し、日々の報道に注視してほしい。人口減少、少子高齢化が地域でも重要な課題となる中で、今後の「エリア・マネジメント」はどうあるべきか、どうすべきか、自分ならどう考え、どう対応するかを常に考えながら、講義を受講してほしい。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | 文化人類学入門 | | | | |
| 担当教員名 | 大野 旭 (ONO Akira) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文A棟313 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月9・10 |
| キーワード | 文化人類学、文化、社会、フィールドワークとその技法 | | | | |
| 授業の目標 | 文化人類学とは、フィールドワークと異文化理解を通して、人間とその文化、社会のあり方と多様性について考える学問である。文化人類学の方法論と対象の広がりについて学ぶ。 | | | | |
| 学習内容 | 前半では、人類の誕生をビッグ・ヒストリーの視点からふりかえる。そのうえで、人間と自然との関係をフィールドの視点から考える。人間社会の基本単位となってきた家族・親族という集団が築きあげた儀礼とさまざまな文化活動を取りあげる。後半では、より大きな集団として民族と国家との関係を論じた後、現代社会における移民やグローバリゼーションについて学ぶ。また、各回においては、特定の地域文化を調査対象とした場合において、文化人類学の中心的な方法であるフィールドワークをどのように進め、調査の成果をまとめるのかについても講義をおこなう。 | | | | |
| 授業計画 | 第1回 ガイダンス:文化人類学的な見方とは何か? 第2回 第二回 先史考古学の解釈と人類学の知見 第3回 人間と文化のありかた 第4回 フィールドワークと民族誌の意義 第5回 人間にとって言語とはなにか 第6回 遊びとスポーツ 第7回 プリミティブアート・芸術・芸能・人類の遺産 第8回 儀礼とその調査方法 第9回 世界観 第10回 宗教とは何か 第11回 権力と政治人類学 第12回 結婚とは何か 第13回 民族問題と国民国家 第14回 文化と宗教の現代的な意義 第15回 授業全体の総括 | | | | |
| 受講要件 | 文化人類学概論を受講済であることが望ましい | | | | |
| テキスト | パワーポイント資料やレジюмеを使用する | | | | |
| 参考書 | 授業時に紹介する | | | | |
| 予習・復習について | 授業内容に応じて関連文献を紹介するので、できるだけ参考文献を読むこと | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 提出物(40%) + 論述試験(60%)の合計点で評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 月曜 11:45-12:45 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 旧カリキュラムの学生は、「文化人類学入門I」または「人類学I」に読み替える 1. 県立大学単位互換(認めない) 2. 科目等履修生(認めない) 3. 難易度(A) | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | 日本語文化基礎講読VI | | | | |
| 担当教員名 | 袴田 光康 (Hakamada Mitsuyasu) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 323 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月 9・10 |
| キーワード | 変体仮名、崩し字、写本、和歌、物語 | | | | |
| 授業の目標 | 変体仮名を修得し、実際に影印本のテキストを読めるようになること。 | | | | |
| 学習内容 | 日本の古典文学は、『源氏物語』にしても『枕草子』にしても、長い間、連綿と書写を繰り返して今日まで伝えられてきました。それらの写本は、現代のテキストとかなり異なる様相を呈していますが、その最も大きな特徴は変体仮名で書かれているということです。この授業では、初めに漢字を基にした変体仮名の形成を学びます。次に変体仮名修得のアプリを活用した解読の練習を積み、最終的には変体仮名で記された『源氏物語』のテキストを実践的に読んでいきます。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 写本と現代のテキスト 2 万葉仮名の形成 3 一字一音表記と女手 4 変体仮名について 5 変体仮名を学ぶ①「あ」行～「さ」行 6 変体仮名を学ぶ②「た」行～「は」行 7 変体仮名を学ぶ③「ま」行～「わ」行 8 連字と漢字 9 変体仮名を読む①「桐壺」巻（1丁オ） 10 変体仮名を読む②「桐壺」巻（1丁ウ～2丁オ） 11 変体仮名を読む③「桐壺」巻（2丁ウ～3丁オ） 12 変体仮名を読む④「桐壺」巻（3丁ウ～4丁ウ） 13 写本を読み比べる①—青表紙本と河内本— 14 写本を読み比べる②—別本系統— 15 現代のテキストの問題点 | | | | |
| 受講要件 | 対象1年生 | | | | |
| テキスト | 必要なテキストや資料は授業の際にプリントして配布します。 | | | | |
| 参考書 | 中野幸一編『変体仮名の手引』武蔵野書院（¥600円＋税） | | | | |
| 予習・復習について | 学習段階に応じて小テストを実施しますので、予習・復習を怠りなく。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 小テスト 40%、試験 50%、授業への取り組み 10% | | | | |
| オフィスアワー | 金曜日 11:00～12:00（ただし、質問・相談は随時対応するので、事前にメール連絡をください） | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 面倒くさいように思えるかもしれませんが、実際にやってみると、案外楽しいものです。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------|--------|
| 授業科目名 | 比較言語文化基礎論Ⅱ | | | | |
| 担当教員名 | 城岡 啓二 (SHIROKA Keiji) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文A棟525 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月9・10 |
| キーワード | 言語学コース、日本語、近過去からの言語変化、コトバのアンケート、ネット情報の利用、文法、発音とアクセント、連濁、性差、修飾語間の語順 | | | | |
| 授業の目標 | 近過去からの日本語の言語変化や現代日本語の規則性についての具体的な日本語の問題を考えながら、言語学の考え方や用語や方法を学習する。 | | | | |
| 学習内容 | 毎回コトバのアンケートをとる（出欠調査兼用）。日本語の傾向や規則性、言語変化、地域差や性差、外国語との違いなどについて、具体的な事例をちょっとだけ「試食」してみる授業である。問題発見・探索型の授業であり、これにより「言語学」への各自の適性も自覚できるのではないかと期待している。 | | | | |
| 授業計画 | <p>以下の各テーマを扱う予定であるが、順序はこの通りではないかもしれないし、テーマの変更や増減もありうる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①【固有名詞と一般語彙の連濁】連濁や非連濁の規則性と言語変化について ②【連濁と数詞】数詞を使う際の助数詞の連濁について ③【数詞】明治期以降の数詞の言語変化について ④【アクセント】アクセントの共通語化と現代とは異なる文語のアクセント ⑤【アクセント】複合動詞のアクセント規則の変化について ⑥【アクセント】母音無声化によるアクセント移動の解消傾向について ⑦【性差】子供っぽい言い方、日常使う漢語の「お」と「ご」 ⑧【性差】先輩や同級生の呼び方の性差について ⑨【性差】自称詞と性差について ⑩【語順】修飾語が複数ある場合の修飾語間の語順について ⑪【語順】修飾語の語順の言語間の違いを英訳と日本語訳で調べる <p>毎回、アンケートの結果をもとにコトバの問題を具体的に考えていくつもりである（初回は過去の授業時にとったアンケート結果を利用する）。コトバの問題や言語学や言語変化にあまり関心がない学生の場合でも、少なくとも、自分の使っている日本語をちょっとだけ捉えなおすことができるような内容にしたいと考えている。</p> | | | | |
| 受講要件 | 言語変化や言語の規則性に関心を持っていて、文法上の細かい問題を考えることに「拒否反応」がない学生。 | | | | |
| テキスト | 既存の教科書にあるようなまとまった内容を順番にこなしていく授業ではないので、使わない。授業はパワーポイントを利用する。 | | | | |
| 参考書 | 全体についてはなし。個々のテーマの参考文献は、適宜、紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | 毎回の予習・復習が必要というわけではないが、最終的には、授業の中から自分自身の問題を見つけ、調査・考察することが必要。文献に書いてあることをまとめただけでは評価されないので注意すること。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 毎回なんらかのアンケートを行なうが、遅刻や出席の状況はそれでチェックする。期末試験の成績に遅刻や欠席などの普段の受講状況を加味して、最終成績をつける。試験では、授業内容を理解したかどうか確認するような単純な問題も含めるが、評価の中心になるのは、授業で扱った内容を自分自身で発展させ、調査・考察して、その内容を書いた調査報告・考察の方である。 | | | | |
| オフィスアワー | 金曜日の9・10時限 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 適性のあるひとに「言語学」も面白いことが理解してもらえたらと思っています。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | 比較文化各論Ⅲ | | | | |
| 担当教員名 | 大原 志麻 (Shima Ohara) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文 A 棟 522 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 3 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月 9・10 |
| キーワード | ヨーロッパ、スペイン、比較文化、映画、独裁政権、検閲 | | | | |
| 授業の目標 | 映像と文化の連関を異なる時代の映画の分析を通して比較研究する。 | | | | |
| 学習内容 | 映像文化をクロニカルに概観し、映画と社会の相関関係について理解する。 | | | | |
| 授業計画 | <p>同じ国の映画で、同じ題材を扱っていても時代によって表現される場所や強調される部分は異なる。この授業では、スペインを中心に、映画の誕生から、フランコ独裁政権期の映画制作と文化の多様性の「埋葬」、それに抗いフランコ期の検閲をすり抜けて世に出て影響力を持った風刺映画、ポスト・フランコ期の映画を比較し、社会的・時代的背景と映像文化の関係を概観する。トランプ政権誕生に見られるような自国ファーストの潮流は、スペインでも顕著であり、今日フランコ期全般への評価が高まってきている。しかし他方でポスト・フランコ期のスペイン映画の国際化もまた今日のスペイン映像文化と直結している。現在の情勢と絡めながら各時代のスペインを代表する映画を学ぶことで、通底する文化の一側面についての認識を深める。</p> | | | | |
| 受講要件 | 3～4 年生 | | | | |
| テキスト | 授業にて配布する。 | | | | |
| 参考書 | 授業中に適宜提示する。 | | | | |
| 予習・復習について | 同時代の他の国々の映画やそれについての資料を日頃から読み進めておくこと。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 出席状況、授業中のレスポンス、期末試験などを基準として評価します。なお欠席 4 回以上で単位を無効とします。 | | | | |
| オフィスアワー | 月曜日 7・8 限に大原研究室にて。事前にアポイントメントをとることが望ましい。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 今日の情勢へ至る形成過程を理解し、広い視野を持てるようになりましょう。 | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-------------|-----------|---|----|---|-----------|---|------------|---|------------|---|--|---|--|---|--------------------------------------|---|---------------------------------------|---|--|---|-------|----|--------|----|---|----|--|----|--|----|---|----|------|
| 授業科目名 | <p style="text-align: center;">ミクロ経済学Ⅲ (MicroeconomicsⅢ)</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員名 | <p style="text-align: center;">山下 隆之 (YAMASHITA Takayuki)</p> | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 研究室 | 共通L棟312 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 分担教員名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月9・10 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| キーワード | 経済理論、ミクロ経済学、一般均衡理論、市場の失敗、費用逡減産業、外部性、公共財 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業の目標 | 市場では解決が難しい諸問題に焦点を当てながら、市場メカニズムの役割と意義について考察します。併せて、国家公務員試験レベルのミクロ経済学の問題を解ける力を身に付けてもらいたいと思っています。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学習内容 | 2年次の「ミクロ経済学Ⅱ」に引き続いて、ミクロ経済理論を学習します。消費者理論と生産者理論の上級編を学習した後、一般均衡理論を学びます。その後、1960年代以降に重要な経済問題となった市場の失敗に関して学ぶことで、ミクロ経済学の学習を完成させます。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <table border="0"> <tr> <td>回</td> <td>内容</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>消費者行動の数理分析</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>生産者行動の数理分析</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>一般均衡理論 (1) パレート最適</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>一般均衡理論 (2) 純粋交換経済</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>一般均衡理論 (3) 生産経済</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>一般均衡分析 (4) 生産と分配</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>一般均衡分析の応用 厚生経済学、国際貿易論</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>市場の失敗</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>費用逡減産業</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>外部性 (1) 外部経済、外部不経済</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>外部性 (2) 外部性下の最適供給</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>公共財 (1) 非競争性、非排除性</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>公共財 (2) 純粋公共財の最適供給</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>不確実性</td> </tr> </table> | | | | | 回 | 内容 | 1 | オリエンテーション | 2 | 消費者行動の数理分析 | 3 | 生産者行動の数理分析 | 4 | 一般均衡理論 (1) パレート最適 | 5 | 一般均衡理論 (2) 純粋交換経済 | 6 | 一般均衡理論 (3) 生産経済 | 7 | 一般均衡分析 (4) 生産と分配 | 8 | 一般均衡分析の応用 厚生経済学、国際貿易論 | 9 | 市場の失敗 | 10 | 費用逡減産業 | 11 | 外部性 (1) 外部経済、外部不経済 | 12 | 外部性 (2) 外部性下の最適供給 | 13 | 公共財 (1) 非競争性、非排除性 | 14 | 公共財 (2) 純粋公共財の最適供給 | 15 | 不確実性 |
| 回 | 内容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | オリエンテーション | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 消費者行動の数理分析 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 生産者行動の数理分析 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 一般均衡理論 (1) パレート最適 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 一般均衡理論 (2) 純粋交換経済 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 一般均衡理論 (3) 生産経済 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 一般均衡分析 (4) 生産と分配 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 一般均衡分析の応用 厚生経済学、国際貿易論 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 市場の失敗 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 費用逡減産業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 外部性 (1) 外部経済、外部不経済 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 外部性 (2) 外部性下の最適供給 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 公共財 (1) 非競争性、非排除性 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 公共財 (2) 純粋公共財の最適供給 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 不確実性 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 受講要件 | ミクロ経済学ⅠとⅡを習得していること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| テキスト | 浅利一郎・山下隆之著『はじめよう経済数学』日本評論社、2003年。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | 奥野正寛編著『ミクロ経済学』東京大学出版会、2008年。 その他、必要に応じて紹介します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 予習・復習について | 予習…テキストを読むこと。 復習…例題や練習問題を解くこと。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 学期末の筆記試験 (100%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 木曜日 12:00-12:30 (通年), 研究室 (L312) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 1. 県立大学単位互換 (認める) 2. 科目等履修生 (認める) 3. 難易度 (C) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | 社会調査入門 | | | | |
| 担当教員名 | 平岡 義和 (HIRAOKA Yoshikazu) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文C棟402 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火3・4 |
| キーワード | 調査の技法、調査票調査、質的調査（インタビュー等）、データの収集と分析 | | | | |
| 授業の目標 | 地域社会の課題を発見するための技法であり、社会学、心理学、文化人類学などの研究手法である社会調査に関する基礎的なリテラシーを身につける。 | | | | |
| 学習内容 | この授業では、できるだけ実際の調査報告などを題材にして、それぞれの調査手法の特徴、留意点などについて解説していく。基本的には講義形式で行うが、できるだけ実習の要素を取り入れるとともに、ほぼ毎回課題を出し、翌週までにチェックし、問題点を指摘することで、調査リテラシーの習熟を図る。 | | | | |
| 授業計画 | <p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション-授業の目的、内容、日程 2 社会調査の歴史 3 社会調査の意義と限界 4 社会調査のウソ問題のある調査例 5 社会調査に取りかかる前に（1）-社会調査と問題意識 6 社会調査に取りかかる前に（2）-概念、記述、説明、仮説 7 社会調査の諸タイプ-学術調査と実務調査 8 質的調査の方法（1）-インタビュー調査 9 質的調査の方法（2）-参与観察 10 質的調査の方法（3）-ドキュメント分析 11 量的調査の方法 12 二次データの利用 13 調査報告の作成法と読み方 14 社会調査と倫理 15 質問への回答と小試験 | | | | |
| 受講要件 | 特段の専門知識を必要としない | | | | |
| テキスト | 大谷信介他『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房、2013年 | | | | |
| 参考書 | 授業中に指示する。 | | | | |
| 予習・復習について | 授業ごとに指定したテキストの箇所の予習とともに、調査技法に関する課題の提出を求める。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 調査技法などに関して、授業ごとに課題を出すとともに、その習熟を問う試験の成績で評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 最初の授業の際に指示する。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | <p>社会学科の社会学コースを希望する1年生、社会調査士資格の取得を希望する1年生は受講すること。また、フィールドワークで使える社会調査の技法について解説するので、社会学科の「フィールドワーク基礎演習」、地域創造学環の「フィールドワーク」にも役立つ内容となっている。</p> <p>1. 県立大学単位互換 (○) 2. 科目等履修生 (○) 3. 難易度 (A)</p> | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------|--------|
| 授業科目名 | 自己と関係の社会学 | | | | |
| 担当教員名 | 荻野 達史 (OGINO Tatsushi) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文C棟403 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火3・4 |
| キーワード | 自己、相互行為、演技と儀礼、感情管理、自己物語、個人化、規範の変容、労働の流動化、自己管理、自己決定 | | | | |
| 授業の目標 | 人間・社会について、歴史・文化・制度といった様々な条件を考慮し、深く理解することができ、その理解をもとに地域社会や職場などの現場で、課題を見出しその解決に向けて活用できる力を修得すること。 | | | | |
| 学習内容 | 社会学における自己論とそれと関連する相互行為論や社会変動に関する議論を学ぶ。まず、自己認識が形成される条件として相互行為について論じ、「自己」の仮構性について検討する。次に、相互行為の秩序が「自己」を通して人々を抑圧する幾つかのメカニズムについて言及していく。最後に、自己物語論を踏まえた上で、とくに現代社会における「自己」の存立に関する困難について多面的に検討していく。そして、そうした困難についての思考法や社会的対応策について論じる。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 ガイダンス 2 自己の社会性①「私」認識と相互行為 3 自己の社会性②性格と役割/欲望と関係性 4 映像分析① 5 相互行為の秩序①演技の基本構成 6 相互行為の秩序②スティグマと抑圧 7 相互行為の秩序③感情管理・労働 8 物語としての自己：その基本的構成 9 映像分析② 10 自己と現代的困難①経験の隔離 11 自己と現代的困難②個人化社会(1)規範の緩和 12 自己と現代的困難③個人化社会(2)流動化 13 映像分析③ 14 自己と現代的困難④個人化社会(3)自己統制 15 「自己」を支える社会的基盤と方法 | | | | |
| 受講要件 | 社会学概論を受講していることが望ましい。専門性はやや高く難易度は中程度である。 | | | | |
| テキスト | 特に指定しないが、参考文献についてはリストを適宜配布する。 | | | | |
| 参考書 | アンソニー・エリオット『自己論を学ぶ人のために』世界思想社、片桐雅隆『自己の発見』世界思想社などが網羅的な参考書となる。 | | | | |
| 予習・復習について | 復習に力をいれて欲しい。講義の後は必ずノートを電子ファイル化し、思いついた疑問や意見も含めて書き留めていくことが理解と思考力を高めるだろう。比較的読みやすい文献も紹介するので、ぜひ各自で読み進めて期末レポートにも反映させて欲しい。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 授業終わりに提出するアンケート（感想・疑問についての自由記述）の内容を20%、期末レポートを80%で評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 初回にアナウンスする。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 毎回、授業の終わりにとくに疑問や質問を集める目的でアンケートをとり、次回の講義で20分程度を使って回答します。授業内容を踏まえたコンパクトな記述を期待します。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|--------------|-----------|
| 授業科目名 | フランス言語文化特論Ⅳ (Special Topics in French Language and LiteratureⅣ) | | | | |
| 担当教員名 | 安永 愛 (YASUNAGA Ai) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文 A 棟 5 2 5 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 3 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火 3・4 |
| キーワード | フランス語を窓として、留学記、二つの言葉の間で | | | | |
| 授業の目標 | フランス文学研究者である水林章の仏語による自伝的エッセイ <i>Une langue venue d'ailleurs</i> (Gallimard, 初出 2011)を読む。 | | | | |
| 学習内容 | <i>Une langue venue d'ailleurs</i> (『他処から来た言語』)は、18歳でフランス語と出会い、フランス留学を経てフランス人の伴侶を得、ルソーとモーツァルトを心の友に、フランス文学研究者・教育者として自己確立してきた軌跡を私小説風に綴った仏語作品である。本書から、いくつかの断章を取り上げ精読し、フランス語から広がる人生や世界について共に考えていく。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 インTRODakション： <i>Une langue venue d'ailleurs</i> について、作者水林章について 2 訳読と解説、ディスカッション 3 訳読と解説、ディスカッション 4 訳読と解説、ディスカッション 5 訳読と解説、ディスカッション 6 訳読と解説、ディスカッション 7 訳読と解説、ディスカッション 8 関連の映像・音楽作品の鑑賞。 9 訳読と解説、ディスカッション 10 訳読と解説、ディスカッション 11 訳読と解説、ディスカッション 12 訳読と解説、ディスカッション 13 訳読と解説、ディスカッション 14 訳読と解説、ディスカッション 15 まとめ | | | | |
| 受講要件 | フランス語歴を 2 年以上有していること。 | | | | |
| テキスト | <i>Une langue venue d'ailleurs</i> (Gallimard, folio, 2013)。初回の授業で購入していただきます。 | | | | |
| 参考書 | 仏和辞典 | | | | |
| 予習・復習について | 訳読の順番でなくても、きちんと予習してくる。担当者は力を尽くして訳文を作成するとともに、音読の練習も積み重ねておくこと。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 出席状況・訳読・音読の取り組み 50%、期末のレポートの 50%。 | | | | |
| オフィスアワー | 月曜 7・8 限。メールのアポイントによりそれ以外の時間も対応します。 アドレス： yasunaga.ai@shizuoka.ac.jp | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | フランス語を始めた皆さん、将来の選択に悩む皆さんにとって、身近に感じられることが多々書かれていると思います。フランス語の読解力を高めつつ、作品世界に寄り添ってみましょう。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | 地方財政論Ⅱ | | | | |
| 担当教員名 | 川瀬 憲子 (KAWASE Noriko) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 共通L棟409 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火3・4 |
| キーワード | 地方自治、地方分権、公共事業、まちづくり、地方税、課税自主権、住民参加、福祉社会、ローカルガバナンス、地域社会 | | | | |
| 授業の目標 | 地方財政や地方分権、自治・参加のシステムがどのようにして発達し、いま、どのような改革が求められているのかといった諸課題に対して、分野別に国際比較の観点を交えながら、幅広い洞察力を培うことを目標としている。 | | | | |
| 学習内容 | 現代日本の地方財政をめぐる課題に焦点を当て、財政学の方法論にしたがって、地方予算、地方経費、公共事業、社会福祉、地方税、地方交付税、国庫支出金、地方債などの個々のテーマごとに、制度と国際比較を交えながら解題していく。地方自治における住民参加などの課題に対しては、具体的な事例を元にわかりやすく説明を加えることにしている。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 ガイダンス 2 「分権改革」と地方財政をめぐる課題 3 地方予算論－ローカルガバナンスと財政民主主義 4 地方経費論①－国家の役割と地方経費 5 地方経費論②－日本の地域開発と地方財政 6 地方経費論③－民活型地域開発とまちづくり 7 地方経費論④－少子高齢社会と地域福祉 8 地方税論①－地方税の課税原則 9 地方税論②－個人住民税 10 地方税論③－法人住民税と法人事業税 11 地方税論④－固定資産税、その他の税 12 地方財政調整制度論（地方交付税論） 13 補助金論 14 地方債論 15 地方行財政改革をめぐって－住民自治と福祉社会の展望 | | | | |
| 受講要件 | 毎回出席すること | | | | |
| テキスト | 川瀬憲子(2011)『「分権改革」と地方財政－住民自治と福祉社会の展望』自治体研究社 | | | | |
| 参考書 | 重森暁・植田和弘(編)(2013)『Basic 地方財政論』有斐閣、 宮本憲一・遠藤宏一(編)(2006)『セミナー現代地方財政Ⅰ』勁草書房、 宮本憲一・鶴田廣巳(2008)『セミナー現代地方財政Ⅱ』勁草書房、 川瀬憲子(2012)『アメリカの補助金と州・地方財政－ジョンソン政権からオバマ政権へ』勁草書房他 | | | | |
| 予習・復習について | テキスト、参考書、新聞などをしっかりと読んでおくこと。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 平常点(30%)と定期試験(70%)をもとに評価を行う。授業のまとめや小レポートを課す予定。 | | | | |
| オフィスアワー | オフィスアワー一覧を参照のこと。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 携帯電話の電源を切っておくこと。 県立大学との単位互換：認める。科目等履修生：認める。 難易度C | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|---|-------------|-----------|
| 授業科目名 | 民事訴訟法 | | | | |
| 担当教員名 | 坂本 真樹 (SAKAMOTO Maki) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文学部A棟615 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 4 | 曜日・時限 | 火3・4,火5・6 |
| キーワード | 民事訴訟、訴訟手続、紛争 | | | | |
| 授業の目標 | 民事訴訟制度と裁判手続を理解すること。また、裁判外の紛争解決制度と民事訴訟との関係を理解すること。 | | | | |
| 学習内容 | 民事訴訟法の基礎を、教科書・判例を通じて学ぶことを目的とします | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 ガイダンス 2 民事訴訟の目的：刑事訴訟、行政訴訟との違い 3 裁判外の紛争解決手続 4 訴え(1) 5 訴え(2) 6 訴え(3) 7 訴え(4) 8 訴訟物(1) 9 訴訟物(2) 10 訴訟の主体(1) 11 訴訟の主体(2) 12 訴訟の主体(3) 13 訴訟の過程・審理(1) 14 訴訟の過程・審理(2) 15 訴訟の過程・審理(3) | | 回 内容 16 訴訟の過程・審理(4) 17 訴訟の過程・審理(5) 18 訴訟の終了(1) 19 訴訟の終了(2) 20 訴訟の終了(3) 21 訴訟の終了(4) 22 訴訟の終了(5) 23 上訴・再審(1) 24 上訴・再審(2) 25 多数当事者訴訟(1) 26 多数当事者訴訟(2) 27 多数当事者訴訟(3) 28 複数請求訴訟 29 特別手続・執行手続(1) 30 特別手続・執行手続(2) | | |
| 受講要件 | 特にありません | | | | |
| テキスト | 安西明子・安達栄司・村上正子・畑宏樹著 『民事訴訟法』(有斐閣ストゥディア)、六法(出版社の指定なし) | | | | |
| 参考書 | 『民事訴訟法判例百選』(第5版) 高橋宏志・高田裕成・畑瑞穂編 その他、特に指定はしませんが、授業で適宜示します | | | | |
| 予習・復習について | 次回の講義範囲を指定しますので必ず予習の上、講義を受けること | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 期末テスト 小テスト レポートにて評価します | | | | |
| オフィスアワー | 授業時間以外で、事前にメールにてアポイントメントをとってください | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | メールアドレス jmsakam@ipc.shizuoka.ac.jp です メールでも質問等を受け付けます 県立大学単位互換性(認める) 科目履修生(認める) 難易度 B | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | 哲学の歴史Ⅱ | | | | |
| 担当教員名 | 上利 博規 (AGARI Hiroki) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文A棟421 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火5・6 |
| キーワード | 人間中心主義、二元論、批判、認識論、起源論、弁証法、実存主義、構造主義、ポスト構造主義、超越論 | | | | |
| 授業の目標 | 近世から現代へと至る哲学史を通じて、哲学に関する基本的な概念を学ぶ。これを通じて、現代の私たちにも影響を与えている思考法とその問題点を明らかにし、同時に解決に向けた取組を概観する。 | | | | |
| 学習内容 | 自己意識の確立を求める近代哲学から自己意識を形づくるものを見ようとする現代哲学までの流れを知り、重要な哲学(者)がその流れの中で果たして来た役割などを社会的背景とともに理解する。 | | | | |
| 授業計画 | <p>授業計画</p> <p>1 近現代の哲学の歴史の概略</p> <p>第1部 近代の哲学</p> <p>2 ルネサンスの思想</p> <p>3 バロックの始まりと近代的思考の始まり</p> <p>4 近代的思考へのターニングポイントとしての1670年</p> <p>5 1700年代前半の批判的思考の始まりと啓蒙</p> <p>6 1700年代後半の出自・身分にかかわらない思考</p> <p>7 1800年代前半のロマン主義と「精神」</p> <p>8 1800年代後半の社会と思想</p> <p>9 1800年代後半の無意識の拡大</p> <p>第2部</p> <p>10 生の哲学と解釈学</p> <p>11 社会の哲学</p> <p>12 実存哲学</p> <p>13 構造主義</p> <p>14 ポスト構造主義と近代哲学</p> <p>15 21世紀と哲学</p> <p>キリスト教理解の変化、自然魔術など F.ベーコン、デカルトなど 時間意識の変化と起源論の起源 公開とclearという文化 ルソーとカント ヘーゲル パリ・コミューンからマルクスへ ショーペンハウアー、多重人格など</p> <p>ニーチェ、ディルタイ、ベルクソン コミュニオン主義、大衆化論など ハイデガー、サルトル レヴィ＝ストロース、ラカン、アルチュセール ハバーマス、デリダ、ドゥルーズ</p> | | | | |
| 受講要件 | 哲学の歴史Ⅰ履修者、哲学概論履修者が望ましい | | | | |
| テキスト | 特になし。 | | | | |
| 参考書 | 教室で指示します。 | | | | |
| 予習・復習について | 配付されたプリントを予習・復習する。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 近現代の哲学の歴史の流れとその重要なポイントを問う試験を行います。 | | | | |
| オフィスアワー | 金曜 11:50-12:45 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | <p>1. 県立大学単位互換（認める）</p> <p>2. 科目等履修生（認める）</p> <p>3. 難易度（B）</p> | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | フランス語学概論Ⅱ | | | | |
| 担当教員名 | 浅野 幸生 (ASANO Yukio) | | 所属等 | 大学院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文A棟408 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火9・10 |
| キーワード | 基礎力、作文力 | | | | |
| 授業の目標 | 前期に引き続き、フランス語作文の練習をする。 | | | | |
| 学習内容 | 前期に引き続き、フランス語文法の知識をつけそれを作文に生かす。 | | | | |
| 授業計画 | 前置詞の種類と用法・疑問詞の使い方・命令法・動詞の単純形と複合形・条件法・接続法・文型 | | | | |
| 受講要件 | 前期のⅠを受講していること | | | | |
| テキスト | 前期と同じテキストを用いる | | | | |
| 参考書 | フランス語の辞書 | | | | |
| 予習・復習について | 予習が必須 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 平常点とテストの点数 | | | | |
| オフィスアワー | 月14:30~15:30 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | 世界経済論Ⅲ | | | | |
| 担当教員名 | 安藤 研一 (ANDO Kenichi) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 共通L棟408 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水1・2 |
| キーワード | 地域経済統合、欧州連合、EU | | | | |
| 授業の目標 | EUにおける地域経済統合の進展と課題について学ぶ。簡単な四則演算、図表を用いることはあるが、高度な数学を使うことはしない。 | | | | |
| 学習内容 | 欧州諸国は、EUの下で経済主権の一部を共有しながら直面する課題に対処してきた。各国レベルでは解決が困難な問題を処理してきただけでなく、同時に加盟国間の緊張関係もまた醸成してきた。そうしたEUにおける補完緊張関係を学ぶ。 | | | | |
| 授業計画 | <p>概ね以下のようなテーマを取り上げながら、欧州経済統合の理解を深めるようにする。その際、理論と具体的現実の関係に留意しながら授業を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. EUの機構と役割、その性格。 2. 欧州経済統合の背景と第二次世界大戦前の欧州統合。 3. EU関税同盟、単一欧州市場の形成。 4. 欧州外国人労働者問題 5. 単一通貨、ユーロの導入と成果。 6. ユーロ危機の展開と展望。 7. EU加盟国の拡大過程と意義。 8. イギリスのEU離脱問題。 | | | | |
| 受講要件 | 世界経済論Ⅱについて受講していることが望ましい。 | | | | |
| テキスト | 特に、指定しない。毎回の授業に合わせたレジメ・資料については、学務情報システムに随時アップする。 | | | | |
| 参考書 | 『EUとは何か-国家ではない未来の形-』中村民雄 信山社 | | | | |
| 予習・復習について | 学務情報システムにアップされたレジメ、資料を各自でダウンロードして活用すること。それと合わせて、新聞・テレビなどのニュースをフォローし、現在の世界経済でどのようなことが起きているのか、ということに関心を持ちながら授業に出席することが必要である。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 出席は取らない。中間試験を課し、学期末試験の結果と合算の上で成績を評価する。中間試験、学期末試験では、論理的思考表現能力についてみる。単純な選択式の問題などは出さず、ある程度の文章を書くことを求める。 | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日 17:00～18:00 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 現在の世界経済は、TPPや日欧EPAのようなメガFTAの時代とも言われると同時に、それらに対する批判・反対も台頭してきています。このような状況の背景には、1990年代から急速に進んだ地域主義の流れがあります。その最先端に位置するEUを中心にして、現代世界経済の状況、背景、展開への問題意識を持ちながら本講義を受講することを期待します。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | アジア史概説 | | | | |
| 担当教員名 | 戸部 健 (TOBE Ken) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | A221 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水3・4 |
| キーワード | 中国、近世史、近現代史、伝統と近代 | | | | |
| 授業の目標 | (1) 近世以降のアジア史を学ぶ上で必要な基礎的知識を身に付ける (2) アジアにおける伝統社会の特質について学び、それが近代においてどのように変容したのか、中国を中心に大まかな状況を把握する | | | | |
| 学習内容 | (1) アジアにおける伝統社会(16世紀～18世紀)の特質について学ぶ (2) アヘン戦争から辛亥革命までの社会状況の変容について概説し、伝統・近代間の葛藤についても検討する (3) 世界史的な視点も加味しながら上記を学ぶ。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 ガイダンスー中国を知るために 2 出産・人口増加・移動 3 人と人とを結ぶものー差序格局・血縁・地縁 4 伝統宗教と祖先崇拜 5 伝統中国での社会的上昇ー科挙・官僚・郷紳 6 中央権力のあり方ー唐宋変革と小さな政府 7 伝統経済のあり方① 8 伝統経済のあり方② 9 中国の開港と伝統経済の変容 10 キリスト教の布教と伝統宗教 11 中国人の危機意識と地方からの対応 12 ナショナリズムとインターナショナリズム 13 中央権力による国民国家建設の夢と現実ー辛亥革命 14 まとめ 15 | | | | |
| 受講要件 | 外国史概論を受講していることが望ましいが、そうでなかったとしても受講を妨げない。 | | | | |
| テキスト | 特になし。授業時にプリントを配布する。 | | | | |
| 参考書 | 岸本美緒・宮嶋博史『明清と李朝の時代』(世界の歴史12)、中央公論新社、1998年。 並木頼寿・井上裕正『中華帝国の危機』(世界の歴史19)、中央公論新社、1997年。 吉澤誠一郎『清朝と近代世界 19世紀』岩波新書、2010年。 川島真『近代国家への模索 1894-1925』岩波新書、2010年。 ロイド・E・イーストマン(上田信ほか訳)『中国の社会』平凡社、1994年。 岡本隆司『近代中国史』ちくま新書、2013年。 以上、何か一冊でもよいので手にとってみてほしい。 | | | | |
| 予習・復習について | 授業後は、ノートに書いたことをもう一度見直し頭の中を整理すること。分からないことがあったら適宜質問すること。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | テスト：平常点＝7：3とする。平常点とは出席点とレポート点を足したもの。 | | | | |
| オフィスアワー | 水曜日3・4時限(10時20分～11時50分)。事前アポが必要、連絡先メール(jktobe@ipc.shizuoka.ac.jp) | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 1. 県立大学単位互換(認める) 2. 科目等履修生(認める) 3. 難易度(B) 現代のアジアと関わる上でアジア近代史の知識は必須である。自分の将来に役立てるつもりで、意欲的に取り組んで欲しい。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | 先史文化論 | | | | |
| 担当教員名 | 山岡 拓也 (YAMAOKA Takuya) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水3・4 |
| キーワード | 新人（ホモ・サピエンス）、先史考古学、後期旧石器時代、行動的現代性 | | | | |
| 授業の目標 | 新人（ホモ・サピエンス）の出現と拡散について、高校までの歴史の授業で詳しく説明されることはほとんどないだろう。しかし、近年、新人の出現と拡散の研究は、世界各地で様々な分野の研究者によって推進され、多くの成果が挙げられている。そうした研究の全体像を知り、人類の行動的現代性や文化的多様性の起源に関する理解を深めることが、この授業の目標である。 | | | | |
| 学習内容 | 我々の直接の祖先である新人（ホモ・サピエンス）の出現と拡散をめぐる研究は、形質人類学・遺伝人類学・先史考古学を中心として一大学際領域が形成され、世界各地で進められている。それぞれの分野や地域の研究で何が明らかにされ、何が研究課題とされているのか概観するとともに、日本列島を対象にした最新の研究成果を紹介する。授業の中では、各地の発掘調査の内容についても紹介する。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 イン트로ダクション 2 新人（ホモ・サピエンス）の出現と拡散に関わる研究の背景 3 形質人類学と遺伝人類学の研究の概要 4 先史考古学の研究の概要（1） 5 先史考古学の研究の概要（2） 6 先史考古学の研究の概要（3） 7 ヨーロッパにおける研究状況（1） 8 ヨーロッパにおける研究状況（2） 9 西アジア・アフリカにおける研究状況 10 東南アジア・オセアニアにおける研究状況 11 東アジアにおける研究状況 12 日本列島における研究状況（1） 13 日本列島における研究状況（2） 14 日本列島における研究状況（3） 15 まとめ | | | | |
| 受講要件 | 特になし。 | | | | |
| テキスト | なし。適宜プリントを配布します。 | | | | |
| 参考書 | 授業の内容に関連する参考書は適宜紹介します。 | | | | |
| 予習・復習について | 授業で紹介された参考書を自ら入手し、読解するなどをつうじて、授業内容の理解をさらに深めてください。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 期末の筆記試験（あるいはレポート）によって評価します。 | | | | |
| オフィスアワー | 水曜3・4限（10時20分～11時50分）。要連絡、連絡先（jtyamao@ipc.shizuoka.ac.jp）。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 毎回、授業の終わりに質問用紙に記入してもらうので、積極的に疑問・感想などをよせてください。よせられた質問のいくつかには、次回の授業の初めに答えるようにします。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-------------|--------|
| 授業科目名 | 日本語学概論Ⅱ (Introduction to Japanese Linguistics Ⅱ) | | | | |
| 担当教員名 | 勝山 幸人 (KATSUYAMA Yukito) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文 B 棟 519 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 |
| 対象学年 | 2 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 3・4 |
| キーワード | 日本語学、国語学、音韻史、文字史、日本語教育、いろはうた、五十音図、漢字、仮名 | | | | |
| 授業の目標 | 日本語における音韻と文字・文体の歴史について学ぶ。 | | | | |
| 学習内容 | 中一種免(国語)、高一種免(国語)、及び日本語教育能力検定試験の受験資格を取得する人は、必須科目となります。ただし、「日本語学概論Ⅰ」とあわせて4単位が必要となるので、注意してください。 | | | | |
| 授業計画 | <p>日本語学概論Ⅱでは、テキストの第6章と及び第7章、すなわちおもに古代日本語の音韻と文字・文体の歴史について学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> まず、世界四大文明と文字の発生というテーマから、言語における文字の役割と発達ということから始めます。とくに、中国における漢字の誕生と、漢字に対抗して周辺アジア諸国で作られた民族文字、及び我が国の万葉仮名をはじめとする仮名の発明から、その分化のプロセスについて学習します。 文字と文体のかかわりという観点から、奈良時代の記紀歌謡から近代の言文一致まで、歴史的にざっと眺めてみることにします。 万葉仮名の研究によって推定される上代の母音組織をはじめ、ハ行子音の変遷、ア行の「え」とヤ行の「え」、「お」と「を」の統合、撥音・促音・拗音、オ列長音、四つ仮名の変遷など、日本語の音韻について歴史的に辿ります。あわせて、音韻が仮名を使って表記する原理原則や、仮名遣いの歴史などについても学習します。 なお時間があれば、日本語のアクセント史にも及びたいと思います。 | | | | |
| 受講要件 | 日本語学概論ⅠとⅡ合わせて4単位を必要とする人は、まず日本語学概論Ⅰを履修してから受講してください。 | | | | |
| テキスト | 『日本語学要説』(ひつじ書房 1900円+税) | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 予習・復習について | | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 出席(遅刻を含む)+筆記試験 | | | | |
| オフィスアワー | 水曜日・昼休み | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | はじめて学ぶ人にもよくわかるように、丁寧に説明します。ただ、語学ですから、一回でも休むと後がまるでわからなくなってしまいます。毎回きちんと出られる自信のない人は、はじめから履修しないでください。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|--------------|-----------|
| 授業科目名 | アメリカ文学文化各論 I (Topics in American Literature and Culture I) | | | | |
| 担当教員名 | レッドフォード (Redford Steven Wade) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文 A 棟 4 2 7 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 3 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 3・4 |
| キーワード | America、novel、racial tension、discrimination、 | | | | |
| 授業の目標 | To develop, at a high level, the ability to read, analyze, and discuss important works of American fiction. To develop an understanding of racial prejudice and discrimination in American fiction. | | | | |
| 学習内容 | Students will read, analyze, and discuss Ernest J. Gaine's A LESSON BEFORE DYING, published in 1993. The instructor will introduce other works/events that portray the black experience in America. | | | | |
| 授業計画 | <p>Schedule*:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. A LESSON IN DYING, Chapter 1 3. A LESSON IN DYING, Chapter 2-3 4. A LESSON IN DYING, Chapter 4-6 5. A LESSON IN DYING, Chapter 7-9 6. A LESSON IN DYING, Chapter 10-12 7. A LESSON IN DYING, Chapter 13-15 8. A LESSON IN DYING, Chapter 16-18 9. A LESSON IN DYING, Chapter 19-20 10. A LESSON IN DYING, Chapter 21-22 11. A LESSON IN DYING, Chapter 23-24 12. A LESSON IN DYING, Chapter 25-27 13. A LESSON IN DYING, Chapter 28-29 14. A LESSON IN DYING, Chapter 30-31 15. Final Discussion 16. TEST <p>* = schedule is subject to change</p> | | | | |
| 受講要件 | A strong willingness to participate in English and express interpretations. | | | | |
| テキスト | A Lesson Before Dying (Ernest J. Gaines) | | | | |
| 参考書 | 適宜授業時に紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | Weekly reading and study questions are required preparation for each class. | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | Weekly reading quizzes, classroom participation, and test. Final test is 50% of final grade. Others, 50%. | | | | |
| オフィスアワー | Thursday, 10:20 - 11:50, and by appointment, e-mail: jrsteve@ipc.shizuoka.ac.jp | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | Read, think, talk. | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-------------|-----------|---|----|---|-----------|---|----------|---|-------------|---|-------------|---|-------------|---|-------------|---|----------|---|----------|---|----------|----|----------|----|----------|----|----------|----|----------|----|----------|----|----------|
| 授業科目名 | ミクロ経済学Ⅱ (MicroeconomicsⅡ) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員名 | 山下 隆之 (YAMASHITA Takayuki) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 研究室 | 共通L棟312 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 分担教員名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選必 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水3・4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| キーワード | 経済理論、ミクロ経済学、消費者行動、独占、寡占 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業の目標 | 市場メカニズムの意義について考察します。市場メカニズムで解決できない問題に関しては、代わる解決策を考えます。現代の経済問題を理論的に分析する力を養ってもらいたいと考えています。併せて、地方上級公務員試験レベルのミクロ経済学の問題を解ける力を身に付けてもらいたいと思っています。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学習内容 | 1年次の「ミクロ経済学Ⅰ」に引き続いて、ミクロ経済理論を学習します。20世紀前半の経済問題でもあった、消費者行動の理論と不完全競争の理論に関して、中級レベルの内容を学びます。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <table border="0"> <tr> <td>回</td> <td>内容</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>近代経済学の歴史</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>消費者行動の理論(1)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>消費者行動の理論(2)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>消費者行動の理論(3)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>消費者行動の理論(4)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>消費者理論の応用</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>独占の理論(1)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>独占の理論(2)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>独占の理論(3)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>寡占の理論(1)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>寡占の理論(2)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>寡占の理論(3)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>寡占の理論(4)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>独占的競争の理論</td> </tr> </table> | | | | | 回 | 内容 | 1 | オリエンテーション | 2 | 近代経済学の歴史 | 3 | 消費者行動の理論(1) | 4 | 消費者行動の理論(2) | 5 | 消費者行動の理論(3) | 6 | 消費者行動の理論(4) | 7 | 消費者理論の応用 | 8 | 独占の理論(1) | 9 | 独占の理論(2) | 10 | 独占の理論(3) | 11 | 寡占の理論(1) | 12 | 寡占の理論(2) | 13 | 寡占の理論(3) | 14 | 寡占の理論(4) | 15 | 独占的競争の理論 |
| 回 | 内容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | オリエンテーション | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 近代経済学の歴史 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 消費者行動の理論(1) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 消費者行動の理論(2) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 消費者行動の理論(3) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 消費者行動の理論(4) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 消費者理論の応用 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 独占の理論(1) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 独占の理論(2) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 独占の理論(3) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 寡占の理論(1) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 寡占の理論(2) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 寡占の理論(3) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 寡占の理論(4) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 独占的競争の理論 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 受講要件 | ミクロ経済学Ⅰ・経済数学Ⅰを履修済みでない、単位取得は難しいでしょう。授業中のスマートフォンによる撮影は禁止します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| テキスト | 浅利一郎・山下隆之著『はじめよう経済数学』日本評論社、2003年。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | H.ヴァリアン『入門ミクロ経済学[原著第9版]』勁草書房(2015年)など。必要に応じて紹介します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 予習・復習について | 予習…テキストを読むこと。 復習…授業時間の2倍を目安として、例題や多くの練習問題を解いて下さい。(学生便覧の人文学部規則第6条を参照。) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 学期末の筆記試験(90%)に宿題(10%)を加算して評価します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 木曜日 12:00-12:30(通年)、研究室(L312) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 1. 県立大学単位互換(認める) 2. 科目等履修生(認める) 3. 難易度(B) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|--------------|-----------|
| 授業科目名 | 財政学Ⅱ (Public FinanceⅡ) | | | | |
| 担当教員名 | 高松 慶裕 (TAKAMATSU Yoshihiro) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 共通教育 L 棟 407 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 3・4 |
| キーワード | 租税制度、転嫁と帰着、超過負担、所得税、法人税、消費税、財政の持続可能性、公債の負担 | | | | |
| 授業の目標 | わが国の財政の仕組みと現状を理解するとともに、財政学の理論を習得することを目標とする。 | | | | |
| 学習内容 | 財政学の理論と制度の両面についての基礎的知識を提供するとともに、わが国の財政の抱えている問題を解説し、その改革方向をめぐる所説を紹介する。財政学Ⅱでは、歳入面に焦点を当て、租税の経済効果や税制の実際、公債に関する問題などを扱う。 | | | | |
| 授業計画 | 以下の通り進める予定（若干の変更もあり得る）。 回 内容 1 ガイダンス 2 租税の基礎 3 租税の原則と公平性 4 転嫁と帰着 5 課税の超過負担 6 ラムゼールール 7 効率かつ公平な課税 8 所得課税の理論と実際（1）：個人への課税 9 所得課税の理論と実際（2）：法人への課税 10 消費課税の理論と実際 11 資産課税の理論と実際&税制改革の方向性 12 公債と財政赤字 13 財政の持続可能性とドーマー命題 14 公債の負担と中立命題 15 まとめ | | | | |
| 受講要件 | ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱの内容を履修済み（並行履修）であるか、独習できることが望ましい。この授業（特に前半の内容）ではミクロ経済学に基づく説明をします（グラフ、数式等を含む）。 | | | | |
| テキスト | 指定しない。 | | | | |
| 参考書 | 小塩隆士（2016）『コア・テキスト財政学』第2版，新世社。 畑農鋭矢・林正義・吉田浩（2015）『財政学をつかむ』新版，有斐閣。 『図説 日本の税制』各年版，財経詳報社。 その他，適宜紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | 授業は配布資料を基に進めます。事前に学務情報システムからダウンロードし，予復習に活用してください（初回のガイダンスのみ印刷したものを配布します）。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 期末試験 70%程度，レポート課題 30%程度で評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 初回時にお知らせします。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 前期の財政学Ⅰは歳出面に焦点を当てます。財政学ⅠとⅡを両方履修すると財政学全体の理解が進むと思います。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | 日本文学概論Ⅱ (Introduction to Japanese Literature II) | | | | |
| 担当教員名 | 渡邊 英理 (WATANABE Eri) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水5・6 |
| キーワード | 境界／border、ジェンダー（社会的文化的に構築された性差）、恋愛と結婚、友愛と性愛、差別・被差別、少年少女文学、日本語文学、労働と身体、グローバル・シティと郊外化／グローバリゼーションと新自由主義、物語と小説 | | | | |
| 授業の目標 | 近現代日本語文学を研究するために必要となる基本的な知識および、視座・方法としての批評理論を身につける。また、その知識や視座・方法（批評理論）をもとに、日常生活で親しむ身近な文学／文化から、社会や世界の諸問題に主体的にアプローチをし、自分なりのスタイルで初歩的な批評を表現し、伝達できるようになる。 | | | | |
| 学習内容 | 近現代の日本語文学を研究するために必要となる基本的な知識および、視座・方法としての批評理論を身につける概論の授業です。近現代の日本語文学を歴史や社会との関わりの中で考察します。恋愛や結婚、交通や交換行為、少年少女の時間、長い日本語のこのの葉（言の葉／事の葉）の記憶と土地の関係性、「地域」と「開発」、グローバリゼーション下の都市や郊外化、新自由主義状況下の都市や労働、人間身体の変容などを主題とします。そうした視座からの考察をもとに、広く、社会や世界を考えていくことも意識します。映像や音源も適宜使用し、「文学作品」それ自体を愉しみながら、分かりやすく進めていく予定です。 | | | | |
| 授業計画 | <p>イントロダクションー国境の越え方 授業のねらい、目標、授業予定、評価の方法などを説明します。「日本語文学」という視座から国境を越える言語実践について考えます。</p> <p>「古事記」の現代ー上橋菜穂子「月の森にカミよ、眠れ」 女賊の物語ー江戸川乱歩・三島由紀夫「黒蜥蜴」、中上健次『熊野集』『偷盗の桜』 都市空間と文学ー有川浩『阪急電車』 友愛が開く地平ー有川浩『阪急電車』 交通と文学ー有川浩『阪急電車』 性愛と友愛の間でー松浦理英子「葬儀の日」「犬身」 少年小説の地平ー中上健次「一番はじめの出来事」 少女映画の輝きー映画「溺れるナイフ」と中上健次 労働と文学ー桐野夏生『OUT』 郊外と文学ー桐野夏生『OUT』 新自由主義と文学 まとめー授業内リポートの実施 （参加者の顔ぶれによっては、講義内容に多少の変更を加える場合があります。）</p> | | | | |
| 受講要件 | 特にありません。言語文化／文学を愛好する、すべての人を歓迎します。 | | | | |
| テキスト | 桐野夏生「OUT」上下（講談社文庫）、中上健次『熊野集』を予定していますが、具体的には、授業中（初回の授業のイントロダクション時）に指示します。 | | | | |
| 参考書 | 授業内で、指示します。 | | | | |
| 予習・復習について | 授業内で、小課題／コメントペーパーの執筆を実施しますので、まず、授業をよく聞いてもらうことが基本です。また、対象テキストを事前に読んでいただくことを要求する場合があります。授業のまとめとして論述課題を実施します。その際には、各自、講義の復習をして臨んでいただくことになるかと思えます。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 授業内の小課題／コメントペーパー、出欠／参加の態度、授業のまとめとして実施する論述課題を総合的に判断し、評価を行います。論述課題（2回） 60%、小課題／コメントペーパー 20%、出欠／参加の態度 20% | | | | |
| オフィスアワー | 水曜昼休み 事前にメール等で、予約をお願いします。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 「わたしが、いま生きてある世界」を、「わたし自身の問い」として問うということ。すなわち、自分自身の思考で現在の世界をつかみとること。それが、語本来の意味での「批評／批判」＝クリティークです。本講義が目指すのは、そうした意味での「批評／批判」（＝クリティーク）の初歩的レッスンです。「いま生きてある世界」を基礎付けるわたし自身の言葉。その言葉を、本講義で触れる文学／文化を通じて、ぜひ、見つけてほしいと思います。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|--------------|--------|
| 授業科目名 | 翻訳論Ⅱ | | | | |
| 担当教員名 | 花方 寿行 (HANAGATA Kazuyuki) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文 A 棟 5 1 5 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 |
| 対象学年 | 3 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 5・6 |
| キーワード | 翻訳、日本文学、古典文学、日本語、英語、スペイン語 | | | | |
| 授業の目標 | 翻訳に関わる諸問題の知識と考察する力を身につける。 | | | | |
| 学習内容 | <p>松尾芭蕉の代表作『奥の細道』を対象に、原文が現代日本語訳や英訳、スペイン語訳された際に生ずる解釈や言語的な変化を細かく考察しながら、トランスレーションとアダプテーションをめぐる問題や、解釈の幅、言語学的な問題に対する理解と関心を深めてゆくことを目指す。</p> <p>「正しい翻訳」「誤訳」といった単純な分類を行うことが目的ではないので、解釈可能性や言語的・文化的差異がそれぞれのヴァージョンでどのように広がりあるいは展開しているのかに興味を持って、むしろ積極的に原文からの「ずれ」を楽しんでいきたい。</p> | | | | |
| 授業計画 | <p>最初の 1～2 回でトランスレーションとアダプテーションに関わる問題など理論的な背景を説明してから、具体的にテキストを突き合わせながら、原文がどのような表現に移し替えられてゆくのか、それによってどのような意味の差異が生ずるのかといった問題を考えてゆく。</p> <p>講義ものなので基本的に担当教員がテキストの評釈を壇上で行う形で進めてゆくが、受講者は事前にテキストを読んできて、自分なりに考えを持ったうえで、授業を聞いて考えを深めてゆく。</p> | | | | |
| 受講要件 | 日本人の場合は、古文及び英文読解力があることが望ましい（「得意」でなくてもいい）。留学生の場合は、現代日本語と英語ができることが望ましい。 | | | | |
| テキスト | 購入してもらうのは角川ソフィア文庫版『新版 おくのほそ道』（760 円＋消費税）。他に英訳・スペイン語訳を授業でコピー配布して用いる。 | | | | |
| 参考書 | 購入の必要はないが、授業で配る英訳は講談社学術文庫版『英文収録 おくのほそ道』（760 円＋税）のドナルド・キーン訳。こちらは現代語訳はついていないが、解説はあるので、興味があれば合わせて買ってもいい。 | | | | |
| 予習・復習について | 毎回進む（であろう）範囲について原文（古文）を読み、現代語訳や英訳、（できる人は）スペイン語訳と突き合わせて、そこで生ずるずれについて考えてくる。また授業での指摘を受けて、自分でも問題意識をもって読めるよう訓練をしてゆくこと。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 出席 40%、受講態度 30%、レポート 30%。 | | | | |
| オフィスアワー | 月曜 14:30～16:00、人文 A 棟 515 花方研究室にて。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 問題意識をもって授業に臨み、積極的にテキストを読み考える学生を歓迎します。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|--------------|-----------|
| 授業科目名 | ギリシア語Ⅱ (Elementary Ancient Greek Grammar Ⅱ) | | | | |
| 担当教員名 | 田中 伸司 (TANAKA Shinji) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文 A 棟 4 1 8 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 2 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 7・8 |
| キーワード | 古代ギリシア語、文法、統語法 | | | | |
| 授業の目標 | 人間・社会への理解を深化させるため、人文学領域の基礎である古代ギリシア語を学ぶ。 | | | | |
| 学習内容 | 前期のギリシア語Ⅰのあとをうけて、ギリシア語Ⅱでは統語法を中心に学ぶことになります。ギリシア語ⅠおよびⅡを履修し終えたときには、簡単なギリシア語文献であれば、辞書を引き引き読めるようになっているはずです。 | | | | |
| 授業計画 | <p>ギリシア語Ⅰと同様に、教科書の練習問題を解くことが授業の中心となります。なお、この授業で使用する教科書は日本では一般的なものですが、分量が多いという側面があります。そこで、ギリシア語Ⅱでは、説明のみで練習問題を解かない課が増える見込みです。</p> <p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 XXⅡ 「アオリスト、現在完了、過去完了および未来完了の中動相」 2 XXⅣ 「第二アオリスト直説法能動相および中動相」 3 XXⅤ 「直説法受動相、動詞の主要部分」 4 XXⅥ 「第三変化名詞（1）」 5 XXⅦ 「能相欠如動詞、約音動詞（1）」 6 XXⅩ 「黙音幹動詞の完了諸形、直説法中・受動相」 7 XXⅩⅣ 「接続法能動相、勸奨・思案を示す接続法」 8 XXⅩⅤ 「接続法中動相、目的および恐怖・危惧を示す副文章における接続法」 9 XXⅩⅧ 「約音動詞の接続法、予想的未来を示す条件文」 10 XLⅢ 「希求法能動相、目的および恐怖・危惧を示す副文章における希求法」 11 XLⅣ 「希求法中動相および受動相、配慮・計画を意味する文」 12 XLⅧ 「分詞（1）能動相」 13 XLⅨ 「分詞（2）中動および受動相、情況を示す分詞」 14 LI 「補語的に用いられる分詞、分詞の独立的用法」 15 命令法ほか | | | | |
| 受講要件 | ギリシア語Ⅰを履修していることを前提としています。もし履修していない場合には、ギリシア語Ⅰで学習した範囲を、履修前に自分で学習しておくこと。 | | | | |
| テキスト | 田中美知太郎・松平千秋著『ギリシア語入門 新装版』岩波書店(2012) ISBN 978-4-00-022589-2 | | | | |
| 参考書 | 標準的な辞書としては Liddel & Scott revised by Jones, Greek-English Lexicon (Oxford UP, 9 Rev Sub 版 (1996/08) ISBN 978-0198642268) [Intermediate (ISBN 0199102066) でも可]、文法書としては H. W. Smyth, Greek Grammar (Harvard UP, 2nd ed. 1984) ISBN 978-0674362505) があります。 ☆授業を受けるためには、教科書だけで十分です。 | | | | |
| 予習・復習について | 各課の練習問題を解くことが学習（予習と復習）の中心となります。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 各回の教科書の練習問題の回答をもとに採点します。 | | | | |
| オフィスアワー | 水曜日 9・10 時限（16：05-17：35） | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（B） 直にギリシア語テキストに触れるとき、古典と呼ばれる文献の美しさがわかるようになります。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|------------------|-----------|
| 授業科目名 | 臨床心理学 I | | | | |
| 担当教員名 | 江口 昌克 (EGUCHI Masakatsu) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文学部 B 棟 5 0 4 室 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 2 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 7・8 |
| キーワード | 臨床心理学的援助、適応と不適応、心理療法、地域援助 | | | | |
| 授業の目標 | 人間援助の学問として社会の要請を受けて発展しつつある臨床心理学の領域に関する基礎的な知識を得る。 | | | | |
| 学習内容 | 我々は自分自身の生き方や人間関係においてさまざまな課題に直面し、問題を抱えながら生きている。臨床心理学は悩みを抱える人々を援助する実践の学問であり、また深い人間理解と科学的な視点によって成立している学問でもある。この授業では、臨床心理学の歴史的背景、基本となる理論、対象と領域、援助の実際について広く学ぶ。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 臨床心理学とは何か 2 臨床心理学の歴史と概念 3 臨床心理学の基礎理論 4 社会的専門職としての臨床心理士・公認心理師 5 臨床心理学的アセスメント(1) データの収集と分析 6 臨床心理学的アセスメント(2) 精神疾患と障害 7 臨床心理学的アセスメント(3) 発達と適応 8 理論モデルと介入技法(1) 精神力動理論 9 理論モデルと介入技法(2) 認知行動理論 10 理論モデルと介入技法(3) 人間性心理学理論 11 理論モデルと介入技法(4) システム理論 12 地域援助の対象(1) 家族 13 地域援助の対象(2) 学校 14 地域援助の対象(3) コミュニティ 15 臨床心理学研究と倫理 | | | | |
| 受講要件 | 心理学概論，基礎心理学を受講していることが望ましい。 | | | | |
| テキスト | 指定しない（毎回資料を配付する）。 | | | | |
| 参考書 | 下山晴彦編 2009 よくわかる臨床心理学[改訂新版] ミネルヴァ書房 その他、講義時に適宜紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | 授業テーマに沿って各自が十分な予習・復習を行うこと。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 授業時の小レポート，定期試験の成績を総合的に評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 初回講義時にアナウンスする。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 臨床心理学 I では、他者と一緒にいることで役に立っている自己の長所の確認や、問題解決に取り組む他者の援助の妨げとなる自己の短所に対応できるように、日常生活に生きる自己の理解を少しずつ深め、他者支援のプロセスについて考える場にしたいと思います。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|--------------|-----------|
| 授業科目名 | 西洋社会史 I | | | | |
| 担当教員名 | 岩井 淳 (IWAI Jun) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文 A 棟 2 1 9 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 3 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 7・8 |
| キーワード | 近世史、近代史、イングランド、ニューイングランド、終末論、千年王国論、大移住、ピューリタン革命 | | | | |
| 授業の目標 | この授業では、17世紀のイギリスとアメリカにおいて唱えられた千年王国論の意義を、ピューリタンの思想と活動に即して理解します。最初に近世イングランドにおける千年王国論の復活と1630年代の「大移住」について考察し、続いて個別のピューリタンの足跡にしたがって、彼らの思想と活動を検討します。 | | | | |
| 学習内容 | この講義では、聖書の「ヨハネ黙示録」などを典拠とする千年王国論に注目し、17世紀イングランドにおいて有力であった千年王国論が、アメリカに移住したピューリタンとともに大西洋を渡ったこと、革命中に帰国したピューリタンによって再度イングランドに持ち込まれたことなどを考察します。そうした作業を通じて、千年王国論が新旧イングランドの交流史やピューリタン革命の展開において果たした歴史的役割を考え、宗教と植民地の視点から革命の意味を探求します。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 この授業の目的と計画 2 ピューリタン革命概観(1) 3 ピューリタン革命概観(2) 4 映画に見る革命 5 千年王国論の定義 6 異端視された千年王国論 7 よみがえる千年王国論 8 1630年代の「大移住」 9 「大移住」の動機 10 新旧イングランドの交流史 11 映画に見る移民 12 独立派ピューリタンの場合 13 第五王国派の場合 14 王政復古以降の展望 15 まとめ | | | | |
| 受講要件 | 世界史やイギリス史について、基礎的知識をもっていることが望ましい。 | | | | |
| テキスト | テキストとして、岩井淳『千年王国を夢みた革命』講談社選書の一部を配布する予定。 | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて、指示します。 | | | | |
| 予習・復習について | テキストや配布プリントを使って、予習や復習をしてください。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 出席状況や試験の結果によって、総合的に評価します。 | | | | |
| オフィスアワー | 金曜日 3・4時限。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 1. 県立大学単位互換(認める) 2. 科目等履修生(認める) 3. 難易度(B) 歴史や宗教、イギリスに関心のある方、大歓迎です。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|--------------|-----------|
| 授業科目名 | 劇場・音楽堂各論 | | | | |
| 担当教員名 | 井原 麗奈 (IHARA Rena) | | 所属等 | 地域創造学環 | |
| | | | 研究室 | 教育学部 A 棟 204 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 7・8 |
| キーワード | 劇場、音楽堂、公共ホール、公共性 | | | | |
| 授業の目標 | 劇場、音楽堂等に関する法律の内容を理解し、それらに関する情報やデータなどを分析し、自分の意見を持つようになることを目標とします。 | | | | |
| 学習内容 | 劇場、音楽堂等に関する法律や、それらの現場の状況をデータや新聞記事などから学びます。また劇場、音楽堂等における「公共性」とは何かについて意見交換を行います。 | | | | |
| 授業計画 | 1 「劇場」「音楽堂」に関わる法律について 2 「劇場」「音楽堂」の現状を知る 3 「劇場」「音楽堂」の公共性について 回 内容 1 ガイダンス： 2 「劇場」「音楽堂」に関わる法律について：「芸術文化振興基本法」 3 「劇場」「音楽堂」に関わる法律について：「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」1 4 「劇場」「音楽堂」に関わる法律について：「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」2 5 「劇場」「音楽堂」の現状を知る 1 6 「劇場」「音楽堂」の現状を知る 2 7 「劇場」「音楽堂」の現状を知る 3 8 「劇場」「音楽堂」の現状を知る 4 9 「劇場」「音楽堂」の現状を知る 5 10 「劇場」「音楽堂」の公共性について 1 11 「劇場」「音楽堂」の公共性について 2 12 「劇場」「音楽堂」の公共性について 3 13 「劇場」「音楽堂」の公共性について 4 14 「劇場」「音楽堂」の公共性について 5 15 まとめ | | | | |
| 受講要件 | 「劇場・音楽堂概論」を受講していることが望ましいが、その限りではない。 | | | | |
| テキスト | 講義でそのつど案内します。 | | | | |
| 参考書 | 講義でそのつど案内します。 | | | | |
| 予習・復習について | 講義で配付するテキストを読んで来てください。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 発表 20 点＋授業での意見交換、貢献度 30 点＋レポート 50 点 | | | | |
| オフィスアワー | 水曜日 3 コマ目 前日までに ihara.rena@shizuoka.ac.jp (*を@に変える)にご連絡ください。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | ※注 1：この授業は学環指定科目ですが、シラバス・成績・学生通知などの事務は人文社会科学部が担当しています。 ※注 2：この授業は学科共通科目として開講されています。言語文化学科の学生であれば履修可能ですが、2015 年度以前の入学者（今年度の 3 年生以上）には要卒単位として認められませんので、注意してください。 社会における「劇場」「音楽堂」の役割、芸術の役割について一緒に考えていきましょう。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | 比較文学演習Ⅳ | | | | |
| 担当教員名 | 田村 充正 (TAMURA Mitsumasa) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文 A 棟 321 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 3 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 7・8 |
| キーワード | 文学と映画、芸術間翻訳、詩学 | | | | |
| 授業の目標 | 文学と映画に共通する物語の分析方法を学ぶ。 | | | | |
| 学習内容 | 小説と映画における芸術間翻訳の諸問題を考える。 | | | | |
| 授業計画 | <p>小説の物語分析と映像分析（撮影と編集）の基礎知識をもとに、各受講生は任意の作品を選定し、研究発表をすることになる。文芸映画にみられる原作小説と映画の物語内容における比較にとどまらない、言葉と映像という表現手段の差異に焦点をあわせた、それぞれの芸術特性を原理的に考察した研究発表が望まれる。</p> <p>なおこれまでに開講した芸術間翻訳の演習授業で受講生が研究発表の素材とした作品には次のようなものがある。</p> <p>(森鷗外原作・溝口健二監督「山椒大夫」／湊かなえ原作・中島哲也監督「告白」／ 小川洋子原作・D.ベルトラン監督「薬指の標本」／ 伊坂幸太郎原作・中村義洋監督「ゴールデンランバー」／ T.カポーティ原作・B.エドワーズ監督「ティファニーで朝食を」など)</p> | | | | |
| 受講要件 | | | | | |
| テキスト | 必要な文献は授業で配布する。 | | | | |
| 参考書 | 今泉容子『映画の文法』（彩流社、2004・2）、ジェニファー・ヴァン・シル『映画表現の教科書』（フィルムアート社、2012・6） | | | | |
| 予習・復習について | | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 出席（50％）と発表（50％）によって総合的に判断するが、演習の状況におうじて左記の比率を変更する可能性がある。 | | | | |
| オフィスアワー | 木曜日（昼休み） 研究室メールアドレス jjmtamu@ipc.shizuoka.ac.jp | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|--------------|----------|
| 授業科目名 | 人権総論 (Human Rights) | | | | |
| 担当教員名 | 小谷 順子 (KOTANI Junko) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文 A 棟 6 1 2 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 必 |
| 対象学年 | 1 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 木 1・2 |
| キーワード | 憲法、法の支配、立憲主義、権力分立、基本的人権、人権保障、自由、権利 | | | | |
| 授業の目標 | 人権保障の歴史と意義、日本国憲法上の人権保障規定についての基礎知識を修得したうえで、人権をめぐる各種論点をめぐる判例・学説を正確に理解し、その知識を応用する力を習得することを目標とする。 | | | | |
| 学習内容 | 世界における「人権保障」の歴史的経緯・近代的意義を確認した上で、日本国憲法における人権保障について学ぶ。まず、人権全般に関する基礎的な事項を確認した上で、各条文の内容や論点について、国内の判例・学説や外国の例を参照しつつ学ぶ。 | | | | |
| 授業計画 | <p>授業では、以下の項目について講義形式で概説する予定である。なお、時事問題等を取り上げるために、順序や扱う項目を変更することもある。</p> <p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基本的人権の原理 (人権宣言の歴史) 2 基本的人権の原理 (人権の分類、制度的保障、人権の享有主体) 3 基本的人権の原理 (人権の享有主体) 4 基本的人権の原理 (人権保障の限界、私人間の人権保障) 5 包括的人権と法の下での平等 (幸福追求権) 6 包括的人権と法の下での平等 (法の下での平等) 7 包括的人権と法の下での平等 (法の下での平等) 8 包括的人権と法の下での平等 (法の下での平等) 9 包括的人権と法の下での平等 (法の下での平等) 10 精神的自由権 (二重の基準、思想良心の自由) 11 精神的自由権 (信教の自由) 12 精神的自由権 (政教分離) 13 精神的自由権 (表現の自由) 14 精神的自由権 (表現の自由) 15 精神的自由権 (表現の自由) | | | | |
| 受講要件 | 必修科目「憲法総論・統治機構」の内容を修得していることを前提としている。 | | | | |
| テキスト | 芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法 (第 6 版)』(岩波書店、2015 年)、六法 (出版社は問わないが、最新のものの)。この 2 点は、毎回の授業に必携。 | | | | |
| 参考書 | 判例集 (例) : 野中俊彦・江橋崇編著『憲法判例集 (第 11 版)』(有斐閣新書、2016 年)、『憲法判例百選 I(第 6 版)』(有斐閣、2013 年)など 用語集 (例) : 大沢秀介編『確認憲法用語』(成文堂、2014 年)など | | | | |
| 予習・復習について | 予習 : 予め教科書の該当箇所を読む。 復習 : 毎回の講義終了後、各自で、学務情報システム上の「授業支援システム」にログオンし、授業内容を再確認するための小テストを受験する。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 平常点 (授業支援システムの「小テスト」の成績など) 30-40%程度、期末試験 60-70%程度で評価する。期末試験は、教科書等の一切の資料の参照不可。 ※授業支援システムについては、授業中に説明する。 | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後。その他、メールにて、いつでも質問可。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 1. 県立大学単位互換(O) 2. 科目等履修生(O) 3. 難易度(B) 難易度(B)は、「憲法総論・統治機構」の授業で扱う憲法についての基礎知識を修得していることを想定したレベルです。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-------------|--------|
| 授業科目名 | 刑事政策 | | | | |
| 担当教員名 | 津田 雅也 (TSUDA Masaya) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 木 1・2 |
| キーワード | 刑事政策、少年法、施設内処遇、社会内処遇、犯罪被害者 | | | | |
| 授業の目標 | 刑事政策を初めて学ぶ受講生が、①わが国の刑事政策に関する論点について、問題の所在、国や地方自治体等による対応策、法制度を把握した上で、②当該論点について①を通じて身につけた知識を素材としつつ自分なりの見解を述べられるようになること。 | | | | |
| 学習内容 | 本講義では、犯罪者／非行少年の処遇を中心に講義を行います（第9回～14回で扱う内容は「少年法」のダイジェストです）。成人／少年の刑事司法制度を対比しつつ、現行制度の概要・運用の実情などについて、解説を行います。 | | | | |
| 授業計画 | <p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 刑事政策総論－刑事政策の意義・対象、わが国の犯罪情勢 2 刑罰論－刑罰の種類とその刑事政策的意義、刑罰と保安処分 3 犯罪者の処遇1－総説、司法的処遇（警察、検察、裁判） 4 犯罪者の処遇2－施設内処遇1（行刑の基本原則、受刑者処遇の目的） 5 犯罪者の処遇3－施設内処遇2（受刑者処遇の基本原則、基本制度、開放的処遇） 6 犯罪者の処遇4－施設内処遇3（受刑者の法的地位、施設内の規律・秩序維持、行刑運営） 7 犯罪者の処遇5－社会内処遇1（総説、仮釈放） 8 犯罪者の処遇6－社会内処遇2（保護観察、更生緊急保護、新たな社会内処遇） 9 少年非行対策1－少年非行の動向、少年法の基本理念、少年手続の概要、非行少年の意義 10 少年非行対策2－少年事件手続1（捜査と調査、少年審判開始前の手続） 11 少年非行対策3－少年事件手続2（少年審判、終局決定） 12 少年非行対策4－少年事件手続3（少年の刑事裁判） 13 少年非行対策5－少年に対する社会内処遇（保護観察） 14 少年非行対策6－少年に対する施設内処遇（少年院、少年刑務所における処遇） 15 犯罪被害者の保護と支援（被害者への情報提供、刑事手続への関与、財産的損害の回復、刑事手続外における被害者の保護と救済） | | | | |
| 受講要件 | 刑法総論Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法Ⅰ・Ⅱを履修済みないし履修中であること、もしくは、刑法総論および刑事訴訟法の基礎知識を有していることが望ましい。 | | | | |
| テキスト | 特に指定しません。レジュメに即して講義を行います。最新版の『犯罪白書』を参照することが有用です。 | | | | |
| 参考書 | 川出敏裕＝金光旭,刑事政策,有斐閣,2012年,ISBN9784792319465 大谷實,新版刑事政策講義,弘文堂,2009年,ISBN9784335354359 松本勝編,更生保護入門（第4版）,2015年,ISBN9784792351465 廣瀬健二,子どもの法律入門（改訂版）,2013年,ISBN9784772413336 川出敏裕,少年法,有斐閣,2015年,ISBN9784641139121 植村立郎,骨太少年法講義,法曹会,2015年,ISBN9784908108389 | | | | |
| 予習・復習について | 予習：特に不要ですが、報道で刑事政策関連の話題を見つけたときは、目を通してください。 復習：講義で扱ったテーマについて、参考書の関連する部分に目を通すほか、法務省・最高裁のウェブサイト等で、制度の概要や統計について各自でフォローしてください。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 成績評価の方法は、期末試験（40%）とレポート（60%）とします。レポートの具体的内容・実施回数は、講義において説明しますが、刑事政策に関する文献を要約し、それについての自分の意見を執筆してもらう予定です。成績評価の基準は、上記「授業の目標」の到達度とします。 | | | | |
| オフィスアワー | 人文社会科学部法学科のウェブサイト（教員紹介）を参照。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | <ul style="list-style-type: none"> ・刑法総論・各論ではどのような行為が犯罪とされるのかを学び、刑事訴訟法ではどのような手続で捜査、刑事裁判を行うのかを学びましたが、刑事政策（とりわけ犯罪者の処遇の分野）では、有罪とされた人をものようにして改善更生させ社会に復帰させるのかを学びます。「犯罪の防止」は刑事司法の最重要の目標です。その具体的内容を扱う刑事政策は極めて重要な分野であるといえます。 ・最近10年間においては、犯罪者・非行少年に対する処遇に関する重要な法制度が次々と成立し（刑事収容施設法（平成17年）、更生保護法（平成19年）、少年院法、少年鑑別所法（平成26年）など）、さらに、自由刑や若年犯罪者処遇についての改革も今後予定されています。本講義において、こうした一連の法改正の背景・目的、わが国における犯罪者処遇の実情や課題について学び、「犯罪者（非行少年を含む）の社会復帰」という重要問題についての知見を深めてください。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | 考古学概論 | | | | |
| 担当教員名 | 篠原 和大 (SHINOHARA Kazuhiro) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文A棟315 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 木3・4 |
| キーワード | 考古学、遺跡、遺構、遺物、型式学、層位学、考古学的調査法 | | | | |
| 授業の目標 | 考古学がどのような学問かを理解し、遺跡・遺構・遺物からその内容を考えるとともに研究法、調査法について理解する。 | | | | |
| 学習内容 | 考古学では、遺跡をいろいろな角度から調査し、そこでいろいろな方法を用いて種々の情報を引き出していく。また、その成果を室内に持ち帰った後にも、いろいろな方法を用いてものを分析し、考古学的な結論を導き出していく学問である。このような、考古学の調査から研究に至る過程を紹介しながら、考古学がなにを考える学問かを解説していく。 | | | | |
| 授業計画 | I 考古学とは ①考古学と現代社会ー考古学のイメージ／②考古学の資料と考古学の特徴 II 考古学の研究法の基礎 ①層位学と型式学／②遺跡と時間・空間 ③考古資料の分類と視点 III 考古学の調査の方法 ①遺跡の形成と考古学的調査／②考古学的調査の方法 ③資料の記録と整理／④報告書の刊行まで IV 考古学の新しい方法 ①環境考古学／②実験考古学／③民族考古学／③形成過程理論 VI まとめ | | | | |
| 受講要件 | なし。ただし、受講希望者数に応じた教室が確保できない場合は、人数を制限することがあります。 | | | | |
| テキスト | なし。毎回プリントを配布します。 | | | | |
| 参考書 | 藤本 強『考古学の方法』2000年東京大学出版会。このほかの関連する文献は適宜紹介します。 | | | | |
| 予習・復習について | 資料（プリント）の多くは事前に配布しますので目を通しておいてください。ものを対象とする学問ですから、ノートだけではなく具体的なイメージを持つことが重要です。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 出席状況（20％）と筆記試験（80％）とで評価します。 | | | | |
| オフィスアワー | 篠原：水曜3・4限（10時20分～11時50分）。要連絡、連絡先（jsksino@ipc.shizuoka.ac.jp）。 山岡：水曜3・4限（10時20分～11時50分）。要連絡、連絡先（jtyamao@ipc.shizuoka.ac.jp）。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 遺跡や博物館で実際にものを見ることをおすすめします。登呂遺跡や賤機山古墳、片山廃寺など近隣にも重要な遺跡があります。リニューアルされた登呂博物館・登呂遺跡公園は是非見学してください。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | 日本宗教思想 | | | | |
| 担当教員名 | 齋藤 真希 (SAITO Maki) | | 所属等 | 学院院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 木3・4 |
| キーワード | 日本思想、仏教 | | | | |
| 授業の目標 | 長い歴史を持つ仏教について、主に思想の側面から概観し、仏教の体系的な知識を得ることを目標とします。 | | | | |
| 学習内容 | 仏教の思想について、その基本的な考え方や主要な経典の内容、日本の仏教者の思想について、原文を用いながら概説します。仏教についての体系的な理解を得ることを目的とします。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 ガイダンス 2 仏教の基本1 3 仏教の基本2 4 仏教の基本3 5 仏教の経典1 6 仏教の経典2 7 仏教の経典3 8 仏教の経典4 9 日本仏教の思想1 10 日本仏教の思想2 11 日本仏教の思想3 12 日本仏教の思想4 13 日本仏教の思想5 14 日本仏教の思想6 15 まとめ | | | | |
| 受講要件 | | | | | |
| テキスト | 授業中にレジュメを配布します。 | | | | |
| 参考書 | 授業中に言及します。 | | | | |
| 予習・復習について | 授業の内容を手掛かりに、文献を通じて自発的に知識を深めるような予習復習が望ましいです。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 授業毎のコメントペーパーと期末のレポートによって評価します。 | | | | |
| オフィスアワー | | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|--------------|--------|
| 授業科目名 | 臨床社会心理学 I | | | | |
| 担当教員名 | 橋本 剛 (HASHIMOTO Takeshi) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文 A 棟 4 1 1 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 |
| 対象学年 | 2 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 木 3・4 |
| キーワード | 自己概念、自尊心、自己制御、援助行動、ソーシャルサポート、攻撃、心理社会的ストレス、ウェル・ビーイング、文化、リスク | | | | |
| 授業の目標 | 臨床社会心理学の基本的知識と探究方法を身につけ、それを地域社会や職場などの現場で活用できる力を修得する。また、そのために必要な論理的思考力、情報リテラシー、協働的対人能力を修得する。 | | | | |
| 学習内容 | 本講義では、臨床心理学と社会心理学の融合領域である「臨床社会心理学」の主要な知見を概観し、臨床実践における社会心理学的観点の有用性・可能性について理解するとともに、個人と社会が双方向的に影響を及ぼし合う社会的な営みとしての臨床活動や適応行動におけるダイナミクスの包括的理解を目指す。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 臨床社会心理学とは 2 自己概念と適応 3 自己意識と自己制御 4 自尊心と適応 5 自己表出と適応 6 原因帰属と適応 7 援助行動と援助要請 8 ソーシャル・サポート (1) 9 ソーシャル・サポート (2) 10 対人ストレスと社会的排斥 11 攻撃と適応 12 心理社会的ストレス 13 ウェル・ビーイングとポジティブ心理学 14 文化と適応 15 リスクの社会心理学 | | | | |
| 受講要件 | 心理学概論の履修を前提として授業を進めるので、未履修者は必要に応じて補足学習すること。 | | | | |
| テキスト | 北村英哉・内田由紀子 (編) 『社会心理学概論』ナカニシヤ出版 | | | | |
| 参考書 | 谷口弘一・福岡欣治 (編著) 『対人関係と適応の心理学』北大路書房、橋本 剛『大学生のためのソーシャルスキル』サイエンス社、坂本真士・佐藤健二 (編) 『はじめての臨床社会心理学』有斐閣、吉田俊和・橋本 剛・小川一美 (編著) 『対人関係の社会心理学』ナカニシヤ出版、その他随時紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | 各トピックの詳細については、参考文献等を活用して積極的に予習・復習することを推奨する。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 試験は試験期間中に筆記試験 (テキスト、レジュメ、ノートいずれも持ち込み不可) を実施する。その得点を基準点として、さらに平常点 (小レポートをはじめとする授業へのコミットメント) を加味したものを最終評価とする。詳細については初回授業時に説明する。 | | | | |
| オフィスアワー | 水曜日 3・4 限を予定。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 1. 県立大学単位互換 (認める) 2. 科目等履修生 (認める) 3. 難易度 (B) 社会心理学の全体像を理解するために、隔年開講の「社会心理学 I」「社会心理学 II」とセットで受講することが望ましい。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|--------------|-----------|
| 授業科目名 | 英語学各論 I (Topics in English Linguistics I) | | | | |
| 担当教員名 | 大村 光弘 (OMURA Mitsuhiro) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文 A 棟 4 2 7 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 3 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 木 3・4 |
| キーワード | 認知意味論、モダリティ、発話階層構造、歴史言語学、語用論 | | | | |
| 授業の目標 | 認知意味論・語用論・歴史言語学を中心に、生成文法研究の方法と分析に関する専門的知識を深める。 | | | | |
| 学習内容 | 2 年次に英語学概論や英語学基礎読解で学んだ英語学の基礎知識を基にして、より専門的見地から言語資料を分析する。授業は基本的に講義形式で進める。ただし、内容理解のために受講生に質問をしたり、理解度を測る小テストを課す。 | | | | |
| 授業計画 | <p>講義全体のテーマは言語変化の結果としての多義性(polysemy)である。多義性を生み出す言語変化の過程を分析するために、1 つの階層意味論(layered-structure semantics)モデルを提示する。具体的手順は、以下に示すとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 扱うべき言語事実 法助動詞 shall, should 2) 階層意味論 文の意味構造 モダリティ(modality)と命題(proposition) 意味論と語用論の接点 3) 史的意味論(historical semantics)・史的語用論(historical pragmatics) 文法化(grammaticalization) 主観化(subjectification) 意味の漂白(semantic bleaching) 機能推移(functional shift) 4) 法助動詞 shall, should における機能推移 | | | | |
| 受講要件 | 英語学概論、英語学基礎読解を履修していることが望ましい。 | | | | |
| テキスト | 配付資料を用いて授業を行う。 | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて適宜紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | 復習に重点を置き、講義内容の理解に努めてほしい。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 欠席 (30 分以上の遅刻は欠席 1 回とみなす) は 4 回までとする。 数回の小テストの結果 (90%) + 平常点 (10%) で評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日 (12:00-13:00、事前に連絡を頂ければこれ以外の時間帯も可) 連絡先メールアドレス: jjmohmu@ipc.shizuoka.ac.jp | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 1. 県立大学単位互換 (認める) 2. 科目等履修生 (認めない) 3. 難易度 (C) | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | 法哲学 (Philosophy of Law) | | | | |
| 担当教員名 | 横濱 竜也 (YOKOHAMA Tatsuya) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文A棟619室 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 木3・4 |
| キーワード | 正義、自由、平等、法と国家、功利主義、リベラルな平等主義、リバタリアニズム、共同体論 | | | | |
| 授業の目標 | 法のあるべき姿を示す正義とは何か。この問いに応答する正義論、とくにそのなかでも自由、平等、法と国家といった問題関心が、実践的にどのように「使えるか」を明らかにしてきます。 授業を通じて、正義を論じ、正義に関わる諸問題に応答する上で踏まえるべき思考枠組みを習得すること、そして受講者が法改革のための基本的ヴィジョンを自力で描けるようになること、また規範理論を構想する哲学的思考に慣れ親しむこと、以上3つが目標です。 | | | | |
| 学習内容 | 扱うテーマは、授業計画に示すとおりです。各テーマについて、 ① そのテーマに関わる基礎的な認識（状況や制度などについて）を確認し、 ② そのテーマを扱う上で必要となる正義論上の諸概念を説明し、 ③ ②の諸概念が正義の一般理論のなかでどのように位置づけられるかを示します。 その上で、皆さんと、 ④ そのテーマにどのように答えるべきかを議論します。 | | | | |
| 授業計画 | <p>※ 以下の授業計画で、0～10で示されているものは、各回と対応するものではありません。またあくまで暫定的なものであり、進展ぐあいにより、変更の可能性があります。さらに、各項目の括弧内の内容は、講義で扱うトピックの一部にとどまります。詳細な計画と授業の進行の仕方は、初回授業の際に示します。 ※ 今年度は、双方向的授業の試みを行います。そのため、これまでの授業内容や授業スタイルと大幅に異なるものになる予定です。</p> <p>0 ガイダンス：授業計画・参考書・成績評価などについての説明、授業の仕方のデモンストレーション 1 イントロダクション：我々は何故正義を論じるべきか（さまざまな正義の考え方の対立／相対主義？） 2 ドーピングの是非（自由の限界とその根拠） 3 犯罪者を薬物で改良してもよいか？（自由の制約方法の限界） 4 チンパンジーに権利はあるか？（権利主体性と権利の根拠） 5 女性専用車両の是非（差別とは何か） 6 同性婚の是非（婚姻に対する国家の関わり） 7 児童手当の是非（国家の中立性と差別） 8 高齢年金の是非（世代間正義） 9 女性議席の是非（民主制とポジティブアクション） 10 国家廃止論は成り立つか（秩序の条件）</p> | | | | |
| 受講要件 | | | | | |
| テキスト | 瀧川裕英編『問いかける法哲学』（法律文化社、2016年）。第2回授業時まで購入しておくこと。 | | | | |
| 参考書 | 毎回の授業で詳細な文献リストを配布しますが、ひとまず以下を挙げておきます（◎はとくに関連性が高い）。 ◎瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）○W・キムリッカ『新版 現代政治理論』（日本経済評論社、2005年）○伊勢田哲治『動物からの倫理学入門』（名古屋大学出版会、2008年）○井上達夫『共生の作法—会話としての正義』（創文社、1986年）○平井亮輔編『正義—現代社会の公共哲学を求めて』（嵯峨野書院、2004年） | | | | |
| 予習・復習について | 予習：テキストに事前に目を通し、教員より前もって出される「問いかけ」に答える。 復習：各回で扱った話題に関する設問に答える小レポートを提出する。疑問点は授業の際やオフィスアワーで質問し解決する。また授業中に挙げる文献を読み、理解を深める。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 受講人数、授業の進度などにより変更がありますが、学期中に、（1）こちらで指定した文献を読み、設問に答える読書レポート（15点満点）（2）各回の小レポート（合計で15点満点）を提出してもらいます。これらのレポートの成績と、学期末試験の成績（70点満点）で成績評価を行います。 | | | | |
| オフィスアワー | 月曜日16時05分～17時35分（複数の学生が重複することを避けるため、訪問する際は事前に予約してください）。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 1. 県立大学単位互換（○） 2. 科目等履修生（○） 3. 難易度（B） 現代正義論の主要な成果と、具体的な諸問題との接合を行うことが、本授業の狙いです。多くの内容を15回の講義で一通り扱うので、講義の進度はかなり速くなります。難しく感じたり、わからないところが出てきた場合には、ためらわずに積極的に質問してください。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | 日本語文化基礎講読Ⅳ | | | | |
| 担当教員名 | 小二田 誠二 (KONITA Seiji) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文 A 棟 323 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金 1・2 |
| キーワード | 日本文学、江戸時代、怪談、累、『死霊解脱物語聞書』、地獄、極楽、語り、能、漫画、ルポルタージュ | | | | |
| 授業の目標 | 古文の表現になじむ。 江戸時代の怪談テキストの読解を通して、日本人の発想・表現方法について知る。 | | | | |
| 学習内容 | 江戸時代を代表する怪談のひとつ、“累”について、もっとも重要なテキストである『死霊解脱物語聞書』を丁寧に読むことで、江戸時代の死生観、宗教観、女性や障害者への意識などを探ります。あわせて、その他の怪談、怪異小説にも触れ、現代に至るまで、人々は“怪異”を通じて何を伝えようとしてきたのかを考察します。 | | | | |
| 授業計画 | <p>以下の内容は主要な項目を示す物で、受講生の反応によって大きく変わる場合があります。</p> <p>はじめに 授業の進め方。 江戸時代・怪談</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 “累事件”の概要 2 『死霊解脱物語聞書』を読む * 数回に分けて全文を読み進めつつ、以下のような項目についてもその都度触れていきます。 3 地獄と極楽 4 リアリティ 5 怪談の語り 6 怪談と怪異小説 7 現代の怪談 8 怪談とメディア 9 怪談のメッセージ <p>*途中でゲスト講師のお話が入るかも知れません。</p> | | | | |
| 受講要件 | 古文や江戸時代についての基本的な知識は必要です。 | | | | |
| テキスト | 『死霊解脱物語聞書—江戸怪談を読む』白澤社 | | | | |
| 参考書 | 松浦だるま『累』（イブニングコミック）刊行中 他にも適宜紹介しますが、江戸時代・怪談などのキーワードで探した本を読んでおいて下さい。どんな本を読んでもか聞くことがあると思います。 | | | | |
| 予習・復習について | 夏休み中にテキストを購入して読んでおいて下さい。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 最終レポート 80% 小レポート 20% 詳しい評価基準(ループブック)を第一回で示し、受講生の意見を汲みながら改訂して決定します。 | | | | |
| オフィスアワー | あなたと私の空き時間。 私の時間割は http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~jjskoni/time.html に掲載します。 確認の上、連絡してください。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 怪談ですが、怖い話が苦手でも問題ありません。 科目等履修生○ 県立大学単位互換○ 難易度 C | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|---------------------|-----------|
| 授業科目名 | 英語学各論Ⅱ | | | | |
| 担当教員名 | 小町 将之 (KOMACHI Masayuki) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文社会科学部 A 棟 4 階 424 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 3 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金 1・2 |
| キーワード | 生成文法、比較統語論、意味論、第一言語獲得 | | | | |
| 授業の目標 | 「プラトンの問題」に関わる第一言語獲得研究を概観することで、普遍文法の成り立ちについて考察を深めるとともに、様々な言語現象を理論的に分析する手法を学習する。 | | | | |
| 学習内容 | <p>言語獲得に関する「プラトンの問題」を通じて、生成文法研究において本質的な問題を考えます。言語知識の個体発生としての第一言語獲得研究を通じて、生成文法理論の基本理念と分析手法、および研究課題を学びます。担当教員から解説するだけでなく、受講生自身でも分析し、その思考方法に習熟してもらいます。</p> <p>分析の対象とする主な言語は英語ですが、日本語などの他言語との比較を通じて、人間の文法知識を立体的に理解してもらえるように努めます。</p> | | | | |
| 授業計画 | <p>教科書とハンドアウトに基づいて、分析手法の解説、議論、受講生による発表を行います。主に取り上げるテーマとしては、以下のようなものを予定しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 構造依存性 2. Wh 疑問に関するさまざまな制約 3. 空主語現象 4. 項省略 5. 原理とパラメータ | | | | |
| 受講要件 | 英文法の基礎知識を有していること。生成文法理論への関心があること。 | | | | |
| テキスト | 杉崎鉦司『はじめての言語獲得』岩波書店 | | | | |
| 参考書 | 適宜紹介します。 | | | | |
| 予習・復習について | 毎回、教科書の該当箇所を読んでくることは必須ですが、必要に応じて指示します。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 授業中に出される課題、宿題、学期末のレポートの提出状況と内容に応じて評価します。 | | | | |
| オフィスアワー | 金曜 7・8 時限。その他の時間を希望する場合は、メールで連絡を取ってください。 連絡用メールアドレス： koma@shizuoka.ac.jp) | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 生成文法の基本的な考え方と分析手法に親しんでもらえればうれしいです。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | 法制史Ⅱ (Legal HistoryⅡ) | | | | |
| 担当教員名 | 橋本 誠一 (HASHIMOTO Seiichi) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文A棟609 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金1・2 |
| キーワード | 日本近代法、法の継受、立憲主義、総力戦、戦後改革 | | | | |
| 授業の目標 | この授業では、以下の能力を身に付けることを目標とします。 【知識】日本の近現代法史に関する基礎的知識を習得している。 【思考】歴史的資料に基づいて実証的に思考することができる。 【技術】実証的思考の結果を論理的に文章表現することができる。 | | | | |
| 学習内容 | 【予習】授業用資料をダウンロードし、読んでおく。 【授業】講義は以下の2つのパートで構成されます。①日本の近現代法史について概説的に講義する。②特定のテーマ（歴史資料など）を取り上げ、より具体的に当該時期の特徴について考察する。 【復習】一つのテーマについてレポートを作成・提出する。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 はじめにー授業概要の説明 2 近代国際法秩序と日本 3 立憲国家への胎動 4 私擬憲法草案を読む 5 明治前期の刑事法（1） 6 明治前期の刑事法（2） 7 明治前期の民事法（1） 8 明治前期の民事法（2） 9 立憲国家体制の成立 10 明治憲法を読む 11 明治後期の法 12 大正期の法ー社会変動と法 13 弁護士布施辰治論ー刑事弁護士はかくありたし 14 関東大震災と法ー災害に見る近代日本法システムの一断面 15 昭和前期の法ー近代日本法システムの崩壊過程 | | | | |
| 受講要件 | 授業内容を理解するためには、高校日本史、憲法、民法、刑法を履修していることが望ましい（必須条件ではありません）。 | | | | |
| テキスト | 学務情報システムから「授業用資料」をダウンロードして下さい。 | | | | |
| 参考書 | 授業用資料の末尾に参考文献一覧を付していますので、参考にして下さい。 | | | | |
| 予習・復習について | ・「学習内容」欄に記載した通りです。 ・なお、日本史や法学の基礎知識について説明する時間がなかなかありませんので、もし不明な点があれば、自学自習するよう心がけて下さい。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | ・レポート（60%）とコメントペーパー（40%）をもとに成績を評価します。 ・レポートは、講義内容の中からテーマを一つ選択し、参考文献を読んだ上で作成・提出して下さい。 | | | | |
| オフィスアワー | 月曜日10:20～11:50 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | ・県立大学との単位互換の可否（○）、科目等履修生の可否（○）、難易度（やや難） | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | ドイツ言語文化基礎演習Ⅱ | | | | |
| 担当教員名 | 大菌 正彦 (OZONO Masahiko) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文A棟423 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金3・4 |
| キーワード | ドイツ語、言語運用能力、ドイツ文化、日本文化、多文化理解 | | | | |
| 授業の目標 | 読む・書く・聞く・話すという4技能のバランスに配慮して、ドイツ語の運用能力(中級)を伸ばすことが目的です。また、英語以外の外国語を学ぶことで、文化の多元的理解を目指します。 | | | | |
| 学習内容 | 教科書の内容に沿って学習していきます。原則として2回の授業で1課ずつ進めます。1年次の復習も行いつつ、発音、表現、語彙、文法などを継続的に学習していきます。また、日独の生活習慣や価値観の相違についても取り上げ、多文化理解を深めます。 | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 発音してみましょう! 2. 「日本の人はなぜ駅の近くに住みたがるの?」 3. 文法: 格変化, 前置詞と定冠詞の融合形, 複数形, 比較 4. 「なぜ日本人は暑いお風呂に入りたがるの?」 5. 文法: 形容詞, 動詞の人称変化, nicht と kein 6. 「家族で食事中に, なぜテレビをつけるの?」 7. 文法: 受動態, zu 不定詞句, 前置詞 8. 「医者と患者の話がどうして聞こえちゃうの?」 9. 文法: 不定関係代名詞, 接続法, 分詞 10. 「日本人は死者と話すことができるの?」 11. 文法: 形容詞の名詞化, 分離動詞 12. 「日本には労働契約がないんですか?」 13. 文法: 関係代名詞, 合成語 14. 「印鑑ってなんのためにあるの?」 15. 指示代名詞, 受動態+助動詞, 語順 16. 期末試験 | | | | |
| 受講要件 | 平成27年度以前入学生は、前期に開講される「ドイツ言語文化基礎演習Ⅰ」(2単位)を併せて修得した場合、「ドイツ言語文化基礎演習Ⅰ」(4単位)に読み替えとなります。 | | | | |
| テキスト | 大谷弘道『CD付き ドイツ人に答えてみよう! (改訂版)』三修社(2,400円+税) | | | | |
| 参考書 | 独和辞典は必携です。その他授業中に適宜紹介します。 | | | | |
| 予習・復習について | 授業1回あたり、2-3時間程度の授業外学習が前提です。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 筆記試験の成績(50%)および平常点(50%)をもとに評価します。平常点は授業への準備・参加状況をもとに評価します。また、正当な理由なく3分の1以上欠席した場合は成績評価の対象外となります。 | | | | |
| オフィスアワー | 金曜日昼休み | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | 統計学Ⅱ (Statistics II) | | | | |
| 担当教員名 | 上藤 一郎 (UWAFUJI Ichiro) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 共通L棟 326 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金 3・4 |
| キーワード | 母集団と標本、無作為標本抽出、確率変数と確率分布、統計的推定、統計的検定 | | | | |
| 授業の目標 | 推測統計学の基礎と応用について学習します。 | | | | |
| 学習内容 | <p>本講義では、推測統計学の初歩的な基礎理論とその応用を学習します。推測統計学とは、確率論に基づいたデータ解析の方法（統計的推測の方法）に関する統計理論です。従って講義ではまず確率論の基礎を学習します。続いて、母集団と標本の区別と、それに基づく推測統計学の基礎概念や諸定理を取り上げそれらについて平易に解説します。その上で、応用上重要な方法である統計的推定と統計的検定法について、さまざまな方法を具体的な分析事例を用いながら解説します。なおその際、これらの手法を統計データ（人間の行動や社会・経済に関するデータ）に適用する場合の問題点に留意しながら講義を進めていく予定です。</p> | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 確率の基本 2. 確率変数と確率分布 <ol style="list-style-type: none"> (1) 確率変数と分布 (2) 期待値と分散 (3) 2項目分布 (4) 正規分布 3. 母集団と標本 <ol style="list-style-type: none"> (1) 母集団と標本の峻別 (2) 確率化、復元抽出と非復元抽出 (3) 大数の法則 (4) 衷心極限定理 4. 統計的推定 <ol style="list-style-type: none"> (1) 良い推定量の基準 (2) 最尤法 (3) 区間推定 5. 統計的検定 <ol style="list-style-type: none"> (1) 統計的検定の論理 (2) 標本分布 (3) さまざまな統計的検定 6. 標本調査法 | | | | |
| 受講要件 | 必要条件ではありませんが、統計学Ⅰを履修していることが望まれます。 | | | | |
| テキスト | 金子治平・上藤一郎編『よくわかる統計学Ⅰ－基礎編－』第2版，ミネルヴァ書房，2011年。 | | | | |
| 参考書 | 講義を通じて随時指示します。 | | | | |
| 予習・復習について | 予習：テキストの精読 復習：テキストの章末問題等の計算 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 成績は、①平常点（10%）、②中間テスト（30%）、③期末テスト（60%）によって評価します。 | | | | |
| オフィスアワー | 開講時に指示します。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（B） | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | 地域金融論 | | | | |
| 担当教員名 | 鳥畑 與一 (TORIHATA Yoichi) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 共通L棟412 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金3・4 |
| キーワード | 地域金融機関、協同組織金融、リレーションシップバンキング、中小企業金融 | | | | |
| 授業の目標 | 経済のグローバル化が進む中で、ローカル経済をどう振興するかが重要な課題となっています。地域経済を支える地域金融の役割と課題について理解を深めます。 | | | | |
| 学習内容 | 地域金融機関（地方銀行、協同組織金融機関）などの基本的性格や、中小企業金融の特性、そしてリレーションシップ・バンキングの特性などを学びます。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 ガイダンス 2 地域金融機関とは何か ① 地方銀行 3 地域金融機関とは何か ② 協同組織金融機関（信用金庫・信用組合） 4 中小企業金融の特性 ① 中小企業と小規模企業の違い 5 中小企業金融の特性 ② リレバンの役割 6 地域金融の課題 ① バブル崩壊と不良債権問題 7 地域金融の課題 ② リレバンの機能強化 8 地域金融の課題 ③ マイナス金利政策と地域金融の再編 9 地域振興条例と地域金融 ① 10 地域振興条例と地域金融 ② 11 信用保証制度の役割 ① 12 信用保証制度の役割 ② 13 地域金融機関の未来は ① 14 地域金融機関の未来は ② 15 まとめ | | | | |
| 受講要件 | 金融論ⅠとⅡの受講が望ましい | | | | |
| テキスト | 授業は配布資料で進めます。 | | | | |
| 参考書 | 適宜指定します。 | | | | |
| 予習・復習について | 必要です。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 小テストと最終テストの総合評価で行います。 | | | | |
| オフィスアワー | 水曜日昼休み | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 旺盛な好奇心を期待します。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | 神経心理学 | | | | |
| 担当教員名 | 幸田 るみ子 (KODA Rumiko) | | 所属等 | 大学院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金 5・6 |
| キーワード | 大脳生理学、認知機能、脳の発達、高次機能障害 | | | | |
| 授業の目標 | 大脳生理学および知覚・認知・感情・行動などの精神活動と脳の働きの関係について理解する。さらに脳損傷によって生じる認知・行動・感情の障害について紹介し、人間の脳機能と心理学的神経科学的メカニズムについて理解を深める。 | | | | |
| 学習内容 | 脳の基本的な構造と機能、脳の発達、意識とは何か？について理解する。さらに人間の心の働きと脳がどのように関連しているか、最近の知見を紹介しながら、脳のメカニズムについて理解を深める。また、脳損傷によって生じる認知・行動・感情の障害について学びながら、神経心理学的評価方法、認知リハビリテーションなどの介入方法の基礎について取り上げる。さらに、脳が引き起こす心の病気について、脳機能障害という視点から解説する。 | | | | |
| 授業計画 | <p>回 内容</p> <p>1 第1回 オリエンテーション、神経心理学の歴史、先人達はどのように脳の正体に迫っていたか？</p> <p>2 第2回 脳の構造、解剖学的基礎と神経細胞</p> <p>3 第3回 脳の発達、神経細胞の発生、胎児の脳の発達</p> <p>4 第4回 脳と意識、意識とは何か？、脳波</p> <p>5 第5回 記憶と脳、記憶障害</p> <p>6 第6回 知能とは何か？大脳皮質の進化とヒト</p> <p>7 第7回 知覚と知覚の異常、視覚性失認、聴覚性失認、触覚性失認</p> <p>8 第8回 確認小テスト、フィードバック</p> <p>9 第9回 行為の障害、失行、行為制御障害</p> <p>10 第10回 言語、失語、失読、失書、失算</p> <p>11 第11回 遂行機能とは？高次脳機能障害</p> <p>12 第12回 脳の老化、加齢による脳の変化</p> <p>13 第13回 脳が引き起こす心の病気①うつ病、PTSD</p> <p>14 第14回 脳が引き起こす心の病気②依存症、認知症</p> <p>15 第15回 確認小テスト、フィードバック、まとめ</p> | | | | |
| 受講要件 | 心理学概論および基礎心理学を取得済みであること | | | | |
| テキスト | 特に定めず。毎回資料、プリントを配布する。 | | | | |
| 参考書 | 「CLINICAL REHABILITATION」別冊 高次脳機能障害のリハビリテーション Ver.2, 江藤文夫・武田克彦・原寛美ほか編, 医歯薬出版, 2004年 | | | | |
| 予習・復習について | 配布資料をよく読み、復習をきちんと行ってください。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 1/3以上欠席すると評価は不可とする。試験70%（小テストを2回実施）、出席30%、で評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 金曜日 10:20～11:50。kohda.rumiko@shizuoka.ac.jp に連絡し事前にアポイントを取って下さい。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 難易度 C 好奇心旺盛な姿勢を期待します。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|--------------|-----------|
| 授業科目名 | アートマネジメント概論 | | | | |
| 担当教員名 | 井原 麗奈 (IHARA Rena) | | 所属等 | 地域創造学環 | |
| | | | 研究室 | 教育学部 A 棟 204 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金 5・6 |
| キーワード | アート、芸術文化、公共性、地域アイデンティティ | | | | |
| 授業の目標 | 芸術と社会を結びつけることに対する興味、社会のシステムとその背景に対する理解を深めることを目標とします。 | | | | |
| 学習内容 | 芸術の社会における必要性、重要性を理解し、それを広めるために採られているシステムや方法を先行事例から学びます。 | | | | |
| 授業計画 | <p>1 : 「アートマネジメント」「芸術文化」という言葉と概念 2 : 芸術の概念と分野 及び その歴史 3 : 芸術文化の社会との関わり合いの歴史 4 : 芸術文化に関わる法律と条例 5 : 芸術文化組織について 6 : アートイベントと地域振興 7 : アートマネジメントの具体的事例</p> <p>回 内容 1 「アートマネジメント」「芸術文化」という言葉と概念 2 芸術の概念と分野 及び その歴史 1 3 芸術の概念と分野 及び その歴史 2 4 芸術の概念と分野 及び その歴史 3 5 芸術文化の社会との関わり合いの歴史—外国の場合 6 芸術文化の社会との関わり合いの歴史—日本の場合 7 芸術文化に関わる法律と条例 1 8 芸術文化に関わる法律と条例 2 9 芸術文化組織について—実演団体と活動を推進・支援する団体 10 芸術文化組織について—文化施設 11 アートイベントと地域振興 1 12 アートイベントと地域振興 2 13 アートマネジメントの具体的事例 1 14 アートマネジメントの具体的事例 2 15 まとめ</p> | | | | |
| 受講要件 | あらゆる芸術のジャンル（美術、ダンス、演劇、音楽、古典、映画等）に対して興味を持っていること。 | | | | |
| テキスト | 小林真理・片山泰輔監修・編、伊藤裕夫・中川幾郎・山崎稔恵編『アーツ・マネジメント概論』水曜社、2009年。 | | | | |
| 参考書 | 講義でそのつど案内します。 | | | | |
| 予習・復習について | 聞き慣れない言葉が頻出しますので、意味を覚えるよう、心がけてください。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 授業中に小テストを実施。また学期中に 2 回の発表を課し、期末レポートの評価をくわえて評価します。 小テスト 30 点+発表 20 点+期末レポート 50 点 | | | | |
| オフィスアワー | 水曜日 3 コマ目 前日までに ihara.rena@shizuoka.ac.jp (*を@に変える) にご連絡ください。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | <p>※注 1 : この授業は学環指定科目ですが、シラバス・成績・学生通知などの事務は人文社会科学部が担当しています。</p> <p>※注 2 : この授業は学科共通科目として開講されています。言語文化学科の学生であれば履修可能ですが、2015 年度以前の入学者（今年度の 3 年生以上）には要卒単位として認められませんので、注意してください。</p> <p>アートイベントに対して興味を持ち、出来る限り自分の目で見えて体験し、考えることを習慣化してください。関連の書籍や映像などから情報を得ることも、思考を深めるために有益でしょう。そうすることで授業内容と自分との接点生まれ、より深い理解が得られます。</p> | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|--------------|-----------|
| 授業科目名 | 英語学概論 I (Introduction to English Linguistics I) | | | | |
| 担当教員名 | 大村 光弘 (OMURA Mitsuhiro) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文 A 棟 4 2 7 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 2 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金 5・6 |
| キーワード | 機能主義、意味論、語用論、英語史、認知言語学 | | | | |
| 授業の目標 | 英語の統語論(機能主義)・(認知) 意味論・語用論を中心に、英語学の基礎知識を学習する。 | | | | |
| 学習内容 | 言葉の意味や機能、言葉を使う人間の心のはたらきといった観点から言語現象を分析するときの方法論を学ぶ。 | | | | |
| 授業計画 | 以下に示した授業計画に従って言語学の基礎知識を学ぶ。 1 ガイダンス+統語論 (機能主義) 2 統語論 (機能主義) 3 統語論 (機能主義) 4 統語論 (機能主義) 小テスト 1 + 意味論 5 意味論 6 意味論 7 意味論+語用論 8 意味論小テスト+語用論 9 語用論 10 語用論 11 語用論+英語史 12 語用論小テスト+英語史 13 英語史 14 英語史 15 英語史 16 英語史小テスト | | | | |
| 受講要件 | 「英語学基礎読解」とあわせて履修するのが望ましい。 | | | | |
| テキスト | テキストは使用せず、配布資料にもとづいて授業を行う。 | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて適宜紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | 復習により重点を置いた学習を勧める。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 4 回の小テストの結果 (90%) + 平常点 (10%) で評価する。欠席 (30 分以上の遅刻は欠席 1 回とみなす) は 3 回までとする。 | | | | |
| オフィスアワー | 火曜 (12:00-13:00、事前に連絡を頂ければこれ以外の時間帯も可) 連絡先メールアドレス: jjmohmu@ipc.shizuoka.ac.jp | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 1. 県立大学単位互換 (認める) 2. 科目等履修生 (認める) 3. 難易度 (B) 授業内容で理解できなかった事柄や疑問点をそのままにしないで、担当教員に質問するなどして理解を深めてほしい。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | アジア経済論Ⅱ (Asian EconomyⅡ) | | | | |
| 担当教員名 | 朴 根好 (PARK Keunho) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 共通L棟406 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火5・6 |
| キーワード | 開発経済学、アジア経済の発展経路、東アジアの奇跡、輸出指向工業化、グローバル戦略、イノベーションとビジネス化 | | | | |
| 授業の目標 | アジアの工業化について、その成長の実態及び特徴をまず把握し、それに企業や政府がどのような役割を果たしてきたかを考察する。 | | | | |
| 学習内容 | アジア諸国は、産業構造の高度化および経済規模の拡大にともない、人々の所得も大きく伸び、アジア NIES などは先進国の仲間入りを果たしている。とりわけアジア NIES を中心に、どのように産業競争力を強化し、世界経済へのプレゼンスを高まってきたか、なお今後の課題について考えてみることにしたい。 | | | | |
| 授業計画 | 1.アジア経済の発展経路と工業化 (1) 成長のアジア・停滞のアジア (2) アジア成長のメカニズム：輸出指向工業化 (3) アジア経済の重心移動と「東アジアの奇跡」 (4) アジア経済のターニング・ポイント：1965年 2.グローバル時代の東アジアの競争力 (1) オイルダラーの還流メカニズム (2) アジア経済危機の明暗：韓国と台湾の比較 (3) 経済危機から回復へ：韓国の経済改革 (4) 韓国企業のグローバル経営戦略：ケース・スタディ SAMSUNG 3.東アジアのイノベーションと日本の課題 (1) 韓国のイノベーション戦略とビジネス化 (2) 台湾の産業戦略とベンチャービジネス (3) 都市国家シンガポールの人材戦略 (4) 新興先進工業国の課題：豊かな社会への条件 | | | | |
| 受講要件 | | | | | |
| テキスト | なし。プリント資料を配布する予定。 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 予習・復習について | 毎回、宿題のプリント配布。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 筆記試験 60%、小レポート 40%を目安に、総合的に考慮のうえ評価する予定。 (詳しくはガイダンスで) | | | | |
| オフィスアワー | 毎週火曜日 17時～18時 (予定) | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 1. 県立大学単位互換 (認める) 2. 科目等履修生 (認める) 3. 難易度 (B) | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | 地域社会と福祉 | | | | |
| 担当教員名 | 山本 崇記 (YAMAMOTO Takanori) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 人文 C 棟 408 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金 7・8 |
| キーワード | 地域福祉、福祉社会学、ソーシャルワーク、社会的排除/包摂、当事者性 | | | | |
| 授業の目標 | 現在、地域社会における福祉の充実が求められている。その社会的背景と条件整備について理解することを目標とする。特に、地域社会は少子高齢化がますます進み、「消滅可能性」すら叫ばれている。そういった中で、地域福祉はどのように組み立てられるのか。国、自治体、地域社会、民間組織、専門職、ボランティアなどがどのように関わり、どのように連携することが適切なのか。ソーシャルワークの展望についても考えていく。 | | | | |
| 学習内容 | 指定したテキストが取り上げる内容を中心に授業を実施していく。関連するテーマに関わる新聞記事やドキュメンタリーなども適宜使用し、理解を深めていく。また、関連する参考文献なども適宜紹介し、ビギナーから専門的な知識を得ることができるように進めていく。 | | | | |
| 授業計画 | <p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス：住民・市民参加の地域福祉の時代 2 地域社会と生活 3 地域福祉政策の変化 4 福祉コミュニティの形成 5 コミュニティワーカーについて (1) 6 コミュニティワーカーについて (2) 7 ボランティアとコミュニティワーク 8 地域福祉実践 9 地域福祉の基盤整備と情報化 10 地域福祉計画と地域包括ケア 11 地域福祉の資金と財源 12 地域福祉の公的財源 13 地域福祉の民間財源 14 地域福祉の実践者を招いて (ゲストスピーカー)：多文化ソーシャルワークという実践 15 授業のまとめ | | | | |
| 受講要件 | 福祉社会学や社会福祉学、地域福祉に対する関心を持っていることが望ましい。 | | | | |
| テキスト | 牧里毎治ほか編『ビギナーズ地域福祉』(有斐閣、2013年) | | | | |
| 参考書 | 授業毎に適宜指示する。 | | | | |
| 予習・復習について | 毎回の授業で扱う章を事前に読み授業に臨むこと。また、授業後にはレジュメ等の資料を読み直し、理解を図ること。その他、地域福祉に関連する情報を、テレビ(ドキュメンタリー)や新聞(インターネットの記事を含む)などで積極的に収集することを求める。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 毎回の授業への参加度合い及び中間・最終レポートで評価を行う。それぞれの配点については、初回の授業などでアナウンスを行う。 | | | | |
| オフィスアワー | 初回授業時にアナウンスする。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | <p>地域福祉は、現在、社会的関心がますます強まっている領域である。しかし、一方で、「福祉」がもたらす消極的な側面については十分な関心が向けられていない。福祉や地域社会に関わる様々な諸課題について、受講者と共に考えていきたい。</p> <p>1. 県立大学単位互換 (認めない) 2. 科目等履修生 (認めない) 3. 難易度 (A)</p> | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | 会計学Ⅱ (AccountingⅡ) | | | | |
| 担当教員名 | 永田 守男 (NAGATA Morio) | | 所属等 | 学術院人文社会科学領域 | |
| | | | 研究室 | 共通L棟324 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 人文専門 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金9・10 |
| キーワード | 複式簿記、ディスクロージャー、財務諸表、会計基準 | | | | |
| 授業の目標 | 企業会計とは、企業の行う経営活動について貨幣価値尺度を用いて記録し、分析し、報告するシステムをいいます。会計学の講義では、そうした企業会計のシステムを対象に、そのシステムの内容とそれを成立させる社会制度的要因（法律、政治、経済、文化）との関係についても学びます。 | | | | |
| 学習内容 | 会計学Ⅰを履修済であることを前提に、貸借対照表貸方項目である負債・純資産について具体的に説明します。つぎに損益計算書項目である収益・費用について概説し、その具体的な項目について説明します。基本的な（個別）財務諸表の枠組みについて確認したのちに、連結財務諸表に関する基礎知識を説明します。これらを踏まえ、いくつかの企業の実際の財務諸表を例にして、それらが意味するものを把握することになります。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 会計学Ⅰの復習および負債の意義と分類 2 貸借対照表1－社債 3 貸借対照表2－引当金 4 貸借対照表3－退職給付債務 5 貸借対照表4－資産・負債・純資産の確認 6 貸借対照表5－純資産の意義・構成と株主資本 7 貸借対照表6－純資産と資本取引 8 貸借対照表7－純資産と損益取引 9 貸借対照表8－評価・換算差額等、繰延ヘッジ損益、新株予約権 10 損益計算書1－収益の認識と測定 11 損益計算書2－長期請負工事の収益認識、および費用の認識と測定 12 損益計算書2－費用 13 株主資本等変動計算書 14 連結財務諸表1－個別財務諸表と連結財務諸表および連結の範囲 15 連結財務諸表2－連結財務諸表の作成 | | | | |
| 受講要件 | 会計学Ⅰが受講済であることを前提にしています。 | | | | |
| テキスト | 佐藤誠二・石川文子・永田守男著『会計のしくみ』森山書店、2015年、2,300円（税別） | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて講義中に指示します。 | | | | |
| 予習・復習について | 連続する講義の内容を整理し、授業にのぞむことが好ましいです。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 期末の筆記試験にもとづいて評価します。 | | | | |
| オフィスアワー | 水曜日 17:45～18:45 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 会計学と簿記は密接に結びついています。簿記Ⅰ・Ⅱの学習が不十分だった受講者は各自復習をする必要があります。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|--------------|----------|
| 授業科目名 | 応用数学基礎 (Elements of Applied Mathematics) | | | | |
| 担当教員名 | 畑 宏明 (HATA Hiroaki) | | 所属等 | 学術院教育学領域 | |
| | | | 研究室 | 教育学部 I 棟 408 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 数学 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 ー |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月 9・10 |
| キーワード | 確率、統計 | | | | |
| 授業の目標 | 確率統計の基礎の完成 | | | | |
| 学習内容 | 組合せ計算、確率とその計算、期待値、分散、標本データ、推定、検定の基礎を学ぶ。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 個数の処理、順列と組合せ、二項定理 2 確率とその計算、事象の独立 3 条件付き確率、ベイズの定理 4 確率変数、期待値、分散 5 2項分布(1) 6 2項分布(2) 7 標本と母集団 8 確率分布の性質 9 正規分布、2項分布の正規近似 10 推定とは・・・ 11 区間推定 12 仮説と2種類の誤り 13 平均値の検定 14 相関と回帰(1) 15 相関と回帰(2) | | | | |
| 受講要件 | 集合と論理基礎、微分積分学基礎を受講していること。 | | | | |
| テキスト | 篠田正人著『教育系学生のための数学シリーズ 確率論・統計学入門』共立出版 | | | | |
| 参考書 | 講義中に紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | 講義中に指示する。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 中間試験、学期末試験で評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 初回の講義で紹介する。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 確率、統計の基礎を高校の復習から学んでいきます。講義だけではなく、演習レポートを通じて確率統計を実践的に理解してもらえればと思います。また、統計(推定、検定)を扱うため、関数電卓があることがより望ましいです。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-----------|--------|
| 授業科目名 | 生涯スポーツ指導演習 (Practice for Life Long Sports Education) | | | | |
| 担当教員名 | 横山 義昭 (YOKOYAMA Yoshiaki) | | 所属等 | 学院院教育学領域 | |
| | | | 研究室 | 共通教育D棟304 | |
| 分担教員名 | 祝原 豊 | | | | |
| クラス | 生ス | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 |
| 対象学年 | 4年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月9・10 |
| キーワード | 生涯スポーツ、指導方法 | | | | |
| 授業の目標 | 3年次までに学習した専門知識を基礎とした総合的な指導演習として位置づける。生涯スポーツを念頭とした指導案の作成と指導者としての資質を身につける。 | | | | |
| 学習内容 | 社会体育を念頭に置いた題材から、2人もしくは3人で60分の指導案を考え、模擬教室を行う。生涯スポーツの教室となるような内容を考えていく。 | | | | |
| 授業計画 | 1 ガイダンスと講義 2 模擬教室の進め方の説明 3 模擬教室の概要発表・検討 4 模擬授業の発表 5 模擬教室 (1) 6 " (2) 7 " (3) 8 " (4) 9 " (5) 10 " (6) 11 " (7) 12 " (8) 13 " (9) 14 " (10) 15 模擬教室の反省・まとめ 16 模擬教室のレポートの提出 | | | | |
| 受講要件 | 生涯スポーツ専攻のまとめとなるよう一生懸命行うこと | | | | |
| テキスト | 授業で紹介 | | | | |
| 参考書 | 授業で紹介 | | | | |
| 予習・復習について | 授業で指示します | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 授業への取り組み、レポートと模擬教室などから総合評価する。なお、演習であることから100%の出席が必要である。 | | | | |
| オフィスアワー | 生涯スポーツ専攻の掲示板 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | ペアを組んで指導案の作成等を行うので必ず出席すること。生涯スポーツに関する書籍を必ず1冊読むこと | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-----------|-----------|
| 授業科目名 | 書道研究 (Study of Calligraphy) | | | | |
| 担当教員名 | 杉崎 哲子 (SUGIZAKI Satoko) | | 所属等 | 学術院教育学領域 | |
| | | | 研究室 | 教育学部A棟602 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 教員養成 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火1・2 |
| キーワード | 臨書、倣書、創意工夫 | | | | |
| 授業の目標 | 書写としての楷書・行書以外の書道史上の代表的な古典の臨書と創作を行い、漢字書の美しさを感得する。 | | | | |
| 学習内容 | 創作の導入として、ある古典を臨書した後その書風で別の語句を書く方法である倣書を学習し、臨書能力の定着を図る。ここでは既習の楷書・隸書・篆書に行書・草書を加えた代表的古典の倣書を取り上げた後、段階的に創意を加えていく。また、これによって身についた力を生活に生かすという用の側面も含めて「書道」について考える。 | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1 楷書古典（初唐）の臨書 2 楷書古典（初唐）の倣書 3 楷書古典（北魏）の臨書 4 楷書古典（北魏）の倣書 5 行書・草書古典の臨書 6 行書・草書古典の倣書 7 隸書・篆書古典の臨書 8 隸書・篆書古典の倣書 9 漢字一字書きの初歩的創作 10 漢字かな混じりの文の初歩的創作 11 自由素材による創作 12 仮名の基本（単体、連綿、変体仮名） 13 仮名の臨書、創作（ちらし書き） 14 条幅作品創作 15 まとめ（含裏打ち・表装について） | | | | |
| 受講要件 | | | | | |
| テキスト | 『書の古典と理論』大学書道学会編(光村図書) 『改訂 大学書写・書道教育』 第一法規 | | | | |
| 参考書 | 『中国書法選・中国書法ガイド』（二玄社） | | | | |
| 予習・復習について | | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 出席と課題作品の提出状況と内容 | | | | |
| オフィスアワー | 月曜昼休み | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 沢山の古典についての実技指導を半期でやる関係上、必要に応じて課題を出しますが、空いている時間に書道室を使う等して書いてくれば、その都度、添削などでサポートします。高等学校の書道教員には必須のことなので、制作した作品の展示も考えています。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|--------------|----------|
| 授業科目名 | 集合と論理 (Sets and Logic) | | | | |
| 担当教員名 | 山田 耕三 (YAMADA Kohzo) | | 所属等 | 大学院教育学領域 | |
| | | | 研究室 | 教育学部 I 棟 401 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 数学 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 ー |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火 3・4 |
| キーワード | 実数、有理数、無理数、無限、有限 | | | | |
| 授業の目標 | 写像（関数）について学んだ後、実数の性質と無限集合について考える。 | | | | |
| 学習内容 | 実数の性質と無限の概念について、演習を交えながら講義をする。 | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 写像と関数 2. 写像と関数 3. 写像と集合の演算 4. 写像と集合の演算 5. 有理数と無理数 6. 有理数と無理数 7. 実数の性質 8. 実数の性質 9. 実数の性質 10. 有限と無限 11. 有限と無限 12. 集合の濃度 13. 集合の濃度 14. 可算集合と非可算集合 1 15. 可算集合と非可算集合 2 | | | | |
| 受講要件 | 前期の「集合と論理基礎」を受講していること。 | | | | |
| テキスト | 大田春外著『はじめての集合と位相』日本評論社を前期に引き続き使用する。 | | | | |
| 参考書 | 講義中に紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | 授業後にしっかり復習して、ノートを整理し、演習問題を解くことが重要である。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 数回行う小テスト、中間テストと期末試験の成績を総合して判断します。 | | | | |
| オフィスアワー | 講義のはじめに知らせます。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-----------|----------|
| 授業科目名 | 書写基礎 (The Basic Handwriting) | | | | |
| 担当教員名 | 杉崎 哲子 (SUGIZAKI Satoko) | | 所属等 | 大学院教育学領域 | |
| | | | 研究室 | 教育学部A棟602 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | A組 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 ー |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火5・6 |
| キーワード | 書写、字形、字体、筆順 | | | | |
| 授業の目標 | 小中学校国語科書写の内容を講義と実技を通して理解し、書写の原理を把握する。 | | | | |
| 学習内容 | 「毛筆は硬筆の基礎を養う」との観点から、毛筆を中心に書写の基本を系統的・段階的に学習する。 | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 基本点画 3. 字形のとり方①(長短、画間、方向) 4. " ②(交わり方、接し方) 5. " ③(組立て方・左右) 6. " ④(" ・上下) 7. " ⑤(" ・内外) 8. 平仮名 9. 片仮名 10. 行書の特徴①(変化・連続) 11. " ②(省略) 12. 文字の大小 13. 配置・配列 14. 書式 15. まとめ | | | | |
| 受講要件 | 中学校国語免許取得予定者。原則として、Aは国語教育専修と書文化専攻、Bは他の専修・専攻。 | | | | |
| テキスト | 『新編書写指導』全国大学書写書道教育学会編 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 予習・復習について | 適宜宿題を課す | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 毎時の提出課題(毛筆、硬筆)の質と最終回の筆記試験によって、理解度と取り組みの姿勢、技能面を見る。筆記試験の結果は40%反映させる。実技科目であるため、欠課時数が総授業時数の5分の1を超えた場合は基本的に単位を認めることは難しい。 | | | | |
| オフィスアワー | 火曜昼休み | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 作品の出来不出来などの技能的な結果ばかりを気にするのではなく、原理原則を理解して指導できるようになるという自覚を持って、意欲的に「書く」ようにしてください。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-----------|-----------|
| 授業科目名 | 代数学Ⅱ (Algebra Ⅱ) | | | | |
| 担当教員名 | 谷本 龍二 (TANIMOTO Ryuji) | | 所属等 | 学院院教育学領域 | |
| | | | 研究室 | 教育学部Ⅰ棟403 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 数学 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火7・8 |
| キーワード | 群、部分群、正規部分群、剰余群、直積群、群準同型 | | | | |
| 授業の目標 | 位数が10以下の有限群を分類することができる。 | | | | |
| 学習内容 | 群の定義は、集合と写像の言葉を用いてあたえられている。そこで、集合と写像についての簡単な復習から始める。群があたえられたとき、その群から、新しい群が構成できることについても述べる。このような構成法や群準同型定理をもとに、位数が10以下の有限群の分類をあたえる。 | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 集合と写像 2. 群 3. 部分群 4. 正規部分群と剰余群 5. 直積群 6. 群準同型 7. 位数が10以下の有限群の分類 | | | | |
| 受講要件 | 代数学Ⅰを履修していることが望ましい。 | | | | |
| テキスト | | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 予習・復習について | | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | テスト70点、小テスト30点を用いて成績評価をする。 | | | | |
| オフィスアワー | | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|----------------|--------|
| 授業科目名 | 微分積分学 (Calculus) | | | | |
| 担当教員名 | 大和田 智義 (OWADA Tomoyoshi) | | 所属等 | 学院院教育学領域 | |
| | | | 研究室 | 教育学部 I 棟 4 1 0 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 数学 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 |
| 対象学年 | 1 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火 9・10 |
| キーワード | テイラー展開、不定積分、定積分、広義の積分 | | | | |
| 授業の目標 | 微分積分学の基礎を学ぶ。 | | | | |
| 学習内容 | 高等学校で数学 III を履修していないことを前提にして、下記の授業計画にしたがって微分積分学の講義を行う。 前期の「微分積分学基礎」の続き。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 微分法の応用 4 2 微分法の応用 5 3 不定積分 1 4 不定積分 2 5 不定積分 3 6 不定積分 4 7 小テスト 8 定積分 9 微分積分法の基本定理 10 簡単な関数の不定積分 11 置換積分法 12 部分積分法 13 有理関数の積分 14 無理関数の積分 15 小テスト | | | | |
| 受講要件 | 前期「微分積分学基礎」を受講していること。 | | | | |
| テキスト | 書名：基礎微分積分 著者・編者：茂木勇、横手一郎 出版社：裳華房 | | | | |
| 参考書 | 講義中に紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | 講義中に指示する。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 最初の講義で伝えます。 | | | | |
| オフィスアワー | 最初の講義で伝えます。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 高校までの計算主体の講義から、「何故そうなるのか」という理論展開を中心とした講義になります。理論的な考え方は講義を聞くだけでは身につけません。授業で学習した内容を、自分の力で正しく理解できるようになるまで、何度でもノートを読み返して復習するようにしてください。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|----------------|-----------|
| 授業科目名 | 解析学Ⅱ (Analysis II) | | | | |
| 担当教員名 | 大和田 智義 (OWADA Tomoyoshi) | | 所属等 | 大学院教育学領域 | |
| | | | 研究室 | 教育学部 I 棟 4 1 0 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 数学 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 5・6 |
| キーワード | 2変数関数、偏微分、重積分 | | | | |
| 授業の目標 | 2変数(多変数)で定義された関数の微分積分について学習します。理論的な背景を正しく理解して、具体的な関数で実際に計算が出来ることが目的です。 | | | | |
| 学習内容 | 解析学Ⅰの続きの授業です。2変数関数の微分法(偏微分)や積分法(重積分)について学習します。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 2変数の関数 2 偏導関数 3 高次偏導関数・全微分 4 合成関数 5 陰関数 6 関数の展開 7 極大・極小 8 陰関数の極値 9 条件付き極値 10 累次積分 11 積分順序の変更 12 2重積分 13 極座標による2重積分 14 3重積分 15 体積 | | | | |
| 受講要件 | 解析学Ⅰの授業の続きだから、それを承知で受講すること。 | | | | |
| テキスト | 微分積分概論(数学基礎コース)高橋 泰嗣・加藤 幹雄 著 サイエンス社 ISBN-10: 478190873X | | | | |
| 参考書 | 「やさしく学べる微分積分」石村園子著 共立出版 | | | | |
| 予習・復習について | 復習は必ず行うこと。教科書の問題を常に解くようにすること。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 2回行う小テスト、レポートおよび授業の取組み等で総合的に判断する。 | | | | |
| オフィスアワー | 最初の講義で指示します。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | ノートをしっかりと、学習した内容を暗記するのではなく、どのように理論が展開されて行くのかを理解すること。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|--------------|-----------|
| 授業科目名 | 児童家庭福祉 (Child & Family Welfare) | | | | |
| 担当教員名 | 石原 剛志 (ISHIHARA Tsuyoshi) | | 所属等 | 学術院教育学領域 | |
| | | | 研究室 | 教育学部 I 棟 202 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 幼児 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 5・6 |
| キーワード | 子どもの権利、児童福祉法、児童虐待、保育、養護、非行、障害、子育て支援、自立支援 | | | | |
| 授業の目標 | <p>児童福祉の対象は、被虐待の状態にある子ども、「保育に欠ける」子ども、障害のある子ども、いわゆる「非行少年」等を中心としつつ、18歳未満のすべての子どもである。近年では、子どもだけではなく親への支援も児童福祉の重要な役割と見なされるようになってきた。こうした幅広い領域における各施設や事業で行われている実践について、実態を知り、自ら探求でき、子どもの権利擁護・保障という視点から捉える力をつけることがこの授業の目標となる。そのために、児童福祉関係法規を読みこなすリテラシーや、メディアでも頻繁にとりあげられる問題について正確に読みこなすリテラシーも求められる。また、各施設での現状について調べるためには、文献などを探索し、まとめるリテラシーも重要となる。</p> | | | | |
| 学習内容 | <p>児童福祉は、子どもの健やかに育つ権利を、親に代わってあるいは親を支えながら保障するための公共的サービスである。このサービスの現実と課題を、理念と歴史、子どもの権利と親権と国家との関連、法と実施体制、専門職の倫理と専門性、施設・事業の各論等の個別テーマの学習を通して理解する。</p> | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども観の発展と児童福祉の成立 2. 子どもの状態史と子どもの権利思想の発展 3. 世界の子ども状態と子どもの権利 4. 児童福祉の法体系 5. 児童福祉の制度と機関 児童相談所を中心に 6. 児童福祉の行財政と負担問題 7. 少子化対策の動向と児童福祉 8. 児童福祉施設・事業 (1) 保育所・児童厚生施設 9. 児童福祉施設・事業 (2) 障害児のための施設 10. 児童福祉施設・事業 (3) 児童養護施設 11. 児童福祉施設・事業 (4) 児童自立支援施設 12. 児童福祉施設・事業 (5) 児童相談所 13. 児童福祉施設・事業 (6) 母子生活支援施設 14. 児童福祉施設・事業 (7) 里親制度 15. 児童福祉分野で働く専門職の倫理と専門性 | | | | |
| 受講要件 | | | | | |
| テキスト | 別途、指示する。 | | | | |
| 参考書 | 社会福祉・社会保障関係の辞典（レポートや発表の準備においては必ず参照すること）。その他、開講後、紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | 必要に応じて予習／復習課題を指示し、レポート課題とする予定。指定したテーマについての発表を課題とすることがある。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 配布プリントやレポートなどはファイルに綴じて管理すること。必要に応じて、綴じられたファイルを提出してもらうこともある。ファイリングされた内容、学期中や学期末に課すレポートや発表、授業への参加のあり方などを評価対象とする。 | | | | |
| オフィスアワー | 木 3・4 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | <p>児童福祉（児童家庭福祉）といえば「恵まれない子どもを救う、守る」というイメージで捉える人がいます。このイメージからすれば、これを担う職員には「愛情」という情緒的なものを求める人もいるでしょう。それはそれで大事なのですが、児童福祉の職員には、同時に専門職としての技能・認識・倫理が求められます。例えば、児童虐待などがあれば親権の行使を制限したり、親権を代行したり、非行をおこした子どもの自由を制限したり、と権利と権利の葛藤のなかで展開されることも多く、法的なリテラシーも欠かせません。関わりの難しい子どもや保護者に対する対人援助の技能や理論も必要です。熱いハートと冷静な思考が求められる児童福祉の現場の実際と、理論・思想を往復しながら学びましょう。</p> | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|----------|----------|
| 授業科目名 | 実解析学入門 (Introduction to Real Analysis) | | | | |
| 担当教員名 | 松本 敏隆 (MATSUMOTO Toshitaka) | | 所属等 | 学術院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部C棟510 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 必 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月3・4 |
| キーワード | σ 集合体、測度、可測空間、可測関数、Lebesgue の収束定理 | | | | |
| 授業の目標 | σ 集合体、測度、可測空間、可測関数などの定義を体得し、Lebesgue 積分に関する定理の証明において、その行間の内容を補って理解できること、及び、積分記号と極限記号の交換可能性を意味する単調収束定理、Lebesgue の収束定理など基本的で重要な定理の修得を目標とする。 | | | | |
| 学習内容 | Lebesgue 積分は、Riemann 積分の問題点（完備性の欠落など）を改良した積分である。まず、広い意味の長さを指す言葉「測度」の概念を導入し、その性質を調べる。さらに、関数の積分を定義するために、被積分関数として「可測関数」の概念を導入する。それらをもとに Lebesgue 積分を定義し、積分に関する諸定理（単調収束定理、Lebesgue の収束定理など）を解説する。 | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 集合とその演算 2. Riemann 積分と面積 3. σ集合体 4. 測度の定義と諸性質 5. 測度空間の完備化 6. 外測度 7. Hopf-Kolmogorov の拡張定理 8. k 次元 Lebesgue 測度の構成 9. k 次元 Lebesgue 測度空間の諸性質 10. 可測関数の定義と諸性質 11. Egorov の定理 12. Lusin の定理 13. 積分の定義 14. 積分に関する諸性質 15. 収束定理 | | | | |
| 受講要件 | 微分積分学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの内容を理解していることが望ましい。 | | | | |
| テキスト | 特になし。 | | | | |
| 参考書 | ルベーグ積分入門、伊藤清三、裳華房 測度と積分、鶴見茂、理工学社、4-8445-0115-1 | | | | |
| 予習・復習について | 予習と復習を行い、理解度を高めてほしい。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 成績評価の主要部は試験の成績の良否による。関連したレポート問題を課す場合には、その実績も考慮する。試験やレポートでの評価は論理的解答および記述が求められる。 | | | | |
| オフィスアワー | 初回の講義の際に時間を設定する。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 測度論は、関数解析学、偏微分方程式論で学ぶ L^p 空間（ p 乗可積分空間）の基礎であり、確率論や偏微分方程式への応用にも用いられる理論である。実数論や集合論と関係する抽象的な概念のため、初めのうちは取り付きにくい感じがするかも知れないが、行間の内容を補い理解を深めて欲しい。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | 幾何学 I (Geometry I) | | | | |
| 担当教員名 | 久村 裕憲 (KUMURA Hironori) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部 C 棟 603 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 3 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月 3・4 |
| キーワード | ガウス写像、第一基本形式、第二基本形式、ガウス曲率、測地線、ガウス・ボンネの定理 | | | | |
| 授業の目標 | ガウス・ボンネの定理を目標にする。 | | | | |
| 学習内容 | 微分積分学や線形代数学を使って曲面の‘入り方’を調べることから、曲率が実は内在的な量であること(ガウス)ことを学ぶ。ガウス・ボンネの定理の意味を理解することを目標にする。 | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 曲面の概念と例 2. 法ベクトルとガウス写像 3. 曲面の第一基本量 4. 曲面の第二基本量、形作用素 5. ガウス曲率と平均曲率 6. 正規直交フレームを使う方法 7. 外微分形式を使う方法 8. ガウス・ボンネの定理 | | | | |
| 受講要件 | 微分積分学・線形代数学を学んでいること。 | | | | |
| テキスト | 小林昭七著「曲線と曲面の微分幾何(改訂版)」裳華房 | | | | |
| 参考書 | 梅原雅顕・山田光太郎著「曲線と曲面(改訂版)-微分幾何的アプローチ」裳華房 | | | | |
| 予習・復習について | 予習・復習をテキストで行うこと。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 出席・試験等を総合的に判断して成績評価を行う。 | | | | |
| オフィスアワー | 最初の授業の時に言います。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 極易しいところから、曲面論は始まります。絵を描いたりして学びましょう。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|---------|----------|
| 授業科目名 | 有機化学IV (Organic Chemistry IV) | | | | |
| 担当教員名 | 塚田 直史 (TSUKADA Naofumi) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理 B312 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 必 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月 3・4 |
| キーワード | 有機化学、官能基、構造、反応、反応機構 | | | | |
| 授業の目標 | 有機化合物の構造と反応を理解する | | | | |
| 学習内容 | 有機化学Ⅲの講義に引き続き、以下の項目についてテキストをもとに講述する。本講義で取り扱う内容は、現代有機化学の基礎を数多く含んでいる。有機反応の原理と多様性、材料・医薬品合成などの基礎をなす有機合成化学の重要性など、有機化学の魅力を感じてほしい。 | | | | |
| 授業計画 | <p>テキストに従って以下の章を解説する。</p> <p>15章 ベンゼンと芳香族性:芳香族求電子置換反応 16章 ベンゼン誘導体への求電子攻撃:置換基による位置選択性の制御 17章 アルデヒドとケトン:カルボニル基の化学 18章 エノール、エノラートとアルドール縮合:α, β-不飽和アルデヒドおよびケトン</p> | | | | |
| 受講要件 | | | | | |
| テキスト | 「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 下(第6版)」(古賀憲司・野依良治ら監修)(化学同人) | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 予習・復習について | 予習、復習を励行して欲しい。また、テキストの練習問題を解くことが望ましい。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 期末試験により評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 時間がある限り随時対応する。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|---------|-----------|
| 授業科目名 | 植物生化学 (Plant biochemistry) | | | | |
| 担当教員名 | 天野 豊己 (AMANO Toyoki) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 総 721 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月 3・4 |
| キーワード | タンパク質、葉緑体、光合成、分子シャペロン、膜透過、老化、過敏反応 | | | | |
| 授業の目標 | 植物のタンパク質合成および分解の分子機構を、発生および分化、老化と合わせて総合的に理解する。 | | | | |
| 学習内容 | 光化学系の構造と機能、その構築機構、膜透過装置の作用機構などについて、タンパク質の立体構造とその機能変化の視点から解説を行う。これらのタンパク質複合体が形成する上で重要な分子シャペロンの作用機構および膜透過に関与するトランスロケーターについて解説する。また植物の老化および病原菌への作用機構など、生理学的に興味深い現象についても解説を行う。 | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 植物の熱ショック応答の分子機構 2. 分子シャペロンの構造と機能 3. 葉緑体へのタンパク質の輸送 4. タンパク質の輸送とブラウン運動 5. 葉緑体におけるタンパク質分解 6. 光化学系の構造と変動 7. 光リン酸化の分子機構 8. プロテアーゼによる基質認識メカニズム 9. 植物の老化過程の分子機構 10. 植物病原体に対する応答 | | | | |
| 受講要件 | 植物の生化学およびタンパク質科学について興味があること | | | | |
| テキスト | 主としてプリントを配布する。 | | | | |
| 参考書 | 植物の生化学・分子生物学 (学会出版センター)、細胞の分子生物学 (Newton Press)、ヴォート生化学(東京化学同人)、など。 | | | | |
| 予習・復習について | しっかり行って下さい。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 成績は、試験と出席状況から総合的に判断する。 | | | | |
| オフィスアワー | 前もってメール(sbtaman@ipc.shizuoka.ac.jp)に連絡を下さい。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 積極的に取り組んで下さい。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-----------|----------|
| 授業科目名 | 生物環境科学概論Ⅱ (Introduction to Biogeosphere Sciences II) | | | | |
| 担当教員名 | 宗林 留美 (SOHRIN Rumi) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部C棟 411 | |
| 分担教員名 | 木村 浩之 | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 ー |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月3・4 |
| キーワード | 地球環境、水圏生態系、環境微生物 | | | | |
| 授業の目標 | 生物と環境の関わりを理解するための基礎を身につける。 | | | | |
| 学習内容 | 生態系を支える低次生産者（植物、微生物）に注目し、その特性と周囲の環境を整理することで生物と環境の関わりを学ぶ。 | | | | |
| 授業計画 | <p>水圏生態系（宗林）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生物生産 2. 光 3. 水温 4. 塩分 5. 水柱の安定性・熱塩循環・風成循環 6. 栄養塩の分布 <p>環境微生物（木村）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物とは 2. 微生物の誕生と進化 3. 微生物の発見と研究史 4. 微生物の分類 5. 微生物の多様性（発酵、呼吸、化学合成、光合成） 6. 極限環境に生息する微生物 | | | | |
| 受講要件 | なし。 | | | | |
| テキスト | 特に指定しない。 | | | | |
| 参考書 | 適宜紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | 自ら知識を整理し、問題点を見つけるよう心がけること。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 試験による。 | | | | |
| オフィスアワー | 毎講義終了後の30分と月曜日の昼休み時間。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | なし。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|------|----------------|--------------|
| 授業科目名 | 力学 I (Mechanics I) | | | | |
| 担当教員名 | 嘉規 香織 (KAKI Kaori) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部 A 棟 405 号室 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期前半 | | 必修選択区分 ー |
| 対象学年 | 1 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月 5・6, 金 3・4 |
| キーワード | 力学 | | | | |
| 授業の目標 | ニュートン力学を理解する. | | | | |
| 学習内容 | 物理学の中で最も基本となる学問である力学 (ニュートン力学) について詳しく学ぶ. | | | | |
| 授業計画 | 後期前半・週 2 回 テキストの第 5 章と第 6 章の内容 第 5 章 振動 (1) 安定な平衡点のまわりでの微小振動 (2) 単振動の方程式の解法 (3) 減衰振動 (4) 強制振動 (5) 振幅の大きな単振り子の振動 第 6 章 中心力 (1) ケプラーの法則 (2) 中心力場での運動 (3) 太陽の引力による惑星の運動 (4) クーロン力による散乱 | | | | |
| 受講要件 | 基礎物理学 I、基礎物理学 I I を習得していることが望ましい. | | | | |
| テキスト | 力学 植松恒夫 著 学術図書出版社 ISBN 4873619181 (基礎物理学 I、基礎物理学 I I で使用している教科書と同じ) | | | | |
| 参考書 | 物理のための数学 和達 三樹著 岩波書店 ISBN 978-4000076500 | | | | |
| 予習・復習について | 単位の修得には講義時間の 2 倍の自習時間が想定されています。(静岡大学理学部規則第 6 条) | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 提出物および学期末試験 | | | | |
| オフィスアワー | 適宜 (セミナー・講義等の予定は居室ドアに掲示) | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 著者・編集者による校正を受けているとはいえ、人の手で作られたテキストには誤植があるかもしれません。自分で必ず確認するようにしてください。(これは何も力学に限ったことではありません) | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|------|---------------|--------------|
| 授業科目名 | 力学Ⅱ (Mechanics Ⅱ) | | | | |
| 担当教員名 | 嘉規 香織 (KAKI Kaori) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部 A 棟 405号室 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期後半 | | 必修選択区分 ー |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月 5・6, 金 3・4 |
| キーワード | 力学 | | | | |
| 授業の目標 | ニュートン力学を理解する. | | | | |
| 学習内容 | 力学Ⅰに引き続き, 多体系や非慣性系および剛体の運動について学ぶ. | | | | |
| 授業計画 | 後期後半・週2回 テキストの第7章以降の内容 (第9章については一部) 第7章 質点系の運動 (1) 質点系の運動法則 (2) 重心系と実験室系 (3) 剛体と慣性モーメント (4) 簡単な剛体の運動 第8章 非慣性系における運動 (1) 並進加速系 (2) 回転座標系 第9章 剛体の一般運動 (1) 剛体の角運動量と慣性テンソル (2) 固定点のまわりの剛体の運動 (3) オイラーの角 (4) こまの運動 (5) より一般的なこまの運動 | | | | |
| 受講要件 | 基礎物理学Ⅰ, 基礎物理学ⅠⅠ, 力学Ⅰを習得していることが望ましい. | | | | |
| テキスト | 力学 植松恒夫 著 学術図書出版社 ISBN 4873619181 (基礎物理学Ⅰ, 基礎物理学ⅠⅠで使用している教科書と同じ) | | | | |
| 参考書 | 物理のための数学 和達 三樹 著 岩波書店 ISBN 4000076507 | | | | |
| 予習・復習について | 単位の修得には講義時間の2倍の自習時間が想定されています。(静岡大学理学部規則第6条) | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 提出物および学期末試験 | | | | |
| オフィスアワー | 適宜 (セミナー・講義等の予定は居室ドアに掲示) | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 著者・編集者による校正を受けているとはいえ, 人の手で作られたテキストには誤植があるかもしれません. 自分で必ず確認するようにしてください. (これは何も力学に限ったことではありませんが) | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|------|----------|-----------|
| 授業科目名 | 生物物理学 (Biophysics) | | | | |
| 担当教員名 | 山崎 昌一 (YAMAZAKI Masahito) | | 所属等 | 電子工学研究所 | |
| | | | 研究室 | 理学部A棟410 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期後半 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 1 | 曜日・時限 | 月5・6 |
| キーワード | 生物物理学、複雑系の物理、ソフトマターの物理、生体分子の分子間相互作用、蛋白質、生体膜 | | | | |
| 授業の目標 | 生体分子の分子間相互作用や高分子/分子集合体としての生体分子の物理的基礎を理解する | | | | |
| 学習内容 | 単純な系で成功をおさめた物理学は、現在、ひとつの方向として、より複雑な分子および分子集団の研究に向かおうとしている。ここではその複雑系の研究として、生物物理学における基礎的な理論や実験方法について述べる。このような複雑系においては、現象論的な理論が重要になり、現象の本質にせまる理論モデルを作成することが必要である。従ってそこで活躍するのは、統計熱力学とその応用になる。また複雑系の実験では、一種類の実験方法だけから得られる結論は非常に少ないので、多種類の実験方法から得られる結果を総合的に考察することが重要になる。 | | | | |
| 授業計画 | 1. Chap.1: 生物物理学序論 Chap.2: 高分子の物理学 2-1 高分子鎖の統計的性質 (ガウス鎖、末端間距離、実在鎖)、2-2 ゴム弾性 2. Chap.3: 拡散 3-1 自由拡散 (拡散方程式、生体膜中の拡散)、3-2 外場があるときの拡散 (Fokker-Planck 方程式、Einstein の関係式、Langevin 方程式、自己相関関数) 3. Chap.4: 生体分子の分子間相互作用 4-1 二成分系の統計力学 (格子模型、Bragg-Williams 近似、相分離) 4. 4-2 疎水性相互作用 (炭化水素の移行の自由エネルギー、疎水性相互作用の温度依存性) 5. 4-3 水溶液中の静電相互作用 (Debye-Hückel 理論、Poisson-Boltzmann 方程式、デバイ長、生体膜の静電相互作用 - 1次元の Poisson-Boltzmann 方程式) 6. Chap.5: 蛋白質の物性論、5-1 蛋白質の構造、5-2 蛋白質のフォールディング 7. 5-3 蛋白質のアンフォールディング (温度変化によるアンフォールディング、2 状態転移、超高感度マイクロカロリメーター、低温でのアンフォールディング) 8. 5-4 力による蛋白質のアンフォールディング (原子間力顕微鏡 (AFM) の原理、1 分子の蛋白質の力学特性の AFM による研究) | | | | |
| 受講要件 | 熱力学、統計力学 I、電磁気学 I をすでに受講して単位を取っていることが望ましい。 | | | | |
| テキスト | なし | | | | |
| 参考書 | (1) 現代の物理学 19「高分子物理・相転移ダイナミクス」の第 I 部, 土井, 小貫, 岩波出版, 1992, ISBN 4-00-010449-7 (2) 生命現象と物理学, 北原, 田中 編, 朝倉書店, 1994, 4-254-13067-8 (3) 生命と物質 - 生物物理学入門, 永山, 東京大学出版会, 1999, 978-4-13-062153-3 (4) 生体膜のダイナミクス, 共立出版, 2000, 4-320-05543-8 | | | | |
| 予習・復習について | ほぼ毎回の授業で宿題を提出するので、それを解くのに1~2時間程度必要である。これが講義の良い復習になる。宿題は教官には提出しないが、それに関連した問題がレポート問題として出される可能性が大きい。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | レポート | | | | |
| オフィスアワー | 未定 (講義のときに発表する) | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 複雑な生体物質や生命現象も分子の集合体やそれらのダイナミクスであるので、それらは物理法則により完全に説明されるはずである。生物物理学には解けていないチャレンジングな問題が山積みしている。生物物理学の研究者を目指す人だけでなく、複雑系に物理法則をどのように応用するかに興味がある人も、受講を歓迎する。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------|----------|
| 授業科目名 | 分子生物学 (Molecular Biology) | | | | |
| 担当教員名 | 山内 清志 (YAMAUCHI Kiyoshi) | | 所属等 | グリーン科学技術研究所 | |
| | | | 研究室 | 総合研究棟 602 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 ー |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月 5・6 |
| キーワード | 遺伝学、遺伝物質、DNA、RNA、タンパク質、染色体、ヌクレオソーム、DNA 変異、DNA 複製、遺伝子研究技術 | | | | |
| 授業の目標 | 生物学の一分野として、生命現象を分子レベルで理解するための基礎的な概念や専門用語などを修得し、分子生物学への興味を深める。 | | | | |
| 学習内容 | 生命を理解する上で、マクロな視点を据えたミクロな視点（細胞・分子レベル）から学習し、現在得られつつある研究の趨勢を理解するための基礎を提供する。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 はじめに 2 遺伝学の歴史 3 遺伝物質の同定 4 遺伝子の機能と構造 5 DNA の機能と構造 6 RNA の機能と構造 7 タンパク質の機能と構造 8 染色体構造とヌクレオソーム 9 DNA 変異 10 DNA 複製 11 DNA から RNA へ（転写） 12 RNA からタンパク質へ（翻訳） 13 遺伝子研究の技術開発（1） 14 遺伝子研究の技術開発（2） 15 まとめ | | | | |
| 受講要件 | | | | | |
| テキスト | 化学同人 「ベーシック分子生物学」 米崎・升方・金沢 ISBN978-4-7598-1582-5 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 予習・復習について | 授業の進行に合わせてテキストを用いて予習・復習に取り組むこと。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 毎回の授業の開始時に前回の授業の復習を兼ねて小テストを行い、それによって普段の学習への姿勢を評価し（33%）、2回の試験において到達度を評価する（66%）。両者の評価を総合して最終的な成績評価とする。 | | | | |
| オフィスアワー | 適宜応じる。事前に sbkyama@ipc.shizuoka.ac.jp に連絡すること。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 積極的な姿勢で受講してほしい。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------|----------|
| 授業科目名 | 線型代数学Ⅱ (Linear Algebra Ⅱ) | | | | |
| 担当教員名 | 鈴木 信行 (SUZUKI Nobuyuki) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部 C 棟 601 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 ー |
| 対象学年 | 1 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月 7・8 |
| キーワード | ベクトル、ベクトル空間、基底、次元、部分空間、表現行列、固有値、固有ベクトル、対角化、上三角化 | | | | |
| 授業の目標 | ベクトル空間の基礎を学び、行列の対角化と上三角化を学ぶ。 | | | | |
| 学習内容 | 線型代数学Ⅰでは行列の基本的性質と、それを用いて具体的に連立1次方程式を解くことを学習してきたが、線型代数学Ⅱではそれらを抽象化したベクトル空間の概念を理解するとともに、固有値・固有ベクトルまた行列の対角化について学習する。 | | | | |
| 授業計画 | <p>第3章 ベクトル空間</p> <p>3. 1 ベクトル空間の定義と線形写像</p> <p>3. 2 基底と次元</p> <p>3. 3 部分空間</p> <p>3. 4 和空間と直和</p> <p>3. 5 表現行列と基底の取り替え</p> <p>第4章 固有値・固有ベクトルおよび行列の対角化</p> <p>4. 1 固有値と固有ベクトル</p> <p>4. 2 行列の対角化</p> <p>4. 3 行列の上三角化</p> <p>4. 4 行列の同時対角化</p> | | | | |
| 受講要件 | 線型代数学Ⅰを受講していること。 | | | | |
| テキスト | 基礎講義 線形代数学 (二木昭人 著, 培風館, ISBN-13: 978-4563002756) | | | | |
| 参考書 | 線形代数入門 (斉藤正彦 著, 東京代数学出版会, ISBN-13: 978-4130620017) その他、適宜紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | ほぼテキストに沿って講義する予定ですので、予習・復習をしっかりとすること。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 授業参加態度・レポート等の平常点と試験により評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 授業時に連絡する。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 線型代数学Ⅰと違って線型代数学Ⅱは内容が抽象的になります。授業の内容で分からないことがあったら、できるだけ早く質問に来て下さい。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|----------|-----------|
| 授業科目名 | 放射化学 I (Radiochemistry I) | | | | |
| 担当教員名 | 大矢 恭久 (OYA Yasuhisa) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部 A202 | |
| 分担教員名 | 近田 拓未 | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月 7・8 |
| キーワード | 放射化学、原子核、放射線、放射性核種、放射線測定、原子力発電、核融合発電 | | | | |
| 授業の目標 | 放射性核種及び放射線の基礎知識を取得する | | | | |
| 学習内容 | <p>一般の化学が原子核のまわりの核外電子、特に価電子についてのみ取扱うのに対し、放射化学および核化学では原子核そのものやその挙動を対象としている。</p> <p>授業前半（担当：近田）の講義では、原子核の様々な現象を物質の基本的概念として捕えることが出来るようなシラバスの項目、(1)、(2)について主に解説する。また、原子力エネルギー（核分裂、核融合）の原理等についても解説する。</p> <p>授業後半（担当：大矢）では、シラバスの項目、(3)、(4)に基づき放射線の物質中での振る舞いや放射線による化学反応について解説する。また、研究並びに放射線管理の手段として、欠かすことのできない放射線測定器に関する基礎的原理についても言及する。</p> <p>放射線取扱主任者試験を受験するものは本講義を受講することが望ましい。</p> | | | | |
| 授業計画 | <p>(1)原子核のなりたちと壊変現象</p> <ul style="list-style-type: none"> 核化学や放射化学における核現象の一つとして、放射能が主題となる。まずは原子核の組成やその安定性について解説し、放射能とは何かを理解する。 <p>(2)原子核現象と化学状態</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子核と核外電子との相互作用、放射性核種の壊変定数等の化学状態による変化、核γ線共鳴(メスバウアー効果)および原子核の壊変に伴う化学的効果 <p>(3)放射線と物質との相互作用</p> <ul style="list-style-type: none"> 放射線の定義、種類、分類、それぞれの放射線についての特性 <p>および物質との相互作用</p> <ul style="list-style-type: none"> 放射線による化学反応：スプールの生成、素反応、水分子の放射線分により生成する活性酸素及びフリーラジカル 放射線の生体に及ぼす影響：高線量放射線によるDNA損傷、放射線感受性、放射線障害放射線防御、低線量放射線による放射線ホルミシス現象 <p>(4)放射線の検出と測定</p> <ul style="list-style-type: none"> 主な放射線測定器の種類、基本構造、原理、測定技術 | | | | |
| 受講要件 | 特になし | | | | |
| テキスト | 放射線概論（通商産業研究社） | | | | |
| 参考書 | 放射化学概論（富永健、佐野博敏著、東京大学出版会） | | | | |
| 予習・復習について | ホームページに公開している教材または講義ノート・教科書を活用して、予習・復習をすること | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 期末試験、演習、レポートにもとづき総合評価 | | | | |
| オフィスアワー | 随時 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 放射線取扱主任者試験を受験するものは本講義を受講することが望ましい。今年度から教科書を変更するので、注意すること。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|----------|----------|
| 授業科目名 | ベクトル解析Ⅱ (Vector Analysis II) | | | | |
| 担当教員名 | 松本 敏隆 (MATSUMOTO Toshitaka) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部C棟510 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 必 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火1・2 |
| キーワード | 重積分、積分可能、累次積分、Jacobi 行列式 | | | | |
| 授業の目標 | 多変数関数の微分積分学のうち、多変数関数の積分に関する定理（積分の順序交換、変数変換など）の厳密な証明を理解すること、及び、それを重積分の計算（体積を求めることなど）に応用できることを目標とする。 | | | | |
| 学習内容 | 「ベクトル解析Ⅰ」に引き続き、多変数関数の積分について講義する。重積分の定義からはじめて、多変数関数の積分の基本性質を考察する。多変数関数の積分に特有で重要な積分の順序交換や変数変換について述べる。 | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 長方形上の重積分の定義 2. Darboux の定理と Riemann の和 3. 平面の有界集合の面積 4. 縦線集合と横線集合 5. 累次積分 6. 積分の順序交換 7. Jacobi 行列式 8. 重積分の変数変換の公式 9. 極座標変換を用いた重積分の計算 10. 広義積分可能性 11. Γ 関数と β 関数 12. 線積分の定義 13. Green の定理 14. 曲面積の定義 15. 面積分と Gauss の発散定理 | | | | |
| 受講要件 | 微分積分学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、及び、ベクトル解析Ⅰを受講していることが望ましい。 | | | | |
| テキスト | 白岩謙一「解析学入門」(学術図書) ISBN 4-87361-114-8 | | | | |
| 参考書 | 笠原皓司著「微分積分学」サイエンス社(サイエンスライブラリ12) 青木利夫・吉原健一・樋口禎一・寺田敏司共著「改訂 演習・微分積分学」培風館 ISBN 4563-00197-X; ISBN 978-4563001971 | | | | |
| 予習・復習について | 授業のノートおよびテキストで予習および復習を行い、理解度を高めて欲しい。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 成績評価の主要部は試験の成績の良否による。関連したレポート問題を課す場合には、その実績も考慮する。試験やレポートでの評価は論述的解答および記述が求められる。 | | | | |
| オフィスアワー | 初回の講義の際に時間を設定する。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | テキストや参考書の演習問題を各自で解くことを勧める。問題に取り組むことで理解が深まります。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|---------|----------|
| 授業科目名 | 解析力学 (Analytical Mechanics) | | | | |
| 担当教員名 | 土屋 麻人 (TSUCHIYA Asato) | | 所属等 | 学術院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理 A401 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 必 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火1・2 |
| キーワード | ラグランジアン、最小作用の原理、ハミルトニアン、正準変換、対称性と保存則 | | | | |
| 授業の目標 | ニュートン力学の等価な書き換えとしての解析力学を理解し、様々な力学の問題に応用できるようにするとともに、量子力学と統計力学への橋渡しをする。 | | | | |
| 学習内容 | 解析力学の体系を学ぶ。 | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 仮想仕事の原理とダランベールの原理 2. ラグランジアンと最小作用の原理 3. オイラー・ラグランジュ方程式とその応用例 4. ハミルトン形式 5. 正準変換 6. 対称性と保存則 7. 経路積分と量子力学 | | | | |
| 受講要件 | 原則として、基礎物理学Ⅰ・Ⅱ、力学Ⅰ・Ⅱを履修していること。 | | | | |
| テキスト | 初回の講義で紹介する。 | | | | |
| 参考書 | 講義中に紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | よく復習すること。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 期末試験やレポートなどで評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 随時 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 解析力学はニュートン力学に留まらず物理学を統一的に記述する視点を与え、現代物理学に必須のものとなっているので、しっかり理解してほしい。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|--------------|----------|
| 授業科目名 | 基礎化学熱力学 | | | | |
| 担当教員名 | 河合 信之輔 (KAWAI Shinnosuke) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理B302, 理B308 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 ー |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火1・2 |
| キーワード | 熱力学第一法則、熱力学第二法則、エントロピー、変化の方向、相平衡、化学平衡、反応速度論 | | | | |
| 授業の目標 | 化学分野の幅広い現象を理解する基礎となる熱力学について、その基礎を学ぶ。 | | | | |
| 学習内容 | 物理化学のひとつの柱である熱力学について、数学・物理学的背景を含めてその基礎を学ぶ。前半では熱力学の理論体系と諸概念を理解・習得し、後半では化学平衡や生体反応への応用を概観する。 | | | | |
| 授業計画 | <p>最初の2～3回を、数学と物理の予備知識の復習にあてた後、テキストの後半を次の順で講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 気体の状態方程式, 気体分子運動論 (教科書第4章) 2. 数学的基礎 (偏微分, 全微分, 積分) 3. 熱力学の基本概念 (第6章) 4. 熱力学第一法則 (第6章) 5. 熱化学 (第7章) 6. 仕事と熱, 熱機関 (第6章) 7. 熱力学第二法則 (第6章) 8. エントロピー (第6章) 9. 自発変化の方向 (第6章) 10. 一成分系の相平衡 (第8章) 11. 多成分系の相平衡 (第8章) 12. 化学平衡 (第9章) 13. 単純な化学反応の速度論 (第12章) 14. 複雑な化学反応の速度論 (第12章) 15. 予備日 | | | | |
| 受講要件 | 基本的な微積分および物理の力学の知識を前提とするので、高校の数学と物理の復習をしておくとともに、関連した授業をよく聞いておくこと。 | | | | |
| テキスト | 柴田茂雄著 「物理化学の基礎」(共立出版) | | | | |
| 参考書 | 「アトキンス 物理化学(上)」第10版(東京化学同人) 「エンゲル・リード 物理化学(上)」(東京化学同人) その他、授業中に適宜引用文献を挙げる。 | | | | |
| 予習・復習について | 新しく学ぶ諸概念や論理展開のしかたを理解するのに苦勞する分野であるので、週1～2時間以上を目安に、しっかりと予習復習および教科書や配布プリントの演習問題に取り組むこと。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 毎回課される小レポートの提出を、出席代わりとする。成績は、小テストと最終試験の点数を半分ずつの割合で加算して評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 随時。ただし会議等の都合で研究室に不在の時間があるので、事前に連絡を取ってもらったほうが安全ではある。(sskawai@shizuoka.ac.jp) | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-----------|-----------|
| 授業科目名 | 無機機器分析 (Inorganic Instrumental Analysis) | | | | |
| 担当教員名 | 加藤 知香 (KATO Chika) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部A棟 307 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火 1・2 |
| キーワード | 分光学、吸光光度分析、赤外吸収分析法、原子吸光分析、X線分析法、磁気共鳴分析、質量分析、クロマトグラフィー、熱分析 | | | | |
| 授業の目標 | 最近の測定機器の発達によって、分析化学における機器分析の占める比重は大きなものになっている。この講義では、無機イオン・無機化合物を分析対象とした機器分析化学の基礎を方法別に学習する。 | | | | |
| 学習内容 | 物質と電磁波（X線、紫外線、可視光線、赤外線、マイクロ波など）との相互作用や、物質の電気化学的性質に基づいた分析法の基礎を学習する。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 第1章 序論 2 第2章 吸光光度分析と蛍光光度分析 3 第3章 赤外吸収・ラマンスペクトル分析法 4 第3章 赤外吸収・ラマンスペクトル分析法（続き） 5 第4章 原子吸収光分析、フレイム分析および発光分光分析 6 第4章 原子吸収光分析、フレイム分析および発光分光分析（続き） 7 第5章 X線分析法 8 第5章 X線分析法（続き） 9 第6章 磁気共鳴分析 10 第6章 磁気共鳴分析（続き） 11 第7章 質量分析 12 第7章 質量分析（続き） 13 第8章 クロマトグラフィー 14 第8章 クロマトグラフィー（続き） 15 第10章 熱分析 | | | | |
| 受講要件 | | | | | |
| テキスト | 庄野利之・脇田久伸編著 「新版 入門機器分析化学」（三共出版） | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 予習・復習について | 1回の授業につき、予習・復習合わせて週1時間程度テキストを読めば十分である。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 基本的にレポートにて評価するが、小テストや受講態度も加味する。 | | | | |
| オフィスアワー | 随時 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 関数電卓を持ってきてください。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|------|-----------|-----------|
| 授業科目名 | 海洋学 (Oceanography) | | | | |
| 担当教員名 | 宗林 留美 (SOHRIN Rumi) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部C棟 411 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期前半 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 1 | 曜日・時限 | 火 1・2 |
| キーワード | 海洋、輸送、物質循環、生態系 | | | | |
| 授業の目標 | 海洋学は、海洋の物理、化学、生物、地学の総合的な科目である。本授業では、水を含めた物質の輸送に着目して、海洋の物質循環と生態系、およびそれらと地球環境との関係について理解することを目標とする。 | | | | |
| 学習内容 | 海洋は、水、熱、炭素の巨大貯蔵庫であり、これらは海洋の内部や、外部と行き来することで、地球環境に大きな影響を与えている。このような循環を理解する上で必要となる、海洋学の基本的事項について学習する。 | | | | |
| 授業計画 | (1) 海洋学とは (2) 海を測る (3) 海水の動き① (4) 海水の動き② (5) 海洋内部の物質輸送 (6) 大気—海洋の輸送 (7) 陸域—海洋の輸送 | | | | |
| 受講要件 | 生物環境科学概論 II を履修していることが望ましい。 | | | | |
| テキスト | プリント | | | | |
| 参考書 | 海洋学 (原著第4版、ポール R. ピネ、東海大学出版会) | | | | |
| 予習・復習について | 一回の授業につき、予習・復習合わせて週1時間程度テキストを読む。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 試験により評価する。ただし、状況によっては、授業への取り組み方(出席状況など)を評価の対象に加える。 | | | | |
| オフィスアワー | 後期火曜の3・4時限と昼休み。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | (※この科目は隔年開講です) | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | 確率論 (Probability Theory) | | | | |
| 担当教員名 | 板津 誠一 (ITATSU Seiichi) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部 C 棟 605 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火 3・4 |
| キーワード | 確率、平均値、中心極限定理 | | | | |
| 授業の目標 | 「確率論」について講義する。確率論は偶然に伴う現象を記述する数学であり、また最近では株価の変動などの応用もある。講義では確率論での方法や理論を数学的な公理をもとに構成する。 | | | | |
| 学習内容 | 最初に具体的な例をもとに確率論の基本的概念を学ぶ。この講義ではいろいろな確率分布を実際に現れる例と結びつけて述べ、確率変数、独立性、平均値などの概念とその性質を述べる。また確率論の最も典型的な定理である極限定理を述べる。 | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 確率空間 2. 確率の性質 3. 独立性 4. 離散型確率変数 5. 確率変数と分布 6. 確率変数の変換, 多次元分布 7. 平均値とその性質 8. 分散、チェビシェフの不等式 9. 独立確率変数の和、大数の法則 10. 確率変数列の極限定理 11. 特性関数 12. 反転公式 13. 分布の収束 14. 中心極限定理 15. 多次元正規分布 | | | | |
| 受講要件 | | | | | |
| テキスト | テキストはとくに指定しない。 | | | | |
| 参考書 | 「シナイ確率論入門コース」, Ya.G. シナイ 著, 森 真 翻訳, (丸善出版), ISBN-10: 4621062980, ISBN-13: 978-4-621-06298-2 | | | | |
| 予習・復習について | 配布するレジюмеおよび各自のノートで予習・復習してください。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 成績評価はレポートおよび試験による。 | | | | |
| オフィスアワー | 初回の講義の時にお知らせします。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | (※この科目は隔年開講です) | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-----------|-----------|
| 授業科目名 | 固体物理学 (Solid State Physics) | | | | |
| 担当教員名 | 海老原 孝雄 (EBIHARA Takao) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部A棟 512 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火 3・4 |
| キーワード | 電子、格子、逆格子、量子力学、量子統計力学 | | | | |
| 授業の目標 | 物質の持つさまざまな性質を系統的に理解することが最終的な目標であり、そのための基本となる考え方を解説する。 | | | | |
| 学習内容 | 固体物理学は、身近な固体の中で起こる物理現象を理解する学問で、現代のエレクトロニクス発展に、基盤概念と実験的手法を編み出してながら寄与して来た学問分野である。これらの基盤概念と実験的手法を編み出す元となった考え方を、順に解説する。同時に、先端研究への架け橋となるような話題を織り交ぜる。 | | | | |
| 授業計画 | ・固体物理学とは・ 2. 原子・分子の凝集と結晶(I) 3. 原子・分子の凝集と結晶(II) 4. 格子と逆格子 5. 結晶による波の回折 6. ブリルアンゾーン 7. 結晶格子振動 8. 結晶格子の熱的性質 9. 自由電子フェルミ気体 10. 電子比熱 11. ブロツホの定理 | | | | |
| 受講要件 | 要件はないが、3年生前期までの必修科目を修めておくと、本講義の理解を助けるだろう | | | | |
| テキスト | 固体物理学—工学のために：岡崎誠 著：ISBN-10: 4785322144 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 予習・復習について | 毎回よく行うこと。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | テストの点数で決める。 | | | | |
| オフィスアワー | 講義後 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 1. 今まで習った統計力学や量子力学が、どのように学問理解のために用いられるか実感できる 2. 電気が流れるといった簡単そうなことの理解が、実は意外に難しいことがわかるかもしれない。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|---------------|--------|
| 授業科目名 | 応用生化学 (Advanced Biochemistry) | | | | |
| 担当教員名 | 瓜谷 眞裕 (URITANI Masahiro) | | 所属等 | 学術院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部 A 棟 312 室 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 |
| 対象学年 | 3 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火 3・4 |
| キーワード | タンパク質の分解、タンパク質の分泌、タンパク質の細胞内輸送、タンパク質の立体構造形成と機能発現、酵素活性の調節、免疫と抗体、酵素動力学、タンパク質の研究法、酵素の研究法、核酸の研究法 | | | | |
| 授業の目標 | 遺伝子組換え作物、DNA 型鑑定、遺伝子診断、臓器移植と免疫抑制剤、iPS 細胞を使った再生医療、生活習慣病の診断と予防、抗癌剤による癌治療。現代の社会は、生命科学の技術の進歩と深く関わっています。生命科学の根本原理や生命の仕組みを理解することは、より良く生きていくために、ますます重要になっていくでしょう。そのための知識や技術、そして考え方を身につけるとともに、生命科学と社会の関わりについての理解を深めていきます。 | | | | |
| 学習内容 | <p>1. タンパク質は生命現象を演じる主役です。このタンパク質の「誕生から死」、タンパク質の分泌と細胞内輸送、代謝の調節機構、免疫と抗体などの基礎的な生命現象を分子レベルで理解します。また、タンパク質の演出する高次生命現象についても学びます。</p> <p>2. 生命科学を支える実験技術の原理を理解し、どのように使われているかを学びます。同時期に行われる生化学実験と関連して学習します。</p> | | | | |
| 授業計画 | <p>教科書に沿って、次の計画で講義を行う。</p> <p>回 内容</p> <p>1 タンパク質の合成機構</p> <p>2 タンパク質の立体構造形成と機能発現</p> <p>3 タンパク質の立体構造維持の機構</p> <p>4 タンパク質の分解機構</p> <p>5 タンパク質の分泌機構</p> <p>6 タンパク質の細胞内輸送機構</p> <p>7 タンパク質の演じる高次生命現象</p> <p>8 酵素活性と酵素の性質</p> <p>9 酵素動力学とその解析法</p> <p>10 タンパク質研究法 1 (精製法・カラムクロマトグラフィー)</p> <p>11 タンパク質研究法 2 (精製法・電気泳動法)</p> <p>12 タンパク質研究法 3 (抗体を用いた特異的検出法)</p> <p>13 核酸研究法 1 (分離と検出)</p> <p>14 核酸研究法 2 (形質転換と遺伝子クローニング)</p> <p>15 核酸研究法 3 (遺伝子増幅と遺伝子改変)</p> | | | | |
| 受講要件 | 3 年前期までの生化学関係の講義の履修を前提とする | | | | |
| テキスト | ヴォート基礎生化学 第 4 版 (東京化学同人) | | | | |
| 参考書 | 細胞の分子生物学 第 5 版 (ニュートンプレス)、ルーイン細胞生物学 (東京化学同人) | | | | |
| 予習・復習について | 参考書やノートなどをよく読んで理解を深めること、深く考えること、考えることや疑問に思うことなどを大切に自分でも調べることを。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 単位の認定には、原則として 3 分の 2 以上の出席が必要です。単位の認定と成績の評価は、原則としてレポートおよび期末試験の総点で判断します。 | | | | |
| オフィスアワー | 空いている時間であればいつでも対応します。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 21 世紀には生命科学がより深く社会に関わりを持つことになるでしょう。生命科学の理解を通して、皆さんの将来の役に立てば幸いです。多くの方に受講してもらえることを願っています。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|------|-------------|-----------|
| 授業科目名 | 古動物学 (Palaeozoology) | | | | |
| 担当教員名 | 鈴木 雄太郎 (SUZUKI Yutaro) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部 C 棟 502 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期前半 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 1 | 曜日・時限 | 火 3・4 |
| キーワード | 化石、形態、進化、機能、適応、関係性 | | | | |
| 授業の目標 | 動かざる化石の姿形から動物的特性を捉えてゆく。 | | | | |
| 学習内容 | 骨格化石を動物として理解する捉え方や解析方法を学習する。 | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 化石とは. 2. 化石化について. 3. 動物体と骨格形態の関係. 4. 系統について. 5. 形態と動物体の関係. 6. 生体システム. 7. 化石動物の行動特性を探るには. 8. テスト | | | | |
| 受講要件 | 特になし | | | | |
| テキスト | 適時プリント等の資料を配布する。 | | | | |
| 参考書 | なし | | | | |
| 予習・復習について | レポート作成を講義中に指示する。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | レポートおよび筆記試験にもとづいて評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 質問・相談等はメールでまず問い合わせして下さい。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 講義で興味を抱いた事象について、自ら疑問をもつ、広げてゆく、深めてゆく心構えが備わるよう取り組んで欲しい。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------|--------|
| 授業科目名 | 微分積分学 I (Infinitesimal Calculus I) | | | | |
| 担当教員名 | 板津 誠一 (ITATSU Seiichi) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部 C 棟 605 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 |
| 対象学年 | 1 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火 5・6 |
| キーワード | 実数の連続性、上限・下限、実数列の収束、中間値の定理、関数の一様連続性 | | | | |
| 授業の目標 | 実数の連続性、実数列の収束、関数の連続性について基礎的な概念を学び、基礎的性質・諸定理の厳密な証明を理解することを目標とする。 | | | | |
| 学習内容 | 高校までに学習した色々な概念を厳密に定義し、それにもとづいて講義を展開する。具体的には、実数全体の集合を再考し、その連続性について厳密に捉え、それにもとづき、実数列の収束・発散、極限の基本的性質を述べる。関数の連続性について厳密に定義し、連続関数の重要な定理である一様連続性の定理、最大値及び最小値の存在定理、中間値の定理について述べる。狭義単調連続関数の逆関数の存在を述べ、逆三角関数を扱う。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 上界・下界 2 上限・下限の存在定理 3 数列の収束・発散 4 数列の極限の基本的性質 5 単調で有界な数列の収束性 6 Cauchy の収束定理 7 収束する部分列の存在性 8 写像と関数 9 関数の極限 10 関数の連続性 11 最大値及び最小値の存在定理 12 中間値の定理 13 狭義単調連続関数の逆関数 14 一様連続性 15 初等関数 | | | | |
| 受講要件 | 特になし。 | | | | |
| テキスト | 白岩謙一著「解析学入門」学術図書(87361-114-8) | | | | |
| 参考書 | 笠原皓司著「微分積分学」サイエンス社(サイエンスライブラリ 12)(7819-0108-5) 青木利夫・吉原健一・樋口禎一・寺田敏司共著「改訂 演習・微分積分学」培風館 ISBN 4563-00197-X;ISBN 978-4563001971 | | | | |
| 予習・復習について | 授業のノートおよびテキストで予習および復習、特に多大の時間をかけて復習をすることが重要である。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 成績評価の主要部は試験の成績の良否による。関連したレポート問題を課す場合には、その実績も考慮する。試験やレポートでの評価は論述的解答および記述が求められる。 | | | | |
| オフィスアワー | 初回の講義の際に時間を設定する。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | テキストや参考書の演習問題を各自で解くことを勧める。問題に取り組むことで理解が深まります。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|----------|-----------|
| 授業科目名 | 代数学 I (Algebra I) | | | | |
| 担当教員名 | 毛利 出 (MORI Izuru) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部C棟511 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火5・6 |
| キーワード | 拡大体、ガロアの理論、方程式の可解性 | | | | |
| 授業の目標 | ガロアの理論を習得する。 | | | | |
| 学習内容 | ガロアの理論は抽象代数学の原点ともいえる理論である。この講義では、「代数学入門」(群論)及び「代数学」(環論・体論)の講義を踏まえて、ガロアの理論の習得を目標とする。またその応用として方程式の可解性について学ぶ。時間があれば作図の可能性についても触れる。 | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ベクトル空間 2. 拡大体 3. 分解体 4. ガロアの理論 5. 方程式の可解性 6. 作図の可能性 | | | | |
| 受講要件 | 「代数学入門」及び「代数学」を履修していること。 | | | | |
| テキスト | テキストは指定しないが、ガロアの理論を含む参考書を1冊は購入すること。 | | | | |
| 参考書 | 入門代数学 (三宅敏恒著) 培風館 代数概論 (森田康夫著) 裳華房 | | | | |
| 予習・復習について | 授業内容はその日のうちに復習すること。また分からないところは次の授業の前までに質問し解決しておくこと。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 授業参加態度、レポート、試験などにより評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 最初の授業のとき連絡する。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 講義の前半は環論・体論の、後半は群論の基礎知識が不可欠である。夏休みに復習しておくこと。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------|----------|
| 授業科目名 | 有機化学Ⅱ (Organic Chemistry II) | | | | |
| 担当教員名 | 坂本 健吉 (SAKAMOTO Kenkichi) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部B棟 301号室 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 ー |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火 5・6 |
| キーワード | ハロアルカン、2分子求核置換反応、1分子求核置換反応、1分子脱離反応、2分子脱離反応、アルコールの合成、アルコールの反応、カルボカチオンの転移反応、エーテルの合成 | | | | |
| 授業の目標 | 有機化学反応の基礎概念を学び、反応有機化学と合成有機化学の基本を理解する。 | | | | |
| 学習内容 | 有機化学反応の基本反応である求核置換反応、脱離反応、カルボカチオンの転移反応について学ぶ。また、ハロアルカン、アルコール、エーテルの合成法と反応性について学ぶ。 | | | | |
| 授業計画 | <p>テキストに従って以下の章を解説する。</p> <p>6章 ハロアルカンの性質と反応 (2分子求核置換反応) 7章 ハロアルカンの反応 (1分子求核置換反応と脱離反応) 8章 ヒドロキシ官能基：アルコールの性質と合成戦略 9章 アルコールの反応とエーテルの化学</p> | | | | |
| 受講要件 | | | | | |
| テキスト | 「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 上 (第6版)」(古賀憲司・野依良治ら監訳) (化学同人) | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 予習・復習について | 予習、復習を励行して欲しい。また、テキストの練習問題を解くことが望ましい。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 試験により評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 特に時間は定めないので疑問点などがあったら遠慮せずに研究室に来て下さい。ただし、あらかじめ連絡してもらえると有り難い。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 有機化学は、物質を創製・合成し、その特性を探究する重要な学問分野です。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-----------|-----------|
| 授業科目名 | 植物発生学 (Plant Developmental Biology) | | | | |
| 担当教員名 | 木寄 暁子 (KOZAKI Akiko) | | 所属等 | 学術院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 総合研究棟 701 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火 5・6 |
| キーワード | 植物、発生、形態形成、遺伝子、遺伝子組換え植物 | | | | |
| 授業の目標 | 植物の形態形成にかかわる遺伝子の働き、およびその研究方法を理解する。 また、植物の分子生物学の基礎（特に遺伝子組換え植物等）を理解する。 | | | | |
| 学習内容 | 近年、植物の形態形成を支配する遺伝子の同定・制御機構の研究がめざましい成果をあげている。本講義では、これら植物の形態形成を制御する遺伝子について解説するとともに、どのようにこのように研究が進められているか（方法論）について解説する。 | | | | |
| 授業計画 | 1. 植物の分子生物学の基礎と応用 2. (遺伝子組み換え植物等) 3. " 4. " 5. " 6. " 7. " 8. 形態形成にかかわる遺伝子の同定（方法） 9. " 10. " 11. " 12. 形態形成にかかわる遺伝子の働き 13. " 14. " 15. " | | | | |
| 受講要件 | | | | | |
| テキスト | ベーシックマスター 植物生理学 | | | | |
| 参考書 | 植物の生化学・分子生物学, 細胞の分子生物学 | | | | |
| 予習・復習について | | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 試験により評価する | | | | |
| オフィスアワー | | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | 位相数学 I (Topology I) | | | | |
| 担当教員名 | 保坂 哲也 (HOSAKA Tetsuya) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部C棟 606 室 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 3 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火 7・8 |
| キーワード | ホモロジー、単体、複体、多面体、鎖群、単体写像、鎖準同型写像、単体近似、オイラー標数 | | | | |
| 授業の目標 | 位相幾何の中で基本的な研究手法の 1 つであるホモロジー論の基礎を学ぶ。 | | | | |
| 学習内容 | 多面体のホモロジー論は、位相幾何学のように連続性を基本とする幾何学を単体的複体の組合せ的性質によって規定していくものである。幾何学を如何に代数化するか、現代数学の端緒となったホモロジー論を学ぶ。 | | | | |
| 授業計画 | <p>教科書に沿って講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 位相空間と連続写像（2年生の時の内容が主だが簡単に復習する） 2. 同値関係と商空間（教科書の3節と4節は省く） 3. 単体と複体と多面体 4. 重心細分 5. 鎖群とホモロジー群 6. 単体写像と鎖準同型写像 7. 単体近似 8. 多面体のホモロジー群 9. オイラー標数 10. ホモロジー群と準同型写像 <p>時間があれば、次の内容も扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. Mayer-Vietoris 完全系列 12. いろいろな応用 | | | | |
| 受講要件 | 集合・位相、線形代数、群論の基礎知識を持っていることが望ましい | | | | |
| テキスト | 小宮克弘著「位相幾何入門」(裳華房) (ISBN: 978-4785315283) | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 予習・復習について | | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 授業中に指示する。 | | | | |
| オフィスアワー | 授業中に指示する | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 授業の中で課題を出すので、課題を解くことを通して理解を深めてほしい。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-------------|--------|
| 授業科目名 | 放射線生物学概論 (Fundamentals of Radiation Biology) | | | | |
| 担当教員名 | 山内 清志 (YAMAUCHI Kiyoshi) | | 所属等 | グリーン科学技術研究所 | |
| | | | 研究室 | 総合研究棟602 | |
| 分担教員名 | 矢永 誠人 | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火9・10 |
| キーワード | 放射線、生体影響、被曝 | | | | |
| 授業の目標 | 放射線の人体に対する影響に関する基礎的知識を習得する。 | | | | |
| 学習内容 | 一般に、人体が放射線を受ける（被ばくする）と何らかの悪影響を受けると考えられているが、放射線の種類や線量によってもその影響は様々である。この放射線の人体への影響について、分子レベルから個体レベルまでに分類して系統的に解説する。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 放射線影響の分類 2 放射線の分子レベルの影響（1） 3 放射線の分子レベルの影響（2） 4 細胞に対する放射線影響（1） 5 細胞に対する放射線影響（2） 6 組織に対する放射線影響 7 放射線の個体レベルの影響 8 晩発障害 9 胎児に対する影響（胎内被ばく） 10 内部被ばく 11 遺伝的影響 12 放射線感受性の修飾要因 13 生物領域における放射線利用（1） 14 生物領域における放射線利用（2） 15 まとめ | | | | |
| 受講要件 | 放射化学概論を履修していることが望ましいが、未履修者に対しても考慮しつつ講義を進めていく。 | | | | |
| テキスト | 放射線概論（飯田博美編、通商産業研究社） | | | | |
| 参考書 | 資料を配布する。 | | | | |
| 予習・復習について | 1回の授業につき、予習・復習としてテキスト等を読んでおくこと。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 期末試験およびレポート等により総合的に評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 適宜応じる。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 目的意識を持って学習に取り組んでください。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|--------------|----------|
| 授業科目名 | 位相数学入門 (Introduction to Topology) | | | | |
| 担当教員名 | 依岡 輝幸 (YORIOKA Teruyuki) | | 所属等 | 学術院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部 C 棟 C616 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 必 |
| 対象学年 | 2 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 1・2 |
| キーワード | 連続写像、開集合、閉集合、位相、位相空間、コンパクト、連結、完備 | | | | |
| 授業の目標 | 前期に学んだ「距離空間」を抽象化・一般化した「位相空間」について学びます。 | | | | |
| 学習内容 | 2 年次前期に学んだ「集合・位相」および「集合・位相演習」の続きです。 | | | | |
| 授業計画 | <p>位相空間という構造について学びます。これは、「集合・位相」で学んだ距離空間を一般化したものです。トピックを挙げると、次のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 位相空間（開集合・位相） 2. 位相空間上の連続関数 4. 位相空間のコンパクト性 5. 位相空間の連結性 6. 位相空間の完備性 7. 積位相と商位相 | | | | |
| 受講要件 | 2 年次前期「集合・位相」および「集合・位相演習」の知識を前提に授業を行います。 | | | | |
| テキスト | 大田春外著、『はじめての集合と位相』, 日本評論社, 2012, 978-4-535-78668-4 | | | | |
| 参考書 | 内田伏一著、『集合と位相』, 裳華房, 1986, 978-4-7853-1401-9 矢野公一著、『距離空間と位相構造 (共立講座 21 世紀の数学)』, 共立出版, 1997, 978-4320015562 大田春外著、『はじめよう位相空間』, 日本評論社, 2000, 978-4-535-78277-8 | | | | |
| 予習・復習について | 復習を絶え間なく行ってください。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | レポートや小テストなどの平常点 30%, 期末試験 70% で評価します。 | | | | |
| オフィスアワー | | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 今までの授業の中でも抽象度が高く、授業に出席してすぐに理解できることは通常ありません。毎回の授業でしっかりノートを取って、復習を始めてはじめて理解ができます。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|------------|----------|
| 授業科目名 | 電磁気学Ⅱ (Electromagnetism Ⅱ) | | | | |
| 担当教員名 | 鈴木 淳史 (SUZUKI Junji) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部 A棟 502 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 必 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 1・2 |
| キーワード | 電磁誘導、マクスウェル方程式、電磁波、導体、誘電体、磁性体 | | | | |
| 授業の目標 | マクスウェル方程式の意味を理解することが最も重要な目標である。それによって、現代科学の基礎となっている電磁波について学ぶ。 | | | | |
| 学習内容 | 電磁気学Ⅰに引き続き、時間変化する電流による磁場にかかわる事柄から始め、マクスウェル、電磁波について学ぶ。その後、具体的な物質中（導体、誘電体、磁性体）での電磁気学を学ぶ。 | | | | |
| 授業計画 | <p>次の順に解説する予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 時間変動する電磁場 2. マクスウェル方程式と電磁波 3. 導体と静磁場 4. 誘電体 5. 電流と磁場 6. 磁性体 | | | | |
| 受講要件 | 原則として、基礎物理学Ⅰ・Ⅱ、力学Ⅰ・Ⅱ、電磁気学Ⅰ、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修していること。 | | | | |
| テキスト | 教科書はない。参考書は下の通り | | | | |
| 参考書 | 電磁気 1 で使用した教科書。電磁気学Ⅰ,Ⅱ (岩波) 長岡著 理論電磁気学 (紀伊国屋) 砂川著 | | | | |
| 予習・復習について | 復習は授業内容の理解に必要であるため、必ず行うこと。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 平常点および試験 | | | | |
| オフィスアワー | 適宜 (必要に応じて設定する場合もある) | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 電気と磁気を統一的に記述するマクスウェル方程式を、ぜひ理解して欲しい。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-----------|----------|
| 授業科目名 | 代謝生化学 (Biochemistry of Metabolism) | | | | |
| 担当教員名 | 山本 歩 (YAMAMOTO Ayumu) | | 所属等 | 学術院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部A棟 311 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 必 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 1・2 |
| キーワード | エネルギー代謝、異化作用、同化作用、栄養、グルコース、アミノ酸、脂質、ATP | | | | |
| 授業の目標 | 生化学の主要な代謝経路について学習し、その原理を学ぶ。 | | | | |
| 学習内容 | <p>「人はパンのみにて生きるにあらず」という言葉がありますが、パン（食物）なくして生きることができないのも事実です。人は食物を摂り、消化し、栄養を吸収します。生きていくのに必要なエネルギーと、体を作るのに必要な物質を、ともに栄養から得ているからです。栄養からどのようにしてエネルギーを取り出すのか？どのようにして体に必要な物質を合成するのか？こういった、エネルギーや物質の変化と流れを「代謝」と言います。ここでは、生化学の主要な代謝経路について解説をします。</p> | | | | |
| 授業計画 | <p>教科書にそって、次の順序で代表的な代謝経路を解説します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 代謝 2. グルコースの異化代謝 3. グリコーゲン代謝と糖新生 4. クエン酸サイクル 5. 電子伝達と酸化的リン酸化 6. 光合成 7. 脂質代謝 8. アミノ酸代謝 | | | | |
| 受講要件 | 基礎量子化学、基礎熱化学、基礎有機化学Ⅰ・Ⅱ、基礎生化学、生物学Ⅰ・Ⅱの履修を前提とする。 | | | | |
| テキスト | ヴォート基礎生化学 第4版（東京化学同人） | | | | |
| 参考書 | 必要があれば、授業でそのつど紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | テキスト・ノートを読むなどの予習・復習をすること。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 単位の認定と成績の評価は、レポートおよび期末試験の総点で判断する。単位の認定は3分の2以上の出席を前提とする。 | | | | |
| オフィスアワー | 空いているときはいつでも対応します。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-------------------|-----------|
| 授業科目名 | 有機化学VI (Organic Chemistry VI) | | | | |
| 担当教員名 | 小林 健二 (KOBAYASHI Kenji) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 小林研究室 (総合研究棟 514) | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 1・2 |
| キーワード | 有機化学、反応機構、官能基 | | | | |
| 授業の目標 | 有機化学の総合的な理解を深める | | | | |
| 学習内容 | 有機化学 V の講義に引き続き、以下の項目についてテキストをもとに学習する。また、これまで個々の官能基別に学習してきた有機化学を繋ぎ合わせ、総合的な理解を深める。 | | | | |
| 授業計画 | 24章 炭化水素 25章 ヘテロ環化合物 26章 アミノ酸、ペプチド、タンパク質、核酸 有機化学全般に関する総合的な学習 | | | | |
| 受講要件 | 特になし | | | | |
| テキスト | 「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 上 (第6版)」(古賀憲司・野依良治ら監訳) (化学同人) 「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 下 (第6版)」(古賀憲司・野依良治ら監訳) (化学同人) | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 予習・復習について | 予習、復習を励行して欲しい。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 試験により評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 特に指定なし | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 有機化学は、物質を創製・合成し、その特性を探究する重要な学問分野です。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|----------|-----------|
| 授業科目名 | 応用数学 (Applied Mathematics) | | | | |
| 担当教員名 | 松本 敏隆 (MATSUMOTO Toshitaka) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部C棟510 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水1・2 |
| キーワード | フーリエ変換、超関数、緩増加超関数、基本解 | | | | |
| 授業の目標 | 本講義ではルベグ可積分関数ならびに超関数のフーリエ変換を講義する。 | | | | |
| 学習内容 | 本講義では、ルベグ可積分関数に対するフーリエ変換および、超関数の理論に基づき緩増加超関数に対するフーリエ変換を定義する。フーリエ変換は、微分演算を多項式をかける演算に置き換えるため、偏微分方程式を代数方程式として解くことを可能にする。応用として熱方程式の基本解を構成する。時間があればソボレフ空間についても触れる。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 L^p 空間 2 合成積 3 軟化子 4 L^1 関数に対するフーリエ変換 5 反転公式 6 急減少関数の空間 7 L^2 関数に対するフーリエ変換 8 超関数の定義と例 9 超関数列の収束 10 超関数の微分、関数との積 11 コンパクト台超関数 12 超関数の合成積 13 緩増加超関数の定義と例 14 緩増加超関数に対するフーリエ変換 15 熱方程式の基本解 | | | | |
| 受講要件 | 微分積分学 I、II、III、IV、解析学を受講していること。 | | | | |
| テキスト | なし | | | | |
| 参考書 | 垣田高夫・柴田良弘著、「ベクトル解析から流体へ」日本評論社など。 | | | | |
| 予習・復習について | 講義ノートおよび参考書で予習・復習を行い、理解度を深めて欲しい。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 定期試験の結果 (80%)、受講態度・レポート (20%) により総合的に判断する。 | | | | |
| オフィスアワー | 初回の講義の際に述べます。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 「解析学 I」を受講していると理解が深まる。 (※この科目は隔年開講です) | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | 数学基礎論 (Foundations of Mathematics) | | | | |
| 担当教員名 | 鈴木 信行 (SUZUKI Nobuyuki) | | 所属等 | 学術院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部 C 棟 601 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 3・4 |
| キーワード | 数学基礎論、数理論理学 | | | | |
| 授業の目標 | 数学基礎論の入門 | | | | |
| 学習内容 | 数学基礎論の入門となる事項について、学生諸君のこれまでの学習状況などを踏まえた上で講義する。 | | | | |
| 授業計画 | まず、数理論理学の復習をした後、古典述語論理の完全性定理の証明を与える。後半は、ゲーデルの不完全性定理について概説する。 | | | | |
| 受講要件 | 数学科 2 年次前期までの授業が一通り理解できていることは、当然の前提である。特に数理論理学が解っていることが望ましい。(単位が取れているかどうか、は問わない。) | | | | |
| テキスト | なし (プリント配布の予定) | | | | |
| 参考書 | 講義中に適宜指示する。 | | | | |
| 予習・復習について | この講義は、数学科の専門科目である。2 年前期までの講義に比べたとき、難しくなるのは当然である。予習・復習などをしっかりやって欲しい。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 試験 (適宜、レポートを加味する。) | | | | |
| オフィスアワー | 最初の授業で伝える。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 自主的な勉強なくしては、身につくものも少ない。しっかり勉強してください。 (※この科目は隔年開講です) | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|---------|----------|
| 授業科目名 | 熱力学 (Thermodynamics) | | | | |
| 担当教員名 | 土屋 麻人 (TSUCHIYA Asato) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理 A401 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 必 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水3・4 |
| キーワード | 温度、平衡状態、Helmholtz の自由エネルギー、熱、Carnot の定理、エントロピー、相転移、Gibbs の自由エネルギー | | | | |
| 授業の目標 | 熱力学の理論体系を学ぶ。 | | | | |
| 学習内容 | 熱力学は、温度や体積や圧力といった巨視的変数の間に、考えている系の性質に依らずに成り立つ関係を与える理論体系である。この熱力学の普遍性を理解し、熱力学を様々な系に使いこなすための準備を行う。 | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 熱力学とはなにか 2. 平衡状態の記述 3. 等温操作と Helmholtz の自由エネルギー 4. 断熱操作とエネルギー 5. 熱と Carnot の定理 6. エントロピー 7. Helmholtz の自由エネルギーと変分原理 8. Gibbs の自由エネルギー | | | | |
| 受講要件 | 1年生で学んだ物理学と数学を理解していること。 | | | | |
| テキスト | 田崎晴明著「熱力学 = 現代的な視点から」培風館 | | | | |
| 参考書 | 久保亮五編「大学演習 熱学・統計力学」裳華房 | | | | |
| 予習・復習について | 復習をよくすること。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 期末試験、レポート等で評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 随時 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 熱力学は普遍的で閉じた理論体系であり、その美しさを味わってほしい。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|---------|----------|
| 授業科目名 | 量子化学 I (Quantum Chemistry I) | | | | |
| 担当教員名 | 松本 剛昭 (MATSUMOTO Yoshiteru) | | 所属等 | 学術院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 総 512 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 必 |
| 対象学年 | 2 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 3・4 |
| キーワード | 量子論、シュレーディンガー方程式、波動関数、不確定性原理、箱の中の粒子、調和振動子、回転の量子化、スピン、 | | | | |
| 授業の目標 | 量子力学の歴史を紐解きながら、ミクロな物質の運動を記述するシュレーディンガー方程式の概念と、これを解いて得られる波動関数の理解を目指す。また、不確定性原理やトンネル現象などの量子力学特有の考え方を理解し、ミクロな世界における物質観を養う。 | | | | |
| 学習内容 | 電子や原子核のようなミクロな粒子の運動は、量子力学によって記述される。本講義では、化学の対象である原子や分子の構造を量子力学的に理解するための基礎的方法論を学習する。始めに、波と粒子の二重性に基づいて、粒子運動がシュレーディンガー方程式で記述されることを学ぶ。次に、これを解いて得られる波動関数とエネルギー準位を様々な運動形態に応じて概観し、実在の原子分子の性質が量子力学で説明されることを学ぶ。 | | | | |
| 授業計画 | <p>量子力学の起源</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典物理学の破綻 ・波と粒子の二重性 <p>微視的な系の力学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シュレーディンガー方程式 ・波動関数のボルンの解釈 <p>量子力学的原理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・波動関数に含まれる情報 ・不確定性原理 ・量子力学の基本原則 <p>並進運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箱の中の粒子 ・二次元および多次元における運動 ・トンネル現象 <p>振動運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー準位 ・波動関数 <p>回転運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二次元の回転： 環上の粒子 ・三次元の回転： 球面上の粒子 ・スピン | | | | |
| 受講要件 | 古典力学、簡単な微積分・三角関数に関する知識 | | | | |
| テキスト | 「アトキンス 物理化学(上)」(東京化学同人)第 8 章、第 9 章 | | | | |
| 参考書 | 「量子化学 基礎からのアプローチ」真船文隆著 (化学同人) 「物理化学 (上) 分子論的アプローチ」マッカーリ・サイモン著 千原・江口・齋藤訳 (東京化学同人) 「物理化学 (上・下)」エンゲル・リード著 稲葉章訳 (東京化学同人) | | | | |
| 予習・復習について | テキストを使った予習を大事にすること。さらに、講義毎に与える演習問題に各自取り組むこと。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 期末試験の結果で評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 特に定めません。いつでも質問してください。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | ミクロな粒子運動を記述するシュレーディンガー方程式が理解できれば、分子を形成する原子核や電子の運動の様子が手に取るようにわかります。そんな量子化学を自由自在に操ることができれば、様々な分野の化学を根本的に見つけることができるはずです。量子化学は議論すればするほど身につきますので、質問に来てもらうのは大歓迎です。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-----------|-----------|
| 授業科目名 | 構造化学 (Structural Chemistry) | | | | |
| 担当教員名 | 岡林 利明 (OKABAYASHI Toshiaki) | | 所属等 | 学術院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 総合研究棟 504 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 3・4 |
| キーワード | | | | | |
| 授業の目標 | 物理化学のひとつの分野である構造化学について、その基礎を学ぶ | | | | |
| 学習内容 | 化学の種々分野で応用されている分光法は量子化学的知識に基づいて理解することにより、その特徴および限界などをよく把握できる。そのために必要な基礎的事項を学ぶ。また、分子の電気的、磁氣的性質についても講義する。 | | | | |
| 授業計画 | <p>テキストの次の章を、以下の順序で講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 第 12 章 分子の対称 物体の対象要素 1 第 12 章 分子の対称 物体の対象要素 2 第 12 章 分子の対称 分子軌道法と分光学への応用 1 第 12 章 分子の対称 分子軌道法と分光学への応用 2 第 13 章 分子分光学 1 : 回転スペクトルと振動スペクトル 分光学の一般的性質 第 13 章 分子分光学 1 : 回転スペクトルと振動スペクトル 純回転スペクトル 第 13 章 分子分光学 1 : 回転スペクトルと振動スペクトル 二原子分子の振動 第 13 章 分子分光学 1 : 回転スペクトルと振動スペクトル 多原子分子の振動 第 14 章 分子分光学 2 : 電子遷移 電子遷移の特性 第 14 章 分子分光学 2 : 電子遷移 電子励起状態がたどる道 第 14 章 分子分光学 2 : 電子遷移 レーザー 第 18 章 分子間相互作用 電気的性質 第 18 章 分子間相互作用 分子間相互作用 第 18 章 分子間相互作用 気体と液体 まとめ | | | | |
| 受講要件 | 量子化学 I, II の知識が必要になるので、よく復習をしておくこと。 | | | | |
| テキスト | P. Atkins, J. de Paula 著 千原・中村訳 「アトキンス物理化学 (上・下)」(東京化学同人) 定価 5700+5800 円 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 予習・復習について | 前もって教科書に目を通しておくこと。復習として教科書の問題を解いてください。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 出席と最終試験に基づいて評価する。試験問題は主として章末問題および例題に基づいて出題する。 | | | | |
| オフィスアワー | 随時 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 解らないことは恥ずかしいことはありません。積極的に質問してください。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-----------|--------|
| 授業科目名 | 地球ダイナミクス概論Ⅱ (Introduction to Geodynamics II) | | | | |
| 担当教員名 | 道林 克禎 (MICHIBAYASHI Katsuyoshi) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部C棟 401 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水3・4 |
| キーワード | 地球変動、マントル対流、大陸移動説、海洋底拡大説、テクトニクス、造山運動、地殻変動、日本列島、東海地域 | | | | |
| 授業の目標 | 地球のダイナミクスを理解する上で重要な地球の熱進化過程、プレートテクトニクスを学び、それらをふまえて日本列島で起こる様々な地殻変動の意味を理解する | | | | |
| 学習内容 | 概論Ⅰに引き続き、地球のダイナミクスを解説するうえで重要な地球内部の構造を理解するための地球変動史を解説する。引き続き、地殻およびマントル上部の運動を支配するプレートテクトニクスの理論について、その成り立ちと概要を解説する。これらをふまえて、日本列島周辺の過去から現在にかけてのプレートシステムの変遷、変動帯日本列島、とりわけ地殻変動の活発な東海地域周辺の位置づけ、成り立ちを明確にする。 | | | | |
| 授業計画 | 1 項目 1 時間とは限らない 1 地球の誕生と層構造 2 コア・マントル 3 プレートテクトニクス 4 巨大火成岩岩石区 5 沈み込み帯 6 大陸成長 7 日本の地質構造 8 東海地域の地殻変動と地質構造 | | | | |
| 受講要件 | | | | | |
| テキスト | | | | | |
| 参考書 | 適宜紹介する | | | | |
| 予習・復習について | レポート等と併せて授業内容に関係した部分について適宜参考書等を独習しておくことを勧める。授業時間中に不明の点について随時質問できるように予習・復習する姿勢を養うこと。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | レポート，期末試験，出席状況などを総合して評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|------|---------|-----------|
| 授業科目名 | 進化古生物学 (Paleobiology) | | | | |
| 担当教員名 | 佐藤 慎一 (SATO Shinichi) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理 C410 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期前半 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 1 | 曜日・時限 | 水 3・4 |
| キーワード | 生物、古生物、進化 | | | | |
| 授業の目標 | 化石を過去の生命体として、生物学的に扱うための基礎を身につける。 | | | | |
| 学習内容 | 進化古生物学の基本概念を解説し、古生物を生物学的・進化学的側面から学ぶ。 | | | | |
| 授業計画 | 1. 生物進化の概要 2. 進化古生物学の基本概念 3-5. 進化古生物学の方法 (3回) 6-7. 化石の生物学的研究 (2回) 8. 試験 | | | | |
| 受講要件 | なし | | | | |
| テキスト | 特に定めない。配布したプリントは毎回持参すること。 | | | | |
| 参考書 | なし。プリントを適宜配布。 | | | | |
| 予習・復習について | 生物環境学概論 I の内容を復習しておくこと。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 試験による | | | | |
| オフィスアワー | なし | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------|----------|
| 授業科目名 | 代数学入門 (Introduction to Algebra) | | | | |
| 担当教員名 | 浅芝 秀人 (ASASHIBA Hideto) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部 C 棟 615 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 必 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 5・6 |
| キーワード | 群、正規部分群、剰余群、準同型写像、準同型定理、巡回群、置換群 | | | | |
| 授業の目標 | 群論の基本を学ぶこと。 | | | | |
| 学習内容 | まず群を定義し、その例を与える。特に置換群を有限群の典型的な例として取り上げる。次に群の演算を保つ写像である、準同型を定義し、単純同型と全準同型が本質的に、それぞれ部分群からの包含写像と剰余群への標準全射で与えられることを見る。これに関連して部分群、正規部分群、剰余群を導入する。そのあと最も基本的な群である巡回群を調べ、新しい群を作る方法として直積を導入し、これらの準備のもとに有限生成アーベル群の構造定理を証明する。最後に群作用をもつ集合を用いてシローの定理を証明する。 | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 群の定義 2. 準同型 3. 部分群 4. 剰余類分解と剰余群 5. 群の生成と巡回群 6. 直積 7. 有限生成アーベル群 8. 群の作用とシローの定理 | | | | |
| 受講要件 | | | | | |
| テキスト | 代数学入門 (東郷重明著、サイエンス社) ISBN4-7819-0160-3 または 代数学 1 群論入門 (代数学シリーズ) 雪江明彦著, 日本評論社 ISBN-10: 4535786593 | | | | |
| 参考書 | 代数学系入門 (松坂和夫、岩波書店) 代数学 (弥永昌吉, 弥永健一、岩波全書) 群論 (浅野啓三、永尾汎著、岩波全書) http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~shasash/ での 5. Lecture Notes for students: Algebra II (group theory) | | | | |
| 予習・復習について | 授業の始まる前によく予習しておくこと。不明な点は、できるだけ早く質問に来るなどして解明すること。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | レポート等の平常点(20%)と試験(80%)で評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 授業時に連絡する。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 剰余群について特によく勉強すること。よく分からないところがあれば、できるだけ早く質問に来ること。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-----------|-----------|
| 授業科目名 | 放射化学概論 (Fundamentals of Radiochemistry) | | | | |
| 担当教員名 | 矢永 誠人 (YANAGA Makoto) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部A棟 201 | |
| 分担教員名 | 大矢 恭久、近田 拓未 | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 5・6 |
| キーワード | 放射線、放射性核種、放射性核種利用 | | | | |
| 授業の目標 | 非密封放射性核種に関する化学分野の基礎を総合的に習得する | | | | |
| 学習内容 | <p>本科目では、全学科の学生を対象に放射線取扱主任者試験に向けて必要となる“化学のうち放射線に関するもの”を構成する基礎的な知識と放射性核種の製造、分離、分析、核反応を利用した分析、および標識化合物に関わること等を講義するとともに、試験におけるポイントを演習により解説する。(なお、放射線物理学概論を履修していない受講者のために、講義をする上で必要に応じて放射線物理学概論の内容も解説する。)</p> | | | | |
| 授業計画 | <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 放射性壊変と放射能 放射平衡 天然放射性核種 核反応とR I の製造 核反応の種類、励起関数、原子断面積と同位体断面積、無担体R I の調製法 核分裂 R I の分離法 共沈法、溶媒抽出法、イオン交換法、ラジオコロイド、その他 放射化分析 ホットアトムの化学 R I の化学分析への応用 放射化学分析、放射分析、同位体希釈分析 トレーサとしての化学的利用 放射線化学 | | | | |
| 受講要件 | 興味を持って受講して頂ければ、特段の予備知識は必要としない。 | | | | |
| テキスト | 放射線概論 第9版 (飯田博美 編, 通商産業研究社) | | | | |
| 参考書 | 放射化学概論 (第3版) (富永 健、佐野博敏共著、東京大学出版会)、放射線取扱の基礎 (第4版) (日本アイソトープ協会) など | | | | |
| 予習・復習について | 各時間の内容に合わせた簡単な演習を復習として行っていただくが、特に、放射線取扱主任者の国家試験を受験する者は、確実に合格できるように普段から演習を行っていただきたい。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 授業時の演習と期末試験により総合的に評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 質問等は、平日午前9時頃から午後6時頃まで、随時、受けつける。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 成績評価の方法に記した平常時の演習として、原則として、毎回の授業時に問題演習を行い、その時間の講義の理解を深める。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-------------|----------|
| 授業科目名 | 無機化学 I (Inorganic Chemistry I) | | | | |
| 担当教員名 | 近藤 満 (KONDO Mitsuru) | | 所属等 | グリーン科学技術研究所 | |
| | | | 研究室 | 総合研究棟 501 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 必 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 木 1・2 |
| キーワード | 原子の電子構造、局在化結合理論、分子軌道法、電子不足分子、多原子陰イオン | | | | |
| 授業の目標 | 無機化学を理解するための基本的な法則や原理を学ぶ。 | | | | |
| 学習内容 | 無機化学は周期表にあるすべての元素を対象としており、それらから構成される単体、イオン性化合物、共有結合性化合物など多様な物質を扱う。この講義では、無機化学の基礎として、無機化合物の性質や構造を体系的に理解するための基本的な法則や原理を学習する。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 1章 基礎概念：原子 原子の基本的な構造について 2 1章 基礎概念：原子／原子軌道に基づいて 3 2章 基礎概念：分子／結合モデル、等核に原子分子 他 4 2章 基礎概念：分子／オクテット則 他 5 2章 基礎概念：分子／VSEPR モデル 他 6 3章 原子核の性質／核結合エネルギー他 7 3章 分子の構造と結合生成： 結合距離、分子のパッキング、分子軌道法 8 4章 分子の対称性序論 9 5章 多原子分子の結合／原子結合理論 10 5章 多原子分子の結合／分子軌道理論 11 6章 金属やイオン固体の構造とエネルギー論／球充填モデル他 12 6章 金属やイオン固体の構造とエネルギー論／金属、イオン 他 13 6章 金属やイオン固体の構造とエネルギー論／格子エネルギー 他 14 7章 水溶液中の酸、塩基、イオン／酸と塩基 他 15 7章 水溶液中の酸、塩基、イオン／オキソ酸 他 | | | | |
| 受講要件 | 特になし | | | | |
| テキスト | Catherine E, Housecroft・Alan G. Sharpe 著／巽 和行・西原 寛・他 監訳 「ハウスクロフト無機化学（上）」（東京化学同人） | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて講義中に紹介する | | | | |
| 予習・復習について | 授業毎に教科書に目を通す程度の予習と、ノートを見直すなどの復習で十分対応可能。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 試験の結果で評価する | | | | |
| オフィスアワー | 特に指定しない。基本的にメールで受け付ける。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 質問はできるだけ授業中に。研究室での質問等も随時受け付ける。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|------------|----------|
| 授業科目名 | 地球科学入門Ⅲ (Introduction to Geosciences III) | | | | |
| 担当教員名 | 生田 領野 (Ryoya IKUTA) | | 所属等 | 学術院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 共通教育C棟 306 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 ー |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 木 1・2 |
| キーワード | 地球のダイナミクス、プレートテクトニクス、地震、造山運動、宇宙の中の地球、太陽系の形成、宇宙の進化、恒星の一生、銀河 | | | | |
| 授業の目標 | 英語で書かれた教科書に沿って学習しながら地球科学の基礎的素養を幅広く身につける。地球を様々な時間空間スケールで認識し、複合的なシステムとして捉える視点を養う。 | | | | |
| 学習内容 | 地球科学の入門。英語のテキストを用いて学習する。 岩石圏のダイナミクスを地球科学の発達史を踏まえて概観する。 天文学の発達史を踏まえて地球外の惑星、宇宙を概観し、相対的な視点で地球を捉える。 主眼は地球科学に対する入門であるが、英語の教科書を用いることで科学の共通語としての英語での読み書きに慣れる。 | | | | |
| 授業計画 | Unit III: Forces Within 7: Plate Tectonics: A Scientific Revolution Unfolds 8: Earthquakes and Earth's Interior Unit VII: Earth's Place in the Universe 21: Origins of Modern Astronomy 22: Tourring Our Solar System 23: Light, Astronomical Observations, and The Sun 24: Beyond Our Solar System 回 内容 1 大陸移動説と大論争 2 プレートテクトニクスの勃興：プレート境界の力学とそれに伴う様々な事象 3 地球内部のダイナミクス 4 地震発生 of 物理 1 5 地震発生 of 物理 2 6 地震学；地震の波を見る 7 災害としての地震 8 地震と地殻変動 9 天文学；古代ギリシャから近代天文学へ 10 惑星運行と古典力学 11 太陽系の発達史と比較惑星学 12 現代天文学 13 恒星 14 宇宙 15 二年生からの地球科学の学び方 | | | | |
| 受講要件 | | | | | |
| テキスト | 1. Tarbuck, Lutgens, Tasa Earth Science, New International ed. 14th ed. (Global Edition) Pearson Education, ISBN10:1-292-06131-6 2. ニューステージ 新地学図表, 浜島書店, ISBN:978-4-8343-4012-9 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 予習・復習について | 英語辞書を十分に使い予習・復習することをすすめる。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 授業中の発言、複数回の小課題に加え、学期末テストで授業の理解度を評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 毎週火曜日の午後 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 科学的な英語の文章には論理的な流れがあり、小説より断然簡単です。更に図版が大変美しい教科書なので眺めてみるだけでも楽しいこと請け合いです。地球科学全体の入門を1年間かけて進める中で、自分が好きな分野を見つけてください。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------|--------|
| 授業科目名 | ベクトル解析入門 (Introduction to Vector Analysis) | | | | |
| 担当教員名 | 田中 直樹 (TANAKA Naoki) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部 C 棟 602 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 |
| 対象学年 | 1 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 木 3・4 |
| キーワード | 偏微分、極値、陰関数、重積分、累次積分 | | | | |
| 授業の目標 | 2 年生の後期に展開するベクトル解析の理論部分の理解を深める目的で、広く浅く多変数の関数の微分および積分に関する知識を身につけることが目標である。そのために、計算を中心としたベクトル解析の応用に重点が置かれている講義である。 | | | | |
| 学習内容 | 2 変数の関数の極限、連続性、偏微分、重積分について、計算面を重視した講義を展開する。具体的には、2 変数関数の連続性、微分に関して、2 変数関数の極限の求め方、連続性の判定、及び、偏導関数の求め方、2 変数関数の極大、極小値問題を取り上げる。また、2 変数関数に関する重積分の変数変換の公式、累次積分の積分順序交換性を考察し、その応用として、平面の面積や空間図形の体積を求める方法を論ずる。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 2 変数関数の極限 2 2 変数関数の連続性 3 2 変数関数の偏導関数 4 2 変数の合成関数の偏微分 5 2 変数関数の高階偏導関数 6 2 変数関数の極大、極小値問題への応用 7 陰関数定理 8 2 変数関数の条件付極値問題 9 2 変数関数の重積分 10 2 変数関数の累次積分法 11 Jacobi 行列式 12 2 変数関数に関する重積分の変数変換の公式 13 2 変数関数に関する広義の重積分 14 2 変数関数の重積分の応用 15 曲面積 | | | | |
| 受講要件 | 特になし。 | | | | |
| テキスト | 白岩謙一「解析学入門」学術図書 ISBN 4-87361-114-8 | | | | |
| 参考書 | 笠原皓司著「微分積分学」サイエンス社（サイエンスライブラリ 1 2） 青木利夫・吉原健一・樋口禎一・寺田敏司共著「改訂 演習・微分積分学」培風館 ISBN 4563-00197-X;ISBN 978-4563001971 | | | | |
| 予習・復習について | 授業のノートおよびテキストで予習および復習をしてください。数学の問題に取り組むことが重要です。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 成績評価の主要部は試験の成績の良否による。出席状況および関連したレポート問題を課す場合には、その実績も考慮する。試験やレポートでの評価は論述的解答および記述が求められる。 | | | | |
| オフィスアワー | 初回の講義の際に時間を設定する。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | テキストや参考書の演習問題を解くことで理解が身に付きます。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|---------------|-----------|
| 授業科目名 | 解析学 I (Analysis I) | | | | |
| 担当教員名 | 板津 誠一 (ITATSU Seiichi) | | 所属等 | 学術院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部 C 棟 6 0 5 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 3 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 木 3・4 |
| キーワード | 関数空間、Banach 空間、Hilbert 空間、線形作用素、共役空間 | | | | |
| 授業の目標 | 関数解析とは、関数にその導関数を対応させる微分に代表される作用素、関数にその定積分値を対応させることに代表される汎関数に対して成り立つ性質を抽象的にまとめた理論である。本講義では、偏微分方程式論や確率論への応用としても重要な手法である関数解析の基礎理論を修得することを目標とする。 | | | | |
| 学習内容 | 完備な空間である、Banach 空間、Hilbert 空間を定義し、応用上重要な、不動点定理、Riesz の表現定理について述べる。位相的・代数的に不変な方法によって証明される、関数解析における three basic principle と呼ばれる 一様有界性の原理、開写像定理、Hahn-Banach の定理について述べる。 | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 線形空間、ノルム空間 2. Hilbert 空間 (閉凸集合への射影, Riesz の表現定理, 基底) 3. Banach 空間 (完備性, L^p 空間, 不動点定理) 4. Banach-Steinhaus の定理 (一様有界性の原理) 5. 開写像定理と閉グラフ定理 6. Hahn-Banach の定理 (線形汎関数の拡張) 7. 共役作用素 8. 弱位相 9. コンパクト作用素 | | | | |
| 受講要件 | 「解析学」(3 年前期開講)を受講していることが望ましい。 | | | | |
| テキスト | | | | | |
| 参考書 | 伊藤清三・黒田成俊・藤田宏著「関数解析 (岩波基礎数学選書)」岩波書店(4-00-007810-0) 黒田成俊著「関数解析 (共立数学講座 1 5)」共立出版(4-320-01106-6) ハイム・ブレジス著, 藤田宏監訳, 小西芳雄訳「関数解析—その理論と応用に向けて—」産業図書(4-7828-0507-1) 千葉克裕 著「関数解析」(現代数学レクチャーズ) 培風館(9784563004293 [4563004294]) | | | | |
| 予習・復習について | 抽象的内容が多く一般的に真の理解には時間がかかるので、予習・復習により補うことが必要である。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 受講態度, レポート, 小テスト, 最終試験の結果を総合的に判断する。 | | | | |
| オフィスアワー | 初回の授業の時に曜日と時限を決める。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|------------|----------|
| 授業科目名 | 統計力学Ⅱ (Statistical Mechanics II) | | | | |
| 担当教員名 | 松山 晶彦 (MATSUYAMA Akihiko) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 共通教育C棟C414 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 必 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 木3・4 |
| キーワード | | | | | |
| 授業の目標 | 「統計力学Ⅰ」の授業に引き続き、統計力学の応用について学ぶことを目標とする。 | | | | |
| 学習内容 | 統計力学 | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 低温と量子効果 2. 開いた系と化学ポテンシャル 3. フェルミ統計とボーズ統計 4. プランクの輻射式 5. 格子振動による固体の比熱 6. 理想ボーズ気体 7. ボーズ・アインシュタイン凝縮 8. 理想フェルミ気体 9. 金属の電子比熱 10. 超流動と超伝導 | | | | |
| 受講要件 | 熱力学を理解していること | | | | |
| テキスト | 統計力学Ⅰと同じ。 | | | | |
| 参考書 | 「大学演習 熱学・統計力学」 裳華房 久保亮五 編 「統計力学」 岩波書店 長岡洋介著 など | | | | |
| 予習・復習について | 毎回やること。特に復習が重要。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 出席、宿題、および定期試験 | | | | |
| オフィスアワー | 随時 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-----------|-----------|
| 授業科目名 | 反応錯体化学 (Reactions of Metal Complexes) | | | | |
| 担当教員名 | 仁科 直子 (NISHINA Naoko) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部B棟 307 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 木3・4 |
| キーワード | 金属錯体の反応、 π 酸性配位子、有機金属化合物、触媒反応 | | | | |
| 授業の目標 | 金属錯体、有機金属化合物について反応の基礎を習得する。 | | | | |
| 学習内容 | 金属錯体（配位化合物）は組成や立体構造、中心金属の電子状態の変化などが多種多様であり、さまざまな反応性を示す。この講義では、それら反応の機構や速度を支配する因子について解説する。さらに、有機金属錯体の基礎と反応性および触媒反応における金属錯体の役割についても解説する。 | | | | |
| 授業計画 | <p>テキストの章に従い、次の項目を講義する。</p> <p>回 内容</p> <p>1 19章：sブロック元素の有機金属化合物</p> <p>2 19章：pブロック元素の有機金属化合物</p> <p>3 24章：dブロック元素の有機金属化合物 配位子、18電子則、有機金属クラスターの電子数</p> <p>4 24章：dブロック元素の有機金属化合物 有機金属反応の種類</p> <p>5 24章：dブロック元素の有機金属化合物 金属カルボニル</p> <p>6 24章：dブロック元素の有機金属化合物 アルキル、アリール、アルケンおよびアルキン錯体</p> <p>7 24章：dブロック元素の有機金属化合物 アリルおよび1,3-ジエン錯体</p> <p>8 24章：dブロック元素の有機金属化合物 シクロペンタジエニル配位子を含む錯体、アレーン錯体</p> <p>9 26章：dブロック金属錯体 配位子置換反応、平面正方形型錯体の置換反応</p> <p>10 26章：dブロック金属錯体 八面体型錯体の置換反応とラセミ化</p> <p>11 26章：dブロック金属錯体 電子移動反応</p> <p>12 27章：触媒反応と工業プロセス 触媒反応：基本概念 アルケンとアルケンのメタセシス</p> <p>13 27章：触媒反応と工業プロセス 均一系触媒による窒素からアンモニアへの還元、工業的応用</p> <p>14 27章：触媒反応と工業プロセス 均一系触媒の開発</p> <p>15 27章：触媒反応と工業プロセス 不均一系触媒反応：工業生産への応用、有機金属クラスターモデル</p> | | | | |
| 受講要件 | 構造錯体化学を履修していることが望ましい。 | | | | |
| テキスト | C. E. Housecroft・A. G. Sharpe 著／巽和行・西原寛・穂田宗隆・酒井健 監訳 「ハウスクロフト無機化学（下）」（東京化学同人） | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて講義中に紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | 講義毎に予習・復習をすること。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | レポート、期末試験の結果を総合して評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 質問はできるだけ授業中に。特に時間を指定しないが、研究室での質問等は随時受け付ける。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | 神経科学 (Neuroscience) | | | | |
| 担当教員名 | 竹内 浩昭 (TAKEUCHI Hiro-aki) | | 所属等 | 学術院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部A棟6階612室 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 木3・4 |
| キーワード | 神経、脳、情報処理、運動制御、記憶、学習、情動、ニューロイメージング、ニューロエソロジー、神経疾患 | | | | |
| 授業の目標 | 脳科学・神経科学・神経行動学における基本的知識の修得 | | | | |
| 学習内容 | <p>21世紀は脳科学・神経科学の時代と言われ、脳科学・神経科学の進歩は脳の老化防止、アルツハイマー病など脳・神経系難病の克服、脳の原理を生かしたコンピュータやロボットの開発に繋がることから、基礎研究のみならず応用研究の進展が多分野から注目されている。</p> <p>本講義の前半では脳神経系の構造と発生、膜電位の生成機構、細胞の興奮などこの分野の基本事項を解説し、後半では刺激受容と感覚情報処理、古典的な神経解剖学・電気生理学的解析法から近年発達著しいニューロイメージングまで代表的な研究手法を紹介する。また、本能行動発現や記憶・学習の脳内メカニズムなどについても、重要な研究例をピックアップして解説する。</p> | | | | |
| 授業計画 | <p>01～03. 脳神経系の構造と発生、進化 04～06. 細胞膜の構造と膜電位の生成機構 07～09. 細胞の興奮と興奮の伝導・伝達 10～12. 刺激受容と感覚情報処理 12～14. 神経科学の研究手法 14～15. 本能行動発現・記憶・学習の脳内メカニズム</p> | | | | |
| 受講要件 | 授業に遅刻せず出席し、集中して聴講し、最低限の予習・復習ができること。 | | | | |
| テキスト | テキストは特に指定せず、適宜、資料・プリントを配布するが、下記参考書に目を通すことが望ましい。 | | | | |
| 参考書 | <p>神経科学 - 脳の探究 -, M.F.ベアー・B.W.コノーズ・M.A.パラディーソ (著) 加藤・後藤・藤井・山崎 (訳), 西村書店, 2007, 4890133569 脳・神経科学入門講座 前編 改訂版, 渡辺雅彦 (著), 羊土社, 2008, 9784758107297 脳・神経科学入門講座 後編 改訂版, 渡辺雅彦 (著), 羊土社, 2008, 9784758107303 脳・神経と行動, 佐藤真彦 (著), 岩波書店, 1996, 9784000078764 生き物をめぐる4つの「なぜ」, 長谷川真理子 (著), 集英社, 2002, 9784087201680</p> | | | | |
| 予習・復習について | 1回の授業につき、予習・復習それぞれ15分以上。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 授業の出席状況、授業時の小テスト(資料持込可)と期末試験(資料持込不可)の答案あるいはレポートの内容に基づいて成績を評価する。なお、答案は模範解答の6割程度を合否基準として成績を判定する。 | | | | |
| オフィスアワー | 金曜日9・10時限(16:05-17:35)を予定。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 新聞やインターネット上の科学関連情報を積極的に利用して、予習・復習に努めてください。質問は、できるだけ授業中あるいは授業直後にしてください。ただし、メールでの質問も歓迎します。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------|----------|
| 授業科目名 | 量子力学Ⅱ (Quantum Mechanics II) | | | | |
| 担当教員名 | 松本 正茂 (MATSUMOTO Masashige) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部 A棟 A501 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 必 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金 1・2 |
| キーワード | ラプラシアン、角運動量演算子、球面調和関数、ルジャンドル多項式、水素原子、スピン、角運動量の合成 | | | | |
| 授業の目標 | 量子力学Ⅰに引き続き、量子力学の考え方に習熟することを目指す。 | | | | |
| 学習内容 | 量子力学Ⅰで学んだ基本的な事柄をふまえて、量子力学の体系を理解する。3次元空間におけるシュレディンガー方程式から、角運動量演算子と球面調和関数について学ぶ。中心力場のシュレディンガー方程式について学んだ後、その典型的な応用例である水素原子を量子力学的に扱う。その後、角運動量とスピンについて学び、さらに理解を深める。 | | | | |
| 授業計画 | <p>指定しているテキストにそって講義する。 講義内容は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 3次元のシュレディンガー方程式 2. 水素原子の波動関数 3. 角運動量の代数 4. スピン | | | | |
| 受講要件 | 基礎物理学Ⅰ、Ⅱ、力学Ⅰ、Ⅱ、解析力学、電磁気学Ⅰ、Ⅱ、物理数学Ⅰ、Ⅱ及び量子力学Ⅰが履修済みであることが望ましい。 | | | | |
| テキスト | 「量子力学」小形正男／著（裳華房） | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | 予習と復習は授業内容の理解に必要なため、必ず行うこと。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 試験結果によって成績を評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 随時。場合によっては、必要に応じて設定する。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 量子力学Ⅰに続き、量子力学Ⅱを学べば、量子力学の深さがだんだんとわかってくる。自ら手を動かすことが大切です。 | | | | |

| | | | | | |
|-------|---|-----|-----|--------------------|-----------|
| 授業科目名 | 化学反応論 (Rates and Mechanisms) | | | | |
| 担当教員名 | 関根 理香 (SEKINE Rika) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部 A 棟 3 階 302 号室 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 3 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金 1・2 |
| キーワード | 反応速度論、反応次数、速度式、連鎖反応、均一系触媒作用、酵素、光化学、気体分子運動論、衝突理論、分子分配関数、遷移状態理論、分子衝突の動力学、吸着度、不均一系触媒作用 | | | | |
| 授業の目標 | <p>始めに反応速度の定義を学ぶ。反応速度は微分方程式で表される。これらの速度式の解を使うと、反応の開始以後任意の時刻における物質の濃度を予測することができる。素反応の概念と、律速段階や反応中間体に関する定常状態近似について学ぶ。(22 章)</p> <p>次に複雑な反応機構を取り扱う。連鎖反応が爆発的になる理由にも立ち入る。均一触媒反応、光化学を取りあげる (23 章)</p> | | | | |
| 学習内容 | <p>最後に反応の分子動力学について学ぶ。大きな柱は「衝突理論」「遷移状態理論」「分子衝突の動力学」である。</p> <p>衝突理論を学ぶ準備として、気体運動論の復習を行う (21 章 1)。</p> <p>遷移状態理論を学ぶ準備として、分子分配関数とそれを用いた平衡定数の表し方について学ぶ (17 章 2 および 8)</p> <p>衝突理論は、気相における簡単な分子の間の反応にしか使えない。</p> <p>遷移状態理論によれば、反応原系の分子は錯合体を形成する。この錯合体はそのエネルギー準位の占有状態の見地から論じることができる。遷移状態理論によれば、反応速度について熱力学的な見方をする道が開け、速度定数を熱力学的なパラメーターによって表すことができる。</p> <p>最も洗練された研究方法は、ポテンシャルエネルギー面とその面上での分子運動を使う方法である。(24 章)</p> <p>固体表面の吸着過程と不均一触媒についても講義する (25 章)</p> | | | | |
| 授業計画 | <p>化学反応速度 (22 章) 1 回目～3 回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験的な化学反応速度論 ・速度式の解釈 <p>複雑な反応の速度 (23 章) 4 回目～7 回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連鎖反応・重合の速度論 ・均一系触媒作用・酵素 ・光化学 <p>分子の運動 (21 章) 8 回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気体の分子運動論 <p>反応の分子動力学 (24 章) 9 回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反応性の出会い ・衝突理論 <p>統計熱力学 2 : 応用 (17 章) 10 回目～11 回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱力学と分子分配関数の復習 並進・回転・振動・電子状態の寄与 ・平衡定数と分配関数の間の関係 <p>反応の分子動力学 (24 章) 12～13 回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遷移状態理論 ・分子衝突の動力学 <p>固体表面の課程 (25 章) 14 回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吸着度・不均一系触媒作用 <p>全体の復習あるいは予備 15 回目</p> <p>() 内は、アトキンスの教科書の章に対応 授業回数は目安である。</p> | | | | |

| | |
|--------------|---|
| 受講要件 | 基礎量子化学、基礎熱化学の履修。物理学 I,III の履修。また、量子化学 I,II、熱化学を履修していることが望ましい。 |
| テキスト | 「アトキンス 物理化学(下)」第8版 (東京化学同人) 第17章、第22章、第23章、第24章、第25章 |
| 参考書 | アトキンス 物理化学 問題の解き方 (学生版) 第8版 英語版 ISBN978-4-8079-0697、5400円 |
| 予習・復習について | 予習 力学 (物理学 I)、量子化学、熱化学を充分学習しておくこと。 復習 宿題を必ず行うこと。 |
| 成績評価の方法・基準 | 試験 (70%)、宿題 (レポート) の提出 (20%)、毎回の小テスト(10%) |
| オフィスアワー | 特に指定しません。 |
| 担当教員からのメッセージ | 化学反応論は物理化学分野の総まとめです。しっかり復習しましょう。 |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-------------|----------|
| 授業科目名 | 生物学Ⅱ (Fundamental Biology II) | | | | |
| 担当教員名 | 徳元 俊伸 (TOKUMOTO Toshinobu) | | 所属等 | 学術院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 総合研究棟 625 室 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 ー |
| 対象学年 | 1 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金 1・2 |
| キーワード | 細胞膜、代謝、ゲノム、遺伝子発現、発生、がん、進化 | | | | |
| 授業の目標 | 生物学は分子生物学的理解により急速に進歩し、複雑化してきている。その一方で、ゲノム情報を基盤とした分子レベルでの研究成果は生物の統合的な理解をもたらした。本講義では生物現象を進化論的に説明することを基本コンセプトに編集された下記の教科書を題材に現代生物学の概略を理解する。 | | | | |
| 学習内容 | 現代生物学の概略について理解する。 | | | | |
| 授業計画 | 1 DNA：遺伝物質 2 遺伝子とその働き 1 3 遺伝子とその働き 2 4 遺伝子組換え技術 1 5 遺伝子組換え技術 2 6 ゲノム 7 遺伝子発現の制御 1 8 遺伝子発現の制御 2 9 発生の細胞機構 1 10 発生の細胞機構 2 11 がんの生物学と細胞操作技術 1 12 がんの生物学と細胞操作技術 2 12 集団における遺伝子 13 進化の証拠 14 種の起源 15 ゲノムと発生機構の進化 16 試験 | | | | |
| 受講要件 | | | | | |
| テキスト | レーヴン／ジョンソン 生物学、培風館、 P.レーヴン／G.ジョンソン／J.ロソス／S.シンガー著 6,400円（生協で販売） | | | | |
| 参考書 | 必要があればそのつど紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | 出欠の代わりとして、前回の復習を兼ねた小テストをするので、予習・復習を必ず行うこと。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 前半と後半に分けて試験を実施する。内容はそれぞれの担当教員からアナウンスする。 | | | | |
| オフィスアワー | 月曜日 7-8 時限を予定。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 授業計画通りに行う予定であるが、内容や進度によりシラバスと前後することがある。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-----------|-----------|
| 授業科目名 | 微生物学 (Microbiology) | | | | |
| 担当教員名 | 藤原 健智 (FUJIWARA Taketomo) | | 所属等 | 創造科学技術研究部 | |
| | | | 研究室 | 総 614 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金 1・2 |
| キーワード | | | | | |
| 授業の目標 | | | | | |
| 学習内容 | 地球上のあらゆる環境に、肉眼では見るることのできない微小な生物たちが住んでいる。微生物の高い環境適応能力はどのようにもたらされるのであろうか。原核微生物（バクテリア・アーキア）の多様な生化学的機能に主眼をおいて微生物学を講義する。 | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物学の歴史 2. 原生動物・細菌・ウイルス 3. 細胞・遺伝子の構造 4. 系統分類 5. 発酵・呼吸・光合成 6. 極限環境微生物 7. 共生・進化 8. 地球環境と微生物 9. 病原性微生物 10. 工業的利用 | | | | |
| 受講要件 | | | | | |
| テキスト | プリントを随時配布し資料とする。 | | | | |
| 参考書 | 「Brock 微生物学」(オーム社)。各自手持ちの一般的な生化学の教科書も参考文献とする。 | | | | |
| 予習・復習について | 要復習 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 学期末に試験を行います。また出席回数が10回以下の場合、成績評価の対象としない場合があります。 | | | | |
| オフィスアワー | 月・金曜日午後 (12:00-16:00) | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-------------|----------|
| 授業科目名 | ベクトル解析 I (Vector Analysis I) | | | | |
| 担当教員名 | 田中 直樹 (TANAKA Naoki) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部 C 棟 602 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 必 |
| 対象学年 | 2 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金 5・6 |
| キーワード | 偏微分、全微分、Taylor の定理、陰関数の定理、逆関数の定理、条件付極値問題 | | | | |
| 授業の目標 | 多変数関数の微分積分学のうち、主に多変数関数の微分に関する定理の厳密な証明を理解すること、及び、それを極値問題などに応用できることを目標とする。 | | | | |
| 学習内容 | 数学科では 1・2 年次に微分積分学全般を必修科目として学習する。1 年次では主に実数論を、2 年次前半では 1 変数関数の微分積分学を、2 年次後半では多変数の微分積分学を学ぶ。この流れの中で本講義では、主に多変数の微分法に関する基本的内容を、Taylor の定理などを初めとし、陰関数定理、逆関数定理、条件付極値問題までを解説する。 | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. Euclid 空間 2. Euclid 空間の点列と部分集合 3. 写像の極限 4. 連続写像とその性質 5. 線形写像 6. 写像の微分 7. 方向微分と偏微分 8. 連鎖法則 9. 逆写像の微分 10. 高次偏導関数と偏微分的应用 11. Taylor の定理 12. 極値問題への応用 13. 逆関数定理 14. 陰関数定理 15. 条件付極値問題への応用 | | | | |
| 受講要件 | 微分積分学 I, II, III, 及び, 線形代数学 I, II を学習していること。さらに、集合・位相を並行して学ぶこと。 | | | | |
| テキスト | 白岩謙一 著「解析学入門」学術図書 ISBN4-87361-114-8 | | | | |
| 参考書 | 笠原皓司 著「微分積分学」サイエンス社 (サイエンスライブラリ数学 12) 青木利夫・吉原健一・樋口禎一・寺田敏司共著「改訂 演習・微分積分学」培風館 ISBN 4563-00197-X; ISBN 978-4563001971 | | | | |
| 予習・復習について | 多変数関数の微分積分学は、1 変数の場合と異なり、大学で初めて学ぶ数学であり、今までに学習した 1 変数微分積分学、線形代数学や 2 年次に並行して学ぶ集合・位相についての知識が必要とされるので予習復習〔主に復習〕が不可欠である。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 成績評価の主要部は試験の成績の良否による。関連したレポート問題を課す場合には、その実績も考慮する。試験やレポートでの評価は論述的解答および記述が求められる。 | | | | |
| オフィスアワー | 初回の講義の際に時間を設定する。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 1 変数の場合と異なり、これらは大学で初めて学ぶ数学であり、今までに学習した 1 変数微分積分学、線形代数学や、並行して学ぶ集合・位相についての知識が必要とされます。講義内容の難易度も上がるが、具体例を挙げて解説するので、難しさを感じるのみでなく、理論の巧みさの一端も味わって新しい知識を習得して下さい。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|------|---------|-----------|
| 授業科目名 | 素粒子宇宙物理学 (Particle Physics and Cosmolgy) | | | | |
| 担当教員名 | 土屋 麻人 (TSUCHIYA Asato) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理 A401 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期前半 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 1 | 曜日・時限 | 金 5・6 |
| キーワード | クォーク、レプトン、ゲージ対称性、自発的対称性の破れとヒッグス機構、電弱統一理論、量子色力学、標準模型、大統一理論、弦理論 | | | | |
| 授業の目標 | 素粒子物理学を概観する。 | | | | |
| 学習内容 | 素粒子の標準模型を学び、標準模型を越える理論の構築について学ぶ。 | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 量子力学と相対論 2. ゲージ対称性 3. クォークと強い相互作用 4. レプトンと弱い相互作用 5. 自発的対称性の破れとヒッグス機構 6. 標準模型 7. 大統一理論 8. 弦理論 | | | | |
| 受講要件 | | | | | |
| テキスト | なし | | | | |
| 参考書 | 講義中に紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | レポート | | | | |
| オフィスアワー | 随時 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 標準模型は現在の素粒子に関する実験・観測の結果をほぼすべてを説明する理論である。この理論の概要を理解し、楽しむと同時に、この理論を越えてあるべきものについて考えてみよう。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-----------------|-----------|
| 授業科目名 | 有機機器分析 (Organic Spectrometric Analysis) | | | | |
| 担当教員名 | 山中 正道 (YAMANAKA Masamichi) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部 B 棟 3 1 1 室 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 2 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金 5・6 |
| キーワード | 核磁気共鳴(NMR)分光法、赤外(IR)分光法、質量(Mass)分析法、紫外・可視分光法 | | | | |
| 授業の目標 | 核磁気共鳴分光法、赤外分光法、紫外可視分光法および質量分析法で得られるスペクトルを解釈して有機化合物の構造を決定する方法を修得する | | | | |
| 学習内容 | ここに一つの有機化合物(分子)がある。どのような元素からできているだろうか。分子量はどのくらいか。どのような官能基を含んでいるか。いったいどのような構造なのか。このような疑問に答えるのが、有機機器分析である。有機化合物を合成・単離精製し、種々のスペクトルを測定して読み解くことによって、有機化合物の構造式を決定できる。それ故に、有機化合物を扱う人には有機機器分析は必須となっている。本講義では、様々なスペクトルを解釈して有機化合物の構造を決定するための入門コースである。 | | | | |
| 授業計画 | <p>テキストの有機機器分析に関する章を解説する</p> <p>10章 核磁気共鳴(NMR)分光法 11章 赤外(IR)分光法、質量(Mass)分析法 14章 紫外・可視(UV-vis)分光法</p> <p>および次の章の分光法に関する項目 11章、13章、15章、17章、19章、21章</p> | | | | |
| 受講要件 | | | | | |
| テキスト | 第6版「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 上」、第6版「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 下」 (古賀憲司・野依良治ら監修) (化学同人) | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 予習・復習について | 授業前にテキストに目を通しておくこと。章末問題を解く等復習をすることが望ましい。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 主に試験により評価する | | | | |
| オフィスアワー | 随時 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | 離散数学Ⅱ (Discrete Mathematics II) | | | | |
| 担当教員名 | 保坂 哲也 (HOSAKA Tetsuya) | | 所属等 | 学術院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部C棟 606 室 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 3 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金 7・8 |
| キーワード | グラフ、多面体、ケーリーグラフ、コクセター群、鏡映群 | | | | |
| 授業の目標 | グラフ理論、多面体の基礎、群のケーリーグラフ、コクセター群などについて学ぶ。 | | | | |
| 学習内容 | グラフ理論および有限な表示を持つ群のケーリーグラフについて学ぶ。これにより群が視覚的に捕らえられることを紹介する。またその具体例としてコクセター群について学ぶ。鏡映群とコクセター群、そしてそのケーリーグラフから導かれる立体について紹介する。 | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. グラフ理論の基礎 2. オイラーグラフ 3. 再構成可能グラフ 4. 群の有限表示 5. 群のケーリーグラフ 6. コクセター群 7. コクセター群のケーリーグラフと立体 8. 有限鏡映群 9. 有限鏡映群とコクセター群 10. 有限コクセター群と立体 11. 無限コクセター群と幾何学 12. コクセター群とグラフ理論 | | | | |
| 受講要件 | 集合・位相、位相数学入門および代数学入門を履修していること | | | | |
| テキスト | 授業中にテキストを紹介する。またプリントを適宜配布する。 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 予習・復習について | 授業中に課題を出すので、問題を解くことを通じて理解を深めてもらいたい。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 課題・レポートなどを総合的に評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 授業中に指示する | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | この授業では毎回課題を出すので、課題を解くことを通じて理解を深めてください。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|------------|----------|
| 授業科目名 | 地球科学入門Ⅳ (Introduction to Geosciences Ⅳ) | | | | |
| 担当教員名 | 木村 浩之 (KIMURA HIROYUKI) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 共通教育C棟 313 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 理学専門科目 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 ー |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金 7・8 |
| キーワード | 海洋、海洋生物、大気、気象、気候変動 | | | | |
| 授業の目標 | 地球科学の基礎知識を習得する。特に、海洋、海洋生物、大気、気象、気候変動の各分野の専門用語を英語と日本語に対応させ、その内容を理解する。 | | | | |
| 学習内容 | 英語のテキストを使いながら、海洋、海洋生物、大気、気象、気候変動に関する地球科学の基礎知識を学習する。 | | | | |
| 授業計画 | <p>テキスト"Earth Science"の以下の Chapter を講義する。</p> <p>Unit Five: The Global Ocean Chapter 13. The Ocean Floor Chapter 14. Ocean Water and Ocean Life Chapter 15. The Dynamic Ocean</p> <p>Unit Six: Earth's Dynamic Atmosphere Chapter 16. The Atmosphere: Composition, Structure, and Temperature Chapter 17. Moisture, Clouds, and Precipitation Chapter 18. Air Pressure and Wind Chapter 19. Wether Patterns and Severe Storms Chapter 20. World Climates and Global Climate Change</p> | | | | |
| 受講要件 | なし | | | | |
| テキスト | Earth Science, 14th Edition, Global Edition, Pearson Education Limited, ISBN 10: 1-292-06131-6 | | | | |
| 参考書 | ニューステージ新地学図表, 浜島書店, ISBN978-4-8343-4012-9 | | | | |
| 予習・復習について | 英語辞書を使ってテキストを和訳し、十分に予習を行うこと。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 試験を実施し、その結果をもとに成績評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 講義終了後 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 本講義で使用するテキストは、地球科学の基礎知識を身につける上で最適です。事前にテキストを読み、十分に予習して下さい。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-----------|-----------|
| 授業科目名 | 果樹園芸学 (Pomology) | | | | |
| 担当教員名 | 向井 啓雄 (MUKAI Hiroo) | | 所属等 | 学術院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 農学総合棟 428 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 共生バイオ | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月 1・2 |
| キーワード | 果樹、栽培技術、生理生態 | | | | |
| 授業の目標 | 果樹における主要な栽培技術とその生理生態学的背景に関して理解する。 果樹栽培において今後新たに発生する問題点に対する応用力を習得する。 | | | | |
| 学習内容 | 果樹園芸に関する基礎理論を生理・生態学的見地から解説し、あわせて種苗・栽植から収穫に至る主要な栽培管理技術の現状と今後の展望について講義する。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 ガイダンス, 果樹園芸学とは 2 果樹園芸の特徴と生産 3 種類と品種 4 環境と果樹の生態 5 育種 6 繁殖 7 開園と植栽 8 花芽形成と結果習性 9 受精と結実 10 果実の発育 11 果実の成熟と収穫後生理 12 水分生理と土壌管理 13 樹体栄養と施肥 14 整枝・せん定 15 生理障害・病害虫 | | | | |
| 受講要件 | 特になし | | | | |
| テキスト | 米森敬三編, 『果樹園芸学』, 朝倉書店, 2015, 9784254410372 | | | | |
| 参考書 | 間苧谷徹ら, 『新編果樹園芸学』, 化学工業日報社, 2002, 4873263964 伴野潔・山田寿・平智, 『果樹園芸学の基礎』, 農山漁村文化協会, 2013, 9784540112041 金浜耕基編, 『果樹園芸学』, 文永堂出版, 2017, 9784830041297 その他授業中に紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | 教科書での予習復習, ならびに専門用語を正確に理解すること | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 筆記試験 (択一式と記述式) において成績評価する (100%)。 | | | | |
| オフィスアワー | 月曜 16 時以降 (農学総合棟 428) 電子メールによる質問は随時受け付ける メールアドレス abhmuka@ipc.shizuoka.ac.jp | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 構内圃場に各種果樹が植えられているので適宜観察すること。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|------------|----------|
| 授業科目名 | 基礎木質材料学 (Basic Wood-based Material Science) | | | | |
| 担当教員名 | 小島 陽一 (KOJIMA Yoichi) | | 所属等 | 大学院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 農学部総合棟 321 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 生物資源 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 必 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月 1・2 |
| キーワード | 循環型社会、木質資源、再生利用技術、木質材料 | | | | |
| 授業の目標 | 再生産可能な木質資源を人類の生活に必須な材料として有効利用するための手法を、科学技術的な観点から理解することを目標とする。 | | | | |
| 学習内容 | 木質材料開発の歴史と今後の方向性、環境と木質資源、各種木質系材料の製造技術と材質の特徴、耐久性等について講義する。 | | | | |
| 授業計画 | 第1回：木質資源利用のあり方 第2回：木質材料の歴史 第3回：木質材料の基礎技術 第4回：材料開発の方向性 第5回：エンジニアードウッド 第6回：軸材料(1)概要 第7回：軸材料(2)集成材 第8回：軸材料(3)単板積層材 第9回：軸材料(4)その他 第10回：面材料(1)概要 第11回：面材料(2)合板 第12回：面材料(3)OSB、パーティクルボード 第13回：面材料(4)MDF 第14回：木質材料開発と倫理 第15回：木質材料の世界動向と今後の方向性 定期試験 | | | | |
| 受講要件 | 応用木質材料学、木質機能科学、木質接着学、木質材料学実験等の科目と関連が深い | | | | |
| テキスト | 鈴木正治他編：「木材科学講座8木質資源材料」(海青社) | | | | |
| 参考書 | 講義中に適宜紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | 授業で取り扱った基礎的事項に関して、必ず復習すること。 理解できない点は必ず教員に質問すること。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | ・履修態度(15%)、学期末試験(85%)の結果を総合して評価する。 ・「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。 | | | | |
| オフィスアワー | 農学総合棟 321 号室で随時受け付けます。事前にメール等で連絡して下さい。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 資源の利用と環境との関連を考える良い機会であると思います。 積極的に質問してください。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | 植物生理学 (Plant Physiology) | | | | |
| 担当教員名 | 原 正和 (HARA Masakazu) | | 所属等 | グリーン科学技術研究所 | |
| | | | 研究室 | 農学総合棟 678 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 応用生命 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月 1・2 |
| キーワード | 光合成 Photosynthesis、呼吸 Respiration、成長 Growth、植物ホルモン Plant hormone | | | | |
| 授業の目標 | 植物に特徴的な生命現象について、基礎を理解することを目標とする。 Understanding basics of plant physiology | | | | |
| 学習内容 | 一定の場所に固着して独立栄養生活を営む植物は細胞レベルでも個体レベルでも動物と大きく異なっている。ここでは、植物に特徴的な生命現象の基礎的理解をめざす。光合成と呼吸、成長と植物ホルモンを中心に、植物生理の特性を概説する。 Describing physiological features of plants | | | | |
| 授業計画 | 第1回 植物生理学について Overview 第2回～第4回 光合成 Photosynthesis 第5回～第6回 呼吸 Respiration 第7回～第15回 成長と植物ホルモン Growth and plant hormone 種子の発芽、成長と運動、成長と分化、光形態形成 第16回 定期試験 Examination | | | | |
| 受講要件 | 生物学、植物形態学の基礎を理解していることが望ましい。 Basic biology | | | | |
| テキスト | 使用しない。必要に応じ、プリントを配布する。 Non | | | | |
| 参考書 | 「植物生理学」テイツ／ザイガー（培風館）、「新しい植物ホルモンの科学」小柴恭一・神谷勇治（講談社） 「植物生理学講義」増田方雄（培風館） Any textbooks on plant physiology | | | | |
| 予習・復習について | とりわけ、復習をしっかりと行い、疑問点は遠慮なく質問すること。 Review is needed | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 小テスト、定期試験により評価する。 Quizzes and tests | | | | |
| オフィスアワー | 事前にメールでコンタクトをとって下さい。 An appointment in advance is needed. | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 気軽に研究室へ来て下さい。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-----------|-----------|
| 授業科目名 | 食品機能化学 (Nutritional Biochemistry of Functional Food) | | | | |
| 担当教員名 | 森田 達也 (MORITA Tatsuya) | | 所属等 | 学術院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 農学総合棟 576 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 共生バイオ | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月 3・4 |
| キーワード | 食品の3次機能、生体調節機能、科学的根拠と現実性 | | | | |
| 授業の目標 | | | | | |
| 学習内容 | 食品の持つ生体調節機能について生理、生化学的機構を中心に講義する。 | | | | |
| 授業計画 | 1 序論 (日本の栄養摂取量の現状と問題点) 2～ 4 食物繊維の機能 (血糖値上昇抑制、コレステロール低下、大腸機能) 5～ 7 脂質の機能 (不飽和脂肪酸と虚血性疾患、アレルギー) 8～10 活性酸素 (その功罪、抗酸化 Vitamin 及び微量元素摂取の意味) 11～12 タンパク質の機能 (アミノ酸組成と脂質代謝) 13～14 炭水化物の機能 (消化抵抗性デンプンの栄養生理的意義) | | | | |
| 受講要件 | 関連科目：栄養化学、生化学 | | | | |
| テキスト | なし。必要な資料はコピーして配付する。 | | | | |
| 参考書 | 「食品機能化学」(三共出版) 「食物繊維」(第一出版) 「フリーラジカルと生体」(学会出版センター) | | | | |
| 予習・復習について | | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 評価は、定期試験を考慮して行う。 | | | | |
| オフィスアワー | 月～金の昼休み、または夕方6時以降 (農学部 A 棟 602) | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | |
|-----------|---|-----|-----|-----------------|-------------|
| 授業科目名 | 生化学概論 (Introduction to Biochemistry) | | | | |
| 担当教員名 | 鳥山 優 (TORIYAMA Masaru) | | 所属等 | 学術院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 共通教育 C 棟 509 号室 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 生物資源 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 — |
| 対象学年 | 2 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月 3・4 |
| キーワード | 代謝、酵素、糖質、解糖とクエン酸回路、電子伝達系、脂質、β酸化回路、アミノ酸、尿素回路、ヌクレオチド | | | | |
| 授業の目標 | 生化学は生命現象を分子レベルで理解しようとする学問分野である。この授業では、生体構成物質である糖質、脂質、タンパク質、核酸の構造と、それらの「合成・分解の全容」=代謝を捉え、代謝によって生命が維持されるしくみについて理解することを到達目標とする。さらに、人間が普段食べている食物が生体構成物質=栄養であることから、栄養が人間の生命を維持するためにどのような形で必要になってくるのか、あわせて理解していく。 | | | | |
| 学習内容 | 代謝を構成する一つ一つの化学反応に関する熱力学的な基礎を学んだ後に、代表的な代謝経路について、そこに登場する生体構成物質の化学構造と性質をふまえつつ、解説していく。最終的には、糖質、脂質、タンパク質、核酸の代謝が相互に関連していることを捉えていく。 | | | | |
| 授業計画 | <p>第1回：代謝とは？ 化学反応と代謝，ギブズ自由エネルギー変化</p> <p>第2回：酵素と化学反応 化学反応の活性化エネルギー，反応の調節</p> <p>第3回：酵素反応の速度 酵素の反応速度論の初歩，ミカエリス・メンテンの式</p> <p>第4回：糖質の種類と化学構造 単糖の立体構造，二糖の構造と結合様式，多糖の種類</p> <p>第5回：解糖 グルコースからピルビン酸までの分解経路</p> <p>第6回：クエン酸回路 ミトコンドリア内におけるピルビン酸の分解過程</p> <p>第7回：電子伝達 NADH，電子伝達，FoF1-ATPase の構造と働き</p> <p>第8回：脂質の種類と化学構造 脂肪酸，中性脂肪，リン脂質，ステロイド</p> <p>第9回：脂質の代謝 β酸化回路，脂肪酸の合成経路</p> <p>第10回：アミノ酸とタンパク質 タンパク質を構成する20種類のアミノ酸，ペプチド結合，タンパク質の構造</p> <p>第11回：アミノ酸代謝 アミノ酸の合成経路と分解経路，尿素回路</p> <p>第12回：ヌクレオチドの化学構造と合成経路 塩基とリボース，ペントースリン酸経路</p> <p>第13回：ヌクレオチド代謝 ヌクレオチド合成と塩基の異化</p> <p>第14回：糖新生と多糖代謝 従属栄養生物がエネルギーを連続的に供給するしくみ</p> <p>第15回：アセチルCoAかピルビン酸か 体内における有機物の運命・・・エネルギー生産と物質生産の分かれ目</p> | | | | |
| 受講要件 | 特にないが，1年次の化学系・生物系の基礎授業を理解し，2年前期開講の有機化学概論を履修しておくことが望ましい。 | | | | |
| テキスト | カラー図解 生化学ノート 書く！塗る！わかる！ 森誠著 講談社 | | | | |
| 参考書 | 「ホートン生化学」Horton ら著，鈴木紘一ら訳（東京化学同人） | | | | |
| 予習・復習について | 予習については，シラバスを見て，次回の授業内容が書かれてある教科書のページを読んてくること。復習については，教科書を読み返すことと，授業のポイントを示したプリントの指針に従って行うこと。 | | | | |

| | |
|--------------|--|
| 成績評価の方法・基準 | 評価は定期試験のみで決める。 |
| オフィスアワー | 月曜日 7, 8, 9, 10 時限, ただし, 事前に電子メールで確認すること |
| 担当教員からのメッセージ | 生化学の基本から複雑な代謝系まで, なるべくわかりやすく説明します。食料生産と関わる農学において, この授業は, その受け手である人間が, 農作物を栄養として利用して生きていくためのしくみの理解と捉えてください。 |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-----------|-----------|
| 授業科目名 | 動物機能学 (Animal Endocrinology and Immunology) | | | | |
| 担当教員名 | 茶山 和敏 (SAYAMA Kazutoshi) | | 所属等 | 大学院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 農学総合棟 579 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 応用生命 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月3・4 |
| キーワード | 内分泌、免疫、ホルモン、サイトカイン、ケモカイン、成長因子 | | | | |
| 授業の目標 | 脊椎動物の生体機能のうち、主に哺乳類における内分泌および免疫の生体機構とそれらに関連するホルモン・サイトカインなどの生体内情報伝達物質に関する基礎的学理について講述し、それらを理解することを目標とする。 | | | | |
| 学習内容 | はじめに、概論として生体内の情報伝達機構について概説する。次に、内分泌（ホルモン分泌）機構および免疫機能に関する講義を行うとともに、それらに関係するホルモンやサイトカインなどの生体内情報伝達物質についても詳しく説明する。そして最後に、内分泌、免疫および神経の相互作用についてまとめる。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 緒論、動物機能学とは、生体内の情報の受容と統合、ホメオスタシス 2 ホルモンの特性と作用 3 視床下部の神経内分泌機能、視床下部ホルモン 4 下垂体の内分泌機能 5 下垂体ホルモン 6 ステロイドホルモン 7 性・生殖に関する内分泌機構とホルモン I 性周期や生殖細胞形成に関するホルモン 8 性・生殖に関する内分泌機構とホルモン II 妊娠・出産・泌乳に関するホルモン 9 その他のホルモンおよび成長因子の特性とその内分泌機構 10 免疫とは何か？免疫細胞とその機能 11 免疫機能に関連する情報伝達機構 12 免疫情報伝達物質 I サイトカイン 13 免疫情報伝達物質 II ケモカイン 14 免疫情報伝達物質 III その他 15 内分泌、神経および免疫系の関係と相互作用、まとめ | | | | |
| 受講要件 | 特になし、動物系の科目を受講していることが望ましい。 | | | | |
| テキスト | 指定はしない。 | | | | |
| 参考書 | 講義の中で、参考図書を紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | 前の講義で行った内容に関する小テストを抜き打ちで行うので、常に復習を行ってこよう。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 小テスト（20～30％）と期末筆記試験（70～80％）の合計を基本として、自主レポートの点数をプラスして総合的に評価する。評価基準は、科目の目標に沿って、講義内容の理解度をみる。 | | | | |
| オフィスアワー | 時間は特に指定しない。メール等で、あらかじめ連絡をしてから研究室まで訪ねてほしい。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | この講義は内分泌と免疫という非常に範囲の広い分野を講義するため、広く浅くの講義内容になってしまいます。そのため、より詳細な知識を得るために、講義の中で分からなかった点などを自主レポートにまとめて、知識を深めてください。自主レポートについては、採点して、評価の加点対象になります。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|------------|-----------|
| 授業科目名 | 農業簿記入門 (Introduction to Agricultural Bookkeeping) | | | | |
| 担当教員名 | 柴垣 裕司 (SHIBAGAKI Hiroshi) | | 所属等 | 学院院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 農学部総合棟 511 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 共生バイオ | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月 5・6 |
| キーワード | 農業簿記、財務分析 | | | | |
| 授業の目標 | 講義内容（財務諸表の見方、企業の財務分析）を学生が、就職活動等で活用できるようになることを目指す。 | | | | |
| 学習内容 | 農業簿記を題材として、簿記の基本原則を習得してもらう。さらに、簿記記帳により得られる財務情報を基にした財務分析手法を学んでもらう。 | | | | |
| 授業計画 | 1 : 授業ガイダンス 2 : 簿記の計算方法 3 : 財務諸表 4 : 取引、取引要素の結合 5 : 仕訳、仕訳帳記入 6 : 元帳への転記 7 : 合計残高試算表 8～10 : 決算整理 11・12 : 帳簿決算 13～15 : 財務分析 16 : 期末試験 | | | | |
| 受講要件 | 特になし。 | | | | |
| テキスト | 工藤賢資・新井肇「農業会計」農文協、1993 | | | | |
| 参考書 | 工藤賢資・新井肇「農業会計演習帳」農文協、1996、4540951068 | | | | |
| 予習・復習について | 簡単な宿題を出しますが、講義で理解できないところは復習しておくこと。簿記の学習は積み上げ方式のため、わからないまま放置しておくことと先に進めなくなります。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 期末試験（100%）で評価するが、小テストの成績も考慮する。 評価基準として、期末試験は講義内容の理解度をみる。 | | | | |
| オフィスアワー | 相談事のある方は、事前にメールで当方の都合を聞いて下さい。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 簿記は「習うより慣れろ」で、講義中に練習問題を解いてもらいます。また、簿記の学習は積み上げ方式のため、欠席すると先に進めなくなりますので欠席しないこと。 農業簿記について講義しますが、簿記の原理自体は共通ですので、関心のある学生はさらに学習を重ね「商業簿記」等の資格取得にチャレンジして下さい。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-----------|-----------|
| 授業科目名 | ゲノム科学 (Genomics) | | | | |
| 担当教員名 | 堀池 徳祐 (HORIIKE Tokuma) | | 所属等 | 大学院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 総合研究棟 302 | |
| 分担教員名 | 本橋 令子 | | | | |
| クラス | 共生バイオ | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月7・8 |
| キーワード | 分子生物学、遺伝子、機能推定、データベース、ゲノム、バイオインフォマティクス、分子進化、コンピュータ | | | | |
| 授業の目標 | 最近のゲノム解析の進展は、分子生物学、遺伝学、分子進化学などの基礎学問ばかりでなく、応用分野にも大きな影響を持つようになってきている。情報解析を中心にゲノム解析の目標、進め方、新しい解析技術などについて幅広く講義することで、生命科学とその応用を学ぶ基盤とする。また、コンピュータによる基礎的な情報処理についても修得する。 | | | | |
| 学習内容 | コンピュータを利用したゲノム情報解析を行うための基本的な方法について理論と実践方法を学ぶ。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 ガイダンスーゲノム科学を学ぶにあたって 2 比較ゲノム解析 3 比較ゲノム解析 4 メタゲノミクス 5 メタゲノミクス 6 エピジェネティクス 7 エピジェネティクス 8 分子系統解析 9 分子系統解析 10 コンピュータの基礎 11 テキストエディタを用いたデータ編集 12 テキストエディタを用いたデータ編集 13 突然変異の解析 14 ゲノムリソースサイトの紹介と利用 15 マイクロアレイ解析、プロテオーム解析、メタボローム解析などのオミックス解析についてとそのデータ処理方法 | | | | |
| 受講要件 | パソコンを操作できる必要がある。 | | | | |
| テキスト | 特に無し。 | | | | |
| 参考書 | 特に無し。 | | | | |
| 予習・復習について | | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 受講状態とレポートにより評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-----------|-----------|
| 授業科目名 | 昆虫学 (Entomology) | | | | |
| 担当教員名 | 笠井 敦 (KASAI Atsushi) | | 所属等 | 学術院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 農学総合棟 474 | |
| 分担教員名 | 田上 陽介 | | | | |
| クラス | 生物資源 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火 1・2 |
| キーワード | 昆虫、分類・形態・遺伝、発生・生理・生態、農業害虫、防除、総合的害虫管理 | | | | |
| 授業の目標 | 昆虫は、人にはない驚くべき能力を秘めています。また、農業害虫を取り巻く情勢は社会の変化と密接に関連し、刻々と変化しています。昆虫学では昆虫に関する基礎（分類・形態・発生・生理・生態・遺伝）と応用（農業害虫・被害・防除）の理解を目標とします。 | | | | |
| 学習内容 | | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 ガイダンス 2 昆虫の起源 3 昆虫の分類 4 昆虫の形態 5 昆虫の生理 6 昆虫の発生 7 昆虫の遺伝 8 昆虫の生態 9 害虫とは何か 10 稲・野菜・花卉の害虫 11 果樹・茶の害虫 12 化学的防除法 13 生物的防除法 14 総合的害虫管理 15 種間相互作用 | | | | |
| 受講要件 | 特になし | | | | |
| テキスト | 最新応用昆虫学（朝倉書店） | | | | |
| 参考書 | 「応用昆虫学の基礎」（朝倉書店） 「天敵」（養賢堂） | | | | |
| 予習・復習について | テキストや参考書などに目を通し、授業の概要を把握しておいてください。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 筆記試験により評価します。 | | | | |
| オフィスアワー | 研究室に直接来るか、E-mailにより連絡してください。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 私たちの身の回りにたくさんいる昆虫。興味深い彼らの暮らしぶりを見てみましょう。また、私たちと彼らとの間にある関係はどのようなものなのかについて考えてみましょう。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-----------|-----------|
| 授業科目名 | 遺伝子工学 (Genetic Engineering) | | | | |
| 担当教員名 | 平井 浩文 (HIRAI Hirofumi) | | 所属等 | 学術院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 農学総合棟 675 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 応用生命 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火 1・2 |
| キーワード | DNA、RNA、大腸菌、制限酵素、サブクローニング、PCR、シーケンス、マイクロアレイ | | | | |
| 授業の目標 | 遺伝子工学は分子生物学を支える基礎的学問であり、ありとあらゆるバイオ実験の礎となるものである。本講義では遺伝子工学の基礎から応用まで、幅広く解説する。 | | | | |
| 学習内容 | 遺伝子工学実験について必要となる基礎的知識から、最先端の技術まで幅広く講義する。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 遺伝子・DNAの基礎 2 制限酵素、メチラーゼ、リガーゼ 3 核酸の合成、分解、修飾酵素 4 プラスミド、ファージ、トランスポゾン 5 ベクター 6 タンパク質産生制御系 7 組換えDNAの作成と細胞への導入 8 DNAクローニング 9 中間テスト 10 核酸の取り扱いと分離 11 塩基配列の検出と解読 12 PCRとその応用 13 遺伝子発現と遺伝子産物の解析 14 遺伝子工学関連技術と医療における利用 15 遺伝子操作の安全性と倫理 | | | | |
| 受講要件 | 分子生物学の受講を奨める。 | | | | |
| テキスト | 田村隆明著、『基礎から学ぶ遺伝子工学』,羊土社,2012, 978-4-7581-2035-7 | | | | |
| 参考書 | なし。 | | | | |
| 予習・復習について | 予習は必要としないが、毎回小テストを行うので、復習は必ず行うこと。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 小テスト、中間テスト、最終テストにより評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 毎週月曜日 12:00～13:00。 事前に連絡して下さい。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 遺伝子工学は、農学部における研究の大部分において必要な知識となります。 多くの学生の受講を期待しております。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-----------|-----------|
| 授業科目名 | 森林環境水文学 (Forest Hydrology) | | | | |
| 担当教員名 | 土屋 智 (TSUCHIYA Satoshi) | | 所属等 | 大学院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 農学総合棟 271 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 共生バイオ | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火 1・2 |
| キーワード | 森林の熱環境、水循環、降雨浸透、降雨流出、蒸発散 | | | | |
| 授業の目標 | 太陽エネルギーによる熱収支と蒸発散による地表熱環境の緩和、森林土壌が果たす洪水流の調節機構、森林が発揮する熱環境の緩和機能等について基本的理解ができることを目標とする。 | | | | |
| 学習内容 | 森林を含む水循環過程に焦点をあて、太陽エネルギーによる熱収支、蒸発散による地表熱環境の緩和、森林土壌が果たす洪水流の調節機構、森林が発揮する環境緩和機能について概説する。また、蒸発散過程、雨水流出過程について、森林と水循環過程の定量的関係を講述する。 | | | | |
| 授業計画 | 第1回：森林と水循環（水資源・熱環境） 第2回：森林が果たす熱環境の緩和 第3回：森林を含む水循環過程 第4回：森林の間伐と水循環 第5回：土壌中の水移動とその理論 第6回：降雨浸透と土壌水分の測定 第7回：不飽和浸透とその解析 第8回：地下水の流れと評価法 第9回：降雨流出の概説 第10回：降雨流出量の評価法 第11回：流出モデルの紹介 第12回：蒸発散の機構と測定法 第13回：蒸発散量の推定法 第14回：日本の森林と二酸化炭素吸収 第15回：水文確率統計 定期試験 | | | | |
| 受講要件 | 関連科目：地学概論，地学実習 | | | | |
| テキスト | 必要な資料は印刷して配布する。 | | | | |
| 参考書 | 森林水文学，文永堂 | | | | |
| 予習・復習について | 復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 履修態度（10%），レポート（20%），学期末試験（70%）の結果を総合し評価基準とする。 | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後に質問や相談を受け付ける。それ以外は電子メール（afstuti@ipeshizuoka.ac.jp）で前もって連絡のこと。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | オフィスアワーを積極的に利用し、質問してください。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-----------|-----------|
| 授業科目名 | 微生物代謝工学 (Microbial Engineering and Biotechnology) | | | | |
| 担当教員名 | 小谷 真也 (KODANI Shinya) | | 所属等 | 大学院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 農学総合棟 526 | |
| 分担教員名 | 徳山 真治 | | | | |
| クラス | 応用生物 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火 1・2 |
| キーワード | 微生物バイオテクノロジー、代謝制御、遺伝子工学、タンパク質工学 | | | | |
| 授業の目標 | | | | | |
| 学習内容 | 遺伝子工学、パンパ櫛津工学、制御代謝工学、微生物バイオテクノロジー全般 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 ガイダンス 2 微生物の多様性 3 微生物のバイオテクノロジー 4 遺伝工学の基礎 1 5 遺伝子工学の基礎 2 6 遺伝子工学の基礎 3 7 遺伝子工学の基礎 4 8 細菌における蛋白質生産 9 細菌における物質生産 10 放線菌の物質生産 (前) 11 放線菌の物質生産 (後) 12 酵母におけるタンパク質生産 13 アミノ酸発酵 14 微生物酵素 15 バイオマス | | | | |
| 受講要件 | 分子生物学及び応用微生物学を受講していることが望ましい | | | | |
| テキスト | 未定 | | | | |
| 参考書 | ガイダンスで紹介 | | | | |
| 予習・復習について | 毎回復習することが望ましい | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 出席・試験成績を評価して総合的に判断する。 | | | | |
| オフィスアワー | 平日：8時～21時 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 遺伝子工学の基礎から、最近のバイオテクノロジーまで紹介します。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-----------|-----------|
| 授業科目名 | 食品製造化学 (Food Technology) | | | | |
| 担当教員名 | 日野 真吾 (HINO Shingo) | | 所属等 | 学院院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 農学総合棟 577 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 共生バイオ | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火 3・4 |
| キーワード | 食品化学、食品機能成分 | | | | |
| 授業の目標 | 化学的知見をもとに、食品の栄養価や経済性、保存性、安全性などを説明できるようになること。食品成分の性質を理解し、加工のしくみを理解すること。 | | | | |
| 学習内容 | 食品を化学的見地から、構成成分、構造、性質、反応などについて解説する。さらに、化学的方法による食品加工についても解説する。 | | | | |
| 授業計画 | 1) 炭水化物の化学とその利用 (1 - 3回) 2) 脂質の化学とその利用 (4 - 6回) 3) タンパク質の化学とその利用 (7 - 9回) 4) 園芸食品とその加工 (10 - 11回) 5) 嗜好食品, 香辛料 (12 - 13回) 6) 機能性食品 (14回) 7) 食物摂取と栄養 (15回) | | | | |
| 受講要件 | | | | | |
| テキスト | プリントを配布する | | | | |
| 参考書 | その都度指示する。 | | | | |
| 予習・復習について | 分からない点や興味ある事項について、インターネット等を活用して調べることが望ましい。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 定期試験 (80%) と出席 (20%)。評価基準は、講義内容の理解度をみる。 | | | | |
| オフィスアワー | オフィスアワー：随時 (事前に電話や電子メールで問い合わせること) | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 積極的に質問をしてください。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------|--------|
| 授業科目名 | コミュニティ基礎論 (Basic Studies of Community Design) | | | | |
| 担当教員名 | 藤本 穰彦 (FUJIMOTO Tokihiko) | | 所属等 | 農学部 | |
| | | | 研究室 | 農学総合棟 4 2 4 | |
| 分担教員名 | 柴垣 裕司 | | | | |
| クラス | 農学共通 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 1 | 曜日・時限 | 火 3・4 |
| キーワード | コミュニティ、協同、学習、フィールドワーク、写真観察法、グローバリゼーション | | | | |
| 授業の目標 | 現代社会を構成するコミュニティについて基本的な考え方を学ぶ。コミュニティの適正規模やその主体は、共有する範囲や共有するモノに応じて柔軟に形成されていく。コミュニティ基礎論では、農山村コミュニティの基本構成、柔軟性、多様性、ポテンシャルについて理解を深める。 | | | | |
| 学習内容 | 人口減少や高齢化に直面する現代日本の農山村社会において、社会の持続性や再生産を可能にするコミュニティをデザイン（構想）するヒントを掴むことが本講義の目標である。講義は、テーマレクチャーとグループワーク（写真観察法によるフィールドワーク）により構成される。受講生には、グループでの課題制作に貢献し、「学習コミュニティ」に参加することが求められる。 | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 10/3 農学で学ぶコミュニティの意味 2. 10/10 フードシステムとコミュニティ 3. 10/17 協同組合とコミュニティ 4. 10/31 方法としてのフィールドワーク：チーム戦・写真観察法・「美しく品格のある邑」 5. 11/14 「学習コミュニティ」のデザイン 6. 11/21 コミュニティのデザイン 7. 12/12 村のデザイン 8. 12/19 写真作品発表と総評 <p>*進捗によって講義内容は変更される可能性がある</p> | | | | |
| 受講要件 | 日常生活や世界で起こっていることに日頃から関心を持ち、問いを蓄えておくこと。発言を恐れない勇気をもつこと。 | | | | |
| テキスト | テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。 | | | | |
| 参考書 | 特に使用しない。 | | | | |
| 予習・復習について | グループワークやフィールドワーク、課題制作を積極的に行なうこと。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 講義・ディスカッションへの参加と貢献、発言の内容：40% 「第3回静岡県農村の魅力フォトコンテスト」への写真作品提出（写真＋タイトル＋解説文）：40% 写真作品の評価：10% グループワーク及び課題制作に対するピア評価：10% | | | | |
| オフィスアワー | 講義終了後に質問を受け付けます。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 講義では、受講生が安心して自由な発言が出来るよう、安全な場づくりを教員は心がけます。討議やグループワーク、課題制作への積極的な参加と貢献が求められます。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-----------|-----------|
| 授業科目名 | 森林生態管理学 (Forest Ecological Management) | | | | |
| 担当教員名 | 今泉 文寿 (Fumitoshi IMAIZUMI) | | 所属等 | 大学院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 農学総合棟 274 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 生物資源 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火 7・8 |
| キーワード | 森林の健康、樹木の健康、攪乱と多様性、森林の管理 | | | | |
| 授業の目標 | 樹木と森林の保全技術に必要な基礎的考え方を身につける。 森林が周囲の環境（気象、地盤条件）からどのような影響を受けて成立しているのか、森林が周囲の環境にどのような役割を果たしているのかについての理解を深める。 持続的に機能を発揮できる森林育成に必要な考え方を身につける。 | | | | |
| 学習内容 | 森林へのニーズが資源から環境へシフトする中で、樹木・森林の保全方法を学ぶ。森林と周囲の環境の相互作用や生態の多様性を維持しているメカニズムについて学び、森林の持つ役割や意義を理解する。 | | | | |
| 授業計画 | 1: ガイダンス 授業内容の紹介, 森林の保全・管理に関する諸問題 2: 森林をどうして保全・管理するのか (森林の多面的機能 生態, 環境保全) 3: 森林をどうして保全・管理するのか (森林の多面的機能 水, 土砂移動) 4: 樹木を知る (樹木の形態と機能) 5: 樹木の生育基盤 (地形, 気象, 土壌) 6: 樹木の生態と環境 (樹木と生育基盤の関わり) 7: 樹木の被害 (気象災害 水, 温度) 8: 樹木の被害 (気象災害 光, 雪, 風) 9: 樹木の被害 (病虫害) 10: 樹木の被害 (獣害, 人間による被害) 11: 森林の攪乱 (攪乱の種類, 多様性) 12: 森林の診断法 (調査・計測法, 攪乱の履歴の調査) 13: 森林の保全手法 (樹木・森林管理) 14: 森林の保全手法 (国際社会, 国, 地方の取り組み) 15: まとめ・復習 | | | | |
| 受講要件 | 関連科目: 森林生態学 造林学 森林環境水文学 山地保全学 | | | | |
| テキスト | なし, プリントによる。 | | | | |
| 参考書 | 講義中に随時紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | 十分な復習を行い, 理解できない点は教員へ質問すること。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 小テスト (60%), レポート (40%) 成績の秀は 90%以上, 優は 80%以上, 良は 70%以上, 可は 60%以上とする。 | | | | |
| オフィスアワー | 随時可 (メール等でアポイントがあればより確実に対応可) | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 受身にならずに積極的に授業へ参加してほしい。 説明がわかりづらい場合は指摘, 質問をしてほしい。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-----------|-----------|
| 授業科目名 | 園芸食品利用学 (Postharvest Technology of Fruit and Vegetables) | | | | |
| 担当教員名 | 山脇 和樹 (YAMAWAKI Kazuki) | | 所属等 | 学術院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 農学総合棟 431 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 共生バイオ | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 1・2 |
| キーワード | 青果物、貯蔵、流通、加工、呼吸生理、予冷、品質保持、缶詰、冷凍食品、色素と変色 | | | | |
| 授業の目標 | 生鮮な果実や野菜の多くは軟弱で貯蔵性が乏しく、また季節性、地域性も強いため、これらの利用は多くの制約を受ける。このような青果物の収穫から消費までの品質低下やロスを抑える技術は、生産の一部と認識すべきで、世界的に見て更なる開発や整備の余地が大きく残されている。また、缶詰や冷凍、乾燥などの加工は生産物の利用率を上げる重要な手段で、生産と切り離して考えることはできない。講義では、収穫後も生命体であり食品でもある青果物の有効な利用を目指す技術についての理解と関心を深め、さらに農業生産を広い視野で捉える感覚も養う。 | | | | |
| 学習内容 | 園芸生産物を食品として取扱い、その貯蔵や流通、加工に関する基礎知識や技術について学ぶ。 | | | | |
| 授業計画 | 1. 授業ガイダンス：講義概要、背景、意義 2. 呼吸生理：養分の供給は断たれても生きています。長所でもあり短所でもある 3. 呼吸の制御：温度、空気組成、エチレン、物理的刺激、熟度、齢など 4. 予冷の意義：収穫後、なぜ急いで冷やさないといけないのか 5. 予冷の実際：差圧通風予冷、真空予冷、ハイドロクーリングなど 6. 予措：流通、貯蔵の前に行う処理。キュアリング、脱渋、追熟処理など 7. CA貯蔵とMA貯蔵：リンゴが一年中食べられるのはCA貯蔵のおかげ 8. 生理障害と市場病害：収穫した時点で農作物は法的に食品の扱いを受ける 9. 品質評価と選別：傷つけずに成分や品質を測定、評価し、選別する技術が実用化 10. 缶・びん詰、レトルト食品：200年以上の歴史 11. 冷凍食品：単に凍らせた食品ではない 12. 色素と変色：きれいな色を保つのは至難のわざ 13. 水分活性と腐敗：水分活性とは？ 14. ゲル化剤としてのペクチン：どうして固まるのか 15. 総括および加工実習 16. 筆記試験 | | | | |
| 受講要件 | 関連科目：収穫後生理学、果樹園芸学、野菜園芸学など | | | | |
| テキスト | 特に使用しない 資料を適宜プリントして配布する | | | | |
| 参考書 | 「食品保蔵・流通技術ハンドブック」(建帛社) 「園芸食品の流通貯蔵加工」(養賢堂) 「青果保蔵学汎論」(建帛社) 「野菜の鮮度保持マニュアル」(流通システム研究センター) 他 | | | | |
| 予習・復習について | 特に予習の必要はないが、身近な果物、野菜の生理現象にも関心をもち、講義に臨んで欲しい。講義後は復習と興味を持った事柄について独自の学習を期待する。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 出席、小テスト、レポートにより受講意欲や関心度などを評価(30%)し、期末の筆記試験で総合的な理解度を評価(70%)する。 | | | | |
| オフィスアワー | 随時 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 講義中の質問は授業への積極的な参加として、加点評価する。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|------|-----------|----------|
| 授業科目名 | 植物バイオサイエンス基礎論 (Introduction to Plant Bioscience) | | | | |
| 担当教員名 | 加藤 雅也 (KATO Masaya) | | 所属等 | 大学院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 農学総合棟 432 | |
| 分担教員名 | 稲垣 栄洋、鈴木 克己、山脇 和樹、向井 啓雄、田上 陽介、堀池 徳祐、切岩 祥和、鮫島 玲子、平田 久笑、八幡 昌紀、中塚 貴司 | | | | |
| クラス | 農学共通 | 学期 | 後期前半 | | 必修選択区分 必 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 1 | 曜日・時限 | 水 1・2 |
| キーワード | | | | | |
| 授業の目標 | 植物バイオサイエンスコースの基盤となる園芸学、作物学、昆虫学、土壤微生物学、植物病理学、ゲノム科学について基礎的な知識を身につける。 | | | | |
| 学習内容 | 植物バイオサイエンスコースの各教員により、下記の授業計画にそって講義する。 | | | | |
| 授業計画 | 第1回：収穫後の園芸作物の代謝、青果物の低温流通・貯蔵の意義と低温障害 (担当 加藤雅、山脇) 第2回：果樹園芸学入門 (担当 向井、八幡) 第3回：バイオテクノロジーと植物工場、野菜の育ち方、育て方 (担当 鈴木、切岩) 第4回：花卉園芸学入門 (担当 中塚) 第5回：食用作物学の基礎 (稲垣) 第6回：昆虫について (田上) 第7回：植物と土の微生物、植物を病気にする微生物 (担当 鮫島、平田) 第8回：ゲノム科学入門 (堀池) | | | | |
| 受講要件 | | | | | |
| テキスト | 使用しない。資料が必要な場合は、印刷して配布する。 | | | | |
| 参考書 | 必要な場合は授業中に適宜紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 各回の小テストまたはレポートによる評価で行う。 | | | | |
| オフィスアワー | | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-------------|--------------|
| 授業科目名 | 分析化学2 (Analytical Chemistry 2) | | | | |
| 担当教員名 | 河岸 洋和 (KAWAGISHI Hirokazu) | | 所属等 | グリーン科学技術研究所 | |
| | | | 研究室 | 農学総合棟 672 | |
| 分担教員名 | 大西 利幸 | | | | |
| クラス | 応用生命 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 1・2 |
| キーワード | 質量分析法、核磁気共鳴分光法、赤外分光法、紫外・可視分光法、円偏光二色性分光法 | | | | |
| 授業の目標 | 生体分子および食品、農薬など低分子から高分子にわたる化学物質をその性質に基づいて定性的および定量的に分析するために必要な各種機器分析法の基本的な原理や方法を修得する。 | | | | |
| 学習内容 | 生命現象を司る低分子から高分子に至る化学物質の定性・定量分析方法の基本的知識および各種分析方法を用いた構造解析の技能を修得するために、核磁気共鳴分析、質量分析、紫外・可視分光法、赤外分光法、円偏光二色性分光法の基本原理を理解し、各種分析方法を用いた構造解析の技術を修得する。 | | | | |
| 授業計画 | <p>有機化学でよく使われる分析機器 (MS, NMR, IR, UV) を中心に、しくみから構造解析の仕方までを説明する。</p> <p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 紫外・可視分光法の原理と応用 (担当 大西 利幸) 2 赤外分光法の原理と応用 (担当 大西 利幸) 3 円偏光二色性分光法の原理と応用 (担当 大西 利幸) 4 質量分析法の原理 1: マススペクトル, 分子量関連イオン (担当 大西 利幸) 5 質量分析法の原理 2: イオン化方法 (EI, CI, ESI) (担当 大西 利幸) 6 質量分析法の応用 1: フラグメンテーション (担当 大西 利幸) 7 質量分析法の応用 2: 同位体マススペクトル, 高分解能質量分析法 (担当 大西 利幸) 8 質量分析法の応用 3: マススペクトルと構造解析 (担当 大西 利幸) 9 1次元 NMR の原理 1: パルス・フーリエ変換, 化学シフト, 遮蔽効果 (担当 河岸 洋和) 10 1次元 NMR の原理 2: 多重結合の磁気異方性, スピン-スピン結合 (担当 河岸 洋和) 11 1次元 NMR の原理 3: スピンデカップリング, NOE 効果 (担当 河岸 洋和) 12 2次元 NMR の原理 1: 1H-1H COSY, 1H-13C COSY (担当 河岸 洋和) 13 2次元 NMR の原理 2: 遠隔 1H-13C 異核間の相関 (担当 河岸 洋和) 14 1次元 NMR の応用: 1次元 NMR を中心に, 2次元 NMR, 各種分析方法を用いた構造解析 (担当 河岸 洋和) 15 2次元 NMR の応用: 2次元 NMR を中心に, 1次元 NMR, 各種分析方法を用いた構造解析 (担当 河岸 洋和) | | | | |
| 受講要件 | 高等学校で「化学」を未履修の者は、高等学校の「化学」の教科書を読んで学び、教科書の内容を理解しておくこと。 | | | | |
| テキスト | 「有機化学のためのスペクトル解析法 (第2版)」, 野村正勝監訳, 化学同人, 2012, ISBN 9784759811933 | | | | |
| 参考書 | <p>「ビギナーズ有機構造解析」 川端潤 著, 化学同人, 2005, ISBN 9784759809800</p> <p>「基礎から学ぶ有機化合物のスペクトル解析」, 小川 桂一郎著, 東京化学同人, 2008, ISBN 9784807906857</p> <p>「有機化合物のスペクトルによる同定法 (第7版)」, 荒木 峻など訳, 東京化学同人, 2006, ISBN 9784807906338</p> | | | | |
| 予習・復習について | 授業後と授業前に教科書とノートを読み、理解を深めること。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | レポート, 小テスト, 試験及び授業へ参加度を総合し, 秀 (90点以上), 優 (80点以上 90点未満), 良 (70点以上 80点未満), 可 (60点以上 70点未満), 不可 (59点未満) により評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 随時 (事前に電話や電子メール等で問い合わせること) | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 生命活動を司る生体分子の分析手法や分析原理を理解することは、生命活動を理解することの第一歩です。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|---------|--------|
| 授業科目名 | 雑草学 (Weed Science) | | | | |
| 担当教員名 | 稲垣 栄洋 (INAGAKI Hidehiro) | | 所属等 | 大学院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 藤枝フィールド | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 生物資源 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水3・4 |
| キーワード | | | | | |
| 授業の目標 | 雑草とはどのような植物であるのか、また雑草を管理する上で重要な雑草の生理生態に関する基礎的知識を習得することを課題とする。 | | | | |
| 学習内容 | 農業生産や緑地生産における雑草防除を行う上で重要な、雑草の生理生態と管理技術について講義する。 | | | | |
| 授業計画 | 第1回：雑草学序論 第2回：雑草の概念と起源 第3回：雑草の種類と分類 第4回：雑草の種子繁殖特性 第5回：雑草の栄養繁殖特性 第6回：雑草の種子伝播 第7回：雑草の変異 第8回：雑草害の種類 第9回：雑草の防除法の種類 第10回：除草剤 第11回：水田の雑草管理 第12回：畑地の雑草管理 第13回：非農耕地の雑草管理 第14回：雑草の総合防除と生態系管理 第15回：まとめ 定期試験 | | | | |
| 受講要件 | | | | | |
| テキスト | | | | | |
| 参考書 | 雑草学総論（養賢堂） | | | | |
| 予習・復習について | | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 筆記試験で評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-----------|-----------|
| 授業科目名 | 住環境構造学 (Structure of Wooden Houses and Environment) | | | | |
| 担当教員名 | 安村 基 (YASUMURA Motoi) | | 所属等 | 学術院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 農学総合棟 332 | |
| 分担教員名 | 小林 研治 | | | | |
| クラス | 環境森林 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 3・4 |
| キーワード | 木造住宅、建築構法、建設・施工、調達・物流、生産管理、耐震設計、耐風設計、許容応力度設計 | | | | |
| 授業の目標 | 木造住宅の構法・施工と生産管理および構造設計法の概要に関する基礎的な知識を修得することを目標とする。 | | | | |
| 学習内容 | 木材・木質材料の生産と調達・物流および木造住宅の構法・建設・施工と生産管理に関する知識を身につけるとともに、木造建築の構造的特徴と地震・暴風・積雪・常時荷重に対する設計法について学ぶ。なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の (B)および (D)に対応する。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 わが国における住宅生産の推移 2 建築材料と建築構法・施工・生産管理の概要 3 木造住宅の構工法と施工 (1) - 在来軸組構法 4 木造住宅の構工法と施工 (2) - 桝組壁工法・木質パネル工法 5 その他の構法と施工 (大断面木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造) 6 住宅生産における積算と工程管理 7 住宅各部詳細の施工と管理 8 住宅生産における材料調達と物流 9 構造計算の概要 10 荷重と外力 11 木造建築における耐震・耐風設計 12 木造建築における壁量計算 13 部材の設計 14 材料の強度と許容応力度 15 構造解析手法 | | | | |
| 受講要件 | 3年前学期の「材料力学」、後学期の「住環境工学」を履修することが望ましい。 | | | | |
| テキスト | 授業中にプリントを配布。 | | | | |
| 参考書 | 杉山英男編著「木質構造」(共立出版)、日本建築学会「構造用教材」「建築材料教材」。その他は授業中に随時紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | 復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 学期末試験の結果により評価する。 成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。 | | | | |
| オフィスアワー | 昼休み、農学総合棟 332室。メール (afmyasu@ipc.shizuoka.ac.jp) で連絡してください。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 積極的に質問してください。 本科目は、二級・木造建築士受験資格を得るために必修となる科目です。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-------------|-----------|
| 授業科目名 | 植物機能科学 (Plant Physiology and Function) | | | | |
| 担当教員名 | 原 正和 (HARA Masakazu) | | 所属等 | グリーン科学技術研究所 | |
| | | | 研究室 | 農学総合棟 678 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 共生バイオ | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 3・4 |
| キーワード | 植物の生理機能 Plant physiology、植物の素材 Plant materials、機能と素材の活用 Functional application | | | | |
| 授業の目標 | 植物の機能と利用に関する基礎知識を理解する事を目標とする。 Understanding of basics on functions and applications of plants | | | | |
| 学習内容 | 生物産業や環境分野における、植物の高度利用を支える学術情報と具体的活用方法を、植物の成長やストレス耐性などに焦点を当て、生物的、化学的側面から概説する。主としてプリントを用いた講義形式で進める。 Describing basics of functions and applications of plants | | | | |
| 授業計画 | 植物の機能（光合成、水分生理、二次代謝）をベースに、利用形態（素材、環境保全）、利用のための方法論（化学調節、育種、バイオテクノロジー）について概説する。 回 内容 1 ガイダンス Guidance 2 植物の機能 水分生理① Plant function water1 3 植物の機能 水分生理② Plant function water2 4 植物の機能 水分生理③ Plant function water3 5 植物の機能 温度生理① Plant function temperature1 6 植物の機能 温度生理② Plant function temperature2 7 植物の機能 温度生理③ Plant function temperature3 8 植物の機能 重金属生理 Plant function metals 9 植物の利用形態 素材① Plant application materials1 10 植物の利用形態 素材② Plant application materials2 11 植物の利用形態 環境保全① Plant application environment1 12 植物の利用形態 環境保全② Plant application environment2 13 利用のための方法論 化学調節 Application - chemicals 14 利用のための方法論 育種 Application - breeding 15 利用のための方法論 バイオテクノロジー Application - biotechnology | | | | |
| 受講要件 | 植物生理学を履修していること。化学・生化学関連の基礎知識が必要である。 Plant physiology | | | | |
| テキスト | 特に用意する必要はない Non | | | | |
| 参考書 | 植物生理学、植物化学などに関する各種参考書 Textbooks regarding plant physiology | | | | |
| 予習・復習について | 事前にプリントを配る予定であるので、それらに目を通しておくとよい。 Reading papers prepared | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 植物の機能と利用に関する基礎知識の習得度に応じて評価する。評価は、筆記試験（70%）、小テスト（30点）とし、出席状況もまた、評価に反映する。 Tests (70%) and quizzes (30%) | | | | |
| オフィスアワー | 定時のオフィスアワーを設けていないので、必要な時は事前にメールで問い合わせてください。 Appointment by email | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 評価は厳格に行うため、選択した場合にはしっかりと勉強してください。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-----------|----------|
| 授業科目名 | 生化学B (Biochemistry B) | | | | |
| 担当教員名 | 西村 直道 (NISHIMURA Naomichi) | | 所属等 | 大学院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 農学総合棟 575 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 応用生命 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 必 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 3・4 |
| キーワード | | | | | |
| 授業の目標 | 糖質、脂質の分子構造と生体内における代謝を理解し、それらの代謝が生体に及ぼす意義を把握することを目標とする。 | | | | |
| 学習内容 | 生体内における糖質および脂質の代謝について説明し、それらが生体内に及ぼす影響を、栄養学的意義を交えながら解説する。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 生体に寄与する糖質の構造と特性 2 嫌氣的糖代謝（解糖系） 3 好氣的糖代謝（TCA サイクル、電子伝達系+酸化的リン酸化） 4 グルコースの酸化分解によるエネルギー生成量 5 グリコーゲン代謝とエネルギー貯蔵 6 グルコース生成（糖新生）とその意義 7 糖新生を利用した組織間代謝 8 還元力の獲得（ペントースリン酸経路）とウロン酸経路 9 生体に寄与する脂質の構造と特性 10 脂質の体内輸送とリポタンパク質 11 脂肪・脂肪酸代謝とその栄養学的意義（ β 酸化・ケトン体代謝） 12 脂肪酸・脂肪合成とその栄養学的意義 13 エイコサノイド合成と n-6/n-3 系多価不飽和脂肪酸 14 コレステロールおよび胆汁酸代謝 15 脂質代謝異常と疾病 | | | | |
| 受講要件 | 特になし | | | | |
| テキスト | Tymoczko JL, Berg JM, Stryer L（入村達郎、岡山博人、清水孝雄監訳）、ストライヤー基礎生化学、東京化学同人 | | | | |
| 参考書 | 『代謝栄養学』、横越英彦編著、同文書院、2005、ISBN 978-4810313079 『Crash Course: Metabolism and Nutrition, 4th edition』、Dan Horton-Szar ed., Mosby, 2012、ISBN 978-0723436263 | | | | |
| 予習・復習について | あらかじめ授業に関わる部分を教科書で読んでおくことが授業理解を高める。また、授業後に復習を行うことが確実な知識へと醸成させる。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 小テスト（30点分）と期末試験（70点分）を合わせて評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 特になし | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 生体内ではさまざまな代謝によりエネルギーを生み出し、生体に必要な物質を作り出しています。この生命の織りなす巧みな仕組みについて興味をもって学んでほしい。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-----------|-----------|
| 授業科目名 | 森林生態学 (Forest Ecology) | | | | |
| 担当教員名 | 榎本 正明 (NARAMOTO Masaaki) | | 所属等 | 学術院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 農学総合棟 281 | |
| 分担教員名 | 王 権、水永 博己 | | | | |
| クラス | 共生バイオ | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 5・6 |
| キーワード | エコシステム、相互関係、環境要因、物質循環、物質生産 | | | | |
| 授業の目標 | 森林の生態系の特徴を 他の耕地や草原の生態系と比較しながら、樹木およびその集団としての森林が環境とどのような関係を維持しているかについて理解を深めることを目的とする。生態系の構造と機能について、森林気象学、森林立地学、樹木生理学など様々な学問分野と関連づけて解説する。 | | | | |
| 学習内容 | 森林生態系の物質循環を中心として講義する。 | | | | |
| 授業計画 | 1) ガイダンス 2) 生態系機能・多様性 3) 遷移・攪乱 4) 個体群動態 5) エネルギーバランス 6) 炭素循環 7) 水循環 8) 窒素循環 9) 個体の成長 10) 光合成 11) 光ストレス 12) 水ストレス 13) 種子生産・散布 14) 光環境 15) まとめ | | | | |
| 受講要件 | | | | | |
| テキスト | | | | | |
| 参考書 | Plant Eco-Physiology (Larcher, Springer) | | | | |
| 予習・復習について | 復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | ● 履修態度 (10%)、最終レポート・中間テスト・宿題 (90%) の結果を総合して評価する。 ● 成績の「秀」は 90%以上、「優」は 80%以上、「良」は 70%以上、「可」は 60%以上とする。 ● 講義中に口頭で回答させる。 | | | | |
| オフィスアワー | 原則的に火曜日、水曜日の午前中をあてる (フィールドに出ていることが多いのでメールでアポイントメントを取ること) | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-----------|-----------|
| 授業科目名 | 動物生理学 (Animal Physiology) | | | | |
| 担当教員名 | 与語 圭一郎 (YOGO Keiichiro) | | 所属等 | 大学院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 農学総合棟 585 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 応用生命 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 5・6 |
| キーワード | 動物、器官、組織、細胞、感覚、神経、筋、恒常性 | | | | |
| 授業の目標 | 動物の複雑な生理機能とその仕組みを理解するのが生理学という学問である。授業では、生体における外部刺激の受容と応答の仕組み、内部環境を一定に保つための各器官の働き、そして、それら機能を調節する神経やホルモンの働きなどについて紹介する。動物に備わった生命を維持・継承するための実に巧妙なシステムを理解しよう。 | | | | |
| 学習内容 | 主にヒトの生理を中心に学習するが、動物は進化の過程で、それぞれの生活環境に合わせ独自の生理機能・形態を発達させてきた。このようなユニークな動物の生理機能についても、ヒトと比較しながら紹介する予定である。 | | | | |
| 授業計画 | 1. 生体膜 2. 神経 3. 視覚 4. 嗅覚・フェロモン 5. 味覚 6. 聴覚 7. 体性感覚 8. 筋肉 9. 自律神経系 10. 血液 11. 循環 12. 呼吸 13. 消化・吸収 14. 腎・尿生成 15. 生殖 | | | | |
| 受講要件 | 特になし | | | | |
| テキスト | 講義内容に即したプリントを毎回配布する。特に購入を求めないものの、下記の参考書は授業内容の理解に役立つ。 | | | | |
| 参考書 | 「シンプル生理学第6版」(南江堂) 「生理学テキスト」第4版(文光堂) 「哺乳類と鳥類の生理学」第4版(学窓社)など | | | | |
| 予習・復習について | | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 期末試験の成績で評価する。出席が2/3に満たない場合は試験の受験資格を失う。 | | | | |
| オフィスアワー | とくに指定しないが、電話やメールで事前に連絡を。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|------|------------|----------|
| 授業科目名 | 木質科学基礎論 (Introduction to Wood Science) | | | | |
| 担当教員名 | 河合 真吾 (KAWAI Shingo) | | 所属等 | 大学院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 農学部総合棟 325 | |
| 分担教員名 | 山田 雅章、小島 陽一、小林 研治、田中 孝、米田 夕子、小堀 光 | | | | |
| クラス | 農学共通 | 学期 | 後期前半 | | 必修選択区分 必 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 1 | 曜日・時限 | 水 7・8 |
| キーワード | 木質科学 | | | | |
| 授業の目標 | 木質科学の基礎を理解するとともに、我が国の森林資源を活用する伸びしろのある分野である林業ならびにそれを利用する木材産業について理解する。 | | | | |
| 学習内容 | 木質科学の基礎知識について概説するとともに、これからの木材利用の姿とそれを取り巻く科学、技術、社会がどのような展開を遂げているかについて解説する。 | | | | |
| 授業計画 | 第1回：建築への木材利用（担当 小林） 第2回：木質構造物の耐震性能（担当 小林） 第3回：木材の接着・化学加工（担当 山田） 第4回：木材の加工（担当 田中） 第5回：木質資源の有効利活用（担当 小島） 第6回：木質材料の性能・耐久性評価（担当 小堀） 第7回：木材成分1 セルロース・ヘミセルロース（担当 米田） 第8回：木材成分2 リグニン・抽出成分（担当 河合） | | | | |
| 受講要件 | 特に無し | | | | |
| テキスト | 必要な資料を印刷して配布する。 | | | | |
| 参考書 | 「木の時代は甦る 未来への道標」、日本木材学会編、2015、978-4-0621-9429-7 | | | | |
| 予習・復習について | | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | ・レポート提出を単位認定条件とする。 ・履修態度（30%）とレポート（70%）の合計で評価する。 ・成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。 | | | | |
| オフィスアワー | 農総 321 室（小島が取りまとめを行う） | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 人間の生活に欠かすことの出来ない木材を利用することの意義を考える良い機会です。 | | | | |

| | | | | | |
|------------|--|-----|-----|------------|-----------|
| 授業科目名 | 環境社会学 (Environmental Sociology) | | | | |
| 担当教員名 | 富田 涼都 (TOMITA Ryoto) | | 所属等 | 大学院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 農学部総合棟 507 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 生物資源 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 7・8 |
| キーワード | 環境と社会、環境保全、生物多様性、生態系サービス、公害問題、資源管理、社会的公正、科学知と生活知、文化と伝統 | | | | |
| 授業の目標 | 「環境問題の解決」と一口に言っても、具体的に何を指しているのだろうか。少なくとも、そもそも「問題」と呼ばれているものの正体は何なのか、それに対して何が必要なのかを見極めなくてはならない。また、こうした問題の多くは、現場ごとに様々な特徴を持っているのでマニュアル式に決まった正解が導けるわけでもない。そのため、問題解決を目指すにしても現場から学ぶという姿勢が重要になる。したがって、この講義では、環境社会学の導入編として「環境と社会」という観点から各種の「環境問題」の事例を検討し、その解決に対して何が必要なのか、について現場に則して考えるための『土台』を提供することを目標とする。 | | | | |
| 学習内容 | 本講義は三部構成からなる。まず第一部では、「何を守るのか」という問いをもとにして、環境と社会の相互作用に注目する。第二部では「誰の環境を守るのか」という問いをもとにして、環境をめぐる社会的公正を考える。第三部では「どうやって守るのか」という問いをもとにして、環境の政策理念や遂行プロセスについて考える。なお、講義においては事例を取り上げるという性格上、視聴覚資料などを活用するほか、内容の理解を深めるために、グループディスカッションも行う。受講者からの発言を重視するので、それを踏まえて毎回の講義に臨んでほしい。 | | | | |
| 授業計画 | 1. ガイダンス 第一部『何を守るのか』 2. エコロジカル・フットプリントから見える「環境負荷」 3. 自然の「恵み」を受け続けるためには？ 4. 生態系サービスをめぐる環境と社会の相互作用 5. 自然保護において「守るべきもの」とは何か？ 第二部『誰の環境を守るのか』 6. 水俣病から学ぶ（その1） 7. 水俣病から学ぶ（その2） 8. リスクの分配は公正か？ 9. 自然再生事業は誰のもの？ 第三部『どうやって守るのか』 10. 「コモンズの悲劇」を超えて 11. 社会林業の意義 12. 「獣害問題」の解決とは？ 13. 「文化」の落とし穴 14. 「専門家」の役割を考える 15. 講義のまとめ | | | | |
| 受講要件 | 環境と社会の関係性に興味を持ち、講義に真摯な姿勢で臨む心構えがあること。 | | | | |
| テキスト | 特に指定しない。適宜資料を配布する。 | | | | |
| 参考書 | 『自然再生の環境倫理』,富田涼都,昭和堂,2014,978-4812213544 『環境の社会学』,関礼子ほか,有斐閣,2009,978-4641123854 『環境の豊かさをもとめて』,鬼頭秀一編,昭和堂,1999,978-4812299227 『よくわかる環境社会学』,鳥越皓之・帯谷博明編,2009,ミネルヴァ書房,978-4623053247 『環境と社会』西城戸誠・船戸修一編,2012,人文書院,978-4409001097 『なぜ環境保全部はうまくいかないのか』宮内泰介編,2013,新泉社,978-4787713018 | | | | |
| 予習・復習について | 講義中に示された参考書を参照したり、講義内容に基づいて各テーマについて報道や専門書、論文など参照して自主的に学習を進めることを推奨する。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 講義に対する参加意欲（リアクションペーパーの提出と内容）と最終レポートによって総合的に評価する。評価のウェイトは、おおむね2:8である。また、最終レポートは、講義の内容を通じて学生自らが自主的に学びながら「思考」し、論じているかという点を主に評価のポイントとする。 | | | | |

| | |
|--------------|--|
| オフィスアワー | 農学総合棟 5 階 507 号室。出張による不在も多いので、事前にメール (tomita.ryoto@shizuoka.ac.jp) で問い合わせること。なお、メールでの問い合わせは、友人への携帯メールとは異なるので、名前やタイトル等の情報をきちんと書くこと。 |
| 担当教員からのメッセージ | 環境社会学は、環境と社会の関係性についてのさまざまな領域の知見が用いられます。それらは具体的に環境と社会を見ていくために有効な視点を提示してくれます。この講義では、フィールドにおける各種の課題を見ていくための基礎知識を提示し、習得してもらうことを目的にしています。 |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|---------|-----------|
| 授業科目名 | 野菜園芸学 (Vegetable Crop Science) | | | | |
| 担当教員名 | 鈴木 克己 (SUZUKI Katsumi) | | 所属等 | 学院院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 農総 484 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 共生バイオ | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 木 1・2 |
| キーワード | 周年供給、安定生産、品種・学名、発育生理、露地栽培、施設栽培、作型分化、果菜類、葉根菜類、連作障害 | | | | |
| 授業の目標 | 野菜の作型分化を通して、「周年供給」「安定生産」に対する理解を深めることを目標とする。 | | | | |
| 学習内容 | 日本の野菜栽培は、「周年供給」「安定生産」を目標として栽培技術の発展・普及がなされてきた。本講義では、これらをキーワードとして、野菜生産の現状及び問題点について述べるとともに、果菜類・葉根菜類を中心とした野菜の発育生理・栽培生理を講義する。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 野菜園芸について 2 成長と生育 1 3 成育と成長 2 4 環境反応と代謝 5 野菜園芸の育種 6 栽培の基本 7 作型と栽培体系 1 8 作型と栽培体系 2 9 作型と栽培体系 3 10 施設環境と施設栽培 11 環境保全、省力化をねらった栽培法 12 果菜類 13 葉菜類 14 根菜類 15 施設園芸と植物工場 | | | | |
| 受講要件 | 園芸科学、植物生理学を受講しておくことが望ましい。 | | | | |
| テキスト | 野菜園芸の基礎(篠原温 編), 農文協 | | | | |
| 参考書 | 「蔬菜園芸学」, 伊東 正他著 (川島書店) 「野菜園芸学」, 金浜耕基編 (文永堂) 「園芸学概論」, 斎藤 隆他著(文永堂) | | | | |
| 予習・復習について | 教科書をあらかじめ読んでおくのが望ましい。毎時間にまとめの問題を選択して解答を行う。採点して次回に返却する。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 評価は、定期試験(60%)、レポート(40%)、時間ごとのまとめの問題の取り組みにより行います。再試験は行いません。 | | | | |
| オフィスアワー | メール suzuki.katsumi@shizuoka.ac.jp でアポイントメントを取り訪問してください。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 本講義は野菜生産の現状と栽培生理を講義するもので、直接的栽培技術は扱いません。講義方法や内容について意見や質問がある場合は、授業中または授業後に直接意見を寄せてください。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|--------------------------------|-----------|
| 授業科目名 | 分子機能化学 (Molecular Functional Chemistry) | | | | |
| 担当教員名 | 平井 浩文 (HIRAI Hirofumi) | | 所属等 | 大学院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 農学部 A 棟 633-1 (移転後: 農学総合棟 675) | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 応用生物 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 木 1・2 |
| キーワード | バイオリファイナリー、白色腐朽担子菌、リグニン生分解、バイオレメディエーション、二次代謝産物、生合成経路 | | | | |
| 授業の目標 | 第一部では木質バイオリファイナリーに関する基礎的知見を、第二部では二次代謝産物の生合成経路について理解する。 | | | | |
| 学習内容 | 現在の地球環境問題から考えて、木質系バイオマスを利用したバイオリファイナリー技術の確立は急務である。しかしながら様々な問題から未だ確立された技術として認められていない。本講義の第一部では木質バイオリファイナリー技術の必要性から、白色腐朽菌担子菌を用いた木質バイオリファイナリーに関する内容まで講義する。 第二部では、様々な生物が産生する二次代謝産物（セルロース、リグニン、テルペノイド、ポリケチド、フラボノイド等）の生合成経路に着目し、その経路を詳細に講義する。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 序章（講義内容、目的等の解説） 2 地球環境問題と木質バイオリファイナリーについて 3 微生物によるリグニン生分解機構 ～木質バイオリファイナリーを念頭において～（1） 4 微生物によるリグニン生分解機構 ～木質バイオリファイナリーを念頭において～（2） 5 微生物によるバイオレメディエーションについて ～地球環境問題を念頭において～（1） 6 微生物によるバイオレメディエーションについて ～地球環境問題を念頭において～（2） 7 研究最前線についての紹介 8 中間試験 9 セルロースの生合成経路について 10 シキミ酸経路について 11 リグニン（シキミ酸経路）の生合成経路について 12 メバロン酸経路について 13 非メバロン酸経路について 14 酢酸-マロン酸経路について 15 酢酸-マロン酸-シキミ酸複合経路について | | | | |
| 受講要件 | 生化学・有機化学・分子生物学の基礎を理解しておくこと。 | | | | |
| テキスト | 講義に必要なファイルを web 公開するので、必要に応じてダウンロードすること。 また「意外に知らない、いまさら聞けない バイオ実験超基本 Q&A 改訂版 (ISBN978-4-7581-2015-9)」も使用する。 | | | | |
| 参考書 | 講義中に随時紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | 予習の必要はなし。ただし毎回小テストを実施するので、復習は十分にやること。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 履修態度（10%）、小テスト・中間テスト・学期末試験（90%）の結果より評価する。 小テスト・中間テスト・学期末試験の評価基準は、講義内容の理解度とする。 | | | | |
| オフィスアワー | 火曜日 11:00～12:00。なお、質問は随時受け付けますので、まずはメール (hirai.hirofumi@shizuoka.ac.jp) にて連絡すること。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 本講義は小・中間テストの総得点 70%以上の者は最終試験を免除します。 つまり、毎回の復習が重要となりますので、わからないところがある場合はそのままにせず、積極的に質問に来てください。そして、是非好成績で本講義の単位を取得してください。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-----------|----------|
| 授業科目名 | 分子細胞生物学 (Molecular Biology of the Cell) | | | | |
| 担当教員名 | 与語 圭一郎 (YOGO Keiichiro) | | 所属等 | 学術院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 農学総合棟 585 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 応用生物 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 必 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 木 3・4 |
| キーワード | DNA、タンパク質、転写、翻訳、細胞増殖、細胞分化、がん、老化、幹細胞 | | | | |
| 授業の目標 | 分子生物学とは「分子の言葉で生命を語る」学問である。つまり、複雑な生命現象を、遺伝子やタンパク質といった分子の働きで成り立つシステムとしてとらえ、個々の分子の機能や細胞内局在、分子間・細胞間の相互作用を明らかにすることで、生命の本質を理解することを目的としている。本講義では、生命の最小単位である細胞を中心に、先達たちが明らかにしてきた、生命システムの分子基盤を理解することを目標とする。 | | | | |
| 学習内容 | 細胞にとって基本的な機能である、遺伝情報の発現と細胞増殖を中心にその調節の分子メカニズムについて学習する | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 細胞内シグナル伝達 イオンチャネル型受容体 Gタンパク共役型受容体 チロシンキナーゼ型受容体 遺伝情報発現の制御 転写調節因子 クロマチン構造 選択的スプライシング マイクロRNA 翻訳レベルでの調節 翻訳後修飾 細胞増殖と死、およびその異常 細胞周期・チェックポイント 細胞分裂・染色体分配 アポトーシス がん 老化 <p>また、時間が許せば幹細胞や遺伝子改変動物の話題についても触れる</p> | | | | |
| 受講要件 | 2年次までの専門科目（必修）を理解していること。 | | | | |
| テキスト | エッセンシャル細胞生物学（南江堂） | | | | |
| 参考書 | 細胞の分子生物学（ニュートンプレス） 遺伝情報の発現制御（メディカル・サイエンス・インターナショナル） | | | | |
| 予習・復習について | テストに向けた単なる暗記に終わってはあまり意味がない。細胞の中で分子一つ一つが見せているはずの動きや反応を頭の中で想像するとともに、そのミクロレベルの働きが細胞の分化や増殖といったマクロな変化を引き起こしていくストーリーの全体像の把握に努めてほしい。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 試験の得点をもとに評価する。特段の理由なき欠席が3分の1を超えると試験の受験資格を失う。 | | | | |
| オフィスアワー | 特に設定しないが事前に連絡を | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-----------|-----------|
| 授業科目名 | ゲノムサイエンス (Genome Science) | | | | |
| 担当教員名 | 堀池 徳祐 (HORIIKE Tokuma) | | 所属等 | 学術院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 総合研究棟 302 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 生物資源 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金 1・2 |
| キーワード | ゲノム、バイオインフォマティクス、分子進化、データベース、コンピュータ | | | | |
| 授業の目標 | 情報解析を中心にゲノム解析の目標、進め方、新しい解析技術などについて幅広く講義することで、生命科学とその応用を学ぶ基盤とする。また、コンピュータによる基礎的な情報処理についても修得する。 | | | | |
| 学習内容 | コンピュータを利用したゲノム情報解析を行う方法について理論と実践の両面から学ぶ。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 ガイダンスーゲノム科学を学ぶにあたって 2 網羅的研究、大量データの処理・自動化 3 コンピュータの基礎 4 デジタル回路 5 テキストエディタを用いたデータ編集 6 テキストエディタを用いたデータ編集 7 プログラミングの基礎演習 8 比較ゲノム解析 9 分子系統解析 10 タンパク質立体構造予測 11 メタゲノミクス 12 エピジェネティクス 13 突然変異の解析 14 ゲノムリソースサイトの紹介と利用 15 オミックス解析についてとそのデータ処理方法 | | | | |
| 受講要件 | 分子生物学を履修していること。 | | | | |
| テキスト | 特になし。 | | | | |
| 参考書 | 特になし。 | | | | |
| 予習・復習について | | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 学生は任意の遺伝子、あるいはタンパク質を選択し、それを用いた各種解析を行う。その解析結果の正確さと考察の論理性を評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-----------|----------|
| 授業科目名 | 高分子科学 (Polymer Science) | | | | |
| 担当教員名 | 山田 雅章 (YAMADA Masaaki) | | 所属等 | 大学院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 農学総合棟 329 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 生物資源 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 必 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金 1・2 |
| キーワード | 天然高分子、合成高分子、高分子合成、高分子の構造、物性、高分子設計 | | | | |
| 授業の目標 | 高分子の歴史、高分子合成、構造とその物性、高分子材料などを理解し、生活の中に利用されている高分子の特徴と利用への理解を深めることを目標とする。 | | | | |
| 学習内容 | 建築材料・生活材料として広く利用されている高分子材料の利用適性への理解を深められるよう、高分子の歴史、合成法、構造・分子の挙動とその物性との関係などについて、その基礎となる諸事項を講説する。 | | | | |
| 授業計画 | 第1回：高分子化合物の基礎 高分子とは 第2回：高分子化合物の基礎 どんな構造をしているか 第3回：高分子化合物の基礎 ポリエチレンからダイヤモンドまで 第4回：高分子化合物の基礎 共重合体の特徴 第5回：高分子化合物の基礎 高分子を立体的に見る 第6回：高分子化合物の基礎 立体構造と高分子の性質 第7回：高分子材料の基礎 高分子の結晶と非晶 第8回：高分子材料の基礎 高分子材料の強さ 第9回：高分子材料の基礎 高分子材料を試験する 第10回：高分子材料の基礎 ゴムの不思議 第11回：高分子材料の基礎 高分子を熱したり冷やしたりする 第12回：高分子材料の基礎 流れる高分子 第13回：高分子材料の基礎 これからの高分子 第14回：高分子の製品をつくる 高分子化合物の合成 第15回：高分子の製品をつくる 高分子を設計する | | | | |
| 受講要件 | 木材のクリープや応力緩和、接着剤の物性に大きく関与しており、「木質機能科学」「木材接着学」およびそれらの「実験」の基礎となる。 | | | | |
| テキスト | 横田健二著「高分子を学ぼうー高分子材料入門」化学同人 および プリント | | | | |
| 参考書 | 適宜講義中に紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | 毎回授業の予習及び復習を行って欲しい。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 履修態度および小テスト(30%)・筆記試験結果(70%)を総合して評価する。成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする | | | | |
| オフィスアワー | 水曜日 昼休み または夕方5時以降 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 午後の授業であるので集中力を持続させること。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-----------|-----------|
| 授業科目名 | 酵素科学 (Enzymology) | | | | |
| 担当教員名 | 村田 健臣 (MURATA Takeomi) | | 所属等 | 大学院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 農学総合棟 527 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 応用生物 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金 1・2 |
| キーワード | タンパク質、生体触媒、酵素阻害、反応速度論、触媒機構 | | | | |
| 授業の目標 | 酵素は生命活動を支える様々な生体反応を促進する役割を担っている。従って、生命現象を理解するためには、酵素タンパク質の性質や触媒機構についての基礎的な知識が必要である。ここでは、酵素タンパク質の一般的性質や触媒機構の基礎について分子レベルで理解する。 | | | | |
| 学習内容 | 酵素の構造、反応速度論、反応機構などの基礎の習得とともに、分子レベルでみた触媒機構を学ぶ。講義中には、最近の研究での応用技術などの具体例を挙げ、酵素に対する興味を深める。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 酵素科学の概要 2 酵素の構造 3 酵素の分類 4 酵素反応速度論 I 5 酵素反応速度論 II 6 酵素反応の阻害 I 7 酵素反応の阻害 II 8 酵素活性の調節 9 酵素の反応機構の基礎 10 反応機構の触媒様式 11 リゾチームの触媒作用 12 セリンプロテアーゼの触媒作用 13 リボヌクレアーゼの触媒作用 14 補因子 15 補因子 | | | | |
| 受講要件 | 関連科目：生化学概論、生化学、有機化学概論 | | | | |
| テキスト | ホートン生化学 第5版（東京化学同人） | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 予習・復習について | | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 期末筆記試験により評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 講義後やメールで連絡いただければ、時間や場所について対応いたします。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 酵素の魅力や不思議を探してください。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-----------|-----------|
| 授業科目名 | 環境毒性学 (Environmental Toxicology) | | | | |
| 担当教員名 | 釜谷 保志 (KAMAYA Yasushi) | | 所属等 | 学術院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 農学総合棟 380 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 生物資源 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金 1・2 |
| キーワード | 物質の環境動態、生態毒性、生態リスク | | | | |
| 授業の目標 | 環境経路で暴露する化学物質と生物との相互作用について理解を深め、人間の活動において環境負荷のより小さな物質の選択・利用を進めるために、その基礎となる知識と考え方を学ぶ。 | | | | |
| 学習内容 | 環境中に放出された物質が、環境中でどのような挙動を示し、生物とどのように相互作用するか、生物への有害影響の可能性を考え、予測するために必要な基礎的事項を整理し、生態系への影響評価の現状と課題について学ぶ。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 環境毒性学の概要説明 2 環境媒体と物質の輸送・分布 3 非生物の変換・分解 (1) 酸化反応 4 非生物の変換・分解 (2) 還元・加水分解反応 5 非生物の変換・分解 (3) 光反応 6 生物との相互作用 (1) 吸収・分布 7 生物との相互作用 (2) 生物蓄積 8 生物との相互作用 (3) 代謝・排泄 9 生物の変換・分解 (1) 微生物 10 生物の変換・分解 (2) 植物・水生生物 11 生態毒性と毒性評価試験 12 生態リスク評価 13 特定化学物質の生態リスク評価 14 バイオマーカーとバイオモニタリング 15 環境毒性学の課題 | | | | |
| 受講要件 | 有機化学、生化学、微生物学、生態学などに関連するので、これらの基礎的事項をよく理解していることが望ましい。 | | | | |
| テキスト | 『環境毒性学』 渡邊泉・久野勝治 編、朝倉書店 | | | | |
| 参考書 | 『基礎 環境化学』 津田広人・田村 類 著、サイエンス社 | | | | |
| 予習・復習について | 予習復習には、テキストや授業で紹介する参考書等を活用されたい。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 小テスト2回(40%)及び期末テスト(60%)により評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 特に指定しないので、適宜連絡予約されたい。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 疑問点などは、質問するか自分で調べて、そのままにしないこと。 | | | | |

| | | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|--|--------|----|
| 授業科目名 | <p style="text-align: center;">溪流環境学 (Torrent Control)</p> | | | | | |
| 担当教員名 | <p style="text-align: center;">土屋 智 (TSUCHIYA Satoshi)</p> | | 所属等 | <p style="text-align: center;">大学院農学領域</p> | | |
| | | | 研究室 | <p style="text-align: center;">農学総合棟 271</p> | | |
| 分担教員名 | | | | | | |
| クラス | 環境森林 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 | 選必 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金 1・2 | |
| キーワード | 砂防工学、河川工学、溪流生態砂防学 | | | | | |
| 授業の目標 | 一般河川の源流域で生産された土砂がどのような移動形態をとり下流に運搬されるか、また洪水時に生起するダイナミックな土砂移動対策等に関する基礎的な知識を得ることを目標とする。 | | | | | |
| 学習内容 | <p>一般河川の上流や溪流を対象に、水と土砂の移動運搬に関する実態と対策について溪流環境の保全といった観点を交え講義する。源流域で生産された土砂がどのような移動形態をとり下流に運搬されるかについて、流水環境、地形地質環境とともに広範囲に解説する。</p> <p>なお本授業の履修を通して、技術者教育プログラムで設定された次の学習・教育目標の達成を目指す。なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標（B）および（D）に対応する。</p> | | | | | |
| 授業計画 | <p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 侵食場の形成 2 森林による土地保全 3 流域の土砂生産 4 溪流の水理学Ⅰ 5 溪流の水理学Ⅱ 6 土砂水理と運搬 7 河床変動のシミュレーション 8 砂防調査と計画 9 砂防えん堤の機能 10 砂防えん堤の設計 11 溪流保全工 12 ダム堆砂量の予測 13 河川環境と利水に関する環境倫理 14 土砂災害（土砂移動現象）と環境倫理 15 溪流堆積土砂量の推定方法 | | | | | |
| 受講要件 | 山地安定学」を履修しておくこと。「砂防学実習」の基礎科目となる。「森林水文学」、「応用気象学」、「地質学概論」、「地学実習」と関連が深い。 | | | | | |
| テキスト | 新砂防工学（朝倉書店）。また、随時プリントを配布する。 | | | | | |
| 参考書 | 砂防学概論（鹿島出版会）、山地保全学（文永堂） | | | | | |
| 予習・復習について | 復習を行い、理解できないあるいは疑問を生じた箇所は、授業後やオフィスアワー時に質問してください。 | | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 履修態度（10%）、レポート・中間テスト・学期末試験（合計 90%）の結果を総合して評価する。成績の「秀」は 90%以上、「優」は 80%以上、「良」は 70%以上、「可」は 60%以上とする。 | | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後に質問や相談を受け付ける。それ以外は電子メール（afstuti@agr.shizuoka.ac.jp）で前もって連絡のこと。 | | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | オフィスアワーを積極的に利用し、質問してください。 | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|------------|----------|
| 授業科目名 | 木材化学 (Wood Chemistry) | | | | |
| 担当教員名 | 河合 真吾 (KAWAI Shingo) | | 所属等 | 学術院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 農学部総合棟 325 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 生物資源 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 必 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金 3・4 |
| キーワード | セルロース、ヘミセルロース、リグニン、抽出成分、化学構造解析、パルプ | | | | |
| 授業の目標 | 再生可能な樹木資源は、紙パルプ原料、化学工業原料、医薬原料、建築材料および燃料などに利用されている。本授業では、樹木成分の化学組成などを理解し、主体的関心を持つことを目標とする。 | | | | |
| 学習内容 | 木質系資源の主成分であるセルロース、ヘミセルロース、リグニンおよび副成分である抽出成分の化学構造や特性を講述する。また、それら成分の機器分析を用いた化学構造解析法やパルプ化法についても学習する。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 木質成分の化学組成 2 リグニンの化学1 モノリグノール 3 リグニンの化学2 リグニンサブストラクチャー 4 リグニンの利用 5 セルロースの化学 6 セルロース誘導体とその利用 7 ヘミセルロースの化学とその利用 8 抽出成分の化学とその利用1 フェニルプロパノイド 9 抽出成分の化学とその利用2 テルペノイドその他 10 木質成分の化学構造解析法1 UV、IR 11 木質成分の化学構造解析法2 NMR 12 木質成分の化学構造解析法3 質量分析 13 パルプ原料とその製造法1 機械パルプ 14 パルプ原料とその製造法2 化学パルプ 15 パルプの漂白 | | | | |
| 受講要件 | 3年生前学期の「樹木生化学」と関連する。 | | | | |
| テキスト | 必要な資料を印刷して配布する。 | | | | |
| 参考書 | 日本木材学会編：木質の化学（文永堂） 福島和彦ほか 編集：木質の形成 -バイオマス科学への招待-（海青社） | | | | |
| 予習・復習について | 配布資料にかかっている内容をよく理解すること。「樹木生化学」の配付資料も参照。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 履修態度（25%）と筆記試験（75%）の合計で評価する。 ・筆記試験の評価基準は、講義内容の理解度とする。 ・成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。 | | | | |
| オフィスアワー | 総合農学棟、325室で随時受け付ける。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 樹木成分の化学構造を知ることは、木質系バイオマスを有効に利用する上で非常に重要です。興味を持って授業に望んでください。オフィスアワーを積極的に利用してください。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-----------|--------|
| 授業科目名 | 生物有機化学 (Bioorganic Chemistry) | | | | |
| 担当教員名 | 轟 泰司 (TODOROKI Yasushi) | | 所属等 | 大学院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 農学総合棟 682 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 応用生命 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金 3・4 |
| キーワード | 分子間相互作用、酵素反応、生体分子、解糖、クエン酸回路、糖新生、アミノ酸代謝・生合成、ヌクレオチド代謝 | | | | |
| 授業の目標 | 生体系に存在する有機化合物の性質と反応について学ぶ。特に、酵素の触媒作用によって進行するさまざまな有機化学反応例を紹介し、生物を化学の視点から探求するセンスを身につける。 | | | | |
| 学習内容 | 分子認識の基礎と酵素反応の基礎を講義した後に、脂質、糖、アミノ酸およびヌクレオチドの生合成と代謝の反応を有機化学の視点から講義する。 | | | | |
| 授業計画 | 第1回：分子間相互作用1：静電相互作用と水素結合(担当 轟 泰司) 第2回：分子間相互作用2：ファンデルワールス相互作用と疎水相互作用 (担当 轟 泰司) 第3回：分子認識の熱力学と速度論 (担当 轟 泰司) 第4回：酵素反応速度論 (担当 村田 健臣) 第5回：酵素反応の阻害 (担当 村田 健臣) 第6回：生体分子の構造と性質 (担当 轟 泰司) 第7回：生体内の有機化学反応 (担当 轟 泰司) 第8回：脂質β酸化の有機化学 (担当 轟 泰司) 第9回：脂肪酸生合成の有機化学 (担当 轟 泰司) 第10回：解糖の有機化学 (担当 轟 泰司) 第11回：クエン酸回路の有機化学 (担当 轟 泰司) 第12回：糖新生の有機化学 (担当 轟 泰司) 第13回：アミノ酸代謝の有機化学 (担当 轟 泰司) 第14回：アミノ酸生合成の有機化学 (担当 轟 泰司) 第15回：ヌクレオチド代謝の有機化学 (担当 轟 泰司) | | | | |
| 受講要件 | 特になし | | | | |
| テキスト | マクマリー生化学反応機構 (東京化学同人) | | | | |
| 参考書 | マクマリー生物有機化学 有機化学編 (丸善) マクマリー生物有機化学 生化学編 (丸善) | | | | |
| 予習・復習について | 必ず復習をすること。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 小テストとレポート (30%)，期末テスト (70%) | | | | |
| オフィスアワー | メールで連絡してください。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | できるだけ質問に来て，疑問点を解決してください。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|------|-----------|----------|
| 授業科目名 | 地域生態環境科学基礎論 (Introduction to Regional Environment) | | | | |
| 担当教員名 | 山下 雅幸 (YAMASHITA Masayuki) | | 所属等 | 学院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 農学総合棟 472 | |
| 分担教員名 | 釜谷 保志、澤田 均、水永 博己、逢坂 興宏、南雲 俊之、今泉 文寿、富田 涼都 | | | | |
| クラス | 農学共通 | 学期 | 後期前半 | | 必修選択区分 必 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 1 | 曜日・時限 | 金 5・6 |
| キーワード | | | | | |
| 授業の目標 | この科目は、生物資源科学科・地域生態環境科学コースの概要を解説する導入科目で、人間と自然環境の関わり、農業環境問題、地域環境問題（熱帯林、水環境等）、森林防災、環境リスクなどの幅広いテーマに関連する基礎知識を習得することを目標とする。 | | | | |
| 学習内容 | 人間と自然環境の関わり、農業環境問題、地域環境問題（熱帯林、水環境等）、森林防災、環境リスクなどの幅広いテーマについて段階的に学習できるように構成している。 | | | | |
| 授業計画 | 第1回：食料生産と保全（担当 澤田 均、山下雅幸） 第2回：農業と環境（担当 南雲俊之） 第3回：水質と空気質（担当 釜谷保志、渡邊 拓） 第4回：自然の「恵み」と「災い」をどう分かち合うか？－環境を社会から考える－（担当 富田涼都） 第5回：生態系劣化と保全：砂漠と熱帯林で（担当 水永博己、檜本正明） 樹木の生理生態と森林管理（担当 飯尾淳弘） 第6回：リモートセンシングによる広域的な環境動態の診断（担当 王 権、菌部 礼） 第7回：森林資源の収穫（担当 近藤恵市） 第8回：森林の多面的機能－効果と限界－（担当 土屋 智、逢坂興宏、今泉文寿） | | | | |
| 受講要件 | | | | | |
| テキスト | 特になし。必要な資料は印刷して配布する。 | | | | |
| 参考書 | 適宜紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | レポートと授業への取り組み(遅刻・欠席を含む)で評価する。レポートは3回課す(ガイダンスで担当者を紹介)。配点はそれぞれ 25%、25%、50%。4回以上の欠席は落第とする。評価基準は、科目の目標に沿って、特にレポートは講義テーマの理解度と関心度、論理的思考力、文章表現力などをみる。 | | | | |
| オフィスアワー | | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|------|-----------|----------|
| 授業科目名 | 応用生命科学基礎論 (Introduction to Applied Life Science) | | | | |
| 担当教員名 | 轟 泰司 (TODOROKI Yasushi) | | 所属等 | 学院院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 農学総合棟 682 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 農学共通 | 学期 | 後期後半 | | 必修選択区分 必 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 1 | 曜日・時限 | 金 5・6 |
| キーワード | 生命科学、微生物、植物、動物、食品栄養、ゲノム、ホルモン、化合物 | | | | |
| 授業の目標 | 生命科学とはどのような学問であるのか、また、生命科学の研究にはどのような知識や技術が必要で、また思考力やひらめき、遊び心がどのように活かされているのか、そして何よりも、まだ誰も見たことがない世界に初めて足を踏み入れる喜びこそが生命科学の原動力であり醍醐味であることを感じてもらい、今後の勉学のモチベーションとしてもらう。 | | | | |
| 学習内容 | 微生物、植物、動物など生物の生命現象の解明と応用を目的として様々な切り口と多種多様な技術を駆使して実施されてきた生々しい研究事例を聴講する。 | | | | |
| 授業計画 | 応用生命科学科教員によるオムニバス形式（全8回） 1. 細胞の暑さ対策を探る 2. 分子をデザインする 3. プラスチドから植物機能を読み解く 4. わさびの辛味で植物を目覚めさせる 5. 食で大腸内の生態系を制御する 6. 環境問題解決に向けたキノコの利用 7. 放線菌はこんなに役に立つ 8. 母乳は新生児を病気から守る | | | | |
| 受講要件 | 特になし。 | | | | |
| テキスト | 特になし（必要に応じて、プリント等を配布する場合がある）。 | | | | |
| 参考書 | 特になし。 | | | | |
| 予習・復習について | 授業を聴いて興味が湧いたら、担当の先生にさらに詳しい話を聞きに行ったり、質問をする。また、図書館等で調べてみる。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 6回以上出席した学生について、出席カードの学生欄の記述に基づき、S,A,B,Cで評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 担当の先生にメール等で連絡する。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|-----------|----------|
| 授業科目名 | 基礎微生物学 (Introduction to Microbiology) | | | | |
| 担当教員名 | 徳山 真治 (TOKUYAMA Shinji) | | 所属等 | 学院院農学領域 | |
| | | | 研究室 | 農学総合棟 525 | |
| 分担教員名 | 小谷 真也、朴 龍洙、加藤 竜也 | | | | |
| クラス | 応用生命 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 必 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金 7・8 |
| キーワード | | | | | |
| 授業の目標 | 微生物学は生命科学の最も基礎的な部分を構成している。本講義では、微生物学の基礎を身につけることを目標として、微生物の生理生化学、物質代謝、遺伝および生態を、その内容を整理し体系的に解説する。 | | | | |
| 学習内容 | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション・微生物学の歴史 2. 微生物の取扱い・分類・細胞構造 3. 微生物の栄養増殖・遺伝 4. 微生物の代謝・発酵 5. 微生物と物質循環・環境保全 | | | | |
| 受講要件 | | | | | |
| テキスト | 微生物学 青木健治 化学同人 | | | | |
| 参考書 | 講義中に適宜紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 中間と期末に2回の試験を行う。その成績と出席率を総合して評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|---------|-----------|
| 授業科目名 | 電磁気学 (Electromagnetism) | | | | |
| 担当教員名 | 岡部 拓也 (OKABE Takuya) | | 所属等 | 大学院工学領域 | |
| | | | 研究室 | 6号館303 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | S | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選必 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月3・4 |
| キーワード | 電場、磁場、電流、電磁誘導、ガウスの法則、アンペールの法則、ファラデーの法則、キルヒホッフの法則、ビオ-サバールの法則 | | | | |
| 授業の目標 | 本講義では、電磁気現象、主に、静電場、電流と磁場、電磁誘導、直流および交流回路に関連した原理・法則を理解し、それを体系的に記述する物理数学的技術を修得する。 | | | | |
| 学習内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 静電場の性質の把握と記述方法の修得 2. ガウスの法則の理解と応用力養成 3. 電位と静電場エネルギーの記述方法の修得 4. 電流と磁場および電場と磁場の間に存在する法則の理解と応用力養成 5. 抵抗、コンデンサー、コイルからなる基本的な電気回路の特性の修得 | | | | |
| 授業計画 | <p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 概要（電磁気学の発展の歴史について概説し、現代の科学技術における役割と重要性について述べる） 2 クーロンの法則、静電場（点電荷およびその集合による静電気力に関する法則とその数学的記述法、ベクトル場の概念とそれによる静電場の記述） 3 ガウスの法則（積分形）（静電場と電荷密度の関係を、ベクトル場とその積分によって記述する方法について述べる） 4 ガウスの法則の応用（この法則を用いて電場を求める幾つかの例を示す） 5 電場と電位（電場の線積分による電位の定義と、電位の勾配から電場を求める方法について述べる） 6 導体の性質、電気容量（導体および静電場中の導体の特性について述べる。さらに、導体平板および導体球からなるコンデンサーの電気容量、静電場エネルギーについて説明する） 7 誘電体と静電場（誘電体の基本的性質と、誘電体中の静電場の性質について述べる） 8 電流密度、オームの法則、キルヒホッフの法則（導体を流れる電荷から電流および抵抗を定義し、電気回路における電流、電圧の基本法則について述べる） 9 電流と磁場、ローレンツ力（磁束密度および磁場の強さの定義、荷電粒子および電流が流れている導線が磁場中で受ける力の法則について述べる） 10 静磁場の基本法則とアンペールの法則（磁場に関するガウスの法則、電流の強さとその周りにできる磁場の間に成り立つ法則について述べる） 11 ビオ・サバールの法則（任意の曲線導体を流れる電流によってできる磁場の計算方法、および応用例について述べる） 12 電磁誘導、コイルの自己誘導現象（閉じた回路を貫く磁場の時間変化により生じる起電力の法則、コイル中の磁場の時間変化により自己誘導される起電力について述べる） 13 変位電流と誘導磁場（平行板コンデンサー間の時間変化する電場から変位電流を定義し、変位電流の周りに発生する誘導磁場について述べる） 14 回路の過渡現象（抵抗 R、コンデンサー C、コイル L からなる回路に、直流電圧をかけた場合の電流の過渡的变化を求め、回路の基本的性質について述べる） 15 交流回路（交流電圧をかけた回路の電流の変化を交流抵抗（インピーダンス）を用いて表す） | | | | |
| 受講要件 | 微分・積分、線形代数、常微分方程式、ベクトル解析の理解が必要となるので、関連する数学の講義および演習は必ず履修しておくこと。 | | | | |
| テキスト | 「ビジュアルアプローチ 電磁気学」(前田和茂, 小林俊雄 著, 森北出版) ISBN978-4-627-16221-1 | | | | |
| 参考書 | 「大学演習電磁気学」(霜田・近角 編, 裳華房) ISBN-13:978-4785380106 「電磁気学の考え方」(砂川重信著, 岩波書店) ISBN-13:978-4000078925 | | | | |
| 予習・復習について | 講義時間内に行える演習課題数には限りがあるので、教科書および参考書の例題・練習問題は各自よく自習しておくこと。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 授業での到達目標が達成され、電磁現象の理論的解析と工学的考察を行うための基礎能力があるかどうかを評価する。評価の配分は、試験が70%程度、演習・レポート等が30%程度である。 | | | | |
| オフィスアワー | 質問は随時受け付けますが、応じられないときもあることを承知して下さい。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 数理システム工学科は、岡部が担当する。 | | | | |

| | | | | | |
|------------|---|-----|-----|---------|----------|
| 授業科目名 | 基礎無機化学 (Basic Inorganic Chemistry) | | | | |
| 担当教員名 | 平川 和貴 (HIRAKAWA Kazutaka) | | 所属等 | 学術院工学領域 | |
| | | | 研究室 | 共 503 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | D | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 必 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月 3・4 |
| キーワード | 電子、原子と原子軌道、結合、分子軌道、結晶構造、周期表、ボルン-ハーバーサイクル、非金属元素、典型金属、核化学 | | | | |
| 授業の目標 | <p>専門の無機化学を学習するために必要な基本的事項を修得する。具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 代表的な元素の英語名や無機物質の命名法を習得する。 2 ボーアモデルから量子力学の誕生まで、シュレーディンガー方程式の意味を学ぶ。 3 電子配置が元素の性質を支配し、元素の周期性を決めることを学ぶ。 4 分子の構造と結合形成を分子軌道法によって理解する。 5 イオン性固体の構造と熱力学的安定性について学ぶ。 6 元素の周期的な性質について、材料科学への応用や生命科学との関連という視点を大切にしながら理解を深める。 7 代表的な典型元素の基本的な物性を学ぶ。 8 アクチノイドの物性の概略と核化学の入門的内容を学ぶ。 | | | | |
| 学習内容 | 無機物質の多くは、電子部品や建築材をはじめとした様々な材料、さらに燃料等として基本的かつ重要であるだけでなく、生命にとっても欠くことができない。この講義の目的は、無機化学の基礎概念を把握し、理解できることを目的とする。したがって元素別各論の詳細は専門科目に譲り、むしろ基礎概念がどのように物質の性質と多様性を支配しているかに主眼を置いて解説する。 | | | | |
| 授業計画 | <p>授業内容と回数の対応は目安なので、必ずしも固定されたものではない。授業の状況によって、中間試験を行う回が変更される場合や実施されない場合もある。必要に応じて下記計画を補足する内容を盛り込む場合がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代化学の中の無機化学の位置付け、原子の電子構造と周期表の概略（高校の化学および工学基礎化学 I の復習）、元素の英語名 2 ボーア理論と量子化学の基礎（水素原子および水素類似原子の電子構造・シュレーディンガー方程式）、多電子原子の電子構造（原子軌道・パウリの排他原理・フントの規則） 3 元素の周期的性質と元素のブロック分類、元素の存在状態 4 結合の種類、結合と構造を支配する立体因子（原子およびイオンの大きさ） 5 イオン結合と格子エネルギー・ボルン-ハーバーサイクル 6 金属結晶およびイオン結晶の構造 7 結合と構造を支配する電子因子（有効核電荷・イオン化エネルギー・電子親和力・電気陰性度・結合エネルギー） 8 中間試験 9 共有結合と分子軌道法その 1（分子軌道法の基礎、水素分子） 10 共有結合と分子軌道法その 2（第 2 周期元素から成る等核ならびに異核二原子分子） 11 非金属元素の化学その 1（水素・水素化物・第 2 および第 3 周期典型元素とそれらの化合物） 12 非金属元素の化学その 2（第 2 および第 3 周期典型元素とそれらの化合物・酸素と酸化物） 13 非金属元素の化学その 3（オキソ酸・ハロゲン） 14 典型金属の化学（金属単体の性質と反応性） 15 アクチノイドの化学、核化学入門 16 期末試験 | | | | |
| 受講要件 | 高校の「化学」が基礎になるので、未履修者は各自で自習が必要である。講義の前半部分は、工学基礎化学 I と関連する部分が多い。 | | | | |
| テキスト | 教科書：「無機化学」(化学入門コース 3) 斎藤太郎著(岩波書店) | | | | |
| 参考書 | <p>参考書：「はじめて学ぶ大学の無機化学」三吉克彦著(化学同人) / 「無機化学(上・下)」シュライバー他、玉虫他共訳(東京化学同人) / 「無機化学演習」合原他共著(三共出版) / 「化学の基礎」(化学入門コース 1) 竹内敬人著(岩波書店) / 「物理化学」(化学入門コース 2) 関一彦著(岩波書店) / 「無機化学—その現代的アプローチ」平尾一之他著(東京化学同人)</p> <p>いずれも図書館に複数冊所蔵している。</p> | | | | |
| 予習・復習について | 授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習がそれぞれ必要である。特に、受講後その日の内に十分復習することを推奨する。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 専門科目に進むための基礎学力と応用力が培われたかどうかを評価する。評価の配分は、試験 80%(中間試験 40%、期末試験 40%)、演習・レポート 20%である。ただし、評価の内容は、80%が授業内容の理解、20% | | | | |

| | |
|--------------|--|
| | が理解した内容を応用する力である。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。 |
| オフィスアワー | 初回授業で説明する。 |
| 担当教員からのメッセージ | 大学の無機化学は決して暗記科目ではない。常に、「なぜそのような考えるのか」という視点に立って学び、考えてほしい。工学基礎化学Ⅰ、同Ⅱ、特にⅠと内容が一部重複するので、両方の講義によって理解を深めてほしい。さらに、2年前期以降の専門科目と関連するので十分に理解した上で先に進んでほしい。 |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|---------|-------------|
| 授業科目名 | 生物学Ⅱ (Biology II) | | | | |
| 担当教員名 | 吉田 信行 (YOSHIDA Nobuyuki) | | 所属等 | 大学院工学領域 | |
| | | | 研究室 | | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 工1 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 — |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月3・4 |
| キーワード | 炭素代謝、エネルギー代謝、光合成、窒素同化、生殖、発生、免疫、ホルモン、進化、バイオテクノロジー | | | | |
| 授業の目標 | 生物学Ⅰの内容を踏まえて、より高次な生物のしくみについて学び、その卓越した生体システムを理解する。また、生物学がいかに社会に応用されているかを学び、3・4年次の生物関連専門科目の必要性を感じ取る。 | | | | |
| 学習内容 | 多細胞生物の高次機能（生殖、個体の制御、集団としての生き方など）について、基本的なところから分かりやすく講義する。また、最先端バイオ技術についても、工学部での実例を交えて紹介する。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 生命を支える反応3「解糖系とTCA回路」 2 生命を支える反応4「発酵と微生物」 3 生命を支える反応5「電子伝達系とATP生産」 4 生命を支える反応6「光合成と窒素同化」 5 次世代の個体を誕生させる1「生殖」 6 次世代の個体を誕生させる2「動物の発生と分化・再生」 7 中間試験 8 多細胞生物個体の統御1「ホメオスタシス：神経系」 9 多細胞生物個体の統御2「ホメオスタシス：内分泌系」 10 外敵の侵入とその防御1「細菌とウイルス」 11 外敵の侵入とその防御2「免疫」 12 生物の進化「自然選択説と中立説」 13 先端バイオ技術と社会とのかかわり1「遺伝子・細胞を操作する」 14 先端バイオ技術と社会とのかかわり2「工学部で行われている生物関連研究」 15 エピローグ「生物とは何か？（再び）—動的平衡」 | | | | |
| 受講要件 | 生物学Ⅰで学んだ内容がベースとなっているので、復習が出来ていないと理解するのが難しいし、興味も半減する。講義においては積極的な発言を期待する。 | | | | |
| テキスト | コア講義 生物学（田村隆明 著、裳華房） | | | | |
| 参考書 | 理工系のための生物学（坂本順司 著、裳華房）、Essential 細胞生物学（中村桂子、松原謙一 監訳、南江堂） | | | | |
| 予習・復習について | 講義での理解を助けるために予習は必要であるが、本講義では特に復習に力を入れる。毎回講義の前半に、前回の講義内容についてのプレゼンテーションを数人で行ってもらい、皆で議論・復習する時間を作る。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 高次な生物機能、生物学の応用などに対する基本的な理解ができたか評価する。評価の配分は中間試験40%、期末試験40%、プレゼンテーション10%、その他レポート等10%とする。試験については、講義内容を理解することにより取り得る点(70%)、講義内容を理解し、それを応用することにより取り得る点(30%)とする。学習度が60%を満たしている場合を合格とする。 | | | | |
| オフィスアワー | 随時（但し、事前にメールでの問い合わせが望ましい。） | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 生物学Ⅰで学んだことをベースに、工学部での生物学で最も重要な代謝、調節、生物集団について学びます。3年次以降の専門科目に役立つように、しっかり学んで下さい。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|----------|--------|
| 授業科目名 | 日本国憲法 (The Japanese Constitution) | | | | |
| 担当教員名 | 原田 伸一郎 (HARATA Shinichiro) | | 所属等 | 大学院情報学領域 | |
| | | | 研究室 | | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 情工 2 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 |
| 対象学年 | 1 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火 3・4 |
| キーワード | 立憲主義、リベラル・デモクラシー、個人主義、人権、統治機構 | | | | |
| 授業の目標 | この講義は、日本国憲法の内容や、それにまつわる議論の紹介を通じて、日本国憲法の全体像を理解することと、およそ憲法とは何か、憲法がなぜ必要なのかを原理的に思考することをねらいとしています。到達目標は、憲法について、中学・高校での学習よりも理解を深めるとともに、新しい見方・パースペクティブをも獲得することです。 | | | | |
| 学習内容 | 下記の予定で、ほぼテキストの構成に沿って授業を行います。テキストの内容を理解するのに必要な背景知識や、法学の基本用語・概念はその都度解説しますので、受講に当たって法学の予備知識は必要ありません。授業では、テキストの内容を踏まえ、その問題意識や議論の争点を、より正確に、多面的に理解できるように、さまざまな素材を提供します。それらを思考のヒントとして、憲法が個人の生き方とどう関わるのか、自分なりに考えていただきたいと思います。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 ガイダンス 2 オリエンテーション／立憲主義 3 表現の自由 4 学問の自由／信教の自由と政教分離 5 財産権／職業選択の自由 6 人身の自由 7 社会権 8 参政権 9 平等 10 包括的基本権 11 誰の権利を保障するのか 12 代表民主政の原理 13 代表民主政の機構 14 平和主義／憲法の改正 15 ドキュメンタリー | | | | |
| 受講要件 | 特にありません。 | | | | |
| テキスト | 長谷部恭男、『憲法入門』、羽鳥書店、2010、9784904702055、2200 円＋税 ※テキストは必須購入ではありません。 | | | | |
| 参考書 | 授業時にその都度紹介します。 | | | | |
| 予習・復習について | テキストの該当する部分を読んでください。1 回につき 10 ページ前後です。テキストを読んでから授業を受けるか、授業を受けてからテキストを読むか（あるいはその両方か）は自由です。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 平常点 40%、学期末試験 60%とします。平常点は、毎回の授業で配布するコメントペーパーにより評価します。試験では、憲法に関する知識・理解度と、思考力・論述力の双方を評価します。 | | | | |
| オフィスアワー | メールで連絡していただければ随時対応します。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | この授業をきっかけとして、どうか自分なりの「憲法観」を築いてください。それが私の望みです。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|---------------|--------|
| 授業科目名 | 心理学 (Psychology) | | | | |
| 担当教員名 | 須藤 智 (SUTO Satoru) | | 所属等 | 大学教育センター | |
| | | | 研究室 | 共通教育A棟513 (西) | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 情工3 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火3・4 |
| キーワード | 心理学、こころ | | | | |
| 授業の目標 | 私たちの生活に密着した学問である心理学の基礎的な知識を習得する。そして、それらの知識を、自らの今後の生活や研究分野にどのように生かせるのかを考えることができるようにする。授業はテキストに準拠し、パワーポイントを使ってそれぞれの内容を具体的に説明する形式をとる(配布資料有) | | | | |
| 学習内容 | 心理学の研究領域で基礎的な知識について学ぶ。実際に、心理学研究で行われた実験、調査、検査等について体験し、実践的に知識を学ぶ。 | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1.科学としての心理学の歴史と方法論 2.生理心理学1(脳の機能と役割を考える) 3.生理心理学2(脳の機能と役割を考える) 4.感覚・知覚1(外界と心の相互作用を考える) 5.感覚・知覚2(外界と心の相互作用を考える) 6.学習(学ぶということ) 7.認知1(知のメカニズムを知る) 8.認知2(記憶のメカニズムを知る) 9.認知3(注意とは何か?) 10.発達1(乳児期から児童期までの発達を知る) 11.発達2(青年期から死までの発達を知る) 12.性格(性格とは何か?) 13.最新のトピック1(高齢者の心理) 14.最新のトピック2 15.まとめ | | | | |
| 受講要件 | 特になし | | | | |
| テキスト | 特になし | | | | |
| 参考書 | 兵藤宗吉・緑川晶編著、心の科学—理論から現実社会へ(ナカニシヤ出版)、477950385X | | | | |
| 予習・復習について | 予習:参考書を持っている場合は、当該箇所を一読してくる。所有していない場合は、図書館等で関連図書を借り、当該箇所を一読してくる。復習:配布されたレジュメを一読し、整理すること。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 学期末レポート+α(エクストラクレジット)で評価を決定する。学生を受講状況によっては、レポートではなく試験を実施する場合もある。学期末レポートは、各回の内容の自学自習についても記入することが求められるので、日常的な事前事後学習をしていないと記入することができない。レポートだからといって軽く考えないこと。 | | | | |
| オフィスアワー | 静岡キャンパス 共通A棟5F513室 火曜日5,6限 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 授業に関する情報は、以下のURLから取得できる(パソコン: http://www.sutolab.net/class/)。多数の学生の受講が予測されるので、厳密な点数に基づく成績評価を行う予定。また、授業中に最新の授業支援ツールを利用する予定 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|----------|----------|
| 授業科目名 | 心理学 (Psychology) | | | | |
| 担当教員名 | 宮崎 真 (MIYAZAKI Makoto) | | 所属等 | 大学院情報学領域 | |
| | | | 研究室 | | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 情工 4 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 ー |
| 対象学年 | 1 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火 3・4 |
| キーワード | 心理、脳、知覚、認知、行動、日常と非日常 | | | | |
| 授業の目標 | 私たち人間の知覚、認知、行動にまつわる知見やトピックを、不思議な錯覚現象のデモや症例紹介の映像等も交えて解説していく。講義にあたっては用語や概念の説明に留まらず、どのような実験や理論に基づき、その知見がもたらされたのかを解説し、受講者が心理学や神経科学の考え方を学べるようにしたい。 | | | | |
| 学習内容 | 本授業では、基礎編とトピック編を併行して進める。基礎編では、知覚、認知、行動に関する認知心理学/認知神経科学の基本知見の解説を行う。トピック編では、「自分でくすぐるとくすぐったくない」「オフサイドで誤審が起こりやすい」といった日常生活でお馴染みの経験や逸話、また「危険な経験をすると時間はゆっくり進む」「知覚世界では時間が逆行する」といった特殊条件下で顕わになる非日常的な不思議な感覚を手がかりに人間の知覚、認知、行動の特性とその背景にある脳の仕組みを解説し、さらに医学・医療や産業技術との関わりについても議論する。 | | | | |
| 授業計画 | <p><基礎編> (予定)</p> <p>① 心理学とは ② 感覚 ③ 知覚 ④ 注意 ⑤ 記憶 ⑥ 学習 ⑦ 運動制御 ⑧ 動機付け etc.</p> <p><トピック編> (予定・順不同)</p> <p>01. 「自分でくすぐるとくすぐったくない」自己と外界を見分ける脳の仕組み 02. 「しっぺ返しの応酬はエスカレートする」自身の行為の結果を過小評価する脳 03. 「無の境地でナイスプレイ」身体運動の学習と制御における意識的なプロセスと無意識的なプロセス 04. 「道具を体の一部のように使いこなす」脳における道具の身体化 05. 「あなたも体験できる幽体離脱」自己認識を形成する脳の仕組み 06. 「危険な経験はスローモーション」脳は命に係わるような出来事を事細かに記憶する 07. 「皮膚の上の跳びはねていく小さなウサギ」逆行する脳のなかの時間 08. 「オフサイド判定で誤審が起こりやすいわけ」閃光遅延効果 09. 「その決定、本当にあなたの意思どおり？」選択盲 10. 「脳をみれば、能力や性格が分かる？」脳構造画像解析による脳相学 etc.</p> | | | | |
| 受講要件 | とくにありません。 | | | | |
| テキスト | 日常と非日常からみる ころろと脳の科学 (コロナ社) 宮崎真, 阿部匡樹, 山田祐樹ほか編・著 【2017年8月下旬刊行予定】 | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 予習・復習について | とくに必要ありません。授業中によく思考できるように、よく睡眠をとってきてもらえれば万全です。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 毎授業で提出レポートで決定します。現在のところ、期末試験は予定しておりません。 | | | | |
| オフィスアワー | 月曜 AM 9:00~10:30 http://lab.inf.shizuoka.ac.jp/miyazaki-makoto | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 気楽に参加してください。授業中は、既存の知見を憶えることよりも、考えることに意識を向けてもらいたいと思っています。授業の内容にもとに、日常の生活や行動をよりよいものにしたたり、将来の自分の研究や開発のために役立つヒントをつかんでもらえたら嬉しいです。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|----------|--------|
| 授業科目名 | 初修外国語（フランス語）Ⅱ （French Ⅱ） | | | | |
| 担当教員名 | 田中 柊子 （TANAKA Shuko） | | 所属等 | 大学院情報学領域 | |
| | | | 研究室 | | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 情 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火 5・6 |
| キーワード | | | | | |
| 授業の目標 | フランスへ旅行したときや、日本にいるフランス人と簡単なフランス語で会話するときに、すぐ使えるフランス語を身に付けましょう。 | | | | |
| 学習内容 | 教科書に沿って、日常の様々なシーンで使えるフランス語会話を練習します。仏作文を書いたり、グループワークでフランス語を活用したりなど、授業ではなるべくフランス語に親しむようにします。フランスの文化や社会についても、お話しします。 *金曜の授業が文法中心であるのに対し、こちらでは会話を重視します。 | | | | |
| 授業計画 | 第一回 前期の復習 第二回 Leçon 10 クラブ活動について話す 第三回 Leçon 11 習慣について話す 第四回 Leçon 12 週末の過ごし方について話す 第五回 Leçon 13 時間について話す 第六回 Leçon 14 休暇について話す 1 第七回 復習 第八回 小テスト 第九回 Leçon 14 休暇中の行動について話す 2 第十回 Leçon 15 経験について話す 第十一回 Leçon 16 地理について話す 第十二回 Leçon 17 天候について話す 第十三回 Leçon 18 過去について話す 1 第十四回 Leçon 18 過去について話す 2 第十五回 復習 | | | | |
| 受講要件 | | | | | |
| テキスト | 『Moi, je ... コミュニケーション』、Bruno Vannieuwenhuisse など著、アルマ出版、2625 円(税込) ISBN 978-4-905343-03-5 配布プリント | | | | |
| 参考書 | 仏和辞書を必ず所持すること。ディコ仏和辞典（白水社）3990 円（税込）、プチ・ロワイヤル仏和辞典（旺文社）4200 円（税込）、クラウン仏和辞典（三省堂）4095 円、電子辞書など。 | | | | |
| 予習・復習について | 授業の前に学習する項目に目を通し、単語の意味を調べておくこと。授業後は学習内容を確認するとともに、練習問題で間違ったところを見直すこと。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 平常点（参加度・課題）30%、小テスト 30%、期末試験 40% | | | | |
| オフィスアワー | フランス語を学ぶことで、いままで意味のわからなかったカタカナのフランス料理が、名前を見るだけでイメージできるようになったのではないのでしょうか？後期もフランス語をたくさん書いたり話ながら楽しく勉強しましょう。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|---------|----------|
| 授業科目名 | 線形代数学Ⅱ (Linear Algebra Ⅱ) | | | | |
| 担当教員名 | 中島 徹 (NAKAJIMA Toru) | | 所属等 | 学術院工学領域 | |
| | | | 研究室 | 共 403 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 工 5 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 必 |
| 対象学年 | 1 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火 5・6 |
| キーワード | 行列、行列式 | | | | |
| 授業の目標 | <p>行列に関連する諸概念を理解すると共に、それらに付随する計算技術を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一般の行列および n 次の行列式の計算ができるようになる。 2. 連立一次方程式の解法、特に掃き出し法を身につける。 3. 固有値・固有ベクトルを求め、行列の対角化ができるようになる。 | | | | |
| 学習内容 | <p>線形代数学Ⅰでは、平面および空間のベクトルと空間図形について学びさらに 2 次および 3 次の行列式を取り扱った。線形代数学Ⅱではまず一般の行列および連立一次方程式の掃き出し法による解法について学ぶ。そのあと n 次正方行列の行列式の定義とその性質および行列式と連立一次方程式との関係について学ぶ。最後に n 次正方行列の固有値と固有ベクトル、対角化について学ぶ。</p> | | | | |
| 授業計画 | <p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 一般の行列とその演算 (1) 2 一般の行列とその演算 (2) 3 掃き出し法 (1) 4 掃き出し法 (2) 5 掃き出し法と行列式 6 行列式の性質 7 掃き出し法の目標が達成される場合 8 掃き出し法の目標が達成されない場合 9 行列の階数、基本変形 10 数ベクトルの一次独立・一次従属 11 数ベクトルの一次変換 12 固有値・固有空間 13 行列の対角化 14 内積と直交性 15 対称行列 | | | | |
| 受講要件 | 線形代数学Ⅰおよび演習を受講していること。 | | | | |
| テキスト | 「工学系の線形代数学」 菊地光嗣 他著 (学術図書出版社) | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 予習・復習について | <p>数学は積み重ねの学問である。前回の内容がわからないまま授業に臨んでも今回の内容を理解することは難しいであろう。予習復習、特に復習を欠かさず行うことが肝要である。</p> | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | <p>次の基準に基づき評価する。</p> <p>秀＝線形代数学の基礎を十分理解しており、かつ応用力に優れる。</p> <p>優＝線形代数学の基礎を十分理解しており、かつ応用できる。</p> <p>良＝線形代数学の基礎を十分理解している。</p> <p>可＝線形代数学の基礎をおおよそ理解している。</p> <p>不可＝線形代数学の基礎を理解していない。</p> <p>定期試験を行う。</p> | | | | |
| オフィスアワー | <p>各担当者が時間中に指示する。また、工学部 6 号館 1 階に「数学の広場」があり、質問や相談を受け付けているので気軽に訪れて欲しい。</p> <p>広場のホームページは http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~tmath/mathsquare/index.html</p> | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|---------|----------|---|----|---|-----------|---|---------------------------------|---|-----------------------------------|---|-----------------------|---|---------------------|---|----------------------|---|----------------------------|---|-------------------|---|--------------|----|-----------------------|----|-----------------------|----|--------------|----|---|----|-----------------|----|------------|
| 授業科目名 | 力学・波動Ⅱ (Mechanics & Waves II) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員名 | 岡部 拓也 (OKABE Takuya) | | 所属等 | 大学院工学領域 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 研究室 | 6号館303 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 分担教員名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| クラス | 工1 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 必 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火5・6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| キーワード | 運動の3法則、力、運動量、エネルギー、力のモーメント、角運動量、慣性モーメント、正弦波、波の干渉 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業の目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 移動している座標系からみた質点の運動の理解 2. 質点系・剛体など多体系の運動の理解 3. 波の基本概念とその表現法の修得 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学習内容 | この授業では高校の物理学で学んだ内容を、より応用範囲の広い微分積分を用いた厳密な形で学ぶ。力学・波動Ⅰで学んだ1質点の運動方程式、エネルギー、運動量、角運動量などの内容を質点系や剛体について拡張したものを学ぶ。また、波の基本概念、波動方程式、正弦波を学ぶ。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <table border="0"> <tr> <td>回</td> <td>内容</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>力学・波動Ⅰの復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>非慣性系と慣性力(等加速並進運動する座標系からみた運動方程式)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>回転する座標系からみた運動方程式と慣性力Ⅰ(遠心力, コリオリ力)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>回転する座標系からみた運動方程式と慣性力Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>質点系の運動方程式(作用反作用の法則)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>質点系の力学Ⅰ(重心とそのまわりの運動)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>質点系の力学Ⅱ(全運動量, 角運動量, エネルギー)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>剛体に働く力とそのつり合い, 偶力</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>剛体の自由度と運動方程式</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>剛体の慣性モーメントの概念とその計算方法Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>剛体の慣性モーメントの概念とその計算方法Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>固定軸まわりの剛体の運動</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>波の基本概念(周期, 振動数, 波長, 波数, 振幅)と正弦波(三角関数で表される波)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>波動方程式, 重ね合わせの原理</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>波の干渉, 定常波.</td> </tr> </table> | | | | | 回 | 内容 | 1 | 力学・波動Ⅰの復習 | 2 | 非慣性系と慣性力(等加速並進運動する座標系からみた運動方程式) | 3 | 回転する座標系からみた運動方程式と慣性力Ⅰ(遠心力, コリオリ力) | 4 | 回転する座標系からみた運動方程式と慣性力Ⅱ | 5 | 質点系の運動方程式(作用反作用の法則) | 6 | 質点系の力学Ⅰ(重心とそのまわりの運動) | 7 | 質点系の力学Ⅱ(全運動量, 角運動量, エネルギー) | 8 | 剛体に働く力とそのつり合い, 偶力 | 9 | 剛体の自由度と運動方程式 | 10 | 剛体の慣性モーメントの概念とその計算方法Ⅰ | 11 | 剛体の慣性モーメントの概念とその計算方法Ⅱ | 12 | 固定軸まわりの剛体の運動 | 13 | 波の基本概念(周期, 振動数, 波長, 波数, 振幅)と正弦波(三角関数で表される波) | 14 | 波動方程式, 重ね合わせの原理 | 15 | 波の干渉, 定常波. |
| 回 | 内容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 力学・波動Ⅰの復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 非慣性系と慣性力(等加速並進運動する座標系からみた運動方程式) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 回転する座標系からみた運動方程式と慣性力Ⅰ(遠心力, コリオリ力) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 回転する座標系からみた運動方程式と慣性力Ⅱ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 質点系の運動方程式(作用反作用の法則) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 質点系の力学Ⅰ(重心とそのまわりの運動) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 質点系の力学Ⅱ(全運動量, 角運動量, エネルギー) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 剛体に働く力とそのつり合い, 偶力 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 剛体の自由度と運動方程式 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 剛体の慣性モーメントの概念とその計算方法Ⅰ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 剛体の慣性モーメントの概念とその計算方法Ⅱ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 固定軸まわりの剛体の運動 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 波の基本概念(周期, 振動数, 波長, 波数, 振幅)と正弦波(三角関数で表される波) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 波動方程式, 重ね合わせの原理 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 波の干渉, 定常波. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 受講要件 | 特になし。ただし、講義内容をスムーズに理解するためには、力学・波動Ⅰの修得が必須。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| テキスト | テキスト:「力学・波動」(浅田他著, 日新出版) ISBN978-4-8173-0196-3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | 物理入門コース1「力学」(戸田盛和著, 岩波書店) ISBN-13: 978-4000076418 同「例解 力学演習」(戸田盛和・渡辺慎介著, 岩波書店) ISBN-13: 978-4000077910 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 予習・復習について | 本授業はある概念を理解し、それを用いて次の概念を理解するという積み上げの学習である。各項目は別々に理解できるものではないので、予習・復習は欠かせない。また、前期の力学・波動Ⅰの十分な復習も必要である。教科書の例題・章末問題、授業中行う演習問題やレポート問題について十分な予習・復習を行うこと。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の際に行われる演習問題(小テスト, レポートを含む) 20% 2. 全クラス統一期末試験 80% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 教員によって異なります。講義時間中にお知らせします。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | この講義は、学科単位ではなく、センター試験・個別試験等の成績に基づいたクラス編成で行う。受講クラス・教室などをよく確認すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|----------|----------|-----|------|-------|-------|----|----------------|-------|-----------------|----|--------------------|----|------------|----------|---------------|-------|--------------|-----|-----------|---------|---------------|-------|-------|-----|---------------|
| 授業科目名 | 心理学 (Psychology) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員名 | 高橋 晃 (TAKAHASHI Akira) | | 所属等 | 大学院情報学領域 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 研究室 | J-2523 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 分担教員名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| クラス | 情工5 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 ー | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水3・4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| キーワード | 感覚・知覚、記憶、学習、思考、心理テスト、脳、人工知能 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業の目標 | 人間の“こころ”をさまざまな側面からとらえ、その多様な情報処理特性を把握すること | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学習内容 | “こころ”を扱う古典的な心理学のテーマに、脳や人工知能などの認知科学的トピックを絡ませて学習する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">テーマ</td> <td>講義概要</td> </tr> <tr> <td>-----</td> <td>-----</td> </tr> <tr> <td>導入</td> <td>講義の概要、レポートの書き方</td> </tr> <tr> <td>感覚・知覚</td> <td>「見る」という行為の本当の意味</td> </tr> <tr> <td>記憶</td> <td>「覚える・思い出す」ことの人間の性質</td> </tr> <tr> <td>学習</td> <td>人間が何かを学ぶ原理</td> </tr> <tr> <td>問題解決とエラー</td> <td>心の中にある過ちとその意味</td> </tr> <tr> <td>心をはかる</td> <td>各種の心理テストについて</td> </tr> <tr> <td>脳と心</td> <td>脳の構造とその機能</td> </tr> <tr> <td>人工知能と人間</td> <td>人間のこころと機械のこころ</td> </tr> <tr> <td>-----</td> <td>-----</td> </tr> <tr> <td>まとめ</td> <td>全体の復習と体験実験の説明</td> </tr> </table> <p>これらのトピックについて各1回ないし2回の講義でまとめる。 また時間外に行われる「心理学実験」を実際に体験することで理解を深めることも含まれる</p> | | | | | テーマ | 講義概要 | ----- | ----- | 導入 | 講義の概要、レポートの書き方 | 感覚・知覚 | 「見る」という行為の本当の意味 | 記憶 | 「覚える・思い出す」ことの人間の性質 | 学習 | 人間が何かを学ぶ原理 | 問題解決とエラー | 心の中にある過ちとその意味 | 心をはかる | 各種の心理テストについて | 脳と心 | 脳の構造とその機能 | 人工知能と人間 | 人間のこころと機械のこころ | ----- | ----- | まとめ | 全体の復習と体験実験の説明 |
| テーマ | 講義概要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ----- | ----- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 導入 | 講義の概要、レポートの書き方 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 感覚・知覚 | 「見る」という行為の本当の意味 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 記憶 | 「覚える・思い出す」ことの人間の性質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学習 | 人間が何かを学ぶ原理 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 問題解決とエラー | 心の中にある過ちとその意味 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 心をはかる | 各種の心理テストについて | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 脳と心 | 脳の構造とその機能 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 人工知能と人間 | 人間のこころと機械のこころ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ----- | ----- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| まとめ | 全体の復習と体験実験の説明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 受講要件 | 特になし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| テキスト | 全体は特に指定しない。各トピックで参考図書を示す場合がある | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | テーマごとに参考文献を示す | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 予習・復習について | 各単元の内容が終了した後に、一週間の期限内でその講義内容を簡単にまとめたレポートを課す(全3回) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 毎回の課題付きの出席とテーマごとに課される課題レポートの成績で決定する。課題レポートは、主として講義内容のまとめであるが、それに関連した課題が加わることもある | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 金曜日 34限 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 脳や心に興味のある学生の受講を希望します。遅刻は厳禁です | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|---------|----------|---|----|---|-----------|---|---------------------------------|---|----------------------------------|---|-----------------------|---|---------------------|---|----------------------|---|--------------------------|---|------------------|---|--------------|----|-----------------------|----|-----------------------|----|--------------|----|---|----|----------------|----|-----------|
| 授業科目名 | 力学・波動Ⅱ (Mechanics & Waves II) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員名 | 岡部 拓也 (OKABE Takuya) | | 所属等 | 大学院工学領域 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 研究室 | 6号館303 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 分担教員名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| クラス | 工8 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 必 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水5・6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| キーワード | 運動の3法則、力、運動量、エネルギー、力のモーメント、角運動量、慣性モーメント、正弦波、波の干渉 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業の目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 移動している座標系からみた質点の運動の理解 2. 質点系・剛体など多体系の運動の理解 3. 波の基本概念とその表現法の修得 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学習内容 | この授業では高校の物理学で学んだ内容を、より応用範囲の広い微分積分を用いた厳密な形で学ぶ。力学・波動Ⅰで学んだ1質点の運動方程式、エネルギー、運動量、角運動量などの内容を質点系や剛体について拡張したものを学ぶ。また、波の基本概念、波動方程式、正弦波を学ぶ。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <table border="0"> <tr> <td>回</td> <td>内容</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>力学・波動Ⅰの復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>非慣性系と慣性力（等加速並進運動する座標系からみた運動方程式）</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>回転する座標系からみた運動方程式と慣性力Ⅰ（遠心力，コリオリ力）</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>回転する座標系からみた運動方程式と慣性力Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>質点系の運動方程式(作用反作用の法則)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>質点系の力学Ⅰ(重心とそのまわりの運動)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>質点系の力学Ⅱ(全運動量，角運動量，エネルギー)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>剛体に働く力とそのつり合い，偶力</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>剛体の自由度と運動方程式</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>剛体の慣性モーメントの概念とその計算方法Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>剛体の慣性モーメントの概念とその計算方法Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>固定軸まわりの剛体の運動</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>波の基本概念（周期，振動数，波長，波数，振幅）と正弦波（三角関数で表される波）</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>波動方程式，重ね合わせの原理</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>波の干渉，定常波。</td> </tr> </table> | | | | | 回 | 内容 | 1 | 力学・波動Ⅰの復習 | 2 | 非慣性系と慣性力（等加速並進運動する座標系からみた運動方程式） | 3 | 回転する座標系からみた運動方程式と慣性力Ⅰ（遠心力，コリオリ力） | 4 | 回転する座標系からみた運動方程式と慣性力Ⅱ | 5 | 質点系の運動方程式(作用反作用の法則) | 6 | 質点系の力学Ⅰ(重心とそのまわりの運動) | 7 | 質点系の力学Ⅱ(全運動量，角運動量，エネルギー) | 8 | 剛体に働く力とそのつり合い，偶力 | 9 | 剛体の自由度と運動方程式 | 10 | 剛体の慣性モーメントの概念とその計算方法Ⅰ | 11 | 剛体の慣性モーメントの概念とその計算方法Ⅱ | 12 | 固定軸まわりの剛体の運動 | 13 | 波の基本概念（周期，振動数，波長，波数，振幅）と正弦波（三角関数で表される波） | 14 | 波動方程式，重ね合わせの原理 | 15 | 波の干渉，定常波。 |
| 回 | 内容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 力学・波動Ⅰの復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 非慣性系と慣性力（等加速並進運動する座標系からみた運動方程式） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 回転する座標系からみた運動方程式と慣性力Ⅰ（遠心力，コリオリ力） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 回転する座標系からみた運動方程式と慣性力Ⅱ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 質点系の運動方程式(作用反作用の法則) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 質点系の力学Ⅰ(重心とそのまわりの運動) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 質点系の力学Ⅱ(全運動量，角運動量，エネルギー) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 剛体に働く力とそのつり合い，偶力 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 剛体の自由度と運動方程式 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 剛体の慣性モーメントの概念とその計算方法Ⅰ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 剛体の慣性モーメントの概念とその計算方法Ⅱ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 固定軸まわりの剛体の運動 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 波の基本概念（周期，振動数，波長，波数，振幅）と正弦波（三角関数で表される波） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 波動方程式，重ね合わせの原理 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 波の干渉，定常波。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 受講要件 | 特になし。ただし、講義内容をスムーズに理解するためには、力学・波動Ⅰの修得が必須。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| テキスト | テキスト：「力学・波動」（浅田他著，日新出版）ISBN978-4-8173-0196-3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | 物理入門コース1「力学」（戸田盛和著，岩波書店）ISBN-13: 978-4000076418 同「例解 力学演習」（戸田盛和・渡辺慎介著，岩波書店）ISBN-13: 978-4000077910 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 予習・復習について | 本授業はある概念を理解し，それを用いて次の概念を理解するという積み上げの学習である。各項目は別々に理解できるものではないので，予習・復習は欠かせない。また，前期の力学・波動Ⅰの十分な復習も必要である。教科書の例題・章末問題，授業中行う演習問題やレポート問題について十分な予習・復習を行うこと。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の際に行われる演習問題（小テスト，レポートを含む）20% 2. 全クラス統一期末試験 80% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 教員によって異なります。講義時間中にお知らせします。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | この講義は，学科単位ではなく，センター試験・個別試験等の成績に基づいたクラス編成で行う。受講クラス・教室などをよく確認すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|---------|----------|
| 授業科目名 | 線形代数学Ⅱ (Linear Algebra Ⅱ) | | | | |
| 担当教員名 | 中島 徹 (NAKAJIMA Toru) | | 所属等 | 学術院工学領域 | |
| | | | 研究室 | 共 403 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 工 3 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 必 |
| 対象学年 | 1 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 7・8 |
| キーワード | 行列、行列式 | | | | |
| 授業の目標 | <p>行列に関連する諸概念を理解すると共に、それらに付随する計算技術を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一般の行列および n 次の行列式の計算ができるようになる。 2. 連立一次方程式の解法、特に掃き出し法を身につける。 3. 固有値・固有ベクトルを求め、行列の対角化ができるようになる。 | | | | |
| 学習内容 | <p>線形代数学Ⅰでは、平面および空間のベクトルと空間図形について学びさらに 2 次および 3 次の行列式を取り扱った。線形代数学Ⅱではまず一般の行列および連立一次方程式の掃き出し法による解法について学ぶ。そのあと n 次正方行列の行列式の定義とその性質および行列式と連立一次方程式との関係について学ぶ。最後に n 次正方行列の固有値と固有ベクトル、対角化について学ぶ。</p> | | | | |
| 授業計画 | <p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 一般の行列とその演算 (1) 2 一般の行列とその演算 (2) 3 掃き出し法 (1) 4 掃き出し法 (2) 5 掃き出し法と行列式 6 行列式の性質 7 掃き出し法の目標が達成される場合 8 掃き出し法の目標が達成されない場合 9 行列の階数、基本変形 10 数ベクトルの一次独立・一次従属 11 数ベクトルの一次変換 12 固有値・固有空間 13 行列の対角化 14 内積と直交性 15 対称行列 | | | | |
| 受講要件 | 線形代数学Ⅰおよび演習を受講していること。 | | | | |
| テキスト | 「工学系の線形代数学」 菊地光嗣 他著 (学術図書出版社) | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 予習・復習について | <p>数学は積み重ねの学問である。前回の内容がわからないまま授業に臨んでも今回の内容を理解することは難しいであろう。予習復習、特に復習を欠かさず行うことが肝要である。</p> | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | <p>次の基準に基づき評価する。</p> <p>秀＝線形代数学の基礎を十分理解しており、かつ応用力に優れる。</p> <p>優＝線形代数学の基礎を十分理解しており、かつ応用できる。</p> <p>良＝線形代数学の基礎を十分理解している。</p> <p>可＝線形代数学の基礎をおおよそ理解している。</p> <p>不可＝線形代数学の基礎を理解していない。</p> <p>定期試験を行う。</p> | | | | |
| オフィスアワー | <p>各担当者が時間中に指示する。また、工学部 6 号館 1 階に「数学の広場」があり、質問や相談を受け付けているので気軽に訪れて欲しい。</p> <p>広場のホームページは http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~tmath/mathsquare/index.html</p> | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|---------|----------|
| 授業科目名 | 工学基礎化学Ⅱ (Basic Chemistry for Engineers II) | | | | |
| 担当教員名 | 梅本 宏信 (UMEMOTO Hironobu) | | 所属等 | 大学院工学領域 | |
| | | | 研究室 | 6-504 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | M (クラス I) | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 必 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 木1・2 |
| キーワード | 熱力学、化学平衡、溶液、化学反応の速度 | | | | |
| 授業の目標 | 基礎的な化学の知識を習得するとともに、実生活・社会との関わりで出会う「化学」について、常に問題意識をもち、自ら考える力の基礎を養う。主な内容は、工学基礎化学Ⅰに続く化学の基礎である。基礎的な熱力学の理論から始め、化学平衡、状態の変化、溶液の性質、化学反応の速度について理解を深める。 | | | | |
| 学習内容 | 工学基礎化学Ⅰでは、原子や分子の世界について扱った。ここではそれらが集まってできる巨視的な系について学ぶ。そのような物質の状態変化、化学変化、構造変化などを、熱力学的もしくは平衡論的な視点に立って理解し、それぞれの専門分野に応用できる基礎力を養う。特に、エネルギーやエントロピーの概念を扱う熱力学は、プロセス化学、半導体工学、エネルギー変換など、工学のあらゆる分野と関連している。 | | | | |
| 授業計画 | 以下の授業内容と回数は目安であり、必ずしも固定されたものではない。より詳細な講義計画は、初回の講義の際に担当教員によって示される。進捗によっては、中間のまとめ(8回目)を実施しないこともある。また、随時演習を行う。 1 物質系の変化とエネルギー (1) 熱力学第一法則、理想気体 2 物質系の変化とエネルギー (2) エンタルピー、ヘスの法則 3 物質の変化の方向性 (1) 熱力学第二法則、可逆過程と不可逆過程 4 物質の変化の方向性 (2) エントロピー、熱力学第三法則 5 物質変化の駆動力と平衡 (1) 化学ポテンシャル、化学平衡 6 物質変化の駆動力と平衡 (2) 標準平衡定数と自由エネルギー変化、平衡の移動 7 物質の状態変化 (1) 物質の三態、相律 8 中間のまとめ 9 物質の状態変化 (2) 相転移、相図 10 溶液の性質 (1) 溶媒と溶質 11 溶液の性質 (2) 理想溶液、ファンツホッフの式 12 溶液内の化学反応 (1) 酸と塩基、水のイオン積 13 溶液内の化学反応 (2) 酸化還元反応、電池 14 化学反応の速度 (1) 反応速度と反応速度式 15 化学反応の速度 (2) 反応速度の温度依存 | | | | |
| 受講要件 | 高校の化学の教科書をよく復習しておくことを要望する。 | | | | |
| テキスト | 「基礎から学ぶ大学の化学」 植田一正・梅本宏信・平川和貴・山田眞吉 共著 (培風館) ISBN978-4-563-04607-1 | | | | |
| 参考書 | 化学入門シリーズ 1「化学の基礎」、竹内敬人著、同 2「物理化学」、関一彦著 (岩波書店) シリーズ 1 ISBN4-00-007981-6 シリーズ 2 ISBN4-00-007982-4; 一般化学、芝原寛泰・斉藤正治共著 (化学同人) ISBN4-7598-1020-X; 化学—基本の考え方を中心に-, Alan Sherman 他著、石倉洋子・石倉久之共訳 (東京化学同人) ISBN4-8079-0334-9 | | | | |
| 予習・復習について | 授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習が必要である。教科書の各章末の演習問題を復習課題として課す。また、別途演習課題を示すことがある。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 個別目標が達成され、専門課程に進むための基礎学力と応用力が培われたかどうかを評価する。授業時間内の演習問題と、宿題に丁寧に取り組むことを求める。それによって、予習・復習をして授業に臨んでいるか否かを判断する。評価の配分は、試験 70%、演習・宿題 30%である。ただし、評価の内容は、80%が授業内容の理解、20%が理解した内容を応用する力である。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。 | | | | |
| オフィスアワー | 講義後または教員室にてオフィスアワーを設けるが、具体的な曜日・時間については初回講義時に案内する。この時間帯以外でも可能な限り質問は随時受け付ける。担当者が非常勤講師の場合は、専任教員(植田、梅本、宮林)が対応する。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 大学の化学は決して暗記科目ではない。常に、「何故そうなるのか」、「何故そのように考えるのか」という観点から学びを深めてほしい。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|---------|----------|
| 授業科目名 | 工学基礎化学Ⅱ (Basic Chemistry for Engineers Ⅱ) | | | | |
| 担当教員名 | 梅本 宏信 (UMEMOTO Hironobu) | | 所属等 | 学術院工学領域 | |
| | | | 研究室 | 6-504 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | D | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 必 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 木3・4 |
| キーワード | 熱力学、化学平衡、溶液、化学反応の速度 | | | | |
| 授業の目標 | 基礎的な化学の知識を習得するとともに、実生活・社会との関わりで出会う「化学」について、常に問題意識をもち、自ら考える力の基礎を養う。主な内容は、工学基礎化学Ⅰに続く化学の基礎である。基礎的な熱力学の理論から始め、化学平衡、状態の変化、溶液の性質、化学反応の速度について理解を深める。 | | | | |
| 学習内容 | 工学基礎化学Ⅰでは、原子や分子の世界について扱った。ここではそれらが集まってできる巨視的な系について学ぶ。そのような物質の状態変化、化学変化、構造変化などを、熱力学的もしくは平衡論的な視点に立って理解し、それぞれの専門分野に応用できる基礎力を養う。特に、エネルギーやエントロピーの概念を扱う熱力学は、プロセス化学、半導体工学、エネルギー変換など、工学のあらゆる分野と関連している。 | | | | |
| 授業計画 | 以下の授業内容と回数は目安であり、必ずしも固定されたものではない。より詳細な講義計画は、初回の講義の際に担当教員によって示される。進捗によっては、中間のまとめ(8回目)を実施しないこともある。また、随時演習を行う。 1 物質系の変化とエネルギー (1) 熱力学第一法則、理想気体 2 物質系の変化とエネルギー (2) エンタルピー、ヘスの法則 3 物質の変化の方向性 (1) 熱力学第二法則、可逆過程と不可逆過程 4 物質の変化の方向性 (2) エントロピー、熱力学第三法則 5 物質変化の駆動力と平衡 (1) 化学ポテンシャル、化学平衡 6 物質変化の駆動力と平衡 (2) 標準平衡定数と自由エネルギー変化、平衡の移動 7 物質の状態変化 (1) 物質の三態、相律 8 中間のまとめ 9 物質の状態変化 (2) 相転移、相図 10 溶液の性質 (1) 溶媒と溶質 11 溶液の性質 (2) 理想溶液、ファンツホッフの式 12 溶液内の化学反応 (1) 酸と塩基、水のイオン積 13 溶液内の化学反応 (2) 酸化還元反応、電池 14 化学反応の速度 (1) 反応速度と反応速度式 15 化学反応の速度 (2) 反応速度の温度依存 | | | | |
| 受講要件 | 高校の化学の教科書をよく復習しておくことを要望する。 | | | | |
| テキスト | 「基礎から学ぶ大学の化学」 植田一正・梅本宏信・平川和貴・山田眞吉 共著 (培風館) ISBN978-4-563-04607-1 | | | | |
| 参考書 | 化学入門シリーズ 1「化学の基礎」、竹内敬人著、同 2「物理化学」、関一彦著 (岩波書店) シリーズ 1 ISBN4-00-007981-6 シリーズ 2 ISBN4-00-007982-4; 一般化学、芝原寛泰・斉藤正治共著 (化学同人) ISBN4-7598-1020-X; 化学—基本の考え方を中心に-, Alan Sherman 他著、石倉洋子・石倉久之共訳 (東京化学同人) ISBN4-8079-0334-9 | | | | |
| 予習・復習について | 授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習が必要である。教科書の各章末の演習問題を復習課題として課す。また、別途演習課題を示すことがある。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 個別目標が達成され、専門課程に進むための基礎学力と応用力が培われたかどうかを評価する。授業時間内の演習問題と、宿題に丁寧に取り組むことを求める。それによって、予習・復習をして授業に臨んでいるか否かを判断する。評価の配分は、試験 70%、演習・宿題 30%である。ただし、評価の内容は、80%が授業内容の理解、20%が理解した内容を応用する力である。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。 | | | | |
| オフィスアワー | 講義後または教員室にてオフィスアワーを設けるが、具体的な曜日・時間については初回講義時に案内する。この時間帯以外でも可能な限り質問は随時受け付ける。担当者が非常勤講師の場合は、専任教員(植田、梅本、宮林)が対応する。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 大学の化学は決して暗記科目ではない。常に、「何故そうなるのか」、「何故そのように考えるのか」という観点から学びを深めてほしい。 | | | | |

| | | | | | |
|------------|---|-----|-----|--------------|----------|
| 授業科目名 | ロックとアートからみるメンタルヘルス (Rock, Art and Mental Health) | | | | |
| 担当教員名 | 太田 裕一 (OTA Yuichi) | | 所属等 | 保健センター | |
| | | | 研究室 | 工学部 7 号館 3 F | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 情工 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 ー |
| 対象学年 | 3 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金 3・4 |
| キーワード | ロック、現代アート、メンタルヘルス、臨床心理学、精神医学、歴史、ドラッグ、精神疾患、発達障害、トラウマ | | | | |
| 授業の目標 | ロックの歴史、現代アートなどを題材にこころの健康問題をさまざまな角度から考えたいと思います。 | | | | |
| 学習内容 | 過去の講義で取り上げたミュージシャン：シド・バレット、ソフト・マシーン、キング・クリムゾン、ジェネシス、ヴェルヴェット・アンダーグラウンド、パティ・スミス、ラモーンズ、ジミ・ヘンドリックス、ジャニス・ジョプリン、ザ・ドアーズ、ジェファーソン・エアプレーン、ビートルズ、ローリング・ストーンズ、キンクス、ザ・フー、ボブ・ディラン、ディープ・パープル、レッド・ゼッペリン、ブラック・サバス、セックス・ピストルズ、ダムド、クラス、コンフリクト、MC5、デッド・ボーイズ、ストゥージーズ、ニルヴァーナ、マリリン・マンソン、ブラインド・メロン、ティム&ジェフ・バックリー、村八分、モップス、はっぴいえんど、外道、フリクション、スターリン、ちえるしい、筋肉少女帯、ヒカシュー、GISM、amazarashi、初音ミク。アーティスト(ジャンル)：John Hathway、草間彌生、石井徹也、松井冬子、会田誠、山口晃、村上隆、カイカイキキ、近藤聡乃、やなぎみわ、球体関節人形、四谷シモン、天野可淡、アイアン澤田、ハンス・ベルメール、金子國義、谷川俊太郎、寺山修司、河鍋暁斎、鳥山石燕、円山応挙、月岡国芳、アウトサイダー・アート、岡本太郎、ヘンリー・ダーガー、アンディ・ウォーホル、ニキ・ド・サンファル、バルテュス、妖精画。メンタルヘルスの話題：統合失調症、うつ病、躁うつ病、PTSD、アルコール依存症、薬物依存、DV、アスペルガー障害、ADHD、性同一性障害。 | | | | |
| 授業計画 | <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ロックミュージックのルーツ 2. ロックと破壊、人間の攻撃性 3. サイケデリック・ミュージックと意識の拡大 4. ドラッグ、ヒッピー、人間潜在力開放運動 5. 統合失調症と幻聴 草間彌生 6. ベトナム戦争と PTSD 7. グラムロックと両性具有 8. アウトサイダー・アートと精神疾患 9. ロックと反社会性、パンクロックの起源 10. ニューウェーブ ゴシックとグロテスク 11. ハードコアパンクと暴力、ドメスティックバイオレンス 12. アスペルガー障害、サヴァン症候群と The Vines 13. 摂食障害 Cocco とカレン・カーペンター 14. 人形とフランケンシュタイン 15. 人間の心のレジリエンス <p>内容は適宜変更します。</p> | | | | |
| 受講要件 | ロックを爆音で聞ける人。とりあげる現代アートには性的なものやグロテスクなものが含まれるのでそれに耐えられる人。 | | | | |
| テキスト | | | | | |
| 参考書 | パワーポイントのタイトル用イラスト、自作音楽、「歌ってみた」、「演奏してみた」の投稿(講義での視聴)、講義中のセッション参加で加点します。2013 年度にはハービー・ハンコックのカメレオン、2015 年度はブルースのライブセッションを講義中に行いました。ミニ・レポートでリクエスト曲を募って講師がその曲を歌います。 | | | | |
| 予習・復習について | 毎回、電子メール提出で 200 字以上のミニ・レポートを課します。内容は講義の感想や好きなアーティストの紹介など。毎回のミニ・レポートと最終レポート(2000 字以上。メンタルヘルスとロックまたはアートについてテーマ自由)で評価します。最終レポートを提出できるのはミニ・レポートを 10 回以上提出した人に限ります。インターネットの文章の無断転載(コピー&ペースト)は基本的に不可です。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | オフィスアワーは随時行います。カウンセリングの予約がはいっていることも多いので、できれば電子メール(ota.yuichi@shizuoka.ac.jp)で連絡を取ってからの方が確実です | | | | |
| オフィスアワー | 過去に抽選になったことはありません。ロック・現代アート・メンタルヘルスなどに関心ある方の積極的な | | | | |

| | |
|--------------|--|
| | 参加を期待します。twitter 実況の公式ハッシュタグは #mentalrock の予定。人数集まればカラオケオフを行う予定です。 |
| 担当教員からのメッセージ | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|---------|-------------|
| 授業科目名 | 化学物質と人間 (Chemicals and Human Being) | | | | |
| 担当教員名 | 田中 康隆 (TANAKA Yasutaka) | | 所属等 | 大学院工学領域 | |
| | | | 研究室 | C311 | |
| 分担教員名 | 立元 雄治、奥谷 昌之、昆野 昭則、松田 智、前田 康久、佐古 猛 | | | | |
| クラス | 情工 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 — |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金 3・4 |
| キーワード | 人間生活、肥料、太陽電池、公害、地球環境、医療、分解、リサイクル、エネルギー、エコマテリアル | | | | |
| 授業の目標 | 人間は自然界に存在する様々な化学物質と関わり、長い歴史の中で自らの生命を守り暮らしを豊かにする化学物質を作り出す方法・技術を発展させてきた。化学物質がどのようにして有効に利用され、一方で、どのような場合に問題を引起こすのか、さらにはその問題を解決するための技術および今後の展望について考え、理解を深める。 | | | | |
| 学習内容 | 化学物質と人間との関わりを軸に、化学の様々な視点からの講義を通じて基礎から環境・エネルギー等、人類の抱える諸問題に至るまでの幅広い内容を学習する。また化学しくみや功罪を学びながら「医療と化学」、「光と化学」、「地球環境と化学物質」を中心に学習する。 | | | | |
| 授業計画 | <p>1 回目, 10/6(金) 授業内容紹介。田中康隆担当</p> <p>2 回目, 10/13(金) エネルギー有効利用のための、エネルギー消費の評価。田中康隆担当</p> <p>3 回目, 10/20(金) エネルギー有効利用のための、エネルギーを貯めるシステムについて。田中康隆担当</p> <p>4 回目, 10/27(金) 化学物質の生産と処理技術 (1)。立元雄治担当</p> <p>5 回目, 11/17(金) 化学物質の生産と処理技術 (2)。立元雄治担当</p> <p>6 回目, 11/24(金) 毒と薬、人工と天然、材料とゴミといったキーワードから化学物質の二面性について考える。 昆野昭則担当</p> <p>7 回目, 12/1(金) グリーンケミストリー (環境に配慮した化学合成およびプロセス) について紹介する。 昆野昭則担当</p> <p>8 回目, 12/8(金) 超臨界～亜臨界水の特異な性質と、その水を用いる難分解性有害物質 (PCB、ダイオキシン等) の分解技術の概要について説明する。佐古猛担当 (客員教授)</p> <p>9 回目, 12/15(金) 化学工業の展開: ルブラン法開発以降、石炭化学から石油化学工業まで。松田智担当</p> <p>10 回目, 12/22(金) エネルギーを求めて: 動力源の発展史を化学物質の側面から見直す。松田智担当</p> <p>11 回目, 1/5(金) 物質とエントロピー (1): エントロピーとは何か、熱エントロピーと物質エントロピー、環境とエントロピー。前田康久担当</p> <p>12 回目, 1/12(金) 物質とエントロピー (2): 統計力学的エントロピー、第3法則と絶対エントロピー、エントロピーと量子論。前田康久担当</p> <p>13 回目, 1/19(金) エネルギー材料 1: 新エネルギー源としての期待の高い太陽光発電について、その開発動向について解説する。奥谷昌之担当</p> <p>14 回目, 1/26(金) エネルギー材料 2: リニアモーターカーに代表される超伝導材料について、実用化と課題について解説する。奥谷昌之担当</p> <p>15 回目, 2/2(金) ディスカッション。担当教員全員担当。</p> <p>担当教員の順番が入れ替わる事があります。</p> | | | | |
| 受講要件 | 特になし | | | | |
| テキスト | テキストは用いず、必要に応じて資料を配付する。 | | | | |
| 参考書 | 「まんが化学に強くなる」(講談社: BlueBacks シリーズ), 「化学のしくみ」(ナツメ社) 等であるが、特に購入の必要はない。 | | | | |
| 予習・復習について | 特に予習復習は必要ないが、日頃から化学物質・環境・エネルギー問題等への関心をもって、授業に臨んでもらいたい。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 授業への取り組み状況とレポートにより評価する。8割以上の出席で評価の対象とする。受講態度が悪い場合は、評価の対象としない。 | | | | |
| オフィスアワー | 質問は随時受け付けますが、応じられないときもあることを承知下さい。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 電子物質科学科および化学バイオ工学科の教員が「化学」に関するエネルギー、環境、人間生活と化学の関わり等、ホットな話題を平易に解説する。オムニバス形式の講義で、内容に一部重複もあるが、同じ事柄でも話し手(教員)ごとに異なる見解があることも含めて化学物質と人間のかかわりについて考えてもらいたい。特に福島原子力事故以来、化学、環境、エネルギーの関係が注目を集めている。なお、教員によっては講義資料を置いたホームページを紹介する場合がある。必要に応じてダウンロードしてください。授業中は、それら資料は指示が無い限り必要ないので、スマホ、タブレット、パソコンの起動は禁止します。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|---------|----------|
| 授業科目名 | ロボットと人間 (Robot and Human being) | | | | |
| 担当教員名 | 末長 修 (SUENAGA Osamu) | | 所属等 | 大学院工学領域 | |
| | | | 研究室 | 5 4 2 1 | |
| 分担教員名 | 大岩 孝彰、橋本 岳 | | | | |
| クラス | 情工 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 ー |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金 3・4 |
| キーワード | ロボットの技術と応用、センシング、制御、機構、システム、人間の機能と特性 | | | | |
| 授業の目標 | ロボットはメカトロニクスの典型例であり、メカトロニクスは機械工学と電子工学を結合した技術、またはそれを応用した電子機械装置である。アミューズメントやエデュテイメント、あるいは手術支援や介護介助など、人間と共存する環境で動作するロボットも発表されている。本講義は、ロボットに関して初心者を対象として、その歴史と現在、ロボットを構成するさまざまな技術の基礎を学び、ロボットと人間の今後の関係を考察してゆく。 | | | | |
| 学習内容 | 3名の教員が分担し、ロボットと人間の関係をさまざまな側面から捉える。橋本の担当では、ロボットにおけるセンシングや制御に関する解説とそれらが実現した未来社会を考える。末長の担当ではロボットなどといった人間が扱う機械システムにおいて考慮すべき内容を人間工学の観点から学ぶ。そして、大岩の担当においては、ロボットの形状や機構を中心とした内容を学ぶ。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 ガイダンス：授業全体の説明 2 橋本(1)：ロボットのセンシング [ロボットが外界・内界の情報を取り入れる技術を知る] 3 橋本(2)：ロボットの制御 [ロボットの“腕”や“脚”をコントロールする技術を知る] 4 橋本(3)：様々なロボット [社会で活躍する様々なロボットを紹介する] 5 橋本(4)：ロボット研究と未来社会 [ロボットに関する様々な研究、「ロボットと人間」の未来について考えてみよう] 6 大岩(1)：パラレルロボット (1) [人やロボットの機構を並列・直列という観点から見る] 7 大岩(2)：パラレルロボット (2) [いろいろなものの並列・直列を探してみよう] 8 大岩(3)：マイクロロボット・マイクロマシン (1) [人やロボットの機構を大きさという観点から見る] 9 大岩(4)：マイクロロボット・マイクロマシン (2) [大きさが変わるとどうなるのか、考えてみよう] 10 末長(1)：人間工学とロボティクス [人間工学的観点からの人とロボットの係わり合い方を考える] 11 末長(2)：人間の情報処理モデル [情報処理システムとしての人間の特性を理解する] 12 末長(3)：ヒューマン・インタフェース [インタフェースの役目を考える] 13 末長(4)：福祉・介護におけるロボット [人とロボットとの役割分担を考える] 14 総括と質疑応答 15 授業アンケート | | | | |
| 受講要件 | 特になし | | | | |
| テキスト | 特に指定しない。プリントの配布、HPからのダウンロードなど、授業時間中に指示する。 | | | | |
| 参考書 | 渡辺,小保:“ロボット入門”,オーム社,(2006). 増田,小金澤,甲斐:“新しいロボット工学”,昭晃堂,(2006). 新井(監):“図解雑学ロボット”,ナツメ社,(2005). 城井田:“ロボットのしくみ”,日本実業出版社,(2001). 松日楽,大明:“ロボットシステム入門”,オーム社,(1999). など. | | | | |
| 予習・復習について | 授業での指示に従うこと。プリント、ダウンロード資料などを読んで理解する、など。図書館での文献検索やネットワーク上での資料検索などを要することもある。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 担当教員ごとの成績評価を平均し、評価する。ただし、1課題でも未提出の場合は「不可」とする。 ・末長教員：レポートにより評価する。 ・大岩教員：レポートにより評価する。 ・橋本教員：レポートにより評価する。 ※レポート提出期限を厳守するとともに、学務情報システムによりレポートをアップロードする際は、アップロードの完了を必ず各自で確認すること。なお原則として、提出期限後のレポート提出は認められません。 | | | | |
| オフィスアワー | 担当教員ごとに異なるので、事前に確認すること。事前に連絡・予約がないと後日となる場合がある。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | ロボットは、さまざまな技術をシステムとしてまとめたものであり、また日々発展している分野であるため、講義は限られた側面からの基礎的な情報の紹介、学習のきっかけを与える入口の案内となる。そこで、受身にとどまらず、興味を覚えたところから、自分で積極的に情報収集などして学習を深め広げてゆくことを期待する。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|----------|--------|
| 授業科目名 | 初修外国語（フランス語） I (French I) | | | | |
| 担当教員名 | 田中 柊子 (TANAKA Shuko) | | 所属等 | 大学院情報学領域 | |
| | | | 研究室 | | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 情 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金 5・6 |
| キーワード | | | | | |
| 授業の目標 | 日常生活でよく使う簡単なフランス語を理解し、自分でも表現できるようにがんばりましょう。 | | | | |
| 学習内容 | 前期に引き続き、教科書を使って、フランス語文法を勉強し、練習問題をたくさん解きます。どんどん複雑になっていくので、予習と復習を自分でしっかり行うことが必要不可欠です。基本をしっかり身につけることが大切です。フランスの文化や社会についても、お話しします。 *火曜の授業が会話中心であるのに対し、こちらでは文法を重視します。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 前期の復習 pouvoir vouloir devoir 2 Leçon 10 faire + 部分冠詞 動詞 dire écrire lire 3 Leçon 11 中性代名詞 否定疑問文 頻度 動詞 entendre attendre など 4 Leçon 12 近接未来 代名動詞 動詞 connaître savoir voir など 5 Leçon 13 時間を表す語彙 動詞 mettre recevoir offrir 6 Leçon 14 複合過去形 7 復習 8 小テスト 9 Leçon 14 複合過去形と半過去形 10 Leçon 15 il y a の使い方 11 Leçon 16 形容詞 12 Leçon 17 天気を表す語彙 13 Leçon 18 encore / ne... plus の使い方 14 復習 15 映画鑑賞 | | | | |
| 受講要件 | | | | | |
| テキスト | 『Moi, je ... コミュニケーション』、Bruno Vannieuwenhuise など著、アルマ出版、2625 円(税込) ISBN 978-4-905343-03-5 配布プリント | | | | |
| 参考書 | 仏和辞書を必ず所持すること。ディコ仏和辞典（白水社）3990 円（税込）、プチ・ロワイヤル仏和辞典（旺文社）4200 円（税込）、クラウン仏和辞典（三省堂）4095 円、電子辞書など。 | | | | |
| 予習・復習について | 授業の前に学習する項目に目を通し、単語の意味を調べておくこと。授業後は学習内容を確認するとともに、練習問題で間違ったところを見直すこと。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 平常点（出席・参加度・練習問題）30%、小テスト 30%、期末試験 40% | | | | |
| オフィスアワー | 初回授業時にお知らせします。 場所は J 2707 研究室（情報学部 2 号館 7 階）です。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 少しずつフランス語に慣れてきたでしょうか。フランス語は名詞、形容詞の性・数や動詞の活用などが複雑で一見とっつきにくいイメージですが、丁寧に学習を積み重ねていくことで確実に上達します。あきらめないでがんばりましょう。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|----------------------|----------|
| 授業科目名 | 地域社会連携を考える (Corporation between university and local society) | | | | |
| 担当教員名 | 清水 一男 (SHIMIZU Kazuo) | | 所属等 | イノベーション社会連携推進機構 | |
| | | | 研究室 | イノベーション社会連携推進機構 (浜松) | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 情工 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 ー |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金 5・6 |
| キーワード | 地域社会と大学の連携、地域企業の歴史と現状 | | | | |
| 授業の目標 | 静岡県は農林水産業、工業が大変発達した県です。本講義を通してぜひ地域の歴史、文化や産業を学んでいきましょう (うなぎ、餃子と富士山だけでは無いのですよ!)。静岡県の特色を理解した上で、他地域との比較・地域社会に対する大学の果たす役割について学習します。教育・研究以外についても、ボランティア活動や地域住民との交流など、大学と社会・地域連携の事例を紹介していきます。幅広い知識を学んで就職活動の参考にしてください。 | | | | |
| 学習内容 | 講義は浜松地域の特色、静岡地域の特色および国内外の地域クラスターの特色や国の施策を踏まえた上で、静岡県内地域企業の歴史や特色を学ぶことで、大学からの地域社会への連携をつかんでいく。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 オリエンテーション 2 地域経済の苦悩と挑戦 3 海外の先行事例に学ぶ 4 地域力の現状を調査する 5 日本のクラスター分析 6 地域クラスターをデザインする 7 地域クラスター作りを応援する政策 8 大学はイノベーションクラスターの核となるか 地域新生への提言 9 浜松地域の特色 地域自治体 (浜松市) の取り組み 10 浜松地域の特色 起業支援施 11 浜松地域の特色 産学官連携 12 静岡地域の特色 地域行政の立場から 13 静岡地域の特色 地域産業振興に関する静岡県の取り組み 14 静岡地域の特色 食品産業など 15 静岡地域の特色 産学官連携 | | | | |
| 受講要件 | 大学からの地域創成や地域企業への就職を考えている人。 | | | | |
| テキスト | 必要な資料を HP より配布予定 | | | | |
| 参考書 | クラスター形成による地域新生のデザイン (松島克守・東大総研) | | | | |
| 予習・復習について | 講義時間内に取り上げる事例には限りがあるので、広く扱った事例集 (参考書) や新聞等を読んでおくことで、地域での大学・行政の動きを把握する事が望ましい。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 毎回の講義への出席と小レポート (60 点) と中間および最終試験課題レポート (各 20 点) を総合的に評価します。 特に次の (1) ~ (3) の基準において評価する。 (1) 地域社会の背景と課題を理解する。 (2) 地域社会を活性化させる国の政策との関連を理解する。 (3) 大学からの地域連携や社会連携の在り方を理解する。 | | | | |
| オフィスアワー | 随時 (メールを送信すれば対応出来ます) | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 地域社会の背景 (産業や成り立ち) を学び、大学からの地域連携に迫ってみよう。皆さんの学生としての意識がちょっとでも変わってくれたら嬉しいです。講義資料は、清水研HPと学務情報システム LiveCampus の授業共有ファイルに毎回アップしますので、予習しておいてください | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|----------|----------|
| 授業科目名 | 静岡県防災・減災と原子力 (Disaster prevention and mitigation for nuclear safety in Shizuoka) | | | | |
| 担当教員名 | 大矢 恭久 (OYA Yasuhisa) | | 所属等 | 大学院理学領域 | |
| | | | 研究室 | 理学部 A202 | |
| 分担教員名 | 近田 拓未、矢永 誠人、熊野 善介、原田 賢治、郡司 賀透、鈴木 誠之 | | | | |
| クラス | 情工 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 ー |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金 5・6 |
| キーワード | 防災・減災、地域と原子力、長期的なエネルギー問題 | | | | |
| 授業の目標 | 静岡県は東海地震想定域に位置しているとともに、中部電力浜岡原子力発電所を有している。そのため、長期的なエネルギー問題や原子力の在り方について「みんなで考える」機会を持つと共に、防災・減災（特に原子力防災・減災）の在り方について理解を深め、原子力の在り方について学生自らの問題として理解し、考えることのできる学生の育成をめざす。 | | | | |
| 学習内容 | 静岡県の減災・防災の取り組みや原子力・放射線への理解を高めると共に、原子力防災・減災の取り組みや長期的なエネルギー問題における原子力の在り方について「みんなで考える」そして「みんなで理解する」科目である。グループワークを通して、自分の問題として原子力や防災・減災について考えてみる。中部電力、静岡県、静岡新聞社の担当者を招聘してそれぞれの機関での防災対策についても解説してもらいます。 | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 社会合意形成とは（グループワークを通して） 3. 放射線と放射能 4. 津波災害についての基礎 5. 浜岡原子力発電所と安全対策 6. 静岡県の原子力防災・減災体制 7. 静岡市の緊急時支援体制 8. 報道と原子力防災 9. 防災・減災教育 10. 原子力災害からの復興 11. 目で見る放射線とその防護（1） 12. 目で見る放射線とその防護（2） 13. 議論することとその方法 14. 専門家と市民とのコミュニケーションの方法論 15. まとめ <p>講義の順番は前後することがある。</p> | | | | |
| 受講要件 | 特になし | | | | |
| テキスト | 静岡県の防災・減災と原子力（静岡学術出版） | | | | |
| 参考書 | なし | | | | |
| 予習・復習について | テキスト、講義資料や関連図書による予習および復習をおこなうこと。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 講義中に小レポート、講義中の発表内容および期末のレポートを総合的に評価する。 | | | | |
| オフィスアワー | 8:00-20:00 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 静岡県の原子力の在り方、原子力防災・減災の在り方についてみんなで考えてみませんか？ | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|---------------|----------|
| 授業科目名 | ジェンダーからみる現代社会 (Contemporary Society from Gender Perspectives) | | | | |
| 担当教員名 | 跡部 千慧 (ATOBE Chisato) | | 所属等 | 男女共同参画推進室 | |
| | | | 研究室 | 多目的保育施設「たけのこ」 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 情工 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 ー |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金 5・6 |
| キーワード | ジェンダー、男女共同参画、セクシュアリティ、LGBT | | | | |
| 授業の目標 | 「ジェンダー」に関する基本的な考え方と知識を身につける。 「ジェンダー」視点を活用して、現代社会について多面的に考える。 | | | | |
| 学習内容 | <p>どんな人も、大学卒業後、職業を選択し、家族を形成し、同じ地域に住む人々と共生し、次世代を育成するというプロセスに、何らかのかたちで、関わっていきます。その局面局面において、意識することになる問題があります。</p> <p>私たちは、家族、学校、職場など、日常生活のさまざまな局面において、男と女に区分され、男らしく女らしく振る舞うことを期待され、無意識的、ときには意識的に振舞っています。しかし、このように極めて当たり前だと思っていることも、一歩立ち止まって「それは一体なぜなのだろう」と考えてみると、そこにさまざまな問題が潜んでいることがわかります。これを解明する鍵となるのが「ジェンダー」という視点です。</p> <p>もしかしたら、みなさんのこれまでの人生では、あまり意識されてこなかったかもしれません。ですが、日本は、男女格差が調査国 145ヶ国中 101位の国であり、国際的には男女間の不平等が著しい国とされています。</p> <p>「ジェンダー」に関する基本的な知識を学習することにより、現代社会のありようを問い直し、このような男女格差をなくし、男性・女性という既存のカテゴリーにあてはまらない性別を自認する場合も含め、それぞれが「自分らしく生きる」ためにはどうしたらよいかを考えます。</p> | | | | |
| 授業計画 | 第1回 オリエンテーション：「ジェンダー」とは。メディアに表出する男女差 第2回 セクシュアリティとジェンダー(1)：性の多様性/LGBTとは 第3回 セクシュアリティとジェンダー(2)：性の多様性をどう捉えるべきか 第4回 学校におけるジェンダー：「隠れたカリキュラム」とキャンパスハラスメント 第5回 家族・恋人とジェンダー：デートDVとは。なぜDVは起こるのか 第6回 結婚とジェンダー：「恋愛結婚」はいかにしてもたらされたか 第7回 妊娠・出産・育児とジェンダー：「三歳児神話」とは 第8回 中間レポート作成：ジェンダーとは何か 第9回 労働とジェンダー(1)：女性は昔から働かなかったのか 第10回 労働とジェンダー(2)：女性は働きやすくなったのか 第11回 中間レポート作成：ライフプランをもとに身近なジェンダー問題を考える 第12回 男性のジェンダー（男性性）：では、男性は生きやすいのか？ 第13回 人生とジェンダー：体験談からキャリア形成を考える(1) 第14回 人生とジェンダー：体験談からキャリア形成を考える(2) 第15回 まとめ：自分らしく生きるための社会のあり方とは 第16回 試験 | | | | |
| 受講要件 | ジェンダーや男女共同参画の視点を知り、身につける意欲があること。 | | | | |
| テキスト | 特に指定せず、授業ごとに資料を配布します。 | | | | |
| 参考書 | 木村涼子・伊田久美子・熊安貴美江編，2013，『よくわかるジェンダー・スタディーズ』ミネルヴァ書房。 伊藤公雄・牟田和恵編，2006，『新版 ジェンダーで学ぶ社会学』世界思想社。 加藤秀一・石田仁・海老原暁子，2005，『図解雑学 ジェンダー』ナツメ社。 レイウィン・コンネル，2002=2008，多賀太監訳『ジェンダー学の最前線』世界思想社。 | | | | |
| 予習・復習について | 授業で課す課題には、参考文献を十分に調べてレポートを作成すること。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 期末試験、中間レポート、授業コメントシート等による。 | | | | |
| オフィスアワー | 浜松キャンパス工学部7号館1階男女共同参画推進浜松分室にて、金曜の7・8時限（授業日のみ） | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 「ジェンダー」というと、女性の問題と捉えられがちですが、この授業では、男性のジェンダーや、LGBTと呼ばれるジェンダー・セクシュアリティの問題も考えます。非常に身近な話題であるがゆえに、「既存の常識を疑ってみる」という社会に出てから求められる視点を養う半年間となるでしょう。すべての人が、あらゆる分野で持てる能力を発揮し、「自分らしく生きる」世の中をつくるにはどうしたらいいか、ともに考えてみましょう。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|----------|----------|
| 授業科目名 | 医学と人間 (Medical Science for Humans) | | | | |
| 担当教員名 | 山本 裕之 (YAMAMOTO Hiroyuki) | | 所属等 | 保健センター | |
| | | | 研究室 | 工学部7号館2F | |
| 分担教員名 | 森 俊明 | | | | |
| クラス | 情工 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 ー |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金 5・6 |
| キーワード | 予防医学、栄養、運動、睡眠、遺伝、感染症 | | | | |
| 授業の目標 | <p>医学に科学的思考は必須であるが、人間的視点が見失われてはならない。急速な科学の進歩は生活環境を豊かにしたが、一方で過不足（飽食、運動不足）による人間の健康バランスを崩すという現象も生じさせた。そのような状況に伴い、医療のパラダイムも治療重視から予防重視へとシフトしてきている。</p> <p>また、医療的アプローチについても、病気の原因を探る（pathogenesis）のが一般的医学研究手法である一方、健康を軸になぜ元気なのかを研究する（salutogenesis）手法もある。</p> <p>本講義では、人間回帰の視点を重視しながら現在の医学、医療についての考え方を学び、医学的基礎知識も身につけることを目的とする。</p> | | | | |
| 学習内容 | 内容は、下記授業計画に掲げた細項目テーマを組み入れる。必要に応じて他の講師に分担をお願いする。詳細日程は、授業開始日に知らせる。 | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 科学技術の進歩と人間のための医学；パラダイムの転換、産業・環境保健 3. 現代医学の様々な問題と予防医学；各国医療政策など 4. 生活習慣病について；人間環境の変化に伴う疾病構造の変化 5. 運動と人間；健康スポーツ医学 6. 主要臓器の解剖生理学（森、内科医） 7. 救急疾患と臓器反応（森、内科医） 8. 災害医療の基礎知識；トリアージと救急蘇生法 9. 休養（睡眠）と人間；ストレスへの反応とホメオスターシス 10. 免疫と人間；アレルギー反応など 11. 感染症と人間；新興・再興感染症、人獣共通感染症 12. 遺伝と人間；生命情報とその操作 13. 食事（栄養）と人間；食の文化と食に係わる様々な問題（川上、管理栄養士） 14. 時間と人間；ウェルビーイング、健康観と死生観 15. まとめ レポート作成 | | | | |
| 受講要件 | とにかく出席すること、そして何かを学びとろうとする意欲を維持すること。 | | | | |
| テキスト | 特になし。講義毎に内容に沿ったプリントを配布する。 | | | | |
| 参考書 | テキストは特にありませんが、講義の中で参考になる図書等を紹介します。 | | | | |
| 予習・復習について | 予習しなくても講義内容は理解可能。全てを覚える必要はなく、ポイントを理解して概要を把握することが大切。しかし、授業計画は事前に示すので、予備知識があった方が理解は10倍増します。復習は大いにしてください。より深く知りたいときは、参考書も貸し出します。質問をたくさん受けながらの参加型授業になることを希望します。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 出席を重視します。試験形式に近いレポートで習熟度をしっかりチェックします。レポートは最終講義日時に、配布プリントなど持ち込み可で、課題について作成（回答）してもらいます。 | | | | |
| オフィスアワー | 質問や相談は適宜受け付けますので、保健センター浜松支援室(053-478-1012)または研究室（保健センター浜松支援室傍、合同棟1号館2階、053-478-1021）へ連絡が来室してください。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 現在または将来役に立つ人間のための医科学、医療について学ぶ良い機会だと思います。内容は、正しい、新しい情報を吟味して、理解が深まるように現場のエピソードなども随所に盛り込みます。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|------------------|----------|
| 授業科目名 | メディアとコンテンツ (Media and Content) | | | | |
| 担当教員名 | 赤尾 晃一 (AKAO Koichi) | | 所属等 | 学術院情報学領域 | |
| | | | 研究室 | J2733(演習室 J2730) | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 情工 | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 ー |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 金 5・6 |
| キーワード | アイドル、大衆文化、おたく、テレビ番組、テレビドラマ、映画、アニメ、サブカルチャー | | | | |
| 授業の目標 | 今日、日本のアイドル文化は世界でも特異な形で発展・成熟してきている。老若男女を問わず、「アイドル(的なもの)が好き」という異質性を日本人は有している。その原因は、1960年代以来の日本人とテレビの関係、さらには宗教観などに原因を求めることができる。メディアとコンテンツが照応し合って大きな文化現象を生み出すダイナミズムを、アイドル現象を主軸として通史的に考察していく。 | | | | |
| 学習内容 | アイドルとスタアは似て非なる関係にある。アイドルは身近な存在で、かわいさはあるけれど、容姿は十人並みで、歌・踊り・芝居などの芸も未熟な存在といえる。1960年代後半にアイドルが生まれたのは、テレビの特質を反映したものだ。映画スタアではなくテレビのアイドルなのだ。テレビとアイドルの蜜月関係は1990年ごろまで続く。その後は、ライブ型アイドル、二次元アイドル、ご当地アイドルなど多様なアイドル概念が共存することになった。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 履修ガイダンス。アイドルとスタアの違い。アイドルとしての坂本九——『九ちゃん音頭』(1962) 2 『北国の街』(1964)・『エレキの若大将』(1965)——“御三家青春歌謡映画”とグループサウンズ 3 『ハイハイ3人娘』(1963)——ティーンエージャー・ポップスとイエイエ(ロリポップ) 4 『おくさまは18才』(1970)——岡崎友紀。かくてアイドル(新・三人娘)は生まれた 5 『寺内貫太郎一家』(1973)——70年代アイドルとロリータ性 6 『しなの川』(1973)——花の中三トリオと「内縁・中心・外縁」 7 後楽園球場さよならコンサート(1978)——キャンディーズとピンク・レディー 8 山口百恵日本武道館コンサート(1980)——70年代から80年代への“王位継承式” 9 松田聖子・河合奈保子ら、“メタアイドル”としての80年代アイドル 10 『スチュワーズ物語』(1983)——1982年組アイドルと“萌え”の誕生 11 大学生/女子高生の放課後“文化祭”としてのグループアイドル 12 『ママはアイドル』(1987)による「アイドル・マトリョーシカ」現象 13 『ぼくらの七日間戦争』(1988)と宮沢りえが招いた“アイドル氷河期” 14 『ときめきメモリアル』などアイドル概念の拡散によるアイドル冬の時代 15 現代アイドル——アイドル概念は再生したか | | | | |
| 受講要件 | アイドル、最低でも音楽が好きであること。そうでない学生にとっては、この授業は拷問に等しい。 | | | | |
| テキスト | 特になし。 | | | | |
| 参考書 | 太田省一『アイドル進化論』(筑摩書房, 2011年) 北川昌弘とゆかいな仲間たち『山口百恵→AKB48 ア・イ・ド・ル論』(宝島社新書, 2013年) 五十嵐太郎『ヤンキー文化序説』(河出書房新社, 2009年) 斎藤環『世界が土曜の夜の夢なら ヤンキーと精神分析』(角川書店, 2012年, Kindle版あり) | | | | |
| 予習・復習について | 授業時に紹介した素材を咀嚼して、自分なりの「感想」や「意見」をまとめるという形での復習が不可欠となる。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 計2回の中間レポートに全体の50%を割り振る(25%×2)。期末レポートは50%。アイドル概念を理解し、歴史的文脈に位置づけ、的確な内容分析ができているかを評価基準とする。 | | | | |
| オフィスアワー | 第1回授業時に指示する。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 講義資料の閲覧・質問・議論のためのwebサイトを設けるので活用してほしい。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|---------|-----------|
| 授業科目名 | 環境化学工学 (Environmental Chemical Engineering) | | | | |
| 担当教員名 | 松田 智 (MATSUDA Satoshi) | | 所属等 | 大学院工学領域 | |
| | | | 研究室 | C216 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | CA | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月 1・2 |
| キーワード | 大気汚染、水質汚濁、廃棄物、リサイクル、対策技術、単位操作、温暖化 | | | | |
| 授業の目標 | 環境を浄化・修復する工学技術の3つの柱となっている大気汚染防止技術、水処理技術、および廃棄物処理技術は、その中に化学工学の単位操作の原理を数多く包含している。すなわち、分離選別、粉碎、脱水、乾燥、油化、ガス化、生物利用などを総合的に活用することで技術が成り立っている。技術を構成しているそれぞれの単位操作を理解し、組み合わせの結果としての技術の原理を理解する。 | | | | |
| 学習内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境問題解決へ向けた化学工学の視点からの取り組み 2. 廃棄物処理の現状とリサイクル技術 3. 地球温暖化問題の理解と対応策 4. 大気汚染物質の汚染防止技術とその原理 5. 焼却および高温操作に関わる定量的な取扱い 6. 水質汚濁の現象と機構についての理解 | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1 環境化学工学とは(1): 環境問題の理解(科学)と対策技術(工学)、システム思考、地球環境問題と地域環境問題 2 環境化学工学とは(2): 環境工学における化学工学的手法の重要性、対策技術の概要、単位操作とは? 3 地球温暖化(1): 温暖化のメカニズム(地球の温度の決まり方、温度への影響因子)、将来予測 4 地球温暖化(2): 対応策をめぐって(エネルギー使用の効率化と新エネ、低炭素社会は真の目標か?) 5 オゾン層破壊とその対策: メカニズム、オゾンホール及び紫外線量の実態、対策技術 6 酸性雨とその対策: NO_x と SO_x、塩化水素、光化学オキシダントなどの成因及び対応策 7 大気汚染と対策技術: 脱硫と脱硝技術、ばいじん、ダイオキシン、浮遊微粒子などの成因及び対応策 8 中間試験 9 廃棄物とリサイクル(1): 一般廃棄物と産業廃棄物、廃棄物の処理と処分、特に中間処理技術としての焼却について 10 廃棄物とリサイクル(2): 最終処分をめぐって、リサイクルの分類と用いられる技術 11 焼却と高温操作をめぐる演習(1): 種々の発熱量、自然条件、焼却操作(空気比その他) 12 焼却と高温操作をめぐる演習(2): エンタルピー収支の応用(定容・定圧・定温・断熱の諸過程、ガスの加温・冷却所要熱量など) 13 焼却と高温操作をめぐる演習(3): 断熱火炎温度、発電機の効率、送風機動力(気体の圧縮仕事) 14 水環境: 水循環と水資源、水質指標とその意味(BOD・COD・TOC・DO・pH・アルカリ度など)、水質汚濁の原因と対策の実例・佐鳴湖の場合 15 化学物質と環境: 化学物質の使用と環境への排出、リスクによる管理(ダイオキシンを例に) | | | | |
| 受講要件 | 化学工学の単位操作について理解しておくこと。地球環境科学・環境技術、リサイクル量論、および資源循環化学を習得していることが望ましい。 | | | | |
| テキスト | 「入門 環境の科学と工学」(川本克也・葛西栄輝 著、共立出版) | | | | |
| 参考書 | 「廃棄物工学の基礎知識」(田中信壽 編著、技報堂出版) 「環境工学入門」(鍋島淑郎他著、産業図書) | | | | |
| 予習・復習について | 授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習が必要である。また授業で取り上げられた演習問題を独力で再び解いてみることも必要である。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 授業での到達目標が達成され、環境問題に対処する方法論としての化学工学の基礎知識と定量的扱いに関する基礎が身に付いているかどうかを評価する。評価の配分は、中間試験・期末試験計 80%、演習・レポート等 20%である。その内容は、授業内容を十分に理解し身につけているかどうか(70%)、授業内容を応用する力がついているか(30%)で評価する。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。 | | | | |
| オフィスアワー | 毎週金曜日の 9・10 時限にオフィスアワーを設ける。また、オフィスアワー以外でも質問は随時受け付けるが、電子メール (tcsmats@ipc.shizuoka.ac.jp) で予約することが望ましい。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 環境問題に対処するには、幅広い知識だけでなく、具体的な対策を考えるために、定量的・工学的な考察(収支バランス等)が有用であることを、本授業でしっかり学んでいただきたい。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|---------|--------|
| 授業科目名 | 食品工学 (Food Engineering) | | | | |
| 担当教員名 | 金原 和秀 (KIMBARA Kazuhide) | | 所属等 | 学術院工学領域 | |
| | | | 研究室 | 工 C218 | |
| 分担教員名 | 二又 裕之 | | | | |
| クラス | CB | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月 3・4 |
| キーワード | 微生物、発酵食品、物質収支、エネルギー収支、殺菌、伝熱、移動現象 | | | | |
| 授業の目標 | 発酵食品に代表される、微生物機能を応用した食品の製造を理解するため、発酵食品の製造法を学ぶとともに、製造プロセスの設計に必要な、物質収支、エネルギー収支、殺菌、伝熱、移動現象の概念を習得することを目標とする。 | | | | |
| 学習内容 | 発酵食品は、微生物の代謝機能を利用して製造される。この過程を十分に理解し、製造工程を学ぶとともに、製造プロセスの設計に必要な、計算手法を学ぶ。また、物質収支、エネルギー収支、伝熱、移動現象を理解して、基本設計と計算手法の基礎について習得する。さらに、実用化されている技術や今後の課題等について解説し理解を深める。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 食品と微生物 2 発酵食品 (大豆発酵食品) 3 発酵食品 (アルコール飲料) 4 発酵食品 (乳製品等) 5 発酵食品 (水産発酵食品) 6 食品工学の基礎計算 7 物質収支・エネルギー収支 8 殺菌の速度論 I 9 殺菌の速度論 II 10 伝導伝熱 11 対流伝熱 12 熱交換操作 13 凍結と解凍 14 平衡と物質移動 15 流動の基礎 | | | | |
| 受講要件 | 本講義で扱う化学工学の基礎の理解のため、2年次の移動現象論 I、3年次の移動現象論 II の習得を薦める。 | | | | |
| テキスト | 「食品工学」(日本食品工学会編集、朝倉書店)を用い、板書にて講義を行う。 | | | | |
| 参考書 | 「くらしと微生物 改訂版」(村尾沢夫ら著、培風館)、「生物化学工学 第3版」(海野肇ら編集、講談社)、「新生物化学工学 第2版」(岸本通雅ら著、三共出版)、「微生物機能学」(森田英利編著、三共出版)、また図書館浜松分館にも関連書籍があるので、是非参考にしてほしい。 | | | | |
| 予習・復習について | 講義内容を理解するには十分な予習・復習が不可欠である。適宜レポートを課すので、予習・復習に活用してほしい。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 授業での到達目標が達成され、発酵食品製造プロセスの理解、および物質収支・エネルギー収支・殺菌・伝熱・移動現象に基づいた設計の基礎が、十分に習得されているか評価する。適宜、演習を実施する。評価の配分は、中間・期末試験 80%、演習・レポート 20%であり、内容は、(a)授業内容の吸収・理解により取り得る点 (70%)、(b)授業内容を理解し、それを応用することにより取り得る点(30%)である。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。 | | | | |
| オフィスアワー | 毎週オフィスアワーが設定されている。オフィスアワー以外にも随時質問を受け付けるが、事前に電子メールにて予約することが望ましい。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 化学工学、応用微生物学に関する講義が他に少ないので、習得すべきことが多岐にわたる。推奨した講義の履修を行うとともに、例示した参考書も活用して、化学工学、応用微生物学に関する基礎知識を補ってほしい。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|-------------------|--------|
| 授業科目名 | 基礎有機高分子材料 (Basic Organic Polymer Materials) | | | | |
| 担当教員名 | 久保野 敦史 (KUBONO Atsushi) | | 所属等 | 大学院工学領域 | |
| | | | 研究室 | 物質1号館3階316号室(教員室) | |
| 分担教員名 | 昆野 昭則 | | | | |
| クラス | D | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水5・6 |
| キーワード | 有機、高分子、材料 | | | | |
| 授業の目標 | 身の回りで使われている有機・高分子材料について、その種類や用途についての概要を学ぶとともに、材料の構造と物性に関する基礎的な考え方を身につけることを目標とする。 | | | | |
| 学習内容 | 液晶や色素などの低分子有機材料とプラスチックや繊維などの高分子材料に関して講義する。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 有機材料(1): 概論 2 有機材料(2): 界面活性剤 3 有機材料(3): 香料 4 有機材料(4): 色素 5 有機材料(5): 有機感光体(光導電体) 6 有機材料(6): 液晶の基礎 7 有機材料(7): 表示素子(液晶、有機EL) 8 中間試験 9 高分子材料(1): 概論 10 高分子材料(2): 合成高分子の種類 11 高分子材料(3): 高分子の物理的性質 12 高分子材料(4): 繊維 13 高分子材料(5): 汎用プラスチック 14 高分子材料(6): エンジニアリングプラスチック 15 高分子材料(7): 天然高分子 | | | | |
| 受講要件 | 一般的な「物理学」「化学」に関する知識が必要となるので、専門(基礎)の講義ならびに実験等で身につけておくこと。 | | | | |
| テキスト | 「マテリアルサイエンス有機化学」伊与田正彦 他, 東京化学同人, ISBN978-4-8079-0614-7 に加え、一年次の材料科学基礎で用いた「高分子化学」齋藤勝裕, 坂本英文, オーム社, も使用する | | | | |
| 参考書 | 「はじめての高分子化学」井上祥平, 化学同人, 2006, ISBN 9784759810752 | | | | |
| 予習・復習について | 教科書にしたがった予習・復習に加え、自主的に身近な有機・高分子材料について調べることが望ましい。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 試験・演習課題・レポート等の評価より総合的に判断し、学習の到達度が60%以上と認められる場合を合格とする。 | | | | |
| オフィスアワー | 相談は随時行う。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | この講義では、高学年時の専門科目である「高分子物性」「高分子化学」「機能性有機材料」において、より高度な内容を学ぶために必要となる基礎的な知識の習得を目指す。 なお、習熟状況に応じて講義の順番や内容を変更することがある。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|---------|-----------|
| 授業科目名 | オペレーションズ・リサーチ (Operations Research) | | | | |
| 担当教員名 | 守田 智 (MORITA Satoru) | | 所属等 | 大学院工学領域 | |
| | | | 研究室 | 5 7 2 4 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | S | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 5・6 |
| キーワード | オペレーションズ・リサーチ、マルコフ連鎖、待ち行列、ゲーム理論、シミュレーション、データ分析 | | | | |
| 授業の目標 | さまざまなシステムを効率的に設計・運用する手法を学ぶ。 | | | | |
| 学習内容 | オペレーションズ・リサーチおよびデータ解析の各種手法にを学び、パソコンを活用した体験的な学習によってその理解を深める | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 ガイダンス 2 確率モデルの基礎 3 確率モデルの応用 4 マルコフ連鎖の理論 5 マルコフ連鎖の演習 6 待ち行列理論の理論 7 待ち行列理論の演習 8 データ分析（推定・検定）の理論 9 データ分析（推定・検定）の演習 10 データ分析（回帰分析）の理論 11 データ分析（回帰分析）の演習 12 ゲーム理論の理論 13 ゲーム理論の演習 14 在庫管理の理論 15 在庫管理の演習 | | | | |
| 受講要件 | 特になし | | | | |
| テキスト | 指定しない。 随時、プリントを配布する。 | | | | |
| 参考書 | 今野浩, 数理決定法入門 (朝倉書店, 1992年) 間瀬茂 他, 工学のためのデータサイエンス入門 (数理工学社, 2004年) | | | | |
| 予習・復習について | 授業の進行状況に応じて指示する。復習を重視してほしい。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | レポート・講義内での課題：40%, 期末試験+小テスト：60% | | | | |
| オフィスアワー | 講義中に指定する | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|----------|--------|
| 授業科目名 | 博物館情報・メディア論 (Museum Information and Media) | | | | |
| 担当教員名 | 高松 良幸 (TAKAMATSU Yoshiyuki) | | 所属等 | 大学院情報学領域 | |
| | | | 研究室 | J-2629 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 1クラス | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月1・2 |
| キーワード | 博物館資料、博物館情報、保存、情報システム、ミュージアムコンテンツ、知的財産 | | | | |
| 授業の目標 | 情報機関としての博物館のあり方、博物館における情報管理、発信のあり方を理解するとともに、そのための視聴覚教育メディアの活用方法に関する基礎的能力の養成をはかる | | | | |
| 学習内容 | 情報メディア・教育メディアとしての博物館のあり方やその方法についての理解をはかる。また、博物館で使用する視聴覚メディアの種類や内容、その活用方法に関する理解をはかる。あわせて、実習を通じて、博物館における視聴覚教育メディアの企画・制作に関する基礎的能力を養成する。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 博物館と情報 2 メディアとしての博物館 3 視聴覚教育メディアと博物館 4 博物館教育と視聴覚メディア 5 展示のための視聴覚メディア 6 教育普及のための視聴覚メディア 7 情報発信のための視聴覚メディア 8 インターネットと博物館 1-博物館のホームページ 9 インターネットと博物館 2-デジタル・アーカイブ 10 視聴覚教育メディアの企画・制作 I 11 視聴覚教育メディアの企画・制作 II 12 視聴覚教育メディアの企画・制作 III 13 博物館と知的財産権 14 博物館と情報倫理 15 まとめ | | | | |
| 受講要件 | 博物館学芸員資格取得のための必修授業（平成24年度以降入学生） | | | | |
| テキスト | なし。 | | | | |
| 参考書 | 授業中に指示する。また、必要に応じてプリント等を配布する。 | | | | |
| 予習・復習について | 授業時間の2倍程度の予習、復習時間を要する。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 授業中に作成するコンテンツと最終レポートにより評価する。両者の比率は各50%とする。コンテンツは授業の内容理解の上に立ち、受講生各自のコンテンツへの応用度を基準に採点する。最終レポートは、授業の内容理解度を基準に採点する。 | | | | |
| オフィスアワー | 授業中に指示する。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 出来るだけ多くの美術館博物館を訪れ、その実際に体験してください。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|----------|----------|
| 授業科目名 | ユーザビリティ設計・評価論 (Usability Design and Evaluation) | | | | |
| 担当教員名 | 高橋 晃 (TAKAHASHI Akira) | | 所属等 | 大学院情報学領域 | |
| | | | 研究室 | J-2523 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 1クラス | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 必 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 月7・8 |
| キーワード | 情報システム、ユーザビリティ、認知特性、操作特性、デザイン、ユーザビリティ評価、ユーザビリティ規格、ユーザエクスペリエンス、コトのデザイン | | | | |
| 授業の目標 | 情報システムは、ネットワーク技術の普及とともに、人間生活の基幹構造として位置づけられるようになった。情報システムを利用する上で、ユーザが直接対峙するテクノロジーとのインタフェイスの設計(デザイン)は、その基幹構造の利用性の向上のためには重要な側面である。本講義では、こうした「利用者にとって使いやすいインタフェイス」の設計の基本理念とその開発手法・評価手続きを学ぶ。これにより、システム開発時に使いやすいUIを意識して開発できるようになることを目標とする。 | | | | |
| 学習内容 | 情報システムの使いやすさを考える上で、実体験をふまえて、ユーザである人間の情報処理特性や、インタフェイスを設計(デザイン)する際の基本理念に関連した講義を行う。また、ユーザビリティに関連した法令・規格やユニバーサルデザインなどについても触れる。 | | | | |
| 授業計画 | <p>以下の内容を各テーマ1~3コマ程度で行う予定である。</p> <p>-----</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.UI 評価の観点 2.人間の情報処理特性 注意・記憶・学習の特性 3.自由度の問題 4.戦略・戦術・技能 5.学習しやすいシステム アフォーダンス・マッピング・フィードバック 6.User Centered Design 7.各種の評価技法 8.ユニバーサルデザインと法令 <p>-----</p> <p>なお各講義において、講義中課題と宿題課題を課す。 これらの課題については締め切り厳守とする。</p> | | | | |
| 受講要件 | | | | | |
| テキスト | 講義資料としてファイルサーバ上で PDF を配布する | | | | |
| 参考書 | 講義の時に紹介します | | | | |
| 予習・復習について | 講義中ならびに講義外で課題を出す。この課題は成績に反映される。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 講義内課題、講義外課題の提出、ならびに最終レポートをもとに評価します | | | | |
| オフィスアワー | 特に設けませんが、電子メールで連絡してください | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | rogue という古典コンピュータゲームを体験しておくとい良いでしょう。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|----------|--------|
| 授業科目名 | 美術とメディア (Art and Media) | | | | |
| 担当教員名 | 高松 良幸 (TAKAMATSU Yoshiyuki) | | 所属等 | 大学院情報学領域 | |
| | | | 研究室 | J-2629 | |
| 分担教員名 | | | | | |
| クラス | 1クラス | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 火5・6 |
| キーワード | 美術史、メディア、イコノグラフィ、イコノロジー、表象 | | | | |
| 授業の目標 | <p>美術作品は、単に人に美的な感動を与えるだけでなく、そこに見られるさまざまな表現などからは、その作品が制作された意図や社会背景等を読み取ることも可能である。すなわち美術作品は、それが制作伝来した過程で関わった人々の心情や社会状況などを伝えるヴィジュアルなメディアとしての側面を有している。この講義では、美術史研究の基本的な目的である美術作品の様式史の解明とともに、このようなヴィジュアルな表現の解釈法を身につけることを目標とする。</p> | | | | |
| 学習内容 | <p>日本美術の各時代における著名な作品を取り上げ、その表現上の特徴を把握するだけでなく、制作に関わった作家、依頼者等、また流通や消費に関わった仲介者や受容者が、それぞれの作品とどのように接してきたのか等を考察することで、これらの人々の間で成立したコミュニケーション、あるいは美術作品は有するメディア機能についての理解を深める。</p> <p>写真や動画がない時代、今日「美術」と称されているものが果たしていた情報機能についての理解を深める。</p> | | | | |
| 授業計画 | <p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスー「美術」とは？「美術史」とは？ 2 大仏建立とその意図 3 平等院鳳凰堂と藤原頼通 4 蓮華王院宝蔵と後白河法皇 5 信仰を広める絵画ー社寺縁起絵、高僧伝絵の世界 6 神仏とコミュニケーションする絵巻物 1ー「春日権現験記絵巻」 7 神仏とコミュニケーションする絵巻物 2ー足利將軍家と絵巻物 8 『君台觀左右帳記』の世界ー足利將軍家と室礼 9 屏風絵に込められたメッセージー狩野永徳「洛中洛外図屏風」と土佐光茂「車争図屏風」 10 城郭障壁画の意義 1ー狩野永徳の大画 11 城郭障壁画の意義 2ー名古屋城「風俗図」 12 江戸幕府と絵画ー狩野探幽「富士山図」を中心に 13 木村兼葭堂のネットワーク 14 浮世絵と幕政ー喜多川歌麿「太閤五妻洛東遊觀之図」と歌川国芳「源頼光公館土蜘蛛妖怪図」 15 まとめ | | | | |
| 受講要件 | 3年次配当の「博物館実習」で美術系博物館での館務実習を希望するものは、必ず受講すること。 | | | | |
| テキスト | 必要に応じてプリント等を配布する。 | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて授業中に指示する。 | | | | |
| 予習・復習について | 授業時間の2倍程度の予習・復習時間が必要である。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 期末レポートにより評価する。評価は授業内容理解度 50%、授業内容応用度 50%で実施する。 | | | | |
| オフィスアワー | 授業中に指示する。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | 本講義では、日本美術史上の各時代の名作を取り上げるが、その学習や研究だけではなく、美術作品に触れる楽しさを実感してもらいたい。また、実物の美術作品に接する機会をできるだけ持ってもらいたい。 | | | | |

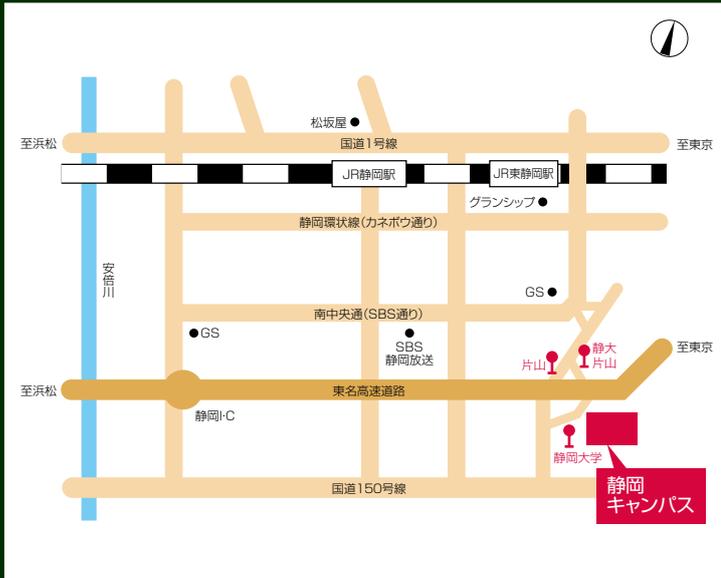
| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|----------|-----------|
| 授業科目名 | 社会調査論 (Theory of Social Research) | | | | |
| 担当教員名 | 中 正樹 (NAKA Masaki) | | 所属等 | 大学院情報学領域 | |
| | | | 研究室 | J2831 | |
| 分担教員名 | 藤岡 伸明 | | | | |
| クラス | 1 クラス | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 選択 |
| 対象学年 | 1 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 1・2 |
| キーワード | 社会調査、量的調査、質的調査 | | | | |
| 授業の目標 | 社会科学としての社会調査の意義や種類、社会調査の歴史、社会調査の基本的な目的と方法、社会調査を実施する上でのモラル、実際の調査例（量的調査と質的調査）などの全体概要について解説する。 | | | | |
| 学習内容 | 第 1 部では、まず社会調査について基本的な知識を習得した後、その歴史について学ぶ。具体的には、様々な領域で実施されている社会調査が、どのような経緯を経て始まり、現在に至るのかについてその概要を学ぶ（担当：中）。第 2 部では、日本における地域社会調査の実例について、具体的な事例を取り上げつつ学ぶ（担当：藤岡）。以上の授業を通じて、社会調査について基礎的な知識を習得することを目指す。 | | | | |
| 授業計画 | 回 内容 1 オリエンテーション 2 第 1 部：社会調査とは何か 3 第 1 部：社会調査の歴史① 社会調査の始まり 4 第 1 部：社会調査の歴史② 古典的社会調査 5 第 1 部：社会調査の歴史③ シカゴ学派 6 第 1 部：社会調査の歴史④ 地域調査 7 第 1 部：社会調査の歴史⑤ 世論調査 8 第 1 部：社会調査の歴史⑥ マス・コミュニケーション効果調査 9 第 2 部：地域社会調査の実例① 観光町おこし、祭、伝統行事 10 第 2 部：地域社会調査の実例② 市町村合併 11 第 2 部：地域社会調査の実例③ 労働者コミュニティ 12 第 2 部：地域社会調査の実例④ 被差別部落、寄せ場 13 第 2 部：地域社会調査の実例⑤ エスニック・マイノリティ 14 第 2 部：地域社会調査の実例⑥ 若者 15 第 2 部：地域社会調査の実例⑦ まとめ | | | | |
| 受講要件 | 特になし。 | | | | |
| テキスト | 特に指定しない。必要に応じて、プリントを配布する。 | | | | |
| 参考書 | 福武直・松原治郎編『社会調査法』（有斐閣双書、1998 年） 大谷信介・木下英二・後藤範章・小松洋編『新・社会調査へのアプローチ』（ミネルヴァ書房、2013 年） ほか、必要な場合には講義中に紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | 授業の進行状況に応じて指示する。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 毎回の授業時に課す小レポートによる評価を 100%とする。 毎回小レポートを提出していても、内容が評価に値しなければ当然単位が取得できないことは十分ありうる。 毎回出席を取るが成績には反映しない。十分な出席回数にも関わらず不可の場合、追加レポートを課す可能性がある。 | | | | |
| オフィスアワー | 中：金曜日 5・6 限（12 時 45 分～14 時 15 分）を予定している。 藤岡：随時。日時については授業の前後に直接相談またはメールで調整する。 | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|-----|----------|----------|
| 授業科目名 | ビジネス計画論 (Business Planning) | | | | |
| 担当教員名 | 遊橋 裕泰 (YUHASHI Hiroyasu) | | 所属等 | 学院院情報学領域 | |
| | | | 研究室 | | |
| 分担教員名 | 田中 宏和 | | | | |
| クラス | 1 クラス | 学期 | 後期 | | 必修選択区分 必 |
| 対象学年 | 2 年 | 単位数 | 2 | 曜日・時限 | 水 5・6 |
| キーワード | 全社戦略、事業戦略、事業計画、サプライチェーンマネジメント | | | | |
| 授業の目標 | この授業では、ビジネスの計画立案に関する基礎的な考え方を学ぶ。ビジネスの計画立案にあたっては、「どのような市場に参入するか」といった大きな視点から「どのように事業を計画するか」といった具体的な視点まで、さまざまな視点が必要となる。この授業では、これらの概略が把握できることを目標とする。 | | | | |
| 学習内容 | 講義は2部構成で、第1部はマクロの視点、第2部はミクロの視点から解説を行う。 | | | | |
| 授業計画 | 第1回 ガイダンス 第1部 第2回 市場と企業、全社戦略と事業戦略、ポジショニング 第3回 多角化、選択と集中 第4回 市場分析、業界分析、内部環境分析 第5回 製品戦略、イノベーション 第6回 情報財、ネットワーク 第7回 レイヤー構造、プラットフォーム 第8回 第1部のまとめ 第2部 第9回 ビジネスシステムの構造 第10回 財務管理とキャッシュフローⅠ (PC 持参) 第11回 財務管理とキャッシュフローⅡ (PC 持参) 第12回 財務管理とキャッシュフローⅢ (PC 持参) 第13回 事業プロセスの構造(PC 持参) 第14回 サプライチェーンマネジメント (PC 持参) 第15回 トヨタ生産方式 (PC 持参) 第16回 定期試験 | | | | |
| 受講要件 | 特になし | | | | |
| テキスト | 特になし | | | | |
| 参考書 | 適宜紹介する。 | | | | |
| 予習・復習について | 講義の進行を踏まえ、適宜指示する。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 定期試験による。出席の扱いについてはガイダンスで説明する。 | | | | |
| オフィスアワー | | | | | |
| 担当教員からのメッセージ | | | | | |

■静岡キャンパス

人文社会科学部・教育学部・理学部・農学部

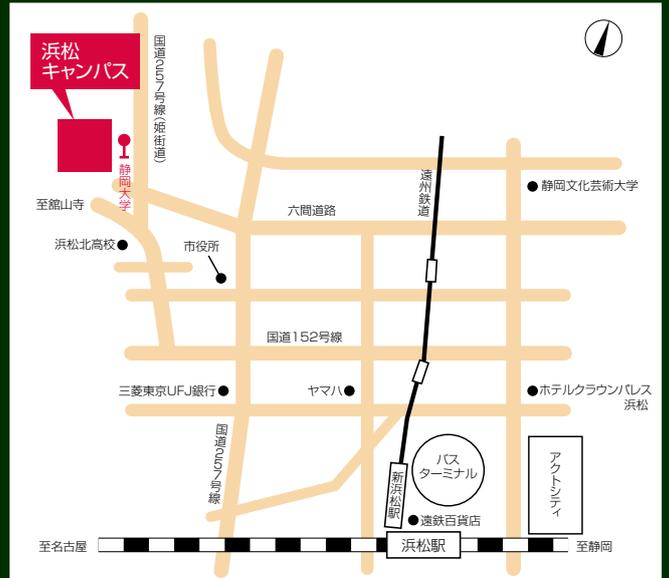
〒422-8529 静岡県静岡市駿河区大谷 836



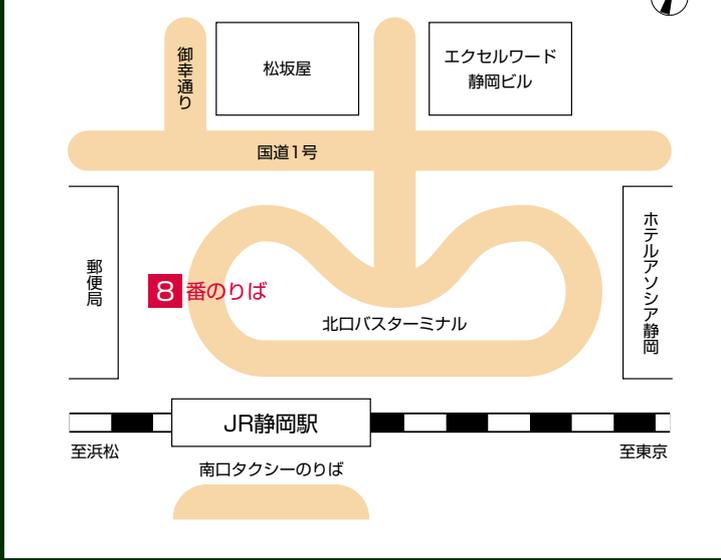
■浜松キャンパス

情報学部・工学部

〒432-8011 静岡県浜松市中区城北 3-5-1

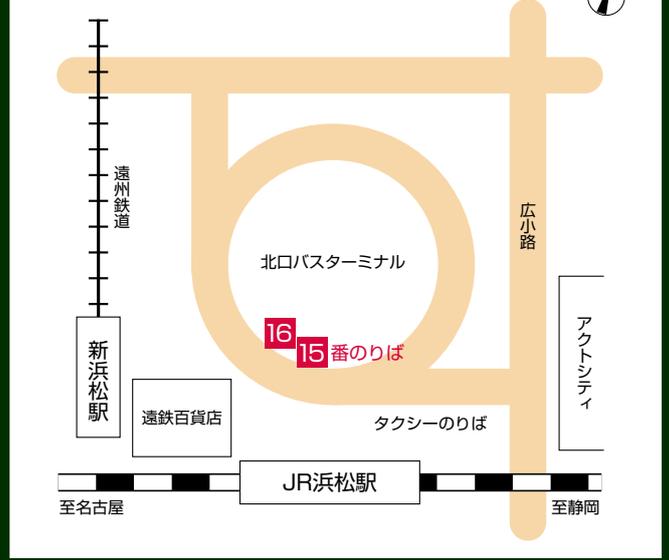


バス停案内図



1. JR静岡駅北口すてつジャストラインバス8番乗り場から、「静岡大学」または「東大谷」行きに乗車し、「静岡大学」または「静大片山」バス停下車(所要時間約25分、1時間に5~7本運行)。*静岡駅午後発の「東大谷」行きバスは「静岡大学」バス停を経由しないため、「片山」バス停で降りてください。「片山」と「静大片山」バス停は位置が異なりますのでご注意ください。
2. JR静岡駅からタクシーで約15分。

バス停案内図



1. JR浜松駅北口バスターミナルより、遠州鉄道バス15番または16番乗り場から乗車し(全路線)、「静岡大学」バス停下車(所要時間約20分、1時間に10本程度運行)。
2. JR浜松駅からタクシーで約10分。

静岡大学イノベーション社会連携推進機構

Organization for Innovation and Social Collaboration

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

TEL: 054-238-4817 [平日9:30~16:00(10/2~10/16のみ、9:00~16:30)] FAX: 054-238-4295

E-mail: LLC@ipc.shizuoka.ac.jp http://www.Lc.shizuoka.ac.jp/